目次

イラスト目次　2 ページ

詳細目次　10 ページ

1 ***運転する前に*** 19 ページ

運転する前に必要な操作と取り扱い

2 ***運転するときに*** 127 ページ

運転するときに必要な操作と取り扱い

3 ***快適装備の使いかた*** 451 ページ

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

4 ***お手入れのしかた*** 505 ページ

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

5 ***トラブルが起きたら*** 551 ページ

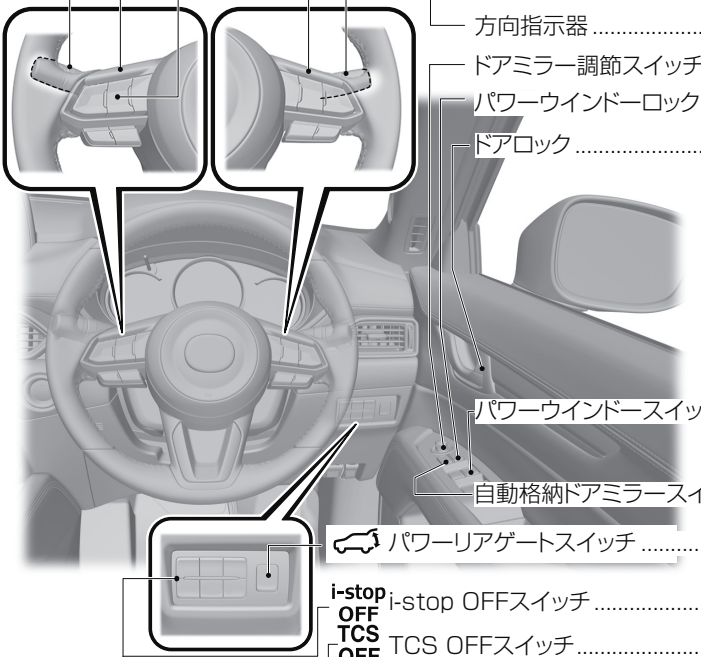
車が故障したとき、事故にあったときの処置

車両スペック　611 ページ

さくいん　626 ページ

イラスト目次

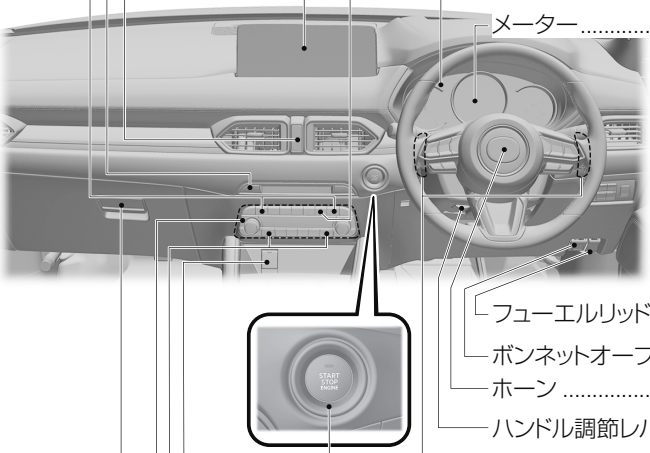
ハンドルまわり



ワイパー/ウォッシャースイッチ 246
オーディオリモートコントロールスイッチ 467
INFOスイッチ 163, 185
クルーズコントロールスイッチ 300, 314
ランプスイッチ 237
方向指示器 243
ドアミラー調節スイッチ 83
パワーウインドーロックスイッチ 101
ドアロック 39
パワーウインドースイッチ 101
自動格納ドアミラースイッチ 83
パワーリアゲートスイッチ 47
i-stop OFFスイッチ 155
TCS OFFスイッチ 257
オフロード･トラクション･アシストスイッチ 261
車線逸脱警報システムOFFスイッチ 270
レーンキープ･アシスト･システム(LAS) & 車線逸脱警報システムOFFスイッチ 356
パーキングセンサースイッチ 436
360° ビュー･モニター･スイッチ 382

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

運転席まわり

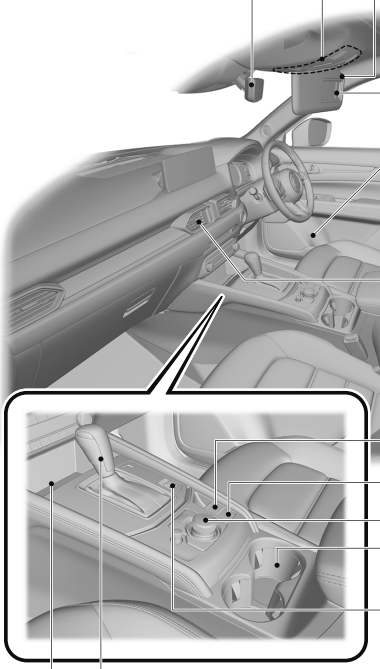


シートヒータースイッチ..... 79
ステアリングヒータースイッチ..... 82
非常点滅灯スイッチ 244
マツダコネクト 460
リアウインドーデフォッガー
スイッチ..... 250
アクティブ･ドライビング･
ディスプレイ..... 205
パネルライトコントロール
スイッチ..... 168
189
メーター..... 160
フューエルリッドオープナー..... 109
ボンネットオープナー 510
ホーン 252
ハンドル調節レバー..... 59
ステアリングシフトスイッチ..... 214
プッシュボタンスタート 140
電源ソケット..... 486
シートベンチレーションスイッチ 81
エアコン..... 452
グローブボックス 497

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

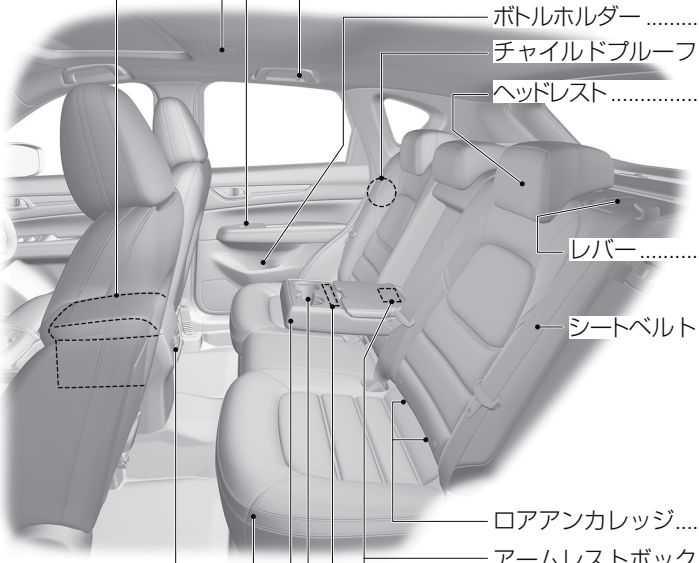
室内（前）



ルームミラー 85
ルームランプ 480
オーバーヘッドコンソール 498
サンルーフスイッチ 104
サンバイザー 479
バニティミラー 479
ボトルホルダー 496
シートベルト 87
ヘッドレスト 77
吹き出し口 453
フロントシート 59
電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ 227
オートホールドスイッチ 232
コマンダースイッチ 464
アジャスター機能付きカップホルダー 495
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) スイッチ 223
チェンジレバー/セレクトレバー 208 212
ワイヤレス充電(Qi) 489

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内（後）

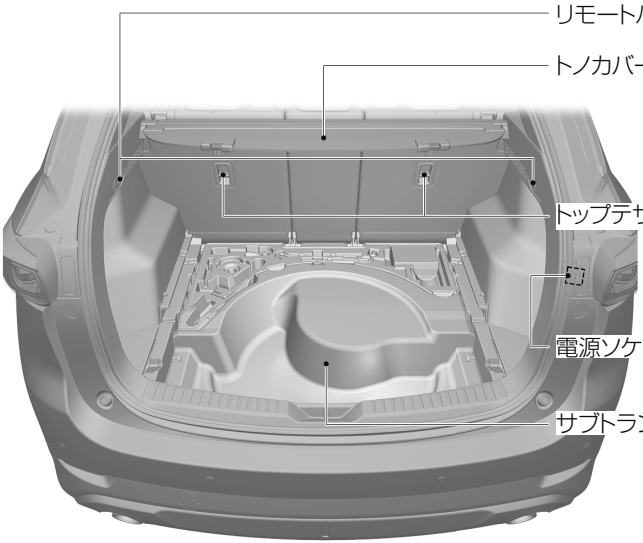


大型コンソールボックス 498
電源ソケット 486
マップランプ 482
パワーウインドースイッチ 101
コートフック 499
ボトルホルダー 496
チャイルドプルーフ 40
ヘッドレスト 77
レバー 69 71
シートベルト 87
ロアアンカレッジ 99
アームレストボックス 499
USB電源ソケット 488
シートヒータースイッチ 79
アジャスター機能付き カップホルダー 495
アームレスト 70
リアシート 69 70
吹き出し口 453

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

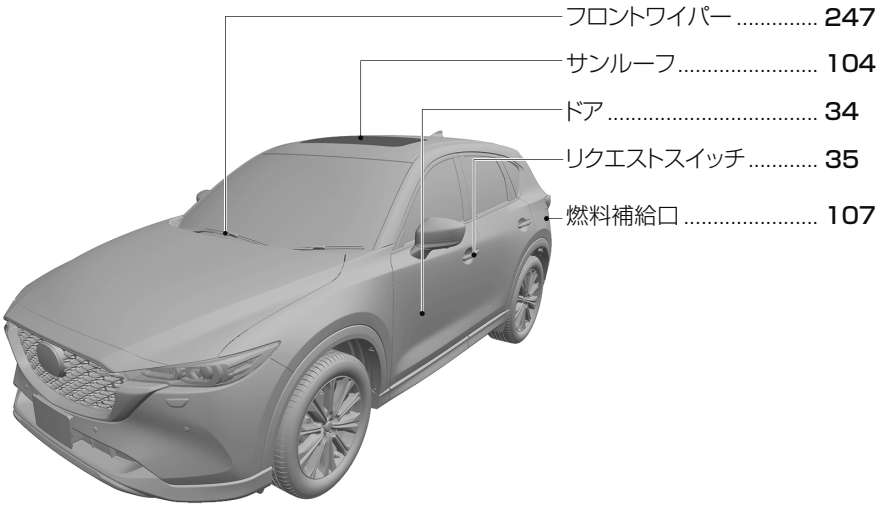
イラスト目次

ラゲッジルーム



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

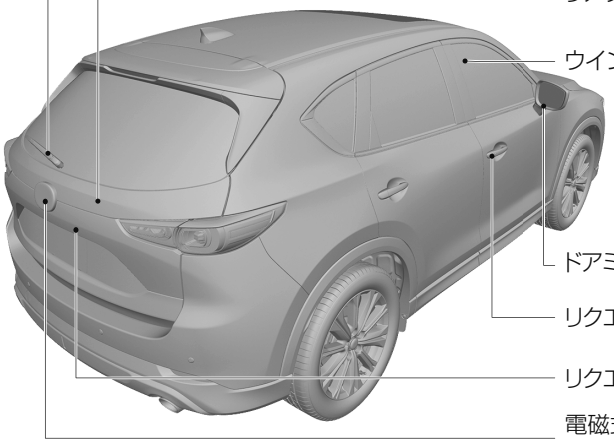
フロント外観



グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

イラスト目次

リア外観



リアワイパー 249
リアゲート 41
ウインドー 101
ドアミラー 83
リクエストスイッチ 35
リクエストスイッチ 35
電磁式リアゲート
オープナー 42

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

MEMO

詳細目次

1 運転する前に

安全なドライブのために 22
お出かけ前に....22
お子さまを乗せるとき....24
安全装備について....24

キー 25
キーについて....25

ドア 34
ドアの開閉....34

リアゲート 41
リアゲートの開閉....41
パワーリアゲートの開閉....44

トノカバー 55
トノカバーの使いかた....55

シート 58
シート使用上の注意....58
フロントシート....59
リアシートの調節....69
リアシートの操作....70
ヘッドレストの使いかた....77
シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター....79

ドアミラー 83
ドアミラーの操作....83

ルームミラー 85
ルームミラーの操作....85
自動防眩機能....85

シートベルト 87
シートベルトについて....87
シートベルトの正しい着用のしかた....88
シートベルトを使用するとき....90
お子さまの安全 93
お子さま専用シートについて....93
お子さま専用シートを固定するとき....98
ウインドー 101
窓ガラスの開閉....101
電動スライドガラスサンルーフ 104
電動スライドガラスサンルーフの操作....104
燃料補給口 107
給油するとき....107
盗難防止システム 110
イモビライザーシステム....110
SRS エアバッグシステム 112
SRS エアバッグシステムについて....112
エアバッグの種類....113
エアバッグの注意点....114
安全に運転をしていただくために 123
積雪、寒冷時の取り扱い....123
トーイング (SKYACTIV-D 2.2) 124
トレーラートーイングについて....124

2 運転するときに

安全なドライブのために 132
運転するとき....132

運転装置について.....134
こんなことにも注意.....134
駐停車するとき.....138
お子さまを乗せるとき.....139

エンジンの始動と停止 140
電源ポジション (エンジンスイッチ).....140
エンジンの始動.....141
エンジンの停止.....148
i-stop について.....150
気筒休止について.....157

i-ELOOP について 158
i-ELOOP とは.....158

メーター、警告灯、表示灯の見方 160
メーター、表示.....160
メーター (タイプ A).....161
メーター (タイプ B).....183
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....203
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....205

マニュアルトランスミッションの使いかた 208
マニュアルトランスミッション.....208

オートマチックトランスミッションの使いかた 211
オートマチック車の特性.....211
各位置の働き.....212
シフトロック装置.....213
セレクトレバーの操作.....213
マニュアルモード.....214
ダイレクトモード.....219
オートマチック車を運転するときに.....219

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) について 223
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) とは... 223
ブレーキ 227
ブレーキの操作....227
オートホールド....230
i-ACTIV AWD 236
i-ACTIV AWD について....236
スイッチの使いかた 237
ヘッドランプスイッチ....237
方向指示器....243
非常点滅灯スイッチ....244
リアフォグランプスイッチ....245
ワイパー/ウォッシャースイッチ....246
ヘッドランプウォッシャースイッチ....250
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ....250
ホーン....252
ABS について 253
ABS とは....253
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について 254
ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは....254
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 255
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは....255
トラクションコントロールシステム (TCS) について 256
TCS とは....256

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について 258
DSC とは 258
オフロード・トラクション・アシストについて 260
オフロード・トラクション・アシストとは 260
i-ACTIVSENSE について 262
i-ACTIVSENSE とは 262
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは 265
車線逸脱警報システムとは 267
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) とは 273
交通標識認識システム (TSR) とは 278
車間認知支援システムとは 285
ドライバー・アテンション・アラート (DAA) とは 289
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは 291
マツダレーダークルーズコントロール (MRCC) とは 295
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは 309
クルージング＆トラフィック・サポート (CTS) とは 325
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは 344
アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) とは 358
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは 361
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) とは 366
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは 371
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) とは 374
360° ビュー・モニターとは 377
フォワードセンシングカメラ (FSC) について 407
レーダーセンサー (フロント) について 413
レーダーセンサー (リア) について 415
超音波センサー (フロント) について 417
超音波センサー (リア) について 417
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ 418

駐車支援システムについて 419
駐車支援システムとは....419
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 446
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは....446
様々な状況での運転のときは 447
悪天候での運転....447
環境保護のために 449
経済的な運転....449

3 快適装備の使いかた

空調 452
エアコンの上手な使いかた....452
吹き出し口....453
フルオートエアコン....455
マツダコネクト 460
マツダコネクトとは?....460
マツダコネクトの基本操作....464
室内装備 479
サンバイザー....479
室内照明....479
電源ソケット....486
USB 電源ソケット....488
ワイヤレス充電 (Qi)....489
アジャスター機能付きカップホルダー....495
ボトルホルダー....496
収納....497

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 506
必ずまもる....506
お車に触れるときはけがに注意する....507

点検、整備 508
点検整備について....508
定期点検....509
日常点検の前に....510
日常点検....512
その他の手入れ....521

ヒューズ切れ、電球切れのとき 522
ヒューズの受け持つ装置....522
ランプ類、電気装置が作動しないとき....528

電池交換 537
電池を交換するときは....537

車の手入れ 540
外装の手入れ....540
内装の手入れ....543

季節の準備 547
冬にそなえて....547
夏にそなえて....549

環境保護のために 550
廃棄物を処理するときは....550

5 トラブルが起きたら

マツダエマージェンシーコール 554
マツダエマージェンシーコール....554

故障したとき 555
路上で動けなくなったとき 555
スタックしたとき 557
踏切内で動けなくなったとき 558
緊急用具の取り扱い 559
発炎筒 559
工具、ジャッキの格納場所 559
ジャッキの取り扱い 560
パンクしたとき 565
タイヤパンク応急修理キット 565
バッテリーがあがったとき 574
バッテリーあがりについて 574
エンジンが始動しないとき 577
燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2) 577
オーバーヒートしたとき 578
オーバーヒートについて 578
キーが作動しないとき 581
キー一時停止機能 581
けん引について 582
けん引してもらうとき 582
故障車をけん引するとき 584
万一事故が起きたとき 586
警告灯/表示灯 587
警告灯が点灯、点滅したときは 587
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは 598
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは 601

警報チャイム 603
チャイムがなったときは..... 603
リアゲート 608
リアゲートが開けられなくなったとき..... 608
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 610
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき..... 610

1 運転する前に

安全なドライブのために 22
お出かけ前に....22
お子さまを乗せるとき....24
安全装備について....24
キー 25
キーについて....25
ドア 34
ドアの開閉....34
リアゲート 41
リアゲートの開閉....41
パワーリアゲートの開閉....44
トノカバー 55
トノカバーの使いかた....55
シート 58
シート使用上の注意....58
フロントシート....59
リアシートの調節....69
リアシートの操作....70
ヘッドレストの使いかた....77
シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター....79
ドアミラー 83
ドアミラーの操作....83
ルームミラー 85
ルームミラーの操作....85
自動防眩機能....85
シートベルト 87
シートベルトについて....87
シートベルトの正しい着用のしかた....88
シートベルトを使用するとき....90

1 運転する前に

お子さまの安全 93
お子さま専用シートについて....93
お子さま専用シートを固定するとき....98
ウインドー 101
窓ガラスの開閉....101
電動スライドガラスサンルーフ 104
電動スライドガラスサンルーフの操作....104
燃料補給口 107
給油するとき....107
盗難防止システム 110
イモビライザーシステム....110
SRS エアバッグシステム 112
SRS エアバッグシステムについて....112
エアバッグの種類....113
エアバッグの注意点....114
安全に運転をしていただくために 123
積雪、寒冷時の取り扱い....123
トーイング (SKYACTIV-D 2.2) 124
トレーラートーイングについて....124

MEMO

お出かけ前に

日常点検は必ず実施する

508 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

519 ページの「バッテリーの点検」をよくお読みください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

515 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

107 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

燃料補給時の注意

107 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

ルーフやルーフレールの上に直接荷物を積まない

ルーフやルーフレールの上に直接荷物を積まないでください。荷くずれを起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を積むときは固定する

71 ページの「荷室を作るとき」、41 ページの「リアゲートの開閉」をよくお読みください。

可燃物、危険物は積まない

燃料の入った容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

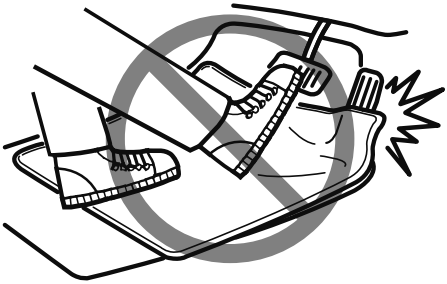
運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

収納スペース使用時の注意

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急加速時に内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



フロアマットは純正品を使用することをおすすめします。
フロアマットは車に合ったものを使用し、大きすぎるフロアマットを使用しないでください。
フロアマットを車に敷くときは次の点を守ってください。

- フロアマットは重ねて使用しない。
- フロアカーペットの上のフックでしっかり固定して使用する。

守られていないと、フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キーは運転者が携帯する

31 ページの「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」、34 ページの「ドアの開閉」をよくお読みください。

グレード/仕様別装備

正しい運転姿勢に調節する

59 ページの「運転席の操作」をよくお読みください。

シートベルトは全員着用する

88 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」をよくお読みください。

外気取り入れ口をふさがない

452 ページの「エアコンを使用する前に」をよくお読みください。

お子さまを乗せるとき

お子さまはリアシートに乗せる

93 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

お子さまにもシートベルトを着用させる

88 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」、114 ページの「エアバッグの注意点」をよくお読みください。

チャイルドシートは正しく取り付ける

93 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

ドア、窓ガラス、サンルーフの開閉やシートなどの調節は大人が操作する

34 ページの「ドアの開閉」、40 ページの「チャイルドプルーフの使いかた」、104 ページの「電動スライドガラスサンルーフの操作」、70 ページの「アームレストの使いかた」をよくお読みください。 グレード/仕様別装備

窓から手や顔を出させない

101 ページの「窓ガラスの開閉」をよくお読みください。

安全装備について

SRS エアバッグシステムの注意

112 ページの「SRS エアバッグシステム」をよくお読みください。

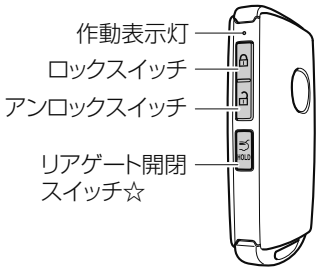
キーについて

キー

知識

キーは必ず運転者が携帯してください。

キー



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

キーを携帯することにより、キーを取り出すことなく次の操作ができます。

- エンジンを始動/停止する。

(アドバンストキーレス機能装備車)

- ドア、リアゲートを施錠/解錠する。
- リアゲートを開ける。

またリモートコントロールの操作にも使用します。
キーは 2 本あります。

節電機能

キーの節電機能を ON にすることで、アドバンストキーレスエントリー*1&プッシュボタンスタートシステムの機能が OFF となり、キーの電池消耗を抑えることができます。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作によるリモートコントロール機能は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。

節電機能を ON にするとき

次の操作によって節電機能を ON にしたとき、非常点滅灯とチャイム*1 がそれぞれ 1 回作動します。

1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
2. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。
3. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。

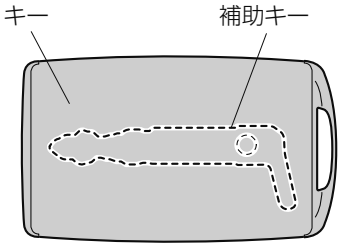
節電機能を OFF にするとき

次の操作によって節電機能を OFF にしたとき、非常点滅灯とチャイム*1 がそれぞれ 1 回作動します。

1. キーのいずれかのスイッチを押して、作動表示灯が点灯/点滅しないことを確認します。
2. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押して、作動表示灯を点灯させます。
3. 作動表示灯が点灯している間 (5 秒間) に、ロックスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。

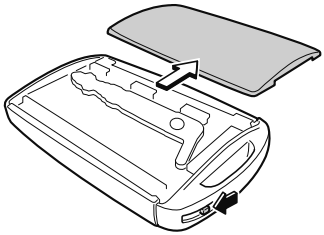
*1 アドバンストキーレス機能装備車

補助キー

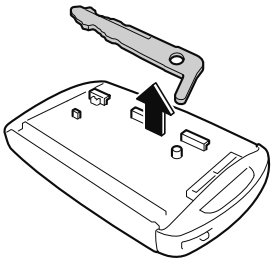


取りはずし可能な補助キーが、キー内部にあります。
ドア、リアゲートの施錠/解錠に使用します。

補助キーの取りはずしかた

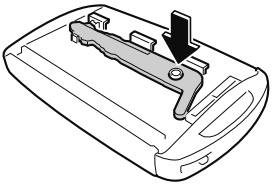


1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。

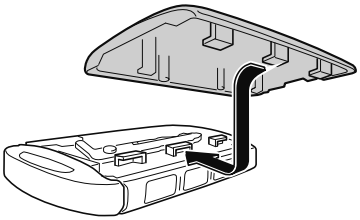


2. 補助キーを取りはずします。

補助キーの取り付けかた



1. 図のように補助キーを取り付けます。



2. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。

キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

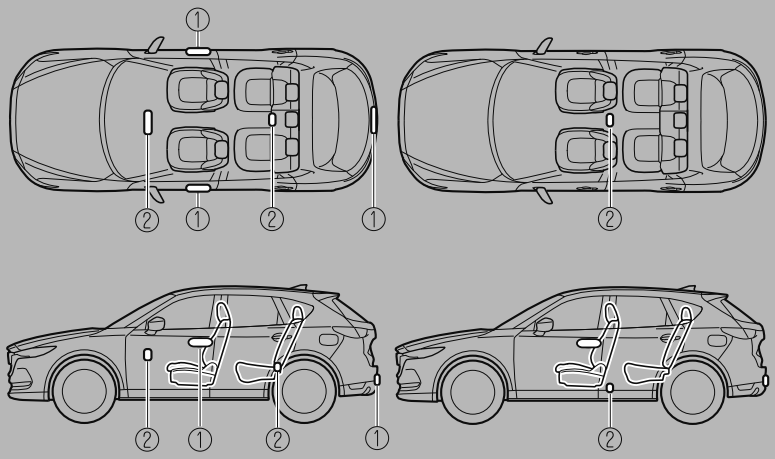
- 車両以外の安全な場所に大切に保管してください。
- お客様以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。

キーの注意点

⚠警告

禁止 **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内･車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。**

（アドバンストキーレス機能装備車）（アドバンストキーレス機能非装備車）



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る **次にある以外の医療用機器を使用している方は､キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。**

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

必ず守る **プッシュボタンスタートシステム機能､アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。**
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため､キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。
また､アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

キー

⚠注意

必ず守る **キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。**

- **携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき**
- **金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき**
- **パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき**
- **純正品以外の電子機器を取り付けたとき**
- **近くに電波を発する設備があるとき**

禁止 **キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。**

必ず守る **キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。**

- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **分解しないでください。**
- **重い物を上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**
- **磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**

禁止 **航空機内ではキーを操作しないでください。**
キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

知識

- **<u>電池の寿命について</u>**
  電池の寿命は、約 1 年です。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示した場合は、新しい電池と交換してください。
  電池の消耗度合いによっては KEY 警告表示が表示しない場合もありますので、1 年を目安に電池の交換をおすすめします。

知識

- **キーの紛失について**
  キーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- **キーを追加するときは**
  別売りのキーを購入される場合、お手持ちのキーとあわせて、同じ車両で 6 個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

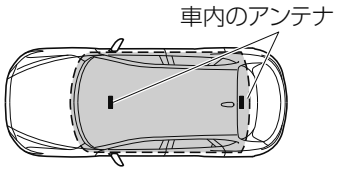
アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作 グレード/仕様別装備

アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムはキーを取り出すことなく、ドア、リアゲートの施錠/解錠、エンジンの始動/停止をすることができます。また、リモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リアゲートの施錠/解錠、パワーリアゲート装備車はリアゲートの開閉ができます。
→35 ページ「キーによる施錠/解錠」

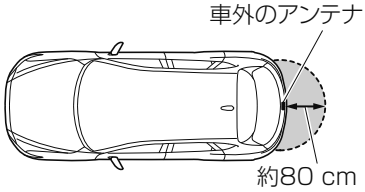
機能の作動範囲

キーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

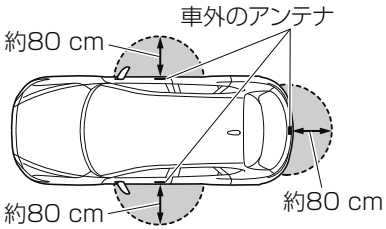
エンジンの始動



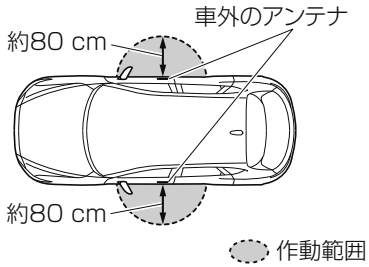
リアゲートの解錠



ドア、リアゲートの施錠



ドア、リアゲートの解錠



知識

- 次の場合、キーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
  - 電池が消耗しているとき
    電池交換の目安は 30 ページをお読みください。
  - 強い電波、ノイズのある場所
  - 窓ガラスやドアハンドル、リアゲートに近づきすぎた場合
- 次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - 携帯電話などの通信機器の近く

知識

- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
  車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

ドアの開閉

⚠警告

ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。
半ドアのまま走行すると、不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにドアの開閉をさせない。
手、足、首などをはさみ重大な傷害につながるおそれがあります。

半ドア警告表示が表示したまま走行しない。
走行中に、ドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

ドアを開閉するときは、強風や傾斜地等周囲の状況を確認して開閉してください。
指をはさんだり、ドアが通行人に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- **車から離れるときは**
  必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。
- 次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。
  - インストルメントパネルの周辺
  - グローブボックスや小物入れなど
  - 携帯電話などの通信機器の近く
- **衝撃感知ドアロック解除システム**
  事故などで乗員が車両に閉じ込められることなく、すぐに乗員を救出できるよう自動的にドアおよびリアゲートを解錠するシステムです。電源ポジションが ON のとき、エアバッグが展開するほどの強い衝撃を受けると、約 6 秒後にすべてのドアおよびリアゲートが自動的に解錠します。衝撃の加わり方や強さ、事故の状況によってはドアおよびリアゲートが自動的に解錠されないことがあります。

キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能装備車)

知識

施錠/解錠するときにチャイムが鳴ります。チャイムが鳴らないように設定を変更することができます。また、音量を変更することができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

リクエストスイッチ

知識

施錠について

- 次の場合は施錠しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドア、リアゲートが開いているとき
- リクエストスイッチで施錠したあとは、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。
  リアゲートについては電磁式リアゲートオープナーを押さずにリアゲートを動かし、閉まっていることを確認してください。

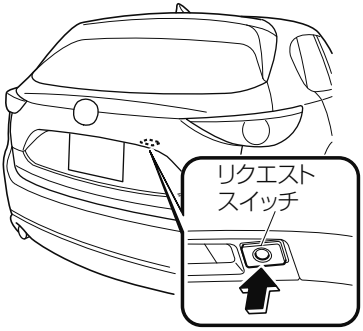
解錠について

リクエストスイッチを押してからドアが解錠されるまでに、数秒かかることがあります。

フロントドア

キーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲートが施錠/解錠します。

リアゲート (施錠のみ)



キーを携帯し、リアゲートのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲートが施錠します。

施錠したとき
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。
解錠したとき
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

- リクエストスイッチを押さずに、自動的に施錠するように設定を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
  オートロック機能
  キーを携帯してすべてのドア、リアゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。そのまま作動範囲から出ると約 3 秒後に自動的にすべてのドア、リアゲートを施錠します(作動範囲から出ない場合でも約 30 秒後、自動的に施錠します)。 ただし、次のようなときは施錠されません。
  - 車内に別のキーがあるとき。
  - ドア、リアゲートが完全に閉まる前に作動範囲を出たとき。
- リクエストスイッチを押して解錠したあと、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  - いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

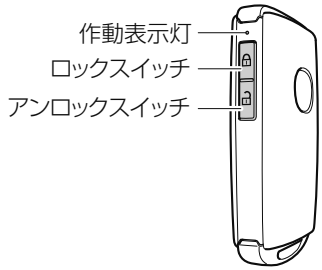
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。

リモートコントロール機能

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、リアゲートの施錠/解錠ができます。

知識

- スイッチはゆっくりと確実に押してください。
- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドア、リアゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。



施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。
解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。

知識

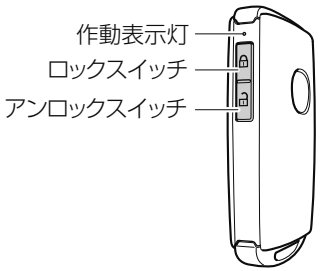
- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
  - いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

キーによる施錠/解錠 (アドバンストキーレス機能非装備車)

リモートコントロール機能を使用すると、すべてのドア、リアゲートの施錠/解錠ができます。
スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
  - 電源ポジションが OFF 以外のとき
  - いずれかのドアまたはリアゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



施錠するとき
ロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 1 回作動します。
解錠するとき
アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 2 回作動します。

知識

- **作動のお知らせについて**
  - スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
  - ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
  施錠されるまでの時間を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
  - いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
  - 電源ポジションを OFF 以外にする。

車速感応式オートドアロック

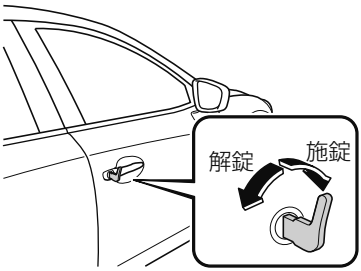
⚠警告

走行中に車内のドアハンドルを引かない。
不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
禁止

- 車速が 20 km/h を超えると、自動ですべてのドア、リアゲートを施錠します。
- **(マニュアル車)**
  電源ポジションを OFF または ACC にすると、自動ですべてのドア、リアゲートが解錠されます。
- **(オートマチック車)**
  電源ポジションが ON の状態で、セレクトレバーを P の位置にすると、自動ですべてのドア、リアゲートが解錠されます。

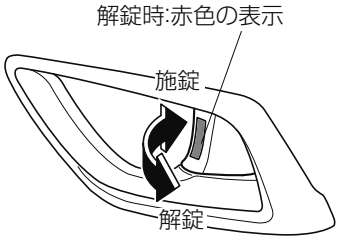
この機能は作動しないように設定を変更することができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

補助キーによる施錠/解錠



運転席ドアに、補助キーを差し込み、まわすとすべてのドア、リアゲートの施錠/解錠ができます。

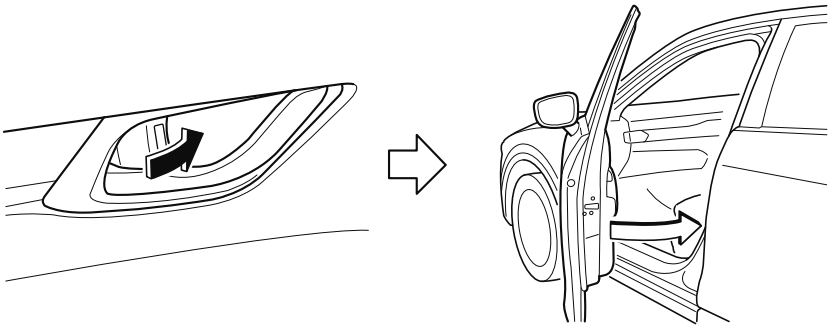
ロックノブによる施錠/解錠



運転席ドアのロックノブを操作すると、すべてのドア、リアゲートの施錠/解錠ができます。
助手席ドア、後席ドアのロックノブを操作すると、操作したドアの施錠/解錠ができます。

車外から操作するとき

助手席ドア、後席ドアは車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。

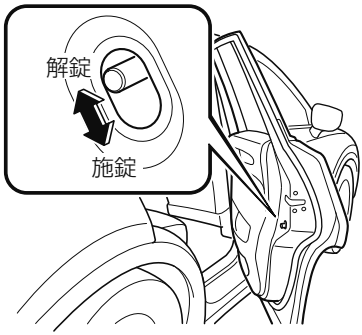


知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、ロックノブを施錠側にすると解錠側にはね返るためこの方法では施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

チャイルドプルーフの使いかた

お子さまをリアシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。



チャイルドプルーフレバーを施錠側にして閉めたリアドアは、車内のロックノブの位置に関係なく車内からは開けることができません。
お子さまの安全のため、両側のリアドアのチャイルドプルーフレバーを施錠側にしてください。
ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

リアゲートの開閉

⚠警告

禁止 **ラゲッジルーム内に人を乗せない。**
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **リアゲートは必ず閉めてから走行する。**
開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

必ず守る **荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。**
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠注意

必ず守る **リアゲートを開ける前に、リアゲートの雪や氷などの付着物を取り除いてください。リアゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

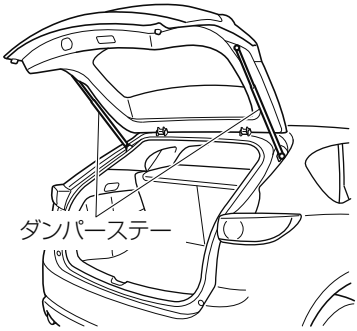
必ず守る **強風時にリアゲートを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。リアゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **リアゲートを開けるときは全開にして、リアゲートが止まることを確認してください。リアゲートを途中で止めると、振動や突風などでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。**

必ず守る **ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。**

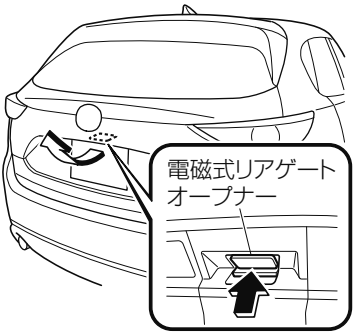
⚠注意

禁止 **リアゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リアゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。**



禁止 **リアゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突等で変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。**

リアゲートを開けるとき



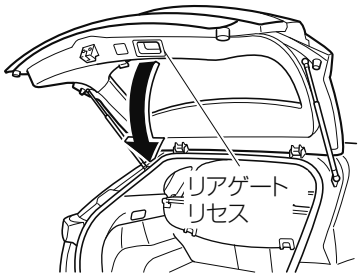
ドアを解錠し、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを持ち上げます。
アドバンストキーレス機能装備車はキーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリアゲートを開けることができます。
パワーリアゲートの操作については 44 ページの「パワーリアゲートの開閉」をお読みください。

グレード/仕様別装備

知識

- **(アドバンストキーレス機能装備車)**
  - ドア、リアゲートが施錠されている状態から、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開けるときは、すぐに解錠されないことがあります。
  - ドアが施錠されている状態で、車内にキーを入れたままリアゲートを閉めると、リアゲートは閉まりますが、施錠されません。電磁式リアゲートオープナーを押すことにより、リアゲートを開けることができます。ただし、この操作をしてもリアゲートを開けることができないときは、リアゲートを押さえつけるようにして完全に閉めてから電磁式リアゲートオープナーを押して開けてください。
- 電磁式リアゲートオープナーを押して、リアゲートが少し浮いた状態のままリアゲートを開けずに一定の時間が経過すると、リアゲートを開閉することができなくなります。次の操作を行なってリアゲートを開閉してください。
  - **リアゲートを開ける場合**
    もう一度、電磁式リアゲートオープナーを押して、リアゲートを開けてください。
  - **リアゲートを閉める場合**
    一度、電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを開け、1 秒以上待ってから閉めてください。
- バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートの解錠ができず開けられなくなったときは、応急処置を行なうとリアゲートを開けることができます。
→608 ページ「リアゲートが開けられなくなったとき」

リアゲートを閉めるとき



リアゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。リアゲートリセスを使用すると便利です。パワーリアゲートの操作については 44 ページの「パワーリアゲートの開閉」をお読みください。

グレード/仕様別装備

警告

必ず守る **リアゲートを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。**
走行中にリアゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲート

⚠警告

必ず守る **リアゲート開警告表示が表示したまま走行しない。**
走行中に、リアゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **リアゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。**

知識

リアゲートを閉めたあとは、電磁式リアゲートオープナーを押さずにリアゲートを動かし、半ドアでないことを確認してください。

パワーリアゲートの開閉 グレード/仕様別装備

キーまたは各スイッチの操作によりリアゲートを電動で開閉します。

⚠警告

必ず守る **リアゲートを電動開閉するときは、車外および車内のリアゲート付近の安全を必ず確認する。**
確認を怠ると、リアゲートが開くときにリアゲートと障害物の間に挟まったり、リアゲートが閉まるときに車両にはさまれたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **リアゲートを電動開閉するときは、リアゲートから目を離さない**
障害物等があるとはさみ込み防止機構により全閉しないことがあります。全閉しない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

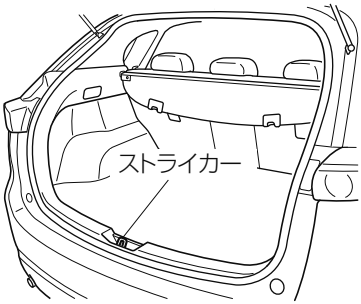
必ず守る **リアゲートを全閉にした状態で車を発進させる。**
全閉していない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにリアゲート開閉スイッチやキーの操作をさせない**
お子さまが誤って操作すると、不意にリアゲートが閉まり、お子さまや同乗者の手や頭をはさんだり、不意にリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

リアゲートを閉めるときは、ストライカー付近に異物がないことを確認してください。異物をはさみ込むとリアゲートが正常に閉まらなくなるおそれがあります。

必ず守る



リアゲートにこの車専用のアクセサリー用品以外を取り付けないでください。パワーリアゲートが自動で開閉できず故障につながるおそれがあります。

禁止

電動操作から手動操作に切り替わった場合、リアゲートの位置によっては、リアゲートが不意に開閉し、けがをするおそれがあります。

必ず守る

知識

- 電動開閉中はリアゲートに無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、自動的にリアゲートが反対方向に動くことがあります。また、故障の原因になります。
- 坂道などの傾斜地に停車しているとき、風が強いとき、またはリアゲートに積雪があるときは、電動開閉できないことがあります。手動で開閉してください。
- 車両整備などでバッテリーの接続を断つときは、リアゲートを全閉してから行なってください。リアゲートが開いた状態でバッテリーの接続を断った場合、リアゲートが自動で開閉できなくなります。自動で全開/全閉させる機能を復帰させるには、リアゲートを手動で全閉してください。
- バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リアゲートが開けられなくなったときは、応急処置としてエマージェンシーレバーを使用してリアゲートを開けてください。
→608 ページ「リアゲートが開けられなくなったとき」
- リアゲートを電動で開けたとき、積雪などの重みを感知すると、ブザーが鳴り、反対方向に動いたあと、停止します。
- リアゲートに積雪があるときは、パワーリアゲートを作動させる前に雪を取り除いてください。

リモートコントロール機能による操作

作動条件

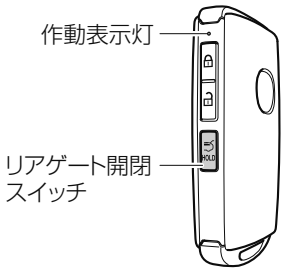
開けるとき

次の作動条件を満たしているときにキーを操作すると、リアゲートを電動で開くことができます。

- すべてのドア、リアゲートが解錠されているとき
- 電源ポジションが OFF のとき

閉めるとき

電源ポジションが OFF のときにキーを操作すると、リアゲートを電動で閉めることができます。



キーのリアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押すと、非常点滅灯が 2 回点滅し、ブザーが鳴ったあと、リアゲートが自動で全開 (全閉) します。

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- リアゲートが電動開閉中にリアゲート開閉スイッチを押すと、ブザーが鳴り、リアゲートが停止します。リアゲート開閉スイッチを再び押すと反対方向へ動きます。

各スイッチによる操作

作動条件

開けるとき

次の作動条件を満たしているときに各スイッチで操作すると、リアゲートを電動で開くことができます。

- すべてのドア、リアゲートが解錠されているとき
- 電源ポジションが OFF のとき、または電源ポジションが ON で、セレクトレバーが P の位置にあるとき。

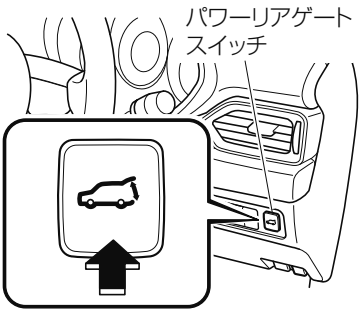
閉めるとき

電源ポジションが OFF のとき、または電源ポジションが ON で、セレクトレバーが P の位置にあるとき。

知識

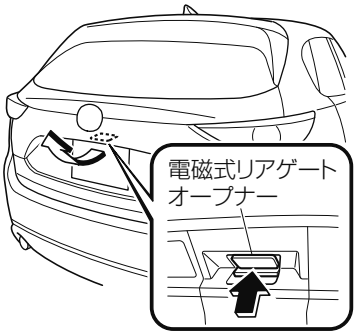
リアゲートが電動開閉中にセレクトレバーを P 以外の位置にし、車が動きだすとリアゲートは次のように動きます。
電動で開けているとき
ブザーが鳴り、リアゲートが自動で反転して閉まります。セレクトレバーを P の位置にすることで再びスイッチによる操作ができます。
電動で閉めているとき
ブザーが鳴りますが、そのまま閉まります。

パワーリアゲートスイッチで開閉するとき



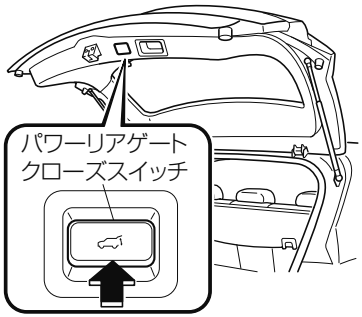
パワーリアゲートスイッチを約 1 秒以上押すと、非常点滅灯が 2 回点滅し、ブザーが鳴ったあと、自動で全開 (全閉) します。

電磁式リアゲートオープナーで開けるとき



電磁式リアゲートオープナーを押してリアゲートを持ち上げます。
キーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリアゲートを開けることができます。

パワーリアゲートクローズスイッチで閉めるとき



パワーリアゲートクローズスイッチを押して、スイッチから手を離すと、非常点滅灯が 2 回点滅し、ブザーが鳴ったあと、自動で閉まります。

知識

リアゲートが電動開閉中にパワーリアゲートスイッチ、パワーリアゲートクローズスイッチ、または車外の電磁式リアゲートオープナーを押すと、ブザーが鳴り、リアゲートが停止します。いずれかのスイッチを再び押すと反対方向へ動きます。

ハンズフリー機能による操作 グレード/仕様別装備

リアバンパー中央下部にあるハンズフリーセンサーが、足の動き (キック動作) を感知すると、リアゲートが自動で開閉します。
荷物を持つなどして両手がふさがっている状態でも、リアゲートを開閉することができます。

作動条件

停車時に次の条件をすべて満たして、キック動作をしてください。
(電源ポジションが OFF の場合)

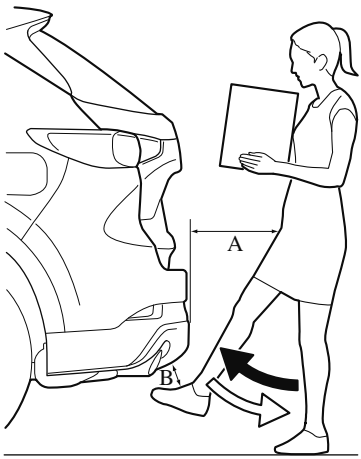
- キーを携帯しているとき
- ハンズフリー機能が ON のとき

(電源ポジションが ON の場合)

- キーを携帯しているとき
- ハンズフリー機能が ON のとき
- セレクトレバーが P の位置にあるとき

キック動作のしかた

A：約 30 cm
B：約 10 cm



1. リアバンパー中央から真後ろへ約 30 cm の位置に立ちます。
2. リアバンパー中央下部から約 10 cm の位置まで、足を近づけます。
3. 足を近づけてから、約 1 秒以内に足を引きます。

リアゲート

正しくキック動作をすると、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴り、リアゲートが自動で開閉します。リアゲートに接触しないよう注意してください。
リアゲートが自動で開閉している最中にキック動作をすると、リアゲートは止まります。再びキック動作をすると、リアゲートは、停止前に動いていた方向とは逆の方向に動きます。

⚠注意

禁止 **素足、またはサンダルなどの靴を履いてキック動作をしないでください。熱くなっている排気管に足が触れると、やけどをするおそれがあります。**

禁止 **坂道や凍結した路面など、足場が不安定な状態でキック動作をしないでください。転んでけがをするおそれがあります。**

禁止 **リアバンパーを塗装したり、リアバンパーに付加部品を取り付けたりしないでください。ハンズフリーセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。**

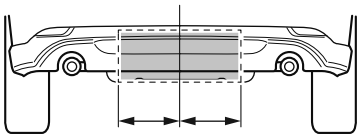
禁止 **リアゲート付近でお客様自身がキーを携帯しているとき、またはリアゲート付近にキーを携帯した人がいるときは、次のようなことをしないでください。ハンズフリーセンサーが作動して意図せずリアゲートが開閉し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **キーを携帯していない人が、キック動作をする。**
- **リアゲートが開いている状態で、荷室に腰かけて足を揺らす。**
- **リアバンパー付近で、ボディーカバーの着脱や雪かきなどの作業をする。**
- **リアバンパーの下に落ちている物を拾う。**
- **高圧洗車機を使用するなどして、リアバンパーに水をかける。**
- **ショッピングカートなどをリアバンパーに近づける。**
- **動物やボールなど、動く物をリアバンパーに近づける。**

意図しない作動を防ぐためには、キーを作動範囲外に置くか、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能を OFF にしてください。

知識

- ハンズフリーセンサーは、リアバンパー中央から左右に約 30cm ずつの範囲を感知します。



知識

- 次のようなときは、ハンズフリーセンサーが正常に作動しないことがあります。
  - 感知範囲内に足を入れたままのとき
  - 感知範囲内で足を左右に動かしたとき
  - キック動作が早すぎるとき、または遅すぎるとき
  - キック動作時に、足がリアバンパーに触れたとき
  - ゴム長靴など、電気を通しにくい靴を履いているとき
  - 車両の近くに、強い電波を発生する設備があるとき
  - ハンズフリーセンサーの感知範囲が汚れているとき
- ハンズフリーセンサーの感知範囲が汚れているときは、きれいな布でふいてください。キーを作動範囲外に置くか、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能をOFF にしてから行なってください。
- 条件を満たしているのにハンズフリーセンサーによる操作ができない場合は、マツダ販売店にご相談ください。

ハンズフリー機能 ON/OFF 切り替え

ハンズフリー機能の ON/OFF を切り替えることができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。
意図しない作動を防ぎたいときは、機能を OFF にしてください。

便利な装備について

パワーリアゲートの全開位置変更

お客様の車庫の高さなどによって、リアゲートの全開位置を変更することができます。

全開位置を変更するとき

1. リアゲートをお好みの位置で停止させます。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを約 3 秒以上押します。ブザーが 2 回鳴り、変更が完了したことをお知らせします。

知識

リアゲートの全開位置はリアゲートが半分以上開いている位置で設定してください。
半分よりも開いていない位置の設定はできません。

リセットするとき

1. リアゲートを開けます。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを約 7 秒以上押します。ブザーが 3 回鳴り、リセットが完了したことをお知らせします。

知識

スイッチを押し始めてから、約 3 秒後にブザーが 2 回鳴りますが、これはリアゲートの全開位置の変更をお知らせするためのブザーです。リセットを完了させるためには約 7 秒間スイッチを押し続けてください。

リアゲートイージークロージャー

イージークロージャーは、リアゲートが閉まるのを補助する装置です。 リアゲートを半ドアの位置まで閉めると、自動的に閉まります。

⚠注意

リアゲートを閉めるときは、指などをはさまないように注意してください。半ドアの位置まで閉まると自動的に閉まるため、万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

必ず守る

リアゲートを閉めるときは、無理な力をかけないでください。無理な力をかけるとシステムの故障の原因になります。

禁止

知識

- イージークロージャー作動中に、車外の電磁式リアゲートオープナーを押すと、リアゲートを開けることができます。
- リアゲートの開閉を短期間に繰り返すと、イージークロージャーが作動しないことがあります。約 2 秒待ってから閉めなおしてください。

安全装備について

はさみ込み防止機構

リアゲートの電動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、その位置から自動的にリアゲートは反対方向へ動いたあと、停止します。

⚠警告

リアゲートを閉める前に必ずリアゲート付近に人や障害物がないことを確認する。

必ず守る

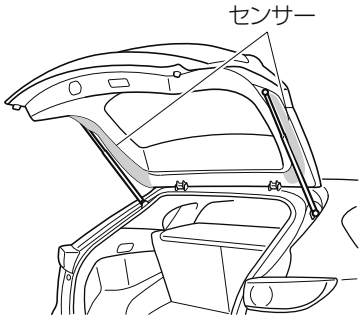
はさみ込み防止機構は、万一のときに人や障害物を感知してリアゲートにはさまれることを防ぐためのものです。また、はさまれかたや形状によっては、はさみ込みを感知できない領域があります。特にお子さまには十分気をつけてください。万一、指などをはさむとけがをするおそれがあります。

リアゲート

⚠注意

禁止

リアゲートの両端にセンサーがついています。センサーを鋭利なもので傷つけないようにしてください。センサーが切断されると、自動でリアゲートを開閉できなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されるとリアゲートは停止します。



知識

半ドアの位置から全閉の位置までのイージークロージャー作動中、はさみ込み防止機構は作動しません。

開 (閉) 方向へ作動しているとき異常を感知すると、ブザーが鳴り、リアゲートは反対方向へ動いたあと、停止します。

トノカバーの使いかた

ラゲッジルームの荷物を覆うことができます。ラゲッジボードの下に収納することができます。

⚠警告

トノカバーの上には、荷物を置かない

禁止

置いたまま走行すると、急ブレーキ時などに、荷物が移動して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

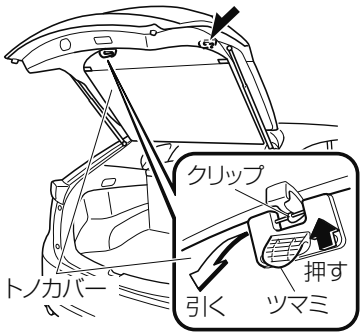
トノカバーが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま走行すると、不意にトノカバーがはずれて、けがをするおそれがあります。

必ず守る

知識

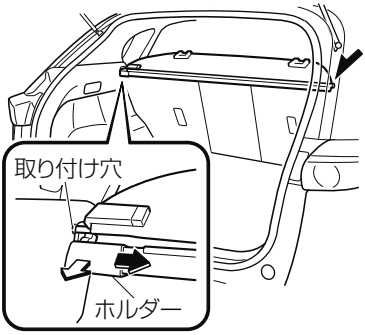
- リアゲートにトノカバーを取り付けた状態での開閉と取りはずした状態でのリアゲートの開閉の操作では重さが異なりますが、異常ではありません。
- 寒冷時など、トノカバーをリアゲートのクリップに取り付けた状態でリアゲートを開けると、ダンパー機能が正常に作動せず、リアゲートが持ち上げにくくなることがあります。リアゲートのクリップからトノカバーを取りはずすとリアゲートを持ち上げやすくなります。

トノカバーを取りはずすとき



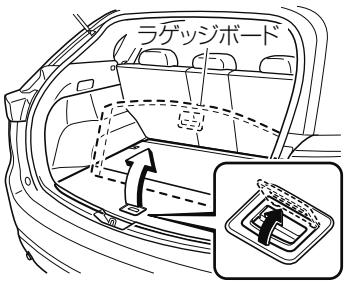
1. ツマミを持ってトノカバーを両手で持ち上げ、クリップから取りはずし、まき取らせます。

トノカバー

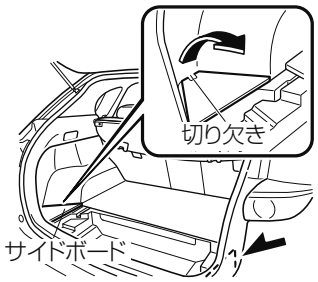


2. 左右どちらか一方のトノカバーのホルダーを内側に縮めます。
3. トノカバーを手前に引いて、取り付け穴から取りはずします。
4. トノカバーを車両から斜めに取り出します。

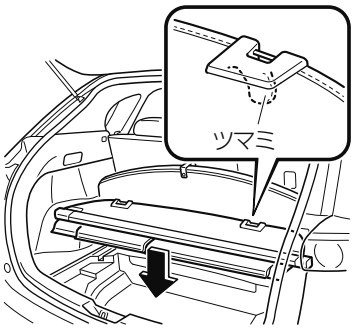
トノカバーを収納するとき



1. トノカバーを取りはずします。
→55 ページ「トノカバーを取りはずすとき」
2. ラゲッジボードを開きます。



3. ラゲッジルーム内の両側にあるサイドボードを取りはずして、サブトランクボックスの中に収納します。



4. ツマミを下にした状態で、トノカバーを収納します。
5. ラゲッジボードを閉じます。

トノカバーを取り付けるとき

取りはずすときと逆の手順で取り付けます。

シート使用上の注意

⚠警告

シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。

必ず守る

走行中に行なうと、必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

必ず守る

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり、ウレタンまで達するほどの損傷の場合は、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれは倒しすぎない。

禁 止

急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。

禁 止

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。

必ず守る

走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

シートを操作する際は、操作する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

必ず守る

シートを前後に動かすときや、後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、シートが急に動き、けがをするおそれがあります。

必ず守る

車室内を清掃したり、シートの下に落としたものを拾ったりするためにシートの下に手を入れるときは、けがをしないように注意してください。シートレールやシートフレーム、シート下周辺の可動部、および周辺部品にあたり、けがをするおそれがあります。

必ず守る

シートの周りには物を置かないでください。物がある状態でシートを操作するとシートに無理な力がかかり損傷するおそれがあります。

必ず守る

⚠注意

禁止 **急な坂道でのシート操作はしないでください。シートが不意に動き、けがをするおそれがあります。**

フロントシート

運転席の操作

マツダが推奨するドライビングポジションにすることで、リラックスした姿勢を保ち、ドライバーが長時間の運転でも疲れにくく、自然に素早い操作をすることができます。
また、前方の視野を確保し、安全で楽しく運転することができます。
マツダが推奨するドライビングポジションにするには、次の手順で調節します。

1. ハンドルとシートを初期位置へ移動する。
2. シートの背もたれの角度を調節する。
3. シートの前後位置を調節する。
4. シートの高さを調節する。
5. ハンドルの位置を調節する。
6. ヘッドレストの位置を調節する。

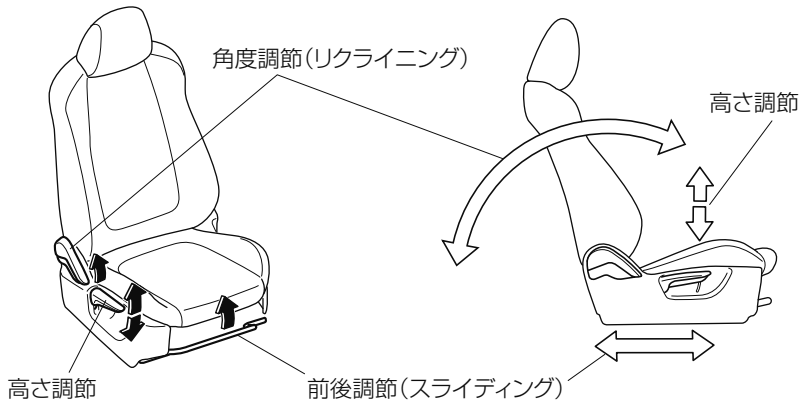
⚠警告

禁止 **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**

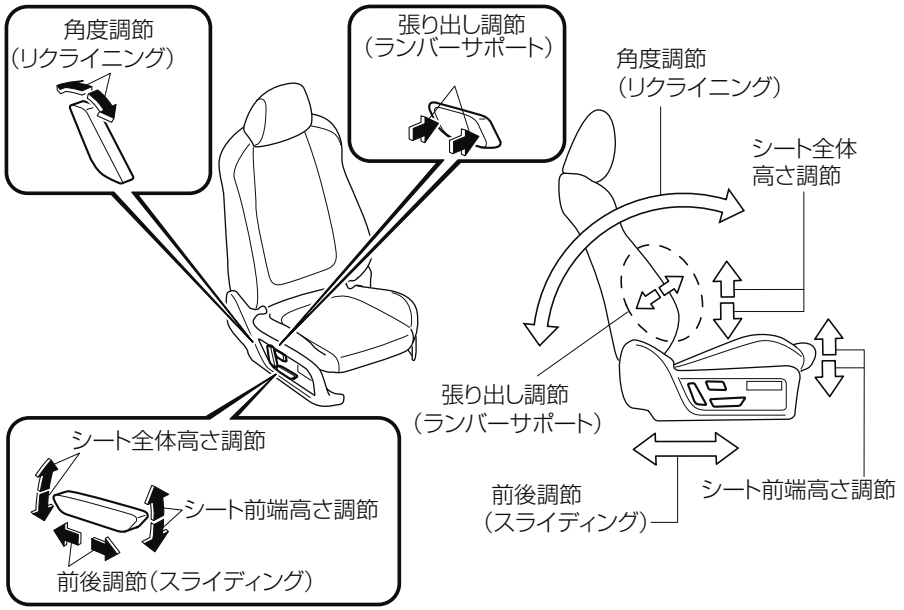
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート

マニュアルシート



パワーシート



マツダが推奨するドライビングポジションに調節する前に

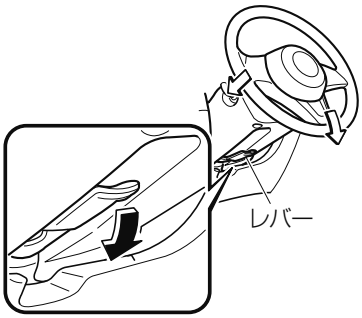
調節する前にハンドル、シートを初期位置へ移動させます。

ハンドルの初期位置への移動のしかた

⚠ 警告

必ず守る **調節は必ず車両を停止した状態で行なう。**
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。**
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



レバーを下げて、ハンドルの高さを一番下の位置にし、奥まで押し下げます。

シートの初期位置への移動のしかた

1. シートを一番後ろに下げます。
2. シートの高さを一番下まで下げます。
3. シートに深く腰かけて、背もたれと背中を密着させます。

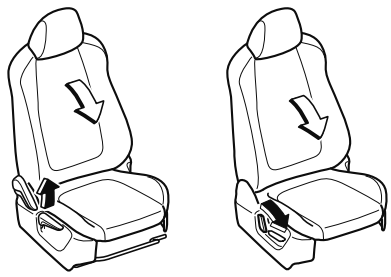
マツダが推奨するドライビングポジションへの調節手順

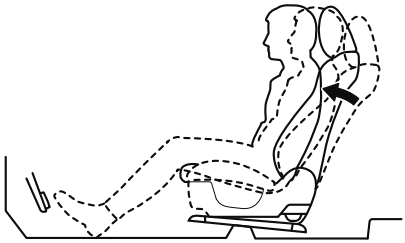
シートの背もたれの角度を調節する（リクライニング）

楽な姿勢で座れる角度にシートの背もたれを調節します。

1. 少し前かがみの姿勢で、お腹まわりが窮屈と感じる角度まで背もたれを起こします。

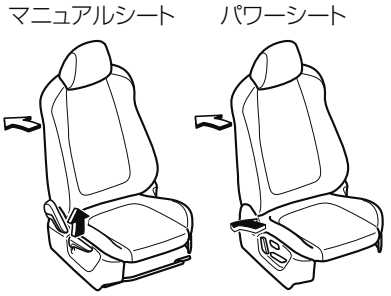
マニュアルシート　パワーシート

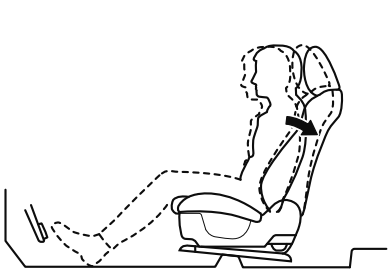




2. お腹まわりに窮屈な感じがなく、楽に座れる姿勢まで背もたれを倒します。

マニュアルシート　パワーシート



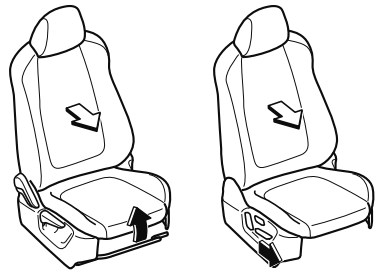


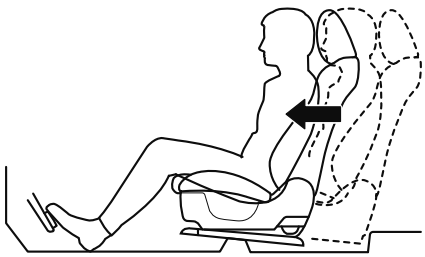
シートの前後位置を調節する（スライディング）

ペダルが操作しやすい位置に調節します。

1. 左足はフットレストに置き、右足はアクセルペダルとブレーキペダルの中間、ペダルを踏みかえられる位置にかかとを置きます。
2. かかとを床につけた状態でブレーキペダルに右足を乗せ、足首が少し窮屈に感じるまでシートをできるだけ前へ動かします。

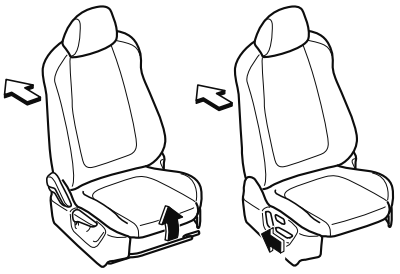
マニュアルシート　パワーシート

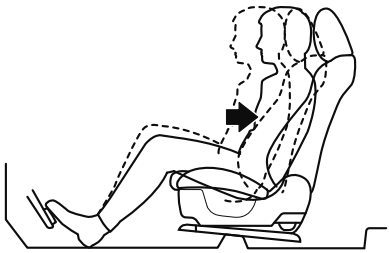




3. ブレーキペダルに右足を乗せたまま、足首が窮屈と感じなくなるまでシートを後ろへ動かします。
4. かかとを床につけたまま、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み替えがスムーズにできることを確認します。
5. かかとを床につけたままアクセルペダルを一番奥まで踏み、足首が伸び切った感じを受けないことを確認します。

マニュアルシート　パワーシート



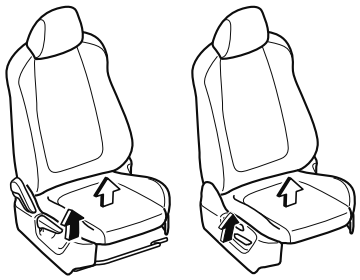


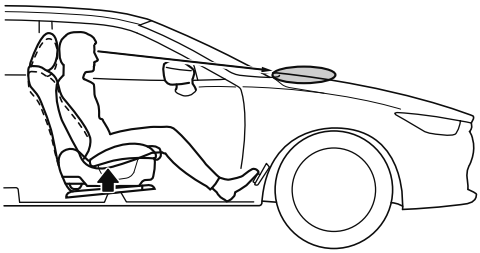
シートの高さを調節する

前が見やすく、運転しやすい高さに調節します。

1. 背もたれに背中を密着させた状態で、ボンネット表面の後端部分が確認できる高さまでシートの高さを上げます。
   マニュアルシートはシートの高さを上げると、前方へシートが移動します。前後調節をもう一度行なってください。

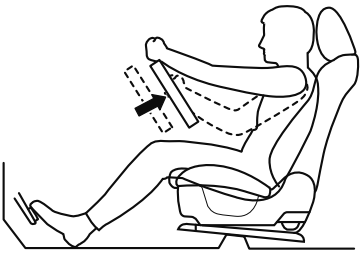
マニュアルシート　パワーシート



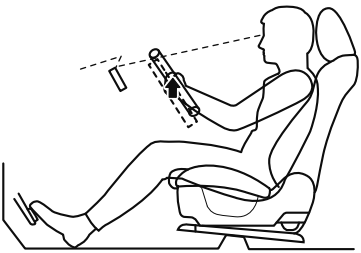


ハンドルの位置を調節する

運転操作がしやすく、メーターが見える位置に調節します。



1. 背もたれに背中を密着させた状態で、両腕をのばし、ハンドル上部に両手を置いて、手首の位置までハンドルを引き寄せます。



2. メーター類がしっかり見えるように、ハンドルの高さを調節します。
3. レバーを引き上げてハンドルを固定します。

ヘッドレストの位置を調節する

万一のときに頭部への衝撃を防ぐため、正しい位置にヘッドレストを調節します。
→77 ページ「ヘッドレストを調節するとき」

ドライビングポジションメモリー機能 グレード/仕様別装備

お好みのドライビングポジションを記憶させることができます。
次のドライビングポジションを記憶させることができます。

- 運転席シート位置 (角度、前後位置、全体高さ、前端高さ)
  →59 ページ「運転席の操作」
- アクティブ･ドライビング･ディスプレイ (表示位置、輝度、表示情報)
  →205 ページ「アクティブ･ドライビング･ディスプレイ」 グレード/仕様別装備

ドライビングポジションを次の操作で記憶または操作することができます。

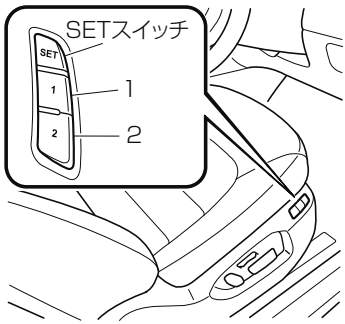
- シート側スイッチの操作
- キーを使った操作

知識

- 張り出し調節 (ランバーサポート) は記憶させることはできません。
- ドライビングポジションはシート側のスイッチと車両に使用しているキーに記憶させることができます。
- バッテリーとの接続が絶たれたときは、シート側スイッチおよびキーの両方に記憶された位置がすべて消去されます。もう一度記憶させてください。

記憶させるとき

ドライビングポジションをシート側スイッチとキーに記憶させることができます。



1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. エンジンを始動させます。
4. シート位置とアクティブ･ドライビング･ディスプレイをお好みの位置に調節します。
5. シートの SET スイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。
6. ビープ音が鳴った後、5 秒以内に次の操作を行ない、ドライビングポジションを記憶させます。
   - シート側のスイッチに記憶させるとき
     1、2 のうち記憶させたいスイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。
   - キーに記憶させるとき
     キーのアンロックスイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。

知識

ビープ音が 3 回鳴ると、記憶させる操作は無効になります。

記憶させた位置に調節するとき

注意

ドライビングポジションメモリー機能でシートが自動的に動いているときは、シートの下やその周辺に手や指などを近づけないでください。手や指などをはさんで、けがをするおそれがあります。

シート側のスイッチで操作するとき

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
3. エンジンを始動させます。
4. 1、2 のうち呼び出したい位置が記憶されているスイッチを押します。
5. 記憶されたドライビングポジションに調節が終了すると、ビープ音が 1 回鳴ります。

知識

- ドライビングポジションの移動がないときは、ビープ音のみ鳴ります。
- 次の状態のときは、シート位置のみ調節されます。
  - 電源ポジションが ACC で、オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあるとき、マニュアル車はパーキングブレーキをかけているとき
  - 電源ポジションが OFF のとき
- 次のような場合、ドライビングポジションの調節を中止します。
  - いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
  - SET スイッチを押したとき
  - 1、2 のスイッチを押したとき
  - キーのロックスイッチまたは、アンロックスイッチを操作したとき
  - 車両が走行状態になったとき
  - アクティブ･ドライビング･ディスプレイを調節したとき

キーで操作するとき

1. フロントドアにあるリクエストスイッチまたは、キーのアンロックスイッチの操作で、解錠の操作をします。
2. 解錠の操作をした後、40 秒以内に運転席ドアを開けるとシート位置の調節を開始し、終了するとビープ音が 1 回鳴ります。
3. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
4. オートマチック車はセレクトレバーが P の位置にあることを確認します。
5. エンジンを始動すると、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの調節を開始します。

知識

- ドライビングポジションの移動がないときはビープ音は鳴りません。
- 次のような場合、シート位置の調節を中止します。
  - いずれかのシート調節スイッチを操作したとき
  - SET スイッチを押したとき
  - 1、2 のスイッチを押したとき
  - キーのロックスイッチまたは、アンロックスイッチを操作したとき
  - 車両が走行状態になったとき
  - アクティブ・ドライビング・ディスプレイを調節したとき

記憶させた位置を消去するとき

キーに記憶させた位置を消去するとき

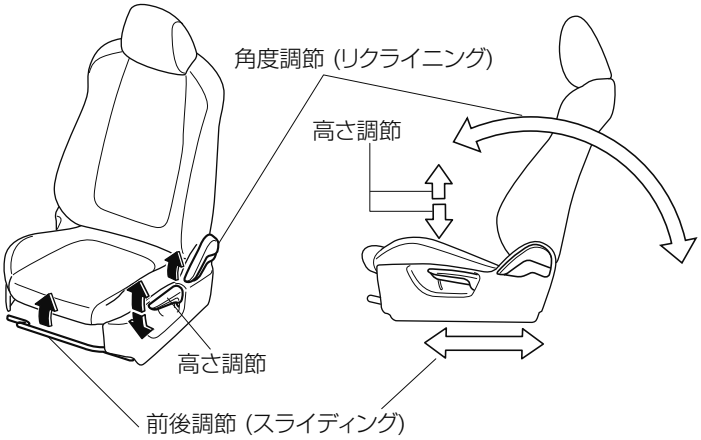
1. 電源ポジションを OFF にします。
2. シートの SET スイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。
3. ビープ音が鳴った後、5 秒以内にキーのロックスイッチを、ビープ音が 1 回鳴るまで押します。

知識

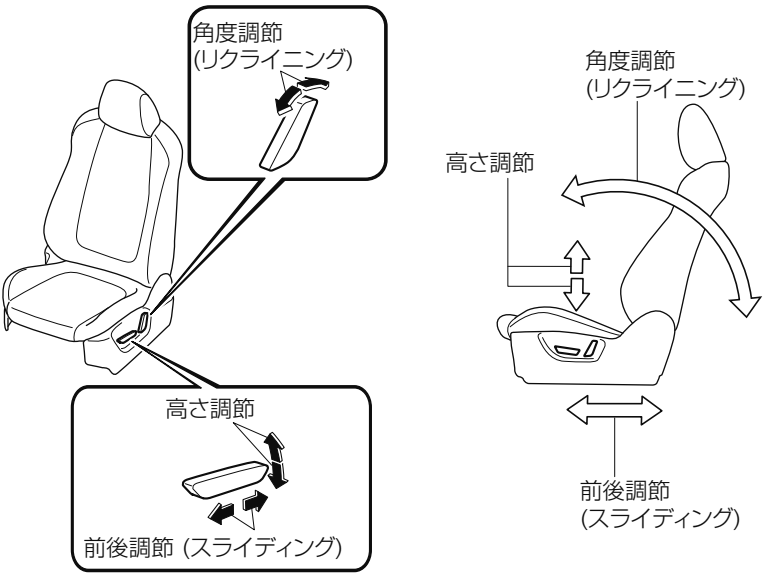
ビープ音が 3 回鳴ると、記憶させた位置を消去する操作は無効になります。

助手席の操作

マニュアルシート



パワーシート



リアシートの調節

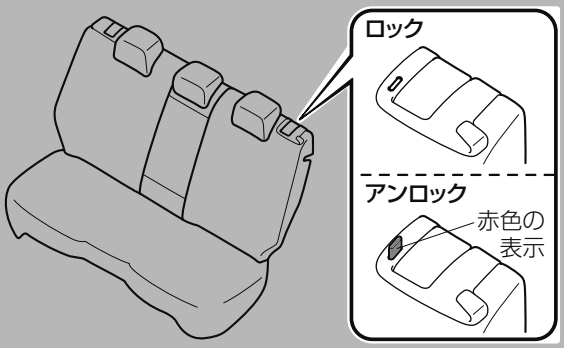
リアシートの角度調節（リクライニング）

⚠警告

操作後はシートを軽くゆさぶって、確実にロックされ、赤色の表示が見えないことを確認する。

必ず守る

赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、シートが不意に動き姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



⚠注意

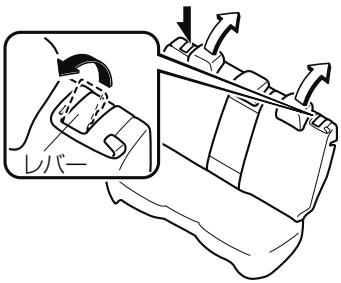
背もたれを操作するときは、必ず背もたれを手で支えてください。背もたれを手で支えずに操作すると、背もたれが急に動き、けがをするおそれがあります。

必ず守る

知識

左側の背もたれを操作すると、中央席が同時に動きます。

リアシートの背もたれを左右別々に調節することができます。



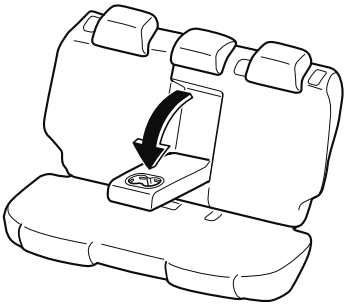
レバーを引き上げたまま、背もたれを後方に倒します。

リアシートの操作

⚠注意

禁止 **シートを操作するときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。**

アームレストの使いかた



前に倒して使用します。

⚠警告

禁止 **アームレストの取り付け部周辺に、手や指を置かない。**

シートとアームレストの間に手や指がはさまり、けがをするおそれがあります。

荷室を作るとき

リアシートの背もたれを倒すと荷室を広げることができます。

⚠警告

倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。

禁止 **シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。**

背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。

必ず守る **固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。

必ず守る **後方、側面の視界が悪くなるため危険です。**

⚠注意

必ず守る **背もたれを操作するときは、必ず背もたれを手で支えてください。背もたれを手で支えずに操作すると、背もたれが急に動き、けがをするおそれがあります。**

左右席を倒すとき

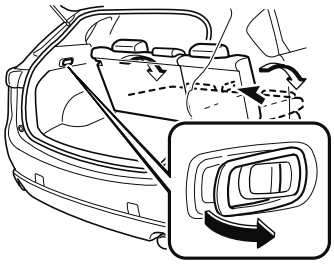
⚠注意

必ず守る **背もたれを折りたたむ前にフロントシートの位置を確認してください。フロントシートの位置によっては、リアシートの背もたれがフロントシートに当たって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを折りたたむことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリアシート左右席のヘッドレストは、位置を下げる、または取りはずしてください。**

知識

左側の背もたれを倒すと、中央席が同時に倒れます。

リモートハンドルを使うとき



1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →79 ページ「シートヒーターの使いかた」
   グレード/仕様別装備
2. リアゲートを開け、倒したい背もたれ側にあるリモートハンドルを矢印の方向へ操作します。
   左側の背もたれを倒すときは外側のリモートハンドルを操作してください。

⚠警告

禁止 **ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後に、リモートハンドルを操作しない。**

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後にリモートハンドルを操作すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。リモートハンドルを操作するときはベビーシートやチャイルドシートを取りはずしてください。

必ず守る **リモートハンドルを操作するときは、リアシートに人が乗っていたりアームレストに物が置かれたままになっていないか十分確認する。**

確認せずにリモートハンドルを操作すると背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

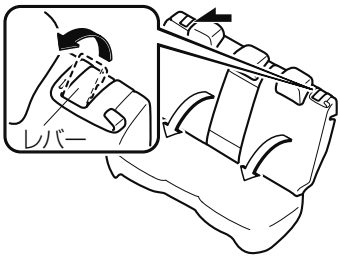
⚠注意

必ず守る **リモートハンドルを操作するときは、次の点を守ってください。**

- **下り坂では背もたれが倒れるスピードが速くなることがあります。**
- **上り坂では背もたれが倒れないことがあります。リモートハンドルで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。**

必ず守る **(左側の背もたれを倒すときは)**
中央席が倒れている状態で、リモートハンドルを操作するときは注意してください。右席の人が中央席に手などを置いていると、シートの背もたれやシートの部品で手などをはさみ、けがをするおそれがあります。

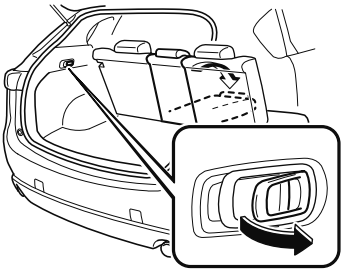
レバーを使うとき



1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →79 ページ「シートヒーターの使いかた」
   グレード/仕様別装備
2. レバーを引き上げて背もたれを前に倒します。

中央席のみを倒すとき

リモートハンドルを使うとき



1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →79 ページ「シートヒーターの使いかた」
   グレード/仕様別装備
2. 中央席のヘッドレストを一番下の位置に下げます。
3. リアゲートを開け、内側のリモートハンドルを矢印の方向に操作します。

⚠警告

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後に、リモートハンドルを操作しない。

禁止

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後にリモートハンドルを操作すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。リモートハンドルを操作するときはベビーシートやチャイルドシートを取りはずしてください。

リモートハンドルを操作するときは、リアシートに人が乗っていたりアームレストに物が置かれたままになっていないか十分確認する。

必ず守る

確認せずにリモートハンドルを操作すると背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

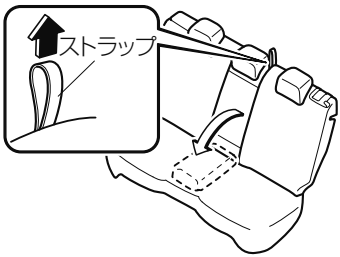
⚠注意

リモートハンドルを操作するときは、次の点を守ってください。

必ず守る

- **下り坂では背もたれが倒れるスピードが速くなることがあります。**
- **上り坂では背もたれが倒れないことがあります。リモートハンドルで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。**

ストラップを使うとき



1. **(リアシートヒーター装備車)**
   リアシートのシートヒーターのスイッチを OFF にします。
   →79 ページ「シートヒーターの使いかた」
   グレード/仕様別装備
2. 中央席のヘッドレストを一番下の位置に下げます。
3. ストラップを引いて背もたれを倒します。

もとにもどすとき

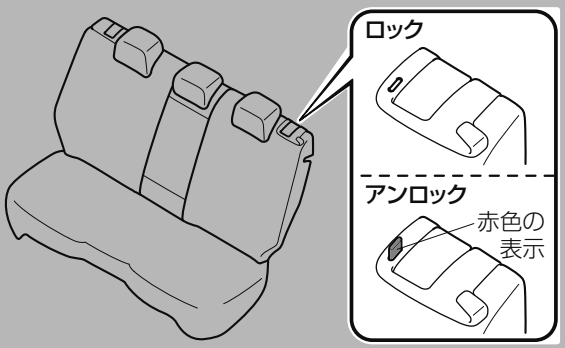
⚠警告

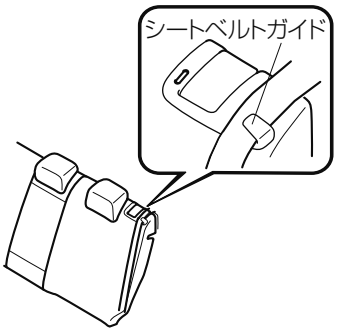
必ず守る 背もたれをもとにもどすときは、シートベルトがはさまれていないことを確認する。

シートベルトが背もたれにはさまれた状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る 背もたれをもとにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。

赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。





1. シートベルトガイドにシートベルトがかかっていることを確認してください。
2. 背もたれを後ろに押しつけロックさせます。背もたれをもとの位置にもどした後は、確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストの使いかた

すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

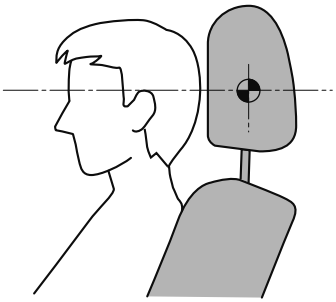
ヘッドレストを調節するとき

⚠警告

高さを調節しないままで走行しない。

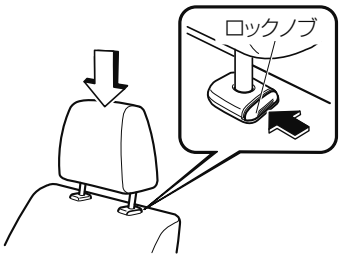
禁止

高さを調節しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、リアシート左右席のヘッドレストは引き上げた状態で使用してください。



ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調節してください。

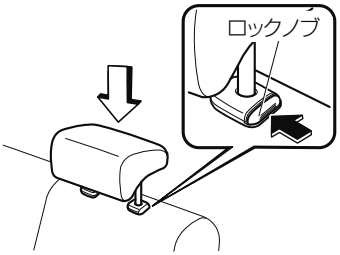
フロントシート



- 高くするとき
  そのまま引き上げます。
- 低くするとき
  ロックノブを押したまま下げます。

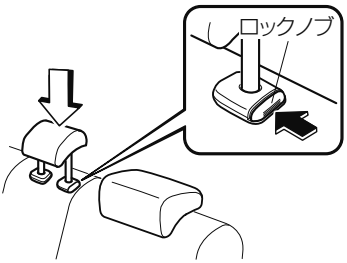
リアシート左右席

シート



- 使用するとき
  ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
  ロックノブを押したまま下げます。

リアシート中央席



- 高くするとき
  そのまま引き上げます。
- 低くするとき
  ロックノブを押したまま下げます。

ヘッドレストを脱着するとき

- ヘッドレストを取りはずすとき
  ロックノブを押しながら引き上げます。
- ヘッドレストを取り付けるとき
  ロックノブを押しながら差し込みます。

⚠警告

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。

禁止

取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認する。

必ず守る

ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、思わぬけがをするおそれがあります。ヘッドレストを引き上げて、抜け出さないことを確認してください。

⚠注意

必ず守る

ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。

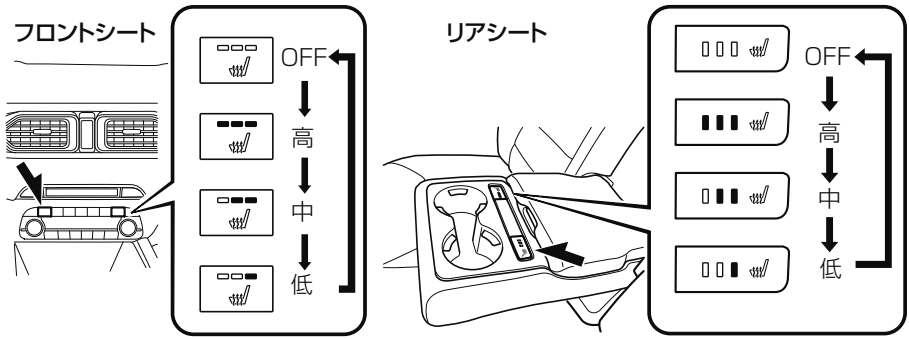
⚠注意

必ず守る **フロントシート･リアシートそれぞれのヘッドレストは､各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると､衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず､けがをするおそれがあります。**

シートヒーター/シートベンチレーション/ステアリングヒーター

シートヒーターの使いかた グレード/仕様別装備

シートを温めることができます。電源ポジションが ON のとき､スイッチを押すと作動します。作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。スイッチを押すごとに､図のように作動状態が切り替わります。
リアシートヒーターを使用するときは､アームレストを前に倒してください。
→70 ページ「アームレストの使いかた」



⚠注意

必ず守る **次のような方がご使用になる場合は､熱すぎたり､低温やけどを起こしたりするおそれがありますので､十分注意してください。**

- **乳幼児､お子さま､お年寄り､病人､体の不自由な方**
- **皮膚の弱い方**
- **疲労の激しい方**
- **深酒やねむけをさそう薬 (睡眠薬､かぜ薬など) を服用された方**

シート

⚠注意

低温やけどを起こさないために、次のことをお守りください。

- **毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。**
- **仮眠するときは使用しないでください。**
- **突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションをつきささないでください。異常加熱するおそれがあります。**

リアシートの背もたれを倒すときは、シートヒーターのスイッチが OFF になっていることを確認してください。シートヒーターが作動中のまま、背もたれを倒すと、シートが異常加熱し、シートの表面を損傷するおそれがあります。

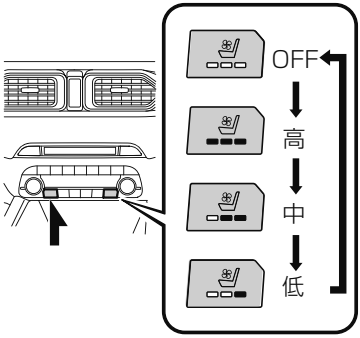
シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

知識

- エンジン回転中に使用してください。エンジンを止めたままで、シートヒーターを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。
- シートヒーターが作動中にエンジンを止めて、次に電源ポジションを ON にしたとき、シートヒーターは自動的に作動しません。シートヒーターを使用するときは、再度スイッチを押してください。
- シートヒーターは約 90 分後に、自動で作動が停止します。
- **(シートベンチレーション装備車)**
  シートヒーターは、シートベンチレーションと同時に使用することはできません。

シートベンチレーションの使いかた グレード/仕様別装備

シートに取り付けられたファンでシート表面の空気を吸い込み、シートの表面を換気します。電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと作動します。作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。スイッチを押すごとに、図のように作動状態が切り替わります。



⚠注意

禁止 **シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ベンチレーション部品やシートの表面を損傷するおそれがあります。**

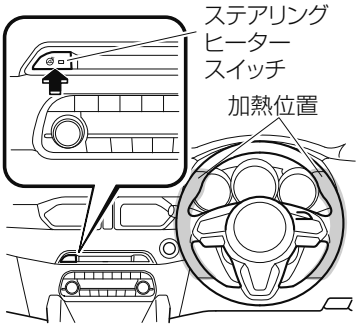
必ず守る **突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションをつきささないでください。**

知識

- エンジン回転中に使用してください。エンジンを止めたままで、シートベンチレーションを長時間使用するとバッテリーがあがるおそれがあります。
- シートベンチレーションが作動中にエンジンを止めて、次に電源ポジションを ON にしたとき、シートベンチレーションは自動的に作動しません。シートベンチレーションを使用するときは、再度スイッチを押してください。
- シートベンチレーションは、シートヒーターと同時に使用することはできません。

ステアリングヒーターの使いかた グレード/仕様別装備

ハンドルの左右のグリップ部分を温めることができます。



電源ポジションが ON のとき、スイッチを押すと約 30 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。

⚠注意

必ず守る **低温やけどを起こすおそれがありますので、次のような方が触れないよう注意してください。**

- **乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方**
- **皮膚の弱い方**
- **疲労の激しい方**
- **深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を服用された方**

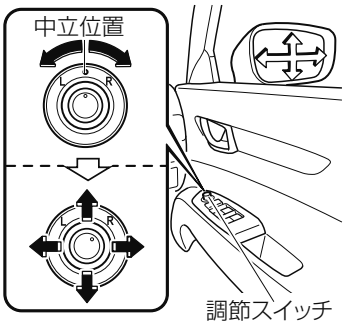
ドアミラーの操作

⚠警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のとき調節ができます。



1. 調節スイッチを助手席側 **L** または運転席側 **R**のどちらか調節したいミラー側にまわします。
2. 調節スイッチを操作して、後方が十分確認できるように調節します。
3. ミラーの調節後は、調節スイッチを中立位置にもどします。

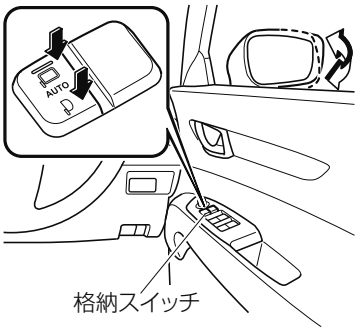
ドアミラーを格納するとき

⚠注意

ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。

電動格納ミラーはスイッチで操作してください。手動で操作すると、ミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。

ドアミラー



電源ポジションが ACC または ON のときに格納できます。
スイッチの後側を押すと格納します。
スイッチの前側を押すと展開します。

自動格納機構

電源ポジションが OFF または ACC のときに作動します。
自動格納ドアミラースイッチを AUTO の位置 (中立位置) にすると、ドアの施錠/解錠に連動して自動でドアミラーが格納/展開します。
また、電源ポジションを ON またはエンジンを始動させるとドアミラーが自動で展開します。

知識

寒冷時はドアミラーが自動で格納/展開しないことがあります。
自動で格納/展開しない場合は、氷や雪を取り除き自動格納ドアミラースイッチの前側または後側を押してドアミラーを格納/展開してください。

キー OFF 後作動機構

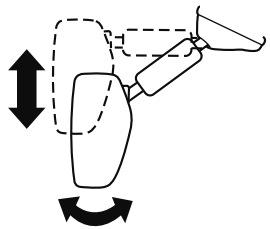
ドアミラーは、電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間は角度調節や格納することができます。

ルームミラーの操作

⚠警告

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。
必ず守る

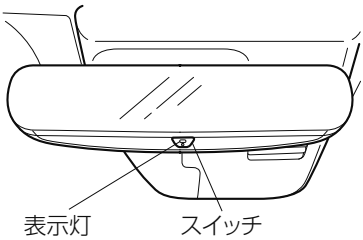
ルームミラーの角度/高さ調節



ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調節します。

自動防眩機能

電源ポジションが ON のとき、後続車からのヘッドランプの光を自動で軽減します。
(ON/OFF スイッチ装備車)



スイッチを押すごとに ON、OFF が切り替わります。
スイッチが ON のときは表示灯が点灯します。

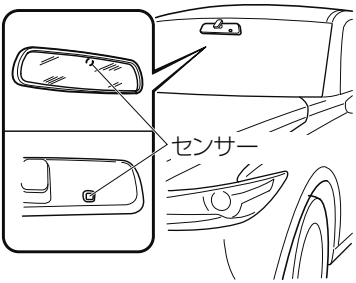
知識

センサーについて
センサーをガラスクリーナーでふいたり、ステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

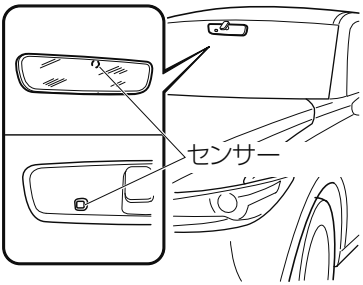
ルームミラー

知識

ON/OFFスイッチ非装備車



ON/OFFスイッチ装備車



電源ポジションが ON のときチェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると防眩機能は一時停止します。

シートベルトについて

⚠警告

メンテナンスについて

禁止 **シートベルトを分解・改造・交換しない。**
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

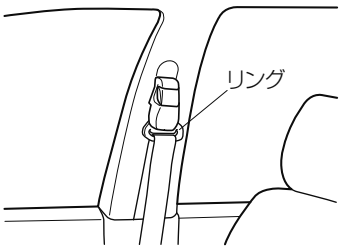
必ず守る **事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。**
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。**
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしない。**
正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。**



ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方*1 から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

*1　サイドエアバッグ装備席のみ

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方または側方*2 から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。

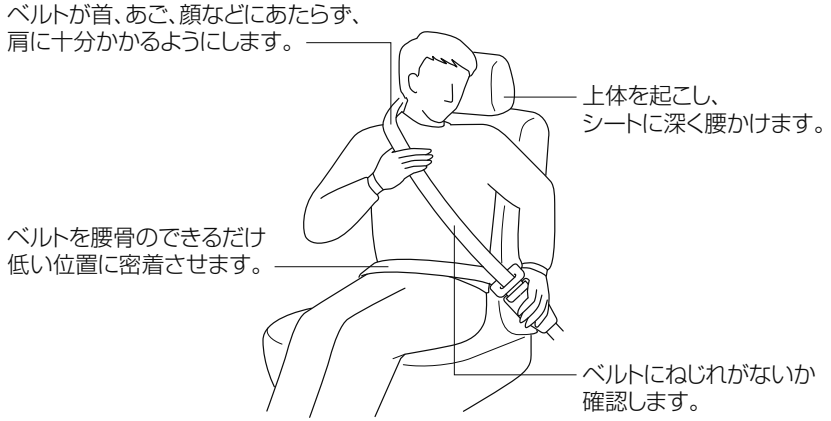
  *2　サイドエアバッグ装備席のみ
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

ロードリミッター機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

シートベルトの正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



⚠警告

必ず守る **シートベルトは全員が正しく着用する。**
着用しないと身体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。**
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。**
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **ベルトがねじれた状態で使用しない。**
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

禁止 **肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。**
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **背もたれは倒しすぎない。**
急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。**
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。**
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。

禁止 **シートベルトのバックルの中に異物を入れない。**
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

お子さまを乗せるときは

必ず守る **お子さまはできるだけリアシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。**

シートベルトを使用するとき

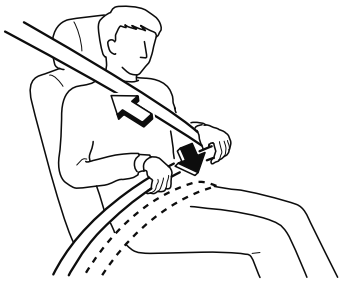
シートベルトを着用するとき

1. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
2. ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

知識

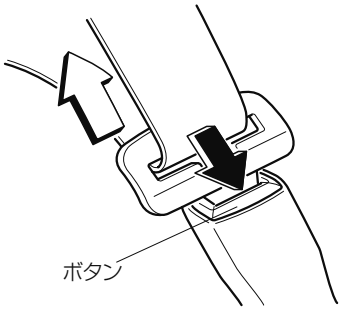
ベルトがロックして引き出せないときは
一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

3. ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

シートベルトをはずすとき

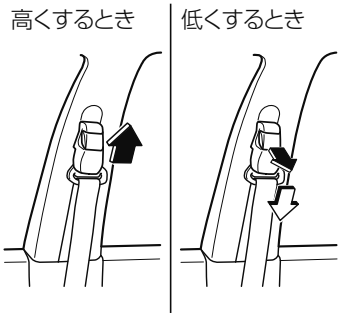


はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

シートベルト

シートベルトの高さ調節

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。



1. 高くするときは、そのまま上に動かします。
   低くするときはボタンを引いたまま下げます。
2. 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

シートベルト着用忘れチャイム

フロント

運転席/助手席シートベルトを着用していないまま、車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。 (鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)
シートベルトを着用すると鳴り止みます。

リア

電源ポジションが ON のとき、装着していた後席シートベルトをはずすとチャイムが鳴ります。シートベルトを着用すると鳴り止みます。

シートベルト表示灯 (リアシート)

電源ポジションが ON のとき、リアシートのシートベルトを着用するとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

お子さま専用シートについて

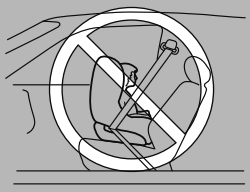
シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リアシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リアシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

⚠警告

必ず守る **お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。**
お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負ったりする可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。**
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



警告ラベル

知識

ISO は International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

お子さまの安全

お子さま専用シートの種類

UN-R 44 法規および UN-R 129 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 種類に分類されます。

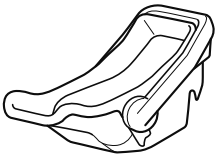
知識

- UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。
- UN-R 44 法規および UN-R 129 法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	ISO/L1
		ISO/L2
		ISO/R1
0 +	13kg まで	ISO/R1
		ISO/R2
		ISO/R3
I	9～18kg	ISO/R2
		ISO/R3
		ISO/F2
		ISO/F2X
		ISO/F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
UN-R 44法規の
グループ0、0+に相当



チャイルドシート
UN-R 44法規の
グループⅠに相当

ジュニアシート
UN-R 44法規の
グループⅡ、Ⅲに相当

*1 ブースターシートを使用するときは、必ず取り付ける
シートのヘッドレストを取り付けてください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠警告

お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
必ず守る

誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置			
	助手席	第２列左	第２列中央	第２列右
汎用ベルト式に適する着席位置	X	U	X	U
アイサイズ着席位置	X	X	X	X
適する最大の後向き装具 (R1)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2X)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R3)	X	IL	X	IL
適する最大の前向き装具 (F2)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F2X)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F3)	X	IUF	X	IUF
適する最大の横向き装具 (L1)	X	X	X	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X	X	X	X
適する最大のブースター装具 (B2)	X	IUF	X	IUF
適する最大のブースター装具 (B3)	X	IUF	X	IUF
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	有[*1]	有	無	有

シート位置	着座位置			
	助手席	第２列左	第２列中央	第２列右
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置(有/無)	無	無	無	無

上表の記号について:
U ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
UF ＝この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U ＝前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF ＝前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。
無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。

*1　前向きお子さま専用シートのみ取り付けることができます。

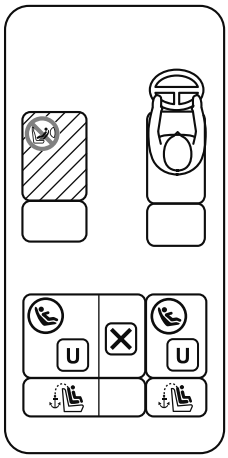
マツダ純正のお子さま専用シートを取り付けることができます。取り付けることのできるお子さま専用シートについては、アクセサリーカタログをご参照ください。

知識

- ヘッドレストとお子さま専用シートが干渉して、しっかり固定できない場合は、ヘッドレストの高さを調節する、または取りはずしてください。
- 助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。また、シートベルトでお子さま専用シートがしっかり固定できるようにシートクッションの高さをいちばん高い位置に調節してください。
→68 ページ「助手席の操作」
- 助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。
  - シートを前方に動かす
  - シートの背もたれを前後に動かす
  - 高さ調整できる場合は、シートを上下に動かす

知識

- お子さま専用シートをリアシートに取り付けるときは、前席に当たらないように、前席のシート位置を調節してください。
- テザーストラップを使用するときは、必ず、ヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。



U：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

UF：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：前向きお子さま専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。

：お子さま専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

お子さま専用シートを固定するとき

シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。また、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表も参照ください。
→95 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

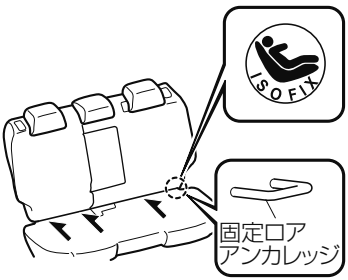
⚠警告

必ず守る **チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認する。**
異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

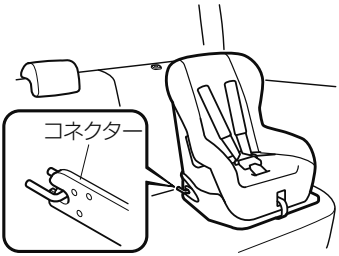
知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

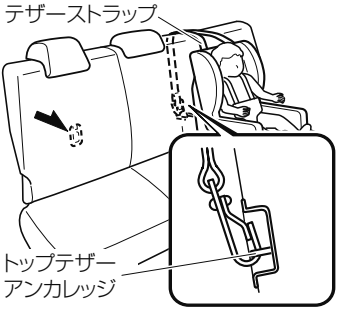
1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
→59 ページ「フロントシート」
2. リアシートをリクライニングしている場合は、もとにもどします。
3. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。



4. シートクッションにある縦の切れ目を広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



5. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。
6. チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。



7. チャイルドシートのテザーストラップをイラストのようにトップテザーアンカレッジにかけます。
8. テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

9. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

⚠警告

禁止

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。
チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

窓ガラスの開閉

パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

⚠警告

必ず守る **窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせない。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。**

必ず守る **窓から手や顔を出させない。走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。**

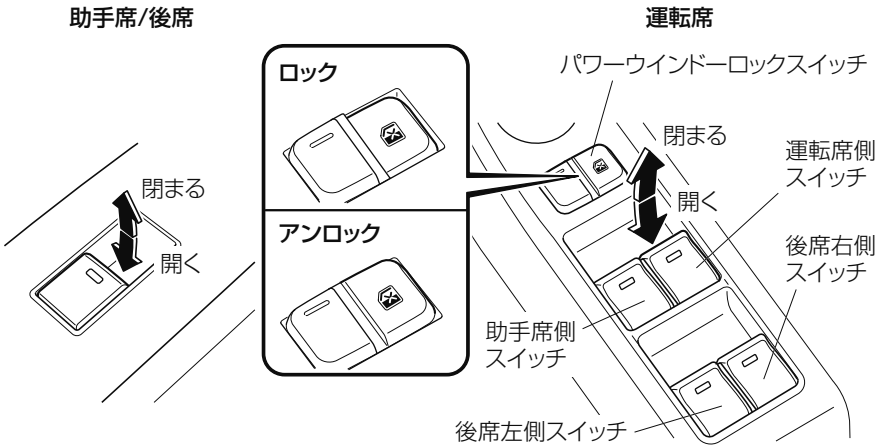
- **窓ガラスが閉まりきる直前**
- **スイッチを引き続けたままの状態**

知識

後席の片側の窓ガラスだけ開けて走行するとき、耳を圧迫するような音がする場合がありますが、異常ではありません。前席の窓ガラスを少し開ける、もしくは、後席の窓ガラスの開き具合を変えると、音を軽減することができます。

窓ガラスの開閉のしかた

電源ポジションが ON のとき、スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。3 つ以上の窓ガラスを同時に開閉しないようにお使いください。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。



知識

- 電源ポジションを ACC または OFF にしたあとでも、全席の窓ガラスを約 40 秒間、開閉することができます。
- 全開/全閉したあともスイッチを操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
  窓ガラスの開閉ができないときはしばらく待って、再度操作してください。

自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

知識

自動で全開/全閉できないときは

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき、または全開/全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開/全閉できなくなります。
次の操作で復帰させてください。

1. 電源ポジションを ON にします。
2. スイッチを押して窓ガラスを全開にします。
3. スイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

はさみ込み防止機構

窓ガラスを自動で閉めるとき (→103 ページ「自動開閉機構」) に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。

知識

- はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、窓枠の周囲に異物がないかを確認し、スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めてください。
- 次のようなときに、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  - 自動で窓ガラスを閉めている途中で強い衝撃を感知したとき
  - 極低温下で自動で窓ガラスを閉めたとき

電動スライドガラスサンルーフの操作 グレード/仕様別装備

前席頭上のチルト/スライドスイッチを操作するとサンルーフの開閉ができます。

⚠警告

サンルーフを閉めるときは、同乗者の手や頭などをはさまないように注意する
万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにチルト/スライドスイッチの操作をさせない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

走行中は、開口部から手や頭などを出さない
走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

サンルーフの開口部に腰をかけたり、重い荷物をのせないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。

凍結時や降雪時には無理に開閉しないでください。故障につながるおそれがあります。

サンルーフが閉まりきる直前は、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

サンシェードは、チルト開閉できません。サンルーフ後部が開いている場合は、サンシェードを押し上げないでください。無理に押し上げようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。

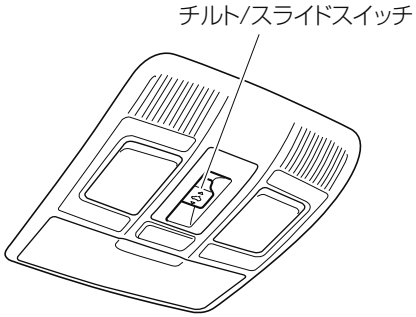
サンルーフが開いているときは、サンシェードを閉めないでください。無理に閉めようとすると、サンシェードが破損するおそれがあります。

サンルーフのチルト/スライド操作

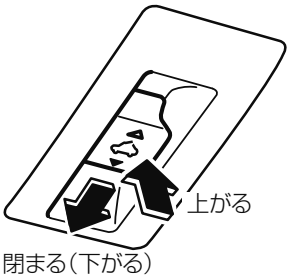
電源ポジションが ON のとき使用できます。

- 車から離れるときや洗車するときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。

- 降雨後や洗車後または積雪時にサンルーフを開けるときは、ルーフ上の水や雪を除去してください。室内に水や雪がはいることがあります。



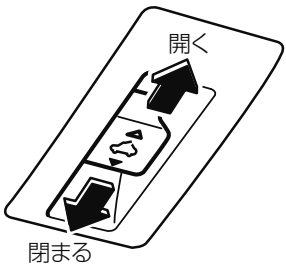
サンルーフのチルト操作



チルト/スライドスイッチを押すとサンルーフ後部が上に開き、前側に押すと閉まります。

- 途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
- サンルーフがスライドで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

サンルーフのスライド操作



チルト/スライドスイッチを後側に引くと全開し、前側に押すと全閉します。

- 途中で止めるには、再度スイッチを操作してください。
- サンルーフがチルトで開いているときは、閉めてからスイッチ操作をしてください。

知識

サンルーフが正常に作動しないときは、次の操作をおこなってください。

1. 電源ポジションを ON にします。

知識

2. チルト/スライドスイッチを押してサンルーフの後側を少し上に開けます。（チルト操作）
   サンルーフが開いた状態からスイッチを押した場合は、いったんサンルーフが全閉したあと、後ろ側が上に開きます。
3. 手順 2 をくり返し行なって、サンルーフの後側が完全に上に開くまでチルト/スライドスイッチを押します。その後サンルーフが少し閉まります。

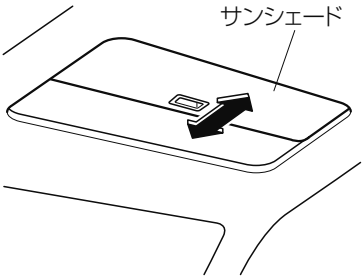
はさみ込み防止機構

サンルーフを自動で閉めているときに異物のはさみ込みを感知すると、自動的にサンルーフが停止し、途中まで開きます。

知識

- サンルーフの初期設定をしていないときは、はさみ込み防止機構は作動しません。
- はさみ込み防止機構が作動し、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフとその枠との間に異物がないかを確認し、スイッチを押し続けてサンルーフを閉めてください。
- 次のようなときに、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
  - サンルーフを閉めている途中で強い衝撃を感知したとき
  - 極低温下でサンルーフを閉めたとき

サンシェードの使いかた



手動で開閉できます。
スライド操作でサンルーフを開くときのみ、連動して開きます。

給油するとき

燃料計が “E” に近づいたら、早めに給油してください。
エンジン性能を最大限に発揮させるために、指定された燃料を使用してください。
→611 ページ「燃料」

⚠ 警告

給油するときは必ず次のことを守る。

必ず守る

- **エンジンを止める。**
- **タバコなどの火気を給油口に近づけない。**
- **こぼれた燃料は速やかに拭き取る。**

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。

給油を行なう前に、車体の金属部分に触れて身体の静電気を除去する。

必ず守る

放電による火花で、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

給油中は必ず次のことを守る。

必ず守る

- **給油はひとりで行ない、給油口に他の人を近づけない。**
- **車内に戻ったり、帯電している人や物に触れない。**
- **携帯電話やスマートフォン、その他電子機器などを使用しない。**

再帯電により、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なう。

必ず守る

放電による火花で、燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずす。

必ず守る

急に開けると燃料が噴き出すことがあるため、火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

気化した燃料を吸い込まないようにする。

禁止

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。

必ず守る

給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

燃料補給口

⚠警告

禁止 **給油の自動停止後は、追加給油しない。**

追加給油すると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

禁止 **給油の自動停止後は、すぐに給油ノズルを引き抜かない。**

給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出て、火災につながるおそれがあります。

必ず守る **フューエルキャップは確実に閉める。**

フューエルキャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
指定燃料以外の燃料を使用したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、例えば次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)**
- **エンジンの出力低下や始動性能の悪化**

禁止 **(SKYACTIV-D 2.2)**
指定燃料以外の燃料を使用したり、燃料添加剤や水抜き剤を使用しないでください。
ガソリンや灯油、混合率が 5%を超えるバイオディーゼル燃料、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、例えば次のような悪影響をおよぼします。

- **エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)**
- **エンジンの出力低下や始動性能の悪化**

必ず守る **給油するときは、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**

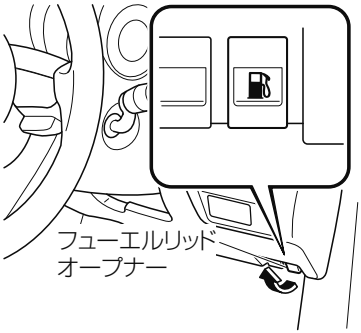
必ず守る **給油するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。**

禁止 **給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。**

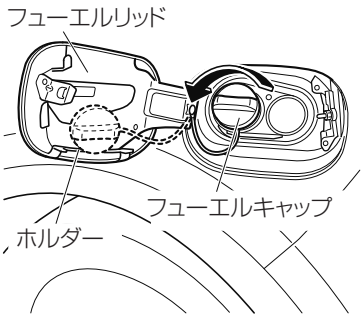
禁止 **純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。**

給油のしかた

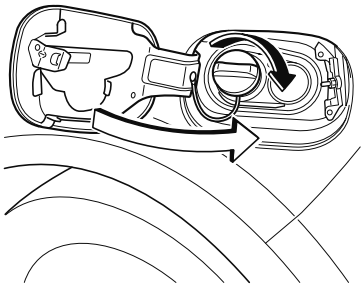
給油するときはすべてのドア、窓ガラスを閉め、電源ポジションを OFF にして行なってください。



1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開きます。
フューエルリッドは車の左側後方にあります。



2. フューエルキャップをゆっくり左に回して開けます。
3. フューエルキャップをフューエルリッドのホルダーにかけます。
4. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油します。給油が自動で停止したら、ノズルを抜きます。



5. フューエルキャップを右に回し、カチッと 1 回音がするまで締め付けます。
6. フューエルリッドが確実にロックするまで押しつけて閉めます。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムはキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。
万一、キーが電池切れや故障の場合は、電池切れ時のエンジン始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、エンジンを始動できます。
→146 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」

⚠注意

必ず守る

キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- **システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。**
- **強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。**
- **磁気を帯びた製品を近づけないでください。**
- **インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。**

システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。

システムの解除

登録されたキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、エンジンを始動できます。そのときセキュリティ表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合、エンジンの始動ができない場合があります。

- キーを (車内でも) 感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、キーを別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
→31 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」 グレード/仕様別装備
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、一度電源ポジションを OFF にもどし、しばらく待って再度エンジン始動してください。
3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合は

エンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できないことがあります。

知識

イモビライザーシステムを修理するときは
コードを再登録するために、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。

キーを追加するときは

- キーを紛失したときのために、スペアのキーを保管しておいてください。
- キーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でキーを追加することはできません。

キーを紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのキーをマツダ販売店に持参してください。登録されていないキーではエンジンを始動することができません。

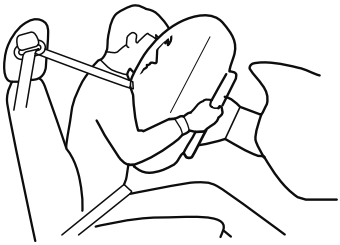
SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。
エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

エアバッグの種類

運転席エアバッグ

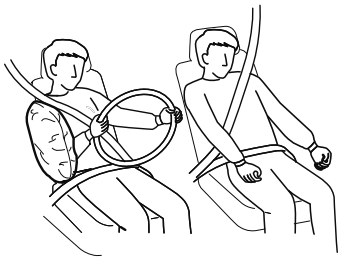


運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

サイドエアバッグ



サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグはフロントピラー、ルーフサイド部、リアピラーに格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグの注意点

⚠警告

お車に乗る前に

必ず守る

運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。
シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

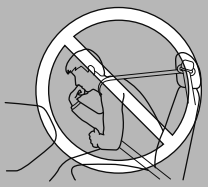
禁止

ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠警告

禁止

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは

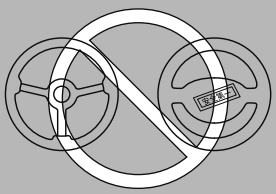
必ず守る

お子さまはできるだけリアシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。
シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。
お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

こんなことにも注意

禁止

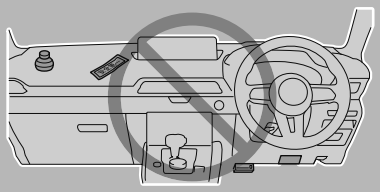
ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS エアバッグシステム

⚠警告

禁止 **インストルメントパネル上下部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置かない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。**
エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止 **車両前部にグリルガードなどを装着しない。**
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **サスペンションの改造をしない。**
車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしない。**
正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

必ず守る **事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。**
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。**
次の作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理**
- **車両前部または側部の修理**
- **フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部の修理**
- **室内の電装品の取りはずし、取り付け**

⚠警告

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る

サイドエアバッグについて

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リアシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントシートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

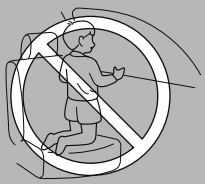
フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

カーテンエアバッグについて

ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

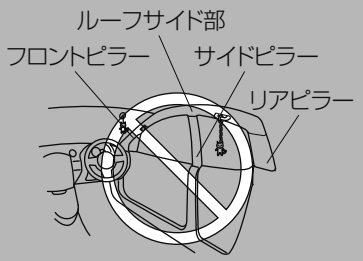
必ず守る



SRS エアバッグシステム

⚠警告

禁止 **フロント窓ガラス、リア窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。**
カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止 **アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。**
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。**

禁止 **ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。**

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

エアバッグの作動条件について

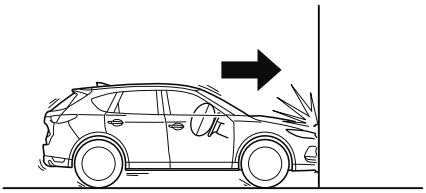
運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。
したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

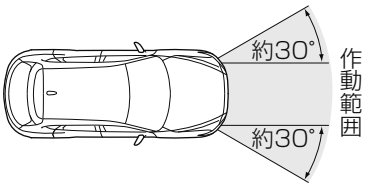
運転席/助手席エアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

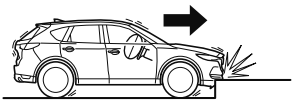


正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

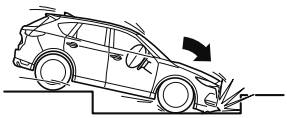


次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

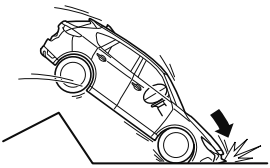
中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき



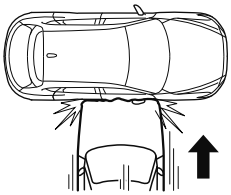
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド/カーテンエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に衝突されたとき

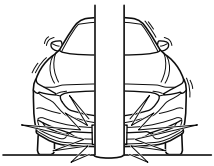


エアバッグが作動しにくいとき

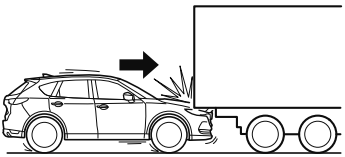
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ

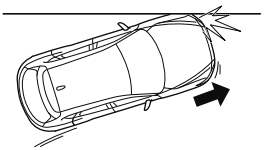
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき

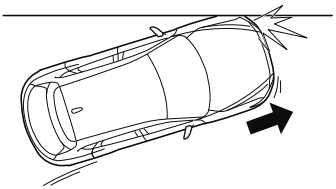


斜め前方に衝突したとき

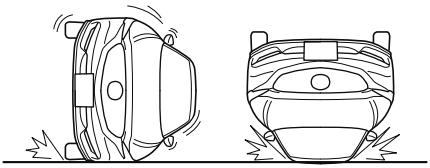


サイド/カーテンエアバッグ

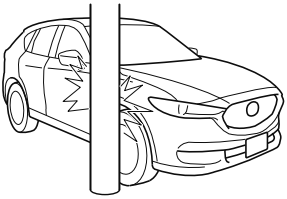
斜め前方に衝突したとき



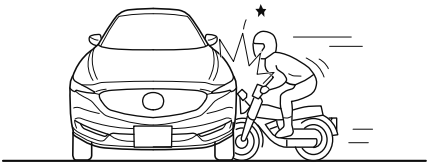
横転や転覆したとき



車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



2輪車が側面に衝突したとき

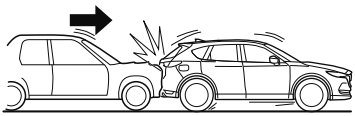


エアバッグが作動しないとき

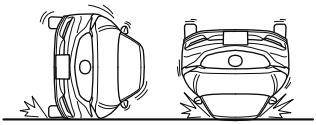
次のようなときには作動しません。

運転席/助手席エアバッグ

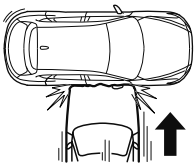
後ろ方向から衝突されたとき



横転や転覆したとき

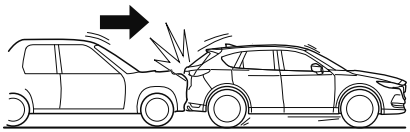


横方向から衝突されたとき

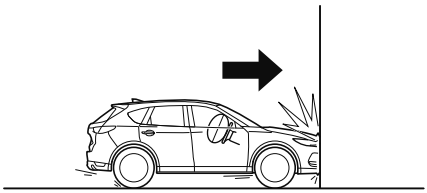


サイド/カーテンエアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。
そのコンピュータは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、次のデータを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- 助手席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形等)
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

積雪、寒冷時の取り扱い

お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
  走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

- 視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
- プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。
  プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
  無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウインドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
  無理に動かそうとすると故障の原因になります。

お車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

トレーラートーイングについて

本車両はトレーラートーイングをするための純正品があります。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

禁止 **不適切なトレーラーヒッチを使用しない。**
不適切なトレーラーヒッチの使用は、事故やけがにつながるおそれがあります。マツダ純正トレーラーヒッチを使用することをおすすめします。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

必ず守る **タイヤ空気圧は適正空気圧に調整する。**
タイヤ空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルに記載されたタイヤ適正空気圧に合わせてください。適正空気圧に調整されていないと、車両の安定性を損ない、思わぬ事故につながるおそれがあります。
トレーラーの タイヤ適性空気圧については、トレーラーの取扱書をご確認ください。

必ず守る **トレーラーの安全チェーンは必ず使用する。**
トレーラーが不意に切り離されないようにするための予防装置として必ず使用してください。不意にトレーラーが切り離された場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **油圧ブレーキ式トレーラーはブレーキシステムを車両のブレーキシステムに直接つながない。**
ブレーキの利きが不十分になり、事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **お車を購入後、1,000 km 走行するまでトレーラートーイングを行なわないでください。**
エンジン、トランスミッション、ディファレンシャル、その他の動力伝達部品が損傷するおそれがあります。

必ず守る **高所でのけん引をする際は、最大けん引重量に注意してください。**
高度が 1,000 m を超えると、けん引できる重量は少なくなります。 高度が 1,000 m 高くなるごとに、けん引重量を 10 %ずつ減らしてください。けん引できる重量を超えて使用した場合、エンジン、トランスミッション、ディファレンシャル、その他の動力伝達部品が損傷するおそれがあります。

禁止 **スペアタイヤを使用しないでください。**
ハンドル操作や走行性能に影響をおよぼしたり、けがや車両の損傷につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **トレーラーの電気装置を直接車両の電気装置につながないでください。車両の電気装置や照明装置が損傷するおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。**

知識

トレーラートーイングをする場合は、以下の安全装備を使用しないでください。

- スマートシティ･ブレーキ･サポート [後退時]*1
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]*1
- パーキングセンサー*1
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)*2
- リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) *2

*1 マツダ純正トレーラーヒッチを使用すると自動的に制御を停止します。なお、アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) およびスマート･ブレーキ･サポート (SBS) の制御も停止します。

*2 トレーラートーイングをする場合は、ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を OFF にしてください。ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を OFF にすると、同時にリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) も OFF になります。

重量制限

最大けん引重量と垂直荷重は次のとおりです。

- 最大けん引重量:750 kg
- 垂直荷重:80 kg

⚠警告

必ず守る **最大けん引重量を守る。**
制限以上の重量をけん引することは危険です。ハンドル操作や走行性能に影響をおよぼしたり、けがや車両の損傷につながるおそれがあります。

必ず守る **垂直荷重を守る。**
トレーラー後部にトレーラー前部より重たい物を載せることは危険です。車両の制御ができなくなり、事故につながるおそれがあります。

MEMO

2 運転するときに

安全なドライブのために 132
運転するとき....132
運転装置について....134
こんなことにも注意....134
駐停車するとき....138
お子さまを乗せるとき....139
エンジンの始動と停止 140
電源ポジション (エンジンスイッチ)....140
エンジンの始動....141
エンジンの停止....148
i-stop について....150
気筒休止について....157
i-ELOOP について 158
i-ELOOP とは....158
メーター、警告灯、表示灯の見方 160
メーター、表示....160
メーター (タイプ A)....161
メーター (タイプ B)....183
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)....203
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ....205
マニュアルトランスミッションの使いかた 208
マニュアルトランスミッション....208
オートマチックトランスミッションの使いかた 211
オートマチック車の特性....211
各位置の働き....212
シフトロック装置....213
セレクトレバーの操作....213
マニュアルモード....214
ダイレクトモード....219
オートマチック車を運転するときに....219

2 運転するときに

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) について 223

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) とは.....223

ブレーキ 227

ブレーキの操作.....227
オートホールド.....230

i-ACTIV AWD 236

i-ACTIV AWD について.....236

スイッチの使いかた 237

ヘッドランプスイッチ.....237
方向指示器.....243
非常点滅灯スイッチ.....244
リアフォグランプスイッチ.....245
ワイパー/ウォッシャースイッチ.....246
ヘッドランプウォッシャースイッチ.....250
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....250
ホーン.....252

ABS について 253

ABS とは.....253

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について 254

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは.....254

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について 255

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは.....255

トラクションコントロールシステム (TCS) について 256

TCS とは.....256

2 運転するときに

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について 258

DSC とは....258

オフロード･トラクション･アシストについて 260

オフロード･トラクション･アシストとは....260

i-ACTIVSENSE について 262

i-ACTIVSENSE とは....262
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) とは....265
車線逸脱警報システムとは....267
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは....273
交通標識認識システム (TSR) とは....278
車間認知支援システムとは....285
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは....289
リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) とは....291
マツダレーダークルーズコントロール (MRCC) とは....295
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは....309
クルージング&トラフィック･サポート (CTS) とは....325
レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは....344
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは....358
AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは....361
スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) とは....366
AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは....371
スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは....374
360° ビュー･モニターとは....377
フォワードセンシングカメラ (FSC) について....407
レーダーセンサー (フロント) について....413
レーダーセンサー (リア) について....415
超音波センサー (フロント) について....417
超音波センサー (リア) について....417
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ....418

2 運転するときに

駐車支援システムについて 419
駐車支援システムとは....419
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について 446
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは....446
様々な状況での運転のときは 447
悪天候での運転....447
環境保護のために 449
経済的な運転....449

MEMO

運転するとき

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。
下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。スリップするおそれがあります。また、走行中にチェンジレバーをニュートラル位置に入れたままにしないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

走行中にセレクトレバーを N にいれない

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態 (ハイドロプレーニング現象) になるおそれがあります。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけではなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

パンクやバースト (破裂) してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

557 ページの「スタックしたとき」をよくお読みください。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。
異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。
そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じるとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

運転装置について

オートマチック車を運転するとき

219 ページの「オートマチック車を運転するときに」、211 ページの「オートマチック車の特性」、141 ページの「エンジンをかける前に」をよくお読みください。

タイヤについて

515 ページの「タイヤの点検」、506 ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、548 ページの「タイヤチェーンの取り付け」をよくお読みください。

けん引してもらうとき

582 ページの「けん引してもらうとき」をよくお読みください。

こんなことにも注意

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない

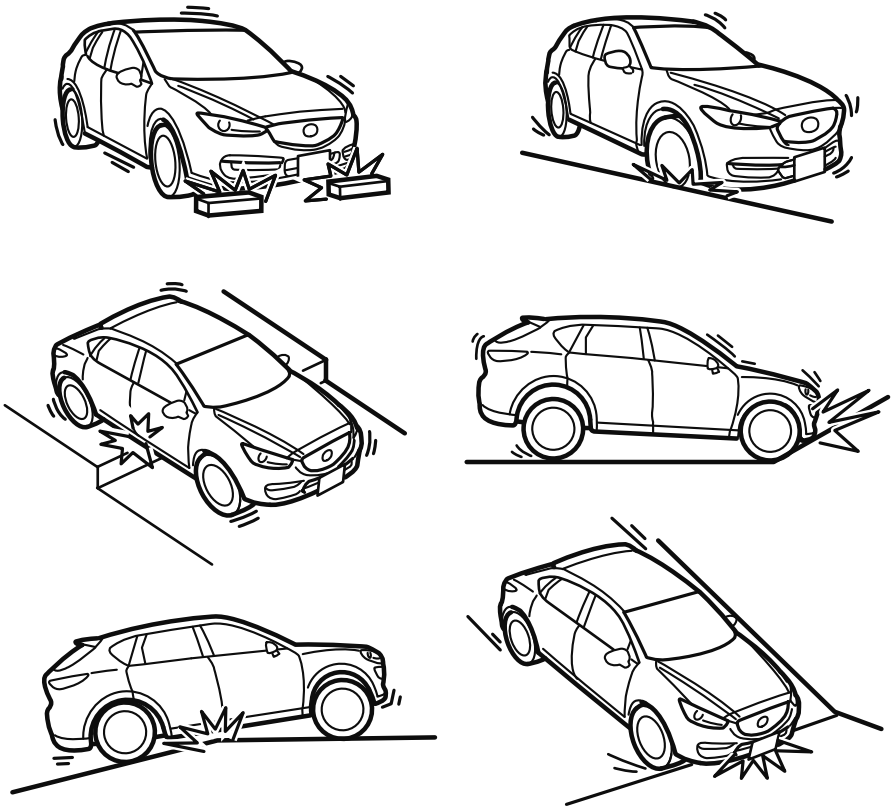
運転しながらハンズフリー以外の携帯電話やスマートフォンを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

- 車止めのある場所への駐車

- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行



違法改造はしない

506 ページの「違法改造はしない」をよくお読みください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

506 ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、515 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

515 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

506 ページの「部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する」をよくお読みください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

506 ページの「ナンバープレートは正しい位置に取り付ける」をよくお読みください。

アクセサリーを取り付けない

フロントガラスや窓ガラス、また、その周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、アクセサリーの吸盤が凸レンズの働きをして、火災につながるおそれがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

578 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

508 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

578 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

バッテリーの取り扱いに気をつける

574 ページの「バッテリーあがりについて」をよくお読みください。

航空機内ではキーを操作しない

25 ページの「キー」をよくお読みください。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気を取り入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

ターボ車の特性 (SKYACTIV-D 2.2)

ターボ装置は、エンジンに多量の空気を過給することにより大きな出力を得る装置で、非常に精密に作られています。
またその潤滑はエンジンオイル、冷却はエンジンオイルまたは冷却水によって行われています。
ターボ装置の故障を防ぐため、次の点を守ってください。

- エンジンオイル、オイルフィルターは必ず指定された期間で交換してください。
- エンジン始動直後の空ふかし、急加速は行なわないでください。
- ターボ装置の冷却のため、高速走行や登坂走行の直後は、エンジンを停止する前にアイドリング運転を行なってください。ただし、i-stop が作動したときはアイドリング運転は不要です。

運転状況	アイドリング時間
市街地などの一般走行	不要
高速走行	約 1 分
• 特殊な連続走行または急な登坂走行 • トレーラーなどをけん引した走行	約 2 分

駐停車するとき

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行したあとは排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へ入りやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

坂道駐車はパーキングブレーキをかける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをかけ、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れてください。
急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、エンジンを止め、パーキングブレーキがかかっていることを確認して、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

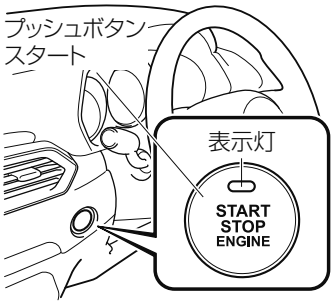
車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き



マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏まない状態で、プッシュボタンスタートを押すごとに OFF、ACC、ON の順に電源ポジションが切り替わります。ON からもう一度、プッシュボタンスタートを押すと OFF へもどります。

電源ポジション	働き
OFF	プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、消灯します。
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどの電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。
ON	全ての電装品が使用できる位置。プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が、点灯します。 (エンジン回転中は、プッシュボタンスタートの表示灯は消灯します。)

知識

- **ハンドルがロックされているときは**
  プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。
- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。電源ポジションを ACC (オートマチック車は、セレクトレバーが P の位置になっていること) で放置した場合は、約 25 分間で電源ポジションが OFF になります。

知識

- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだ状態で、プッシュボタンスタートを押すとエンジンが始動します。電源ポジションの切り替えを行なう場合は、ペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してください。

エンジンの始動

エンジンをかける前に

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
3. 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→59 ページ「運転席の操作」

クラッチスタートシステムについて (マニュアル車)

クラッチスタートシステムとは、クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押してもエンジンを始動させない装置で、車が動き出すのを防止します。
エンジンを始動するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

知識

エンストで動けなくなったとき
ギヤを入れたままプッシュボタンスタートを押し続けても車は動きません。
→558 ページ「エンストで動けなくなったとき」

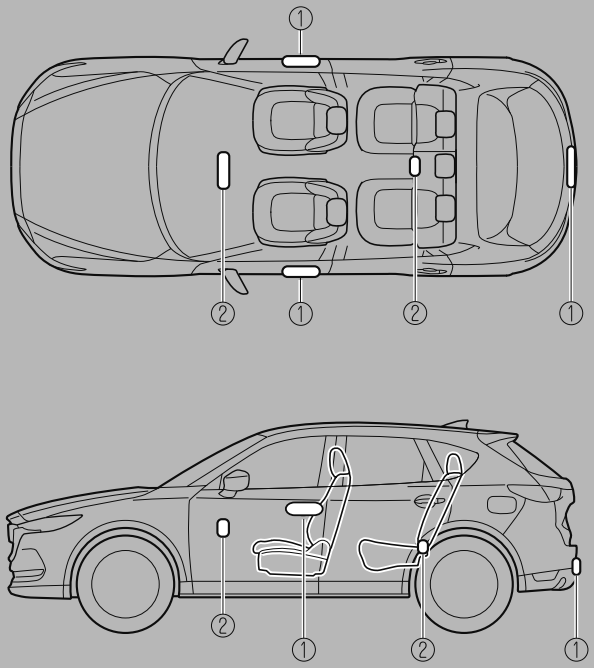
エンジンをかけるとき

⚠警告

禁止

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内･車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。

電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



①車外のアンテナ　②車内のアンテナ

必ず守る

次にある以外の医療用機器を使用している方は､キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

- **植込み型心臓ペースメーカー**
- **植込み型除細動器**

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠警告

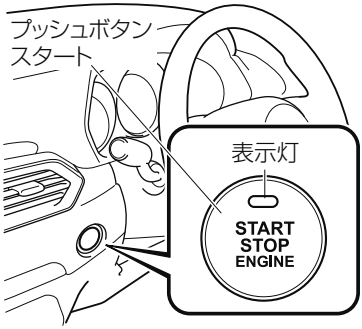
必ず守る プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。

ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

- キーは必ず運転者が携帯してください。
- 電源ポジションの状態 (OFF、ACC、ON) に関係なく、エンジンを始動できます。

1. キーを携帯していることを確認します。
2. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。
3. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
4. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅するときは、キーの電池切れなどが考えられます。
   →146 ページ「キーが電池切れしたときのエンジン始動」



5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯している状態でプッシュボタンスタートを押します。

エンジンの始動と停止

⚠注意

必ず守る **プッシュボタンスタートに異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**

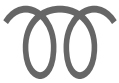
知識

- 次のようなときは、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、エンジンをかけることができません。

  - キーの電池切れ
  - キーが作動範囲内にない
    →31 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」 グレード/仕様別装備
  - キーを車内でも感知しにくい場所に置いている
  - キーに類似した他社のキーが作動範囲内にある
- プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅しているときは、通常の操作ではエンジンを始動できない場合があります。マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、エンジンが完全に始動するまでプッシュボタンスタートを押し続けてください。
- エンジン始動後、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) は消灯し、電源ポジションは ON 状態になります。
- 冷間始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。
- 冷間始動後は、排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転が高くなり、うなっている音が聞こえることがありますが、部品機能の異常ではありません。
- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  プッシュボタンスタートを押して、エンジンが始動する前に燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

知識

- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  - 予熱表示灯が消灯するまで、スターターは回りません。



  - 予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行ない予熱表示灯が点灯する場合があります。
  - エンジン始動時は、プッシュボタンスタートを押したあと、メーター内の予熱表示灯が消灯して、エンジンがかかるまでマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放さないでください。
  - エンジンがかかる前にマニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放した場合は、再度マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを踏み込みプッシュボタンスタートを押してエンジンを始動してください。
  - 外気温が－10°C より低いときは、エンジン保護のためエンジンが始動してから約 3 分間、最高回転数が制限される場合があります。
- **(マニュアル車)**
  エンスト時、エンジンが完全停止したあと約 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  ただし次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

キーが電池切れしたときのエンジン始動

⚠注意

禁止

キーの使用について
次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- **キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している**

- **キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー（信号発信機内蔵のもの）が重なっている、または近くにある**

- **キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある**

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動することができます。

1. エンジンが完全に始動するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. マニュアル車は、エンジンが完全に始動するまで、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み続けます。
3. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅するのを確認します。

4. プッシュボタンスタートの表示灯（緑）が点滅中に、キーのエンブレム中心をプッシュボタンスタートの中心にあわせて重ねます。

5. プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わったら、プッシュボタンスタートを押します。

知識

- マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンが始動しないようになっています。
- プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。
- プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。
- 電源ポジションの切り替えを行なう場合は、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わったあと、マニュアル車はクラッチペダル、オートマチック車はブレーキペダルを放してからプッシュボタンスタートを押してください。電源ポジションが ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、電源ポジションが OFF になると、それ以降は電源ポジションの切り替えができませんので、エンジンを始動する場合は最初から操作を行なってください。

エンジンの停止

1. マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。
2. プッシュボタンスタートを押します。エンジンが停止し、電源ポジションが OFF になります。

⚠警告

禁止 **緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しない。**

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。**

必ず守る **(SKYACTIV-D 2.2)**
エンジンが暖まらない状態でのエンジン始動・停止を繰り返すと、エンジン内部を浄化するために停車中のエンジン回転数が高くなる場合があります。エンジン回転数が通常の回転数に戻るまでエンジンを停止しないでください。

知識

- **キーの電池容量について**
  電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、キーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示されます。新しい電池と交換してください。
  →537 ページ「キー」
- **電源ポジションについて**
  オートマチック車はセレクトレバーが P 以外の位置のときに、プッシュボタンスタートを押してエンジンを停止させると、電源ポジションは ACC になります。
- **電源ポジションを OFF にせずに車から離れると**
  マルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示され、警告チャイムが鳴ります。
  →603 ページ「チャイムがなったときは」

知識

(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)

- **エンジンルームの冷却について**
  エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしても、エアコンの ON/OFF にかかわらずクーリングファンが数分間回転することがあります。

緊急エンジン停止

車両が停止していなくてもプッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押すとエンジンが停止します。電源ポジションは ACC になります。

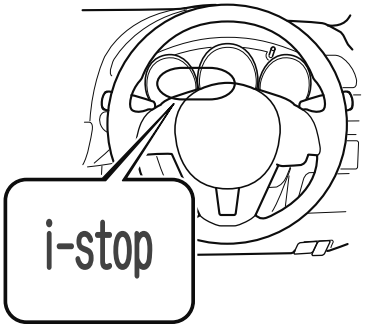
i-stop について

i-stop (アイ･ストップ) は､燃費向上･排気ガスの低減･アイドリング騒音低下のため､信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき､自動でエンジンを停止･再始動させる機能です。

アイドリングストップ･再始動

知識

- 次の条件のときに､i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
  - アイドリングストップ中のとき



- エンジンが再始動すると､i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。

オートマチック車

(オートホールドおよびマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))を使用していないとき)

1. 走行状態 (R レンジ､M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると､アイドリングストップします。
2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでブレーキペダルから足を放すと､自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは､ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか､セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため､アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは､必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

(オートホールドによって停車したとき)

1. 走行状態 (R レンジ､M レンジの 2 速固定モード時以外) からブレーキペダルを踏んで停車するとアイドリングストップし、ブレーキから足を放してもアイドリングストップが継続します。

2. セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。
3. セレクトレバーが N または P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンは再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/M (2 速固定モードではない) または R レンジへ操作すると再始動します。 (安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作するときは、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なってください。)

(マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車したとき)

1. マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車すると、アイドリングストップします。
2. マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車しているときに、クルーズコントロールスイッチの RES スイッチを押す、またはセレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジでアクセルを踏むと、自動でエンジンが再始動します。

マニュアル車

(オートホールド非作動時)

1. ブレーキペダル、次にクラッチペダルを踏み込んで、車両を停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップします。
3. クラッチペダルを踏み込む、またはクラッチペダルをもどし始めると自動でエンジンが再始動します。

(オートホールドによって停車したとき)

1. ブレーキペダル、クラッチペダルの順に踏み込んで、車両を完全に停車させます。
2. クラッチペダルを踏み込んだまま、チェンジレバーをニュートラルの位置にします。クラッチペダルから足を放したあと、アイドリングストップし、ブレーキペダルから足を放してもアイドリングストップが継続します。
3. クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動します。

作動条件

作動するとき

次の条件のとき i-stop 表示灯 (緑) が点灯して、アイドリングストップします。

- **(SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)**
  エンジン暖機後
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  エンジン冷間以外
- エンジンを始動し、一度走行したあと
- ボンネットを閉めて、エンジンを始動したとき
- 曇り取りスイッチ が OFF の状態のとき

- エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) 以外の位置になっているとき
- 車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- i-stop 警告灯 (橙) が点灯/点滅していないとき
- キーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能が正常なとき
- ブレーキ負圧が十分に高いとき
- ハンドルを操作していないとき
- 車両が停車しているとき
- セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのとき
- オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
- オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
- ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルにかけている力をゆるめてください。)
- ブレーキペダルを踏んで停車させたとき
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の停止保持制御によって停車したとき (マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 装備車)
- 急制動ではないとき

作動しないとき

次の条件のとき、アイドリングストップしません。

- 走行せずにアイドリングを続けていているとき
- 曇り取りスイッチ が ON の状態で作動しているとき
- エアコンの温度設定ダイヤルが最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置になっているとき
- 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れているとき
- 外気温が非常に低い、または高いとき
- 気圧が低いとき (標高が高いところを走行しているとき)
- 急な坂道で停車したとき
- 停車時のハンドルが直進状態でないとき
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM (Particulate Matter: 粒子状物質) の除去が行われているとき

知識

アイドリングストップするまでに時間がかかるとき

- 車両を長時間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
- 外気温が高いとき、または低いとき
- バッテリー交換などによりバッテリー端子をはずしたあと
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) による PM の除去が行われたあと

エンジンの停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなるとき

- 外気温が高いとき、または、低いとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- 車両電装品の消費電力が多いとき

アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動するとき

次のようなときは自動でエンジンを再始動します。

- i-stop OFF スイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
- 外気温が非常に低い、または高いとき
- 曇り取りスイッチ を ON にしたとき
- エアコンの温度設定ダイヤルを最大暖房または最大冷房 (A/C ON) の位置にしたとき
- 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
- アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
- バッテリーの放電が進んだとき
- ボンネットを開けたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- 運転席ドアを開けたとき
- セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジで、アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを R レンジにしたとき
- セレクトレバーを N または P レンジから D/M (2 速固定モードではない) レンジにしたとき
- セレクトレバーが D/M (2 速固定モードではない) レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
- セレクトレバーが M レンジで、2 速固定モードにしたとき

知識

バッテリー端子をはずしたとき
バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、運転者の操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑) によりさまざまな注意を運転者にお知らせします。

知識

i-stop の作動状況を燃費モニターの作動状況表示に表示します。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

i-stop 警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯します。

知識

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき
- エンジンがかかっている状態で、i-stop OFF スイッチを操作しても点灯し続けるとき

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 表示灯 (緑)

点灯するとき

- アイドリングストップ中に点灯し、エンジンが再始動すると消灯します。

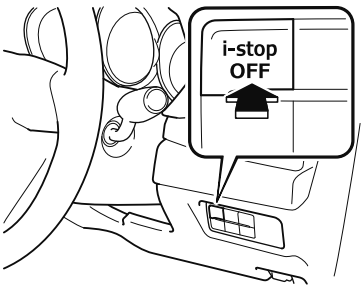
点滅するとき

- **(マニュアル車)**
  - アイドリングストップ中、チェンジレバーをニュートラル以外の位置にしたとき点滅し、アイドリングストップ中であることをお知らせします。
    クラッチペダルを踏み込むと自動でエンジンが再始動し消灯します。

i-stop 警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、自動でエンジンが再始動します。エンジンが再始動すると、チャイムが鳴り止みます。

i-stop OFF スイッチ



スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stop の作動が解除され、メーター内の i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけると i-stop が作動可能な状態になり、i-stop 警告灯 (橙) が消灯します。

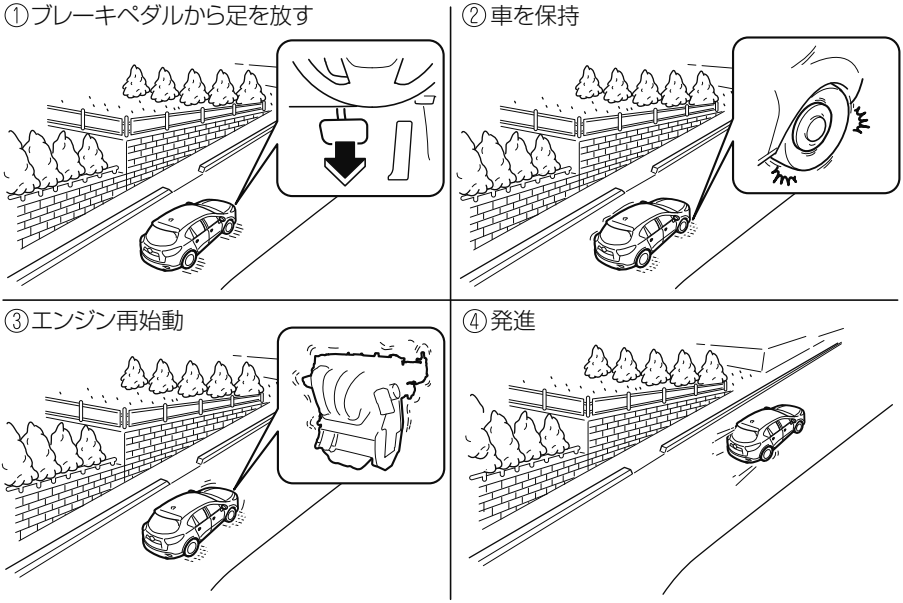
知識

i-stop を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

発進補助装置について (オートマチック車)

i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。これは次のような状態でブレーキペダルから足を放したときに、坂道などで車両が動き出すことを防ぐ機能です。

- アイドリングストップ中 (車両の後退防止)
- 再始動時 (急なクリープ現象発生による車両の飛び出し防止)
  ブレーキペダルを放してエンジンが再始動したときに、ブレーキまたはオートマチックトランスミッションの制御により車両が急に動き出すことを防止しています。



⚠警告

必ず守る

システムを過信しない

発進補助機能は、あくまでアイドリングストップ状態から車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長 2 秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。道路の勾配や積載、けん引の状態によって、意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

⚠警告

必ず守る

発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放す

アイドリングストップ中にセレクトレバーを N レンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーを N レンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。セレクトレバーが N レンジの状態では、発進補助機能が解除されたあとに意図せず車両が動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

- 急な坂道で停車したときは、アイドリングストップしないため発進補助機能は作動しません。
- 発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

気筒休止について グレード/仕様別装備

気筒休止は、走行中に 4 気筒のうち 2 気筒を休止し、燃料消費量を減らして燃費向上を図る機能です。お客様の操作に関わらず 4 気筒または 2 気筒どちらで走行した方が良いかを機能が常時判断しながら自動で切り替えます。

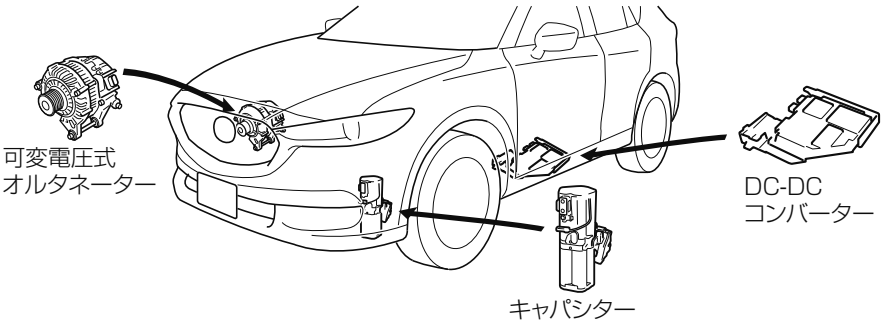
作動しないとき

次の条件のとき、気筒休止の機能は作動しません。

- セレクトレバーが P/N/R レンジ、または 1 速のとき
- エンジンオイルの温度、エンジン冷却水の温度が低いとき
- バッテリー交換などによりバッテリー端子をはずしたあと

i-ELOOP とは グレード/仕様別装備

車が減速する際に発生する運動エネルギーを利用して発電を行うことで、発電に使うエンジン負荷をおさえ、走りの性能と燃費の向上に貢献するシステムです。
大量の電気を瞬時に蓄え、適時に無駄なく電装品の電源として活用します。



⚠注意

禁止 **次のものには高電流が流れているため触れないでください。**

- **可変電圧式オルタネーター**
- **DC-DC コンバーター**
- **キャパシター**

必ず守る **キャパシターを廃棄する場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。**
詳しくは次の URL を参照ください。
http://www.mazda.com/csr/environment/recycling

知識

- i-ELOOP のエネルギー回生状況を燃費モニターの i-stop/i-ELOOP/気筒休止状態表示に表示します。

i-ELOOP 充電表示

i-ELOOP充電中

長期間お車を使用しなかった後などにエンジンを始動するとディスプレイにメッセージが表示されることがあります。
表示が消えるまでアイドリング状態で待機することをおすすめします。

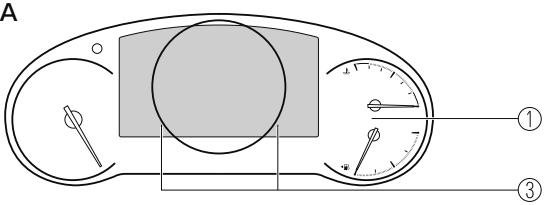
知識

メッセージ表示中に走行するとチャイムが鳴ります。
メッセージ表示中にステアリングを操作すると通常のステアリング操作より重くなるときがありますが、異常ではありません。エンジンをかけたまま安全な場所に停車し、ステアリング操作をしないでください。しばらくすると表示が消えて、通常のステアリング操作に戻ります。

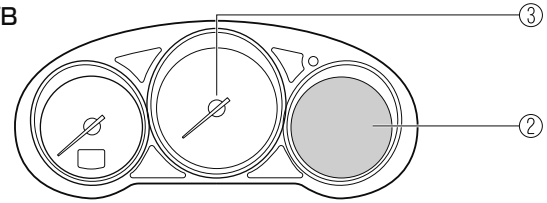
メーター、表示

メーター

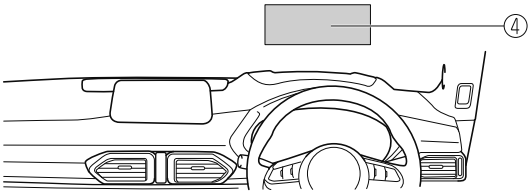
タイプA



タイプB

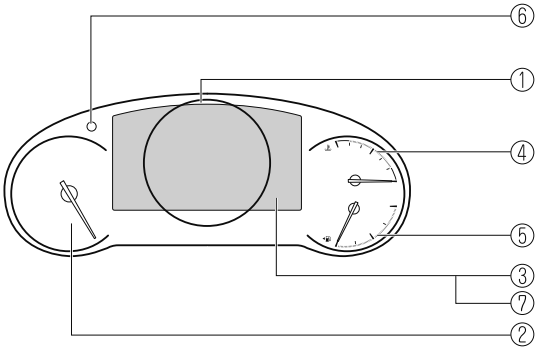


アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



(1) メーター (タイプ A)..... 161 ページ
(2) メーター (タイプ B)..... 183 ページ
(3) インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)..... 203 ページ
(4) アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....205 ページ

メーター (タイプ A)



(1) スピードメーター..... 162 ページ
(2) タコメーター..... 162 ページ
(3) マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)..... 163 ページ
(4) 水温計..... 166 ページ
(5) 燃料計..... 167 ページ
(6) パネルライトコントロール..... 168 ページ
(7) インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 203 ページ

メーター、警告灯、表示灯の見方

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

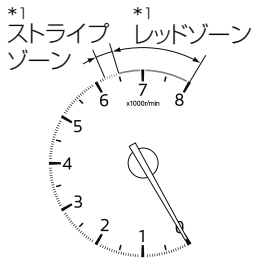
タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

必ず守る

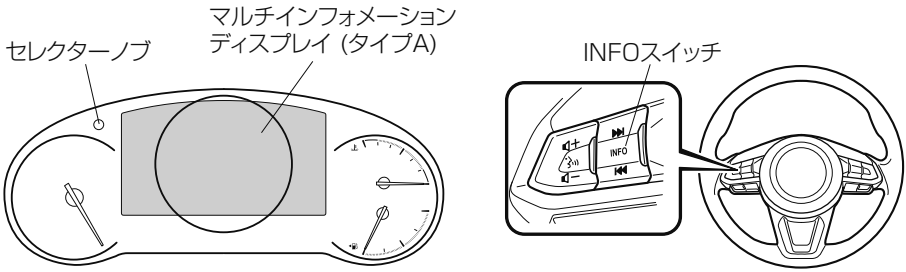


*1 仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)

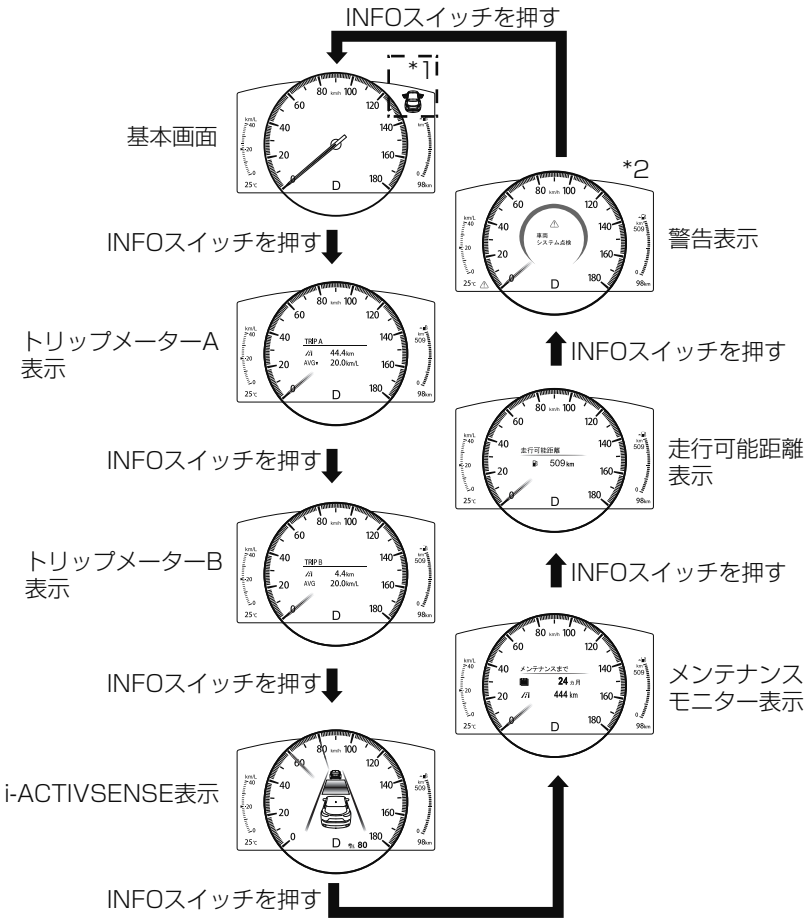


マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A) は次の情報を表示します。

- スピードメーター
- オドメーター
- トリップメーター
- 外気温
- 走行可能距離
- 平均燃費
- 瞬間燃費
- メンテナンスモニター
- マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) 表示
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示
- 車間認知支援システム表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示
- クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 表示
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
- 車線逸脱警報システム表示
- 半ドア警告表示/リアゲート開警告表示
- メッセージ表示画面

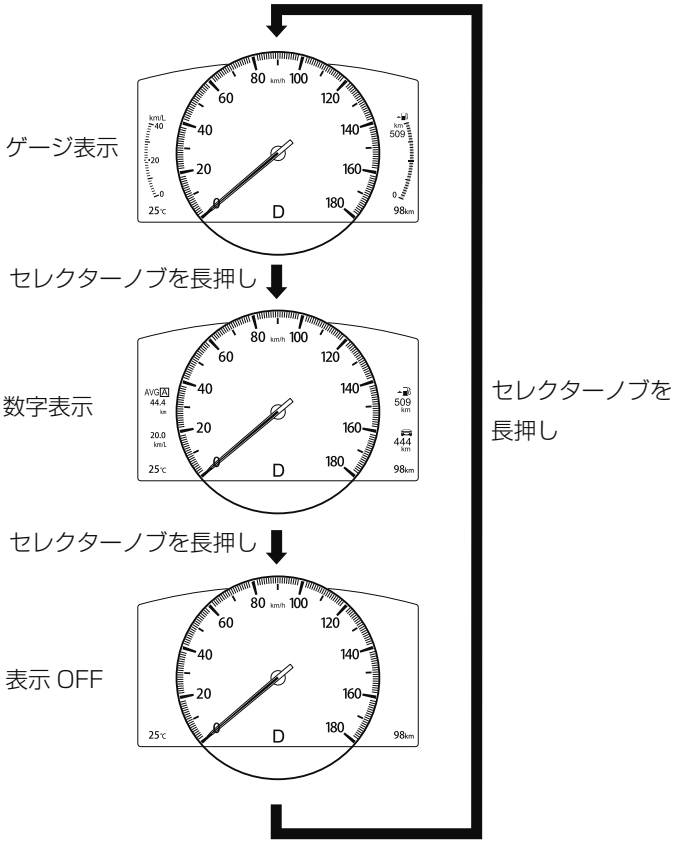
メーター、警告灯、表示灯の見方

INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

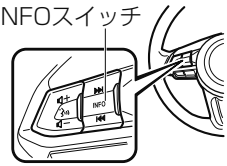


*1: ドア/リフトゲートが開いているときに表示します。
*2: 警告があるときのみ表示します。

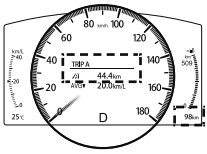
セレクターノブを長押しするごとに表示が切り替わります。



オドメーター/トリップメーター

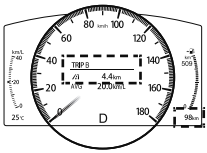


トリップメーターA表示



INFOスイッチを押す

トリップメーターB表示



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

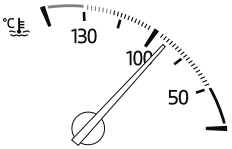
トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押すごとに、TRIP A、TRIP B が切り替わります。トリップメーターを “0” にもどすときは、それぞれのモードのときに INFO スイッチを 1 秒以上押します。

知識

- 次のようなときは、トリップメーターの表示が “0” にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9 km を超えたとき。

水温計



電源ポジションが ON のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

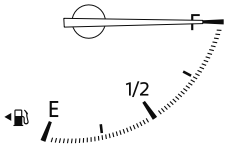
注意

必ず守る

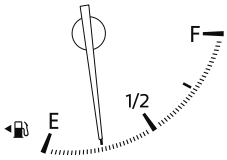
水温計の指針が赤いゲージを示すときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
→578 ページ「オーバーヒートについて」

燃料計

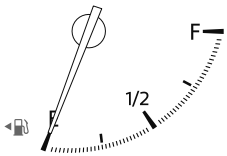
Full



1/4



Empty



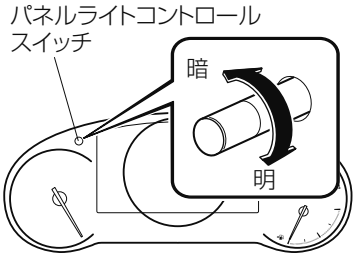
電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点灯します。早めに燃料を補給してください。
→596 ページ「処置する」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→109 ページ「給油のしかた」

燃料が少なくなると、エンジン不調やエンストする場合があります。エンジン不調やエンストが発生する場合は、すみやかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10 L 補給してください。

知識

- 燃料補給後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- ◀の矢印は燃料補給口が助手席側にあることを示します。

パネルライトコントロール



電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

- 夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
- 車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→237 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

- 左にまわすと暗くなり、最も暗い位置で音が鳴ります。
- 右にまわすと明るくなります。

減光解除機能

電源ポジションが ON で、メーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。

知識

- パネルライトコントロールスイッチを押して、減光を解除することができます。
- 減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
- 減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。

外気温表示

25℃

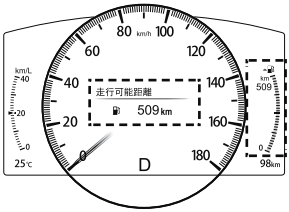
電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

走行可能距離表示

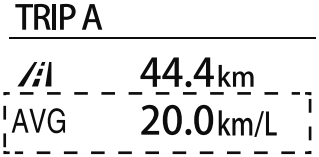


現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告灯が点灯すると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。
- お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

平均燃費表示



お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータをリセットするには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押してトリップメーターを“0.0”にもどします。データをリセットすると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間- - - km/L を表示します。

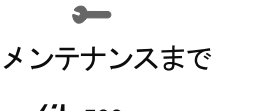
瞬間燃費表示

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

知識

- 時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を表示します。
- トリップ A の平均燃費を青矢印で表示します。

メンテナンスモニター

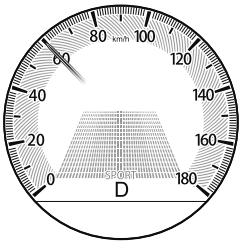


メンテナンスモニターを ON にすると、定期点検またはオイル点検/交換の時期をお知らせすることが出来ます。
メンテナンス時期までの残日数が 15 日以下、または残走行距離が 1000 km 以下になると、電源ポジションを ON にしたときにメッセージが表示されます。
メンテナンスモニターの設定方法や表示内容は、マツダコネクト取扱書のメンテナンスモニターを参照してください。

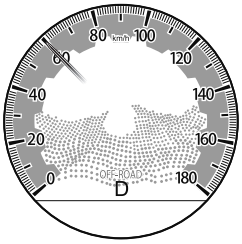
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) 表示

運転モードによって表示が変化します。

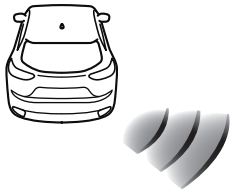
スポーツモード



オフロード モード



ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示

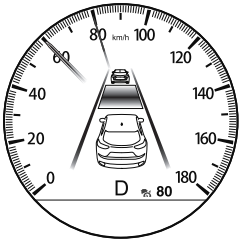


システムの作動状態を表示します。
→273 ページ「ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは」

車間認知支援システム表示

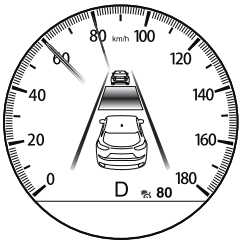
前方車との車間距離を表示します。
→285 ページ「車間認知支援システムとは」

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示 グレード/仕様別装備



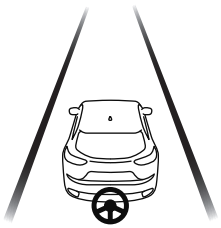
システムの作動状態を表示します。
→295 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」 グレード/仕様別装備

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 グレード/仕様別装備



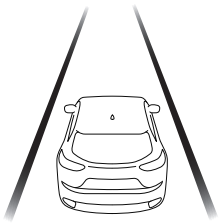
システムの作動状態を表示します。
→309 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備

クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示 グレード/仕様別装備



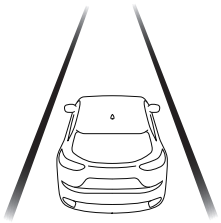
システムの作動状態を表示します。
→325 ページ「クルージング&トラフィック・サポート (CTS) とは」 グレード/仕様別装備

車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→267 ページ「車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→344 ページ「レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

メッセージ表示

システムの作動状態や故障・異常状態などのメッセージを表示します。

メッセージと同時にメーター内の警告灯/表示灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき

警告灯/表示灯、または表示されたシンボルの内容を確認してください。
→174 ページ「警告表示/警告灯」
→177 ページ「表示/表示灯」

ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき

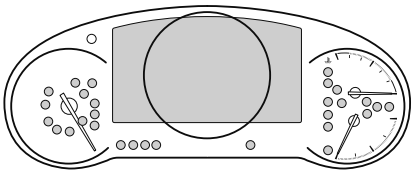
メーター、警告灯、表示灯の見方

ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→598 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

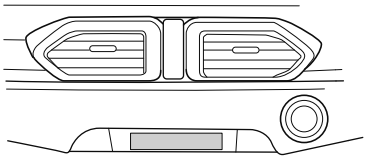
警告表示/警告灯、表示/表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター



インストルメントパネル中央



警告表示/警告灯

故障時などに点灯します。

表示	警告灯名称	ページ
	ブレーキ警告灯*1	588
	充電警告表示/警告灯*1	588
	オイル警告灯*1	588
	高水温警告表示	588
	電動パワーステアリング警告表示	588

表示	警告灯名称	ページ
	マスター警告表示	590
	ABS 警告灯[*1]	590
	電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯[*1]	590
	エンジン警告灯[*1]	590
i-stop (橙)	i-stop 警告灯[*1]	点滅したとき 590 点灯したとき 154
i-ELOOP	i-ELOOP 警告表示 グレード/仕様別装備	590
AT	オートマチックトランスミッション警告表示 グレード/仕様別装備	590
4WD	AWD 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯[*1]	590
(橙/白)	KEY 警告表示	橙 590 白/橙 596
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示	590

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	警告灯名称	ページ
(橙)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告表示/警告灯[*1]	590
	車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	590
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) ＆車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	590
(橙)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
(橙)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	LED ヘッドランプ警告灯[*1]	590
(橙)	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示	596
	燃料残量警告表示/警告灯	596
	エンジンオイルレベル警告灯[*1]	596
	シートベルト警告灯 (フロント)	596
(赤)	シートベルト警告灯 (リア)	596

表示	警告灯名称	ページ
	ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	596
	半ドア警告表示	596
	リアゲート開警告表示	596
	半ドア警告灯	596

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	表示灯名称	ページ
REAR (緑)	シートベルト表示灯 (リア)	92
	セキュリティ表示灯*1	110
	予熱表示灯*1 グレード/仕様別装備	183
DPF	DPF 表示 グレード/仕様別装備	446
	レンチ表示	182
i-stop (緑)	i-stop 表示灯	154

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	セレクトレバー位置表示	212
	車幅灯表示/表示灯	237
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き (ハイビーム)のとき 240
		パッシング合図のとき 240
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 243
		非常点滅表示灯 244
	リアフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	245
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯[*1][*2]	590
HOLD	オートホールド作動表示灯[*1]	232
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	321
	クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	342

表示	表示灯名称	ページ
	TCS/DSC 作動表示灯*1	TCS が作動したとき 256
		DSC が作動したとき 259
		点灯したとき 590
TCS OFF	TCS OFF 表示灯 (2WD 車) *1	257
	オフロード･トラクション･アシスト表示灯 (AWD 車) *1	261
SPORT	セレクトモードインジケーター グレード/仕様別装備	223
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯 *1	システムを停止しているとき 277
		故障したとき 590
(緑)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 表示灯	267
	車線逸脱警報システム OFF 表示灯*1 グレード/仕様別装備	272
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム OFF 表示灯*1 グレード/仕様別装備	357

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備	348
(白)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) メイン表示 グレード/仕様別装備	300
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) メイン表示 グレード/仕様別装備	314
	クルージング&トラフィック･サポート (CTS) メイン表示 グレード/仕様別装備	334
(緑)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) セット表示 グレード/仕様別装備	300
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示 グレード/仕様別装備	314
	クルージング&トラフィック･サポート (CTS) セット表示 グレード/仕様別装備	334
(橙)	スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) 表示	アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) 360
		スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) 370

表示	表示灯名称	ページ
	スマート·ブレーキ·サポート/スマート·シティ·ブレーキ·サポート (SBS/SCBS) OFF 表示灯*1	アドバンスト·スマート·シティ·ブレーキ·サポート (アドバンスト SCBS) 361
		スマート·シティ·ブレーキ·サポート [後退時] (SCBS R) 370
		スマート·ブレーキ·サポート (SBS) 376
(白)	ドライバー·アテンション·アラート (DAA) 表示 グレード/仕様別装備	290

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

*2 パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

レンチ表示

メンテナンス時期になると表示します。

- あらかじめ設定されたメンテナンス時期になると表示します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

- **メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。**
- **エンジンオイル交換時期を過ぎたまま走行を続けると、エンジン故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までにエンジンオイルを交換してください。**
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  お車の使用状態によっては、燃料がエンジンオイルに混入することでエンジンオイルが劣化して交換が必要になることがあります。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、"エンジンオイル量が規定値を超えています点検を受けてください" と表示されているときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  エンジンオイルが劣化または、規定量より多いときに表示します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。
- フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なときに表示します。
  マツダ販売店へご相談ください。

知識

お車の使用条件によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く表示されることがあります。

予熱表示灯 (SKYACTIV-D 2.2)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→142 ページ「エンジンをかけるとき」

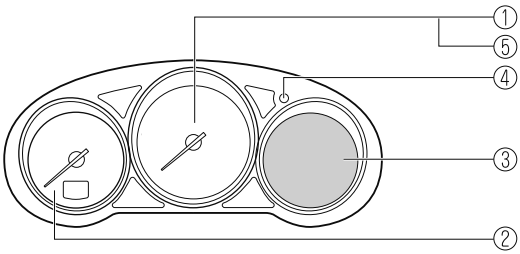
次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 点滅しているとき

知識

予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い点灯することがあります。

メーター (タイプ B)



(1) スピードメーター..... 183 ページ
(2) タコメーター..... 184 ページ
(3) マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B)..... 185 ページ
(4) パネルライトコントロール..... 189 ページ
(5) インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)..... 203 ページ

スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

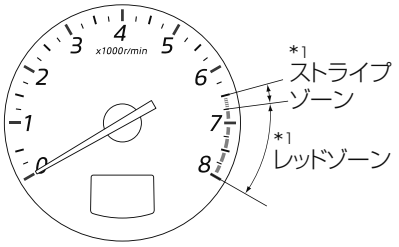
タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠注意

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。

必ず守る

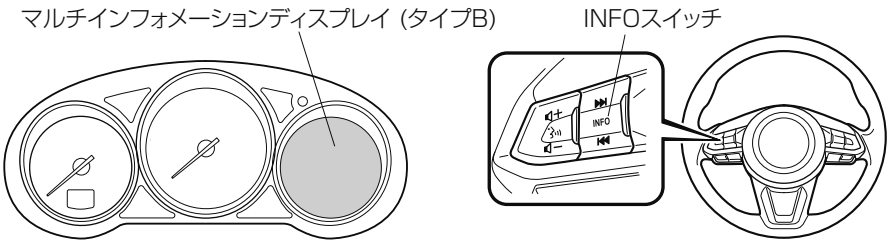


*1 仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B)



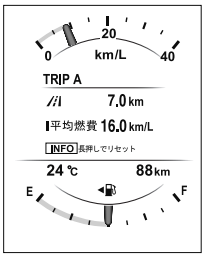
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B) は次の情報を表示します。

- オドメーター
- トリップメーター
- 水温計
- 燃料計
- 外気温
- 走行可能距離
- 平均燃費
- 瞬間燃費
- メンテナンスモニター
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示
- 車間認知支援システム表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示
- クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 表示
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
- 車線逸脱警報システム表示
- メッセージ表示画面

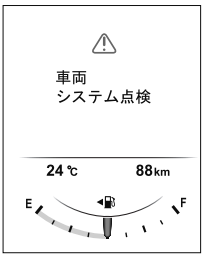
メーター、警告灯、表示灯の見方

INFO スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

瞬間燃費
トリップメーターA、
平均燃費、
外気温、
オドメーター、
燃料計



*1

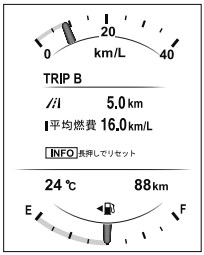


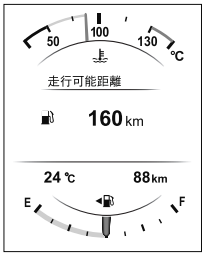
警告、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

INFOスイッチを押す

瞬間燃費、
トリップメーターB、
平均燃費、
外気温、
オドメーター、
燃料計



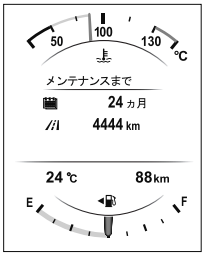


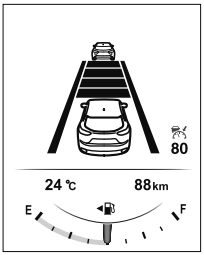
水温計、
走行可能距離、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

INFOスイッチを押す

水温計、
メンテナンスモニター、
外気温、
オドメーター、
燃料計



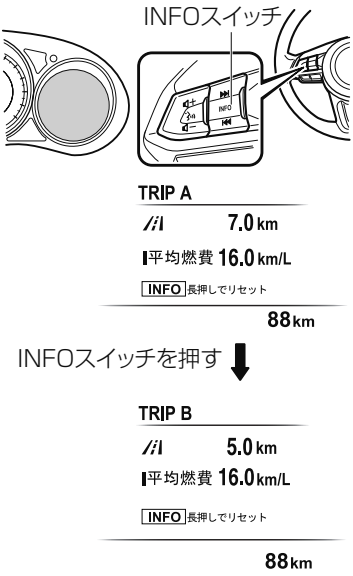


i-ACTIVSENSE表示、
外気温、
オドメーター、
燃料計

INFOスイッチを押す

*1：警告があるときのみ表示します。

オドメーター/トリップメーター



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。

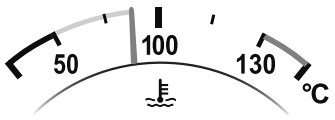
トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します (右側の数字は 100 m 単位です)。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押すごとに、TRIP A、TRIP B が切り替わります。トリップメーターを “0” にもどすときは、それぞれのモードのときに INFO スイッチを 1 秒以上押します。

知識

- 次のようなときは、トリップメーターの表示が “0” にもどります。
  - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
  - 走行距離が 9999.9 km を超えたとき。

水温計



電源ポジションが ON のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

注意

必ず守る **高水温警告灯 (赤) が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。**
→578 ページ「オーバーヒートについて」

燃料計

Full

電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。
燃料が少なくなると、燃料残量警告表示が表示されます。早めに燃料を補給してください。
→596 ページ「処置する」
目盛りが“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。
→109 ページ「給油のしかた」

1/4 Full

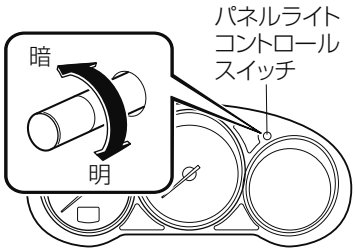
Empty

燃料が少なくなると、エンジン不調やエンストする場合があります。エンジン不調やエンストが発生する場合は、すみやかに安全な場所へ車を移動させ、燃料を少なくとも 10 L 補給してください。

知識

- 燃料補給後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- ◀の矢印は燃料補給口が助手席側にあることを示します。

パネルライトコントロール



電源ポジションが ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

- 夕方や薄暗い場所で電源ポジションを ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。
- 車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
→237 ページ「ヘッドランプの点灯/消灯」

パネルライトコントロールスイッチをまわすと、メーターおよびインストルメントパネルの明るさを調節できます。

- 左にまわすと暗くなり、最も暗い位置で音が鳴ります。
- 右にまわすと明るくなります。

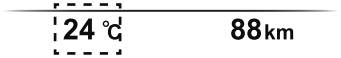
減光解除機能

電源ポジションが ON で、メーターが減光しているときに、パネルライトコントロールスイッチを右に音が鳴るまでまわすと、減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除してください。

知識

- パネルライトコントロールスイッチを押して、減光を解除することができます。
- 減光を解除しているときは、車幅灯が点灯しても、メーターは減光されません。
- 減光を解除しているとき、センターディスプレイは常に昼画面になります。

外気温表示



電源ポジションが ON のとき、外気温を表示します。

知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

走行可能距離表示

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。

知識

- 走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計の残量目盛りが“E”に近づくか、燃料残量警告表示が表示されたら早めに燃料を補給してください。
  燃料残量警告表示が表示されると、燃料計の目盛りが 1/4 以上になるまで燃料を加えないと走行可能距離表示は変化しません。
- 走行可能距離とは、燃料計の残量目盛りがすべて消えるまで、あとどれくらい走行できるかを示すおよその距離になります。

知識

- お車を購入されたときやバッテリー端子をはずした後など過去の燃費情報がないときは、実際に走行できる距離と異なる数値を表示することがあります。

平均燃費表示

お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。

知識

表示されている過去のデータをリセットするには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押してトリップメーターを“0.0”にもどします。データをリセットすると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間- - - km/L を表示します。

瞬間燃費表示

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。

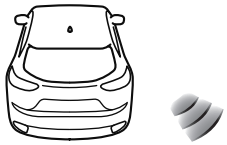
知識

時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を指します。

メンテナンスモニター

メンテナンスモニターを ON にすると、定期点検またはオイル点検/交換の時期をお知らせすることが出来ます。
メンテナンス時期までの残日数が 15 日以下、または残走行距離が 1000 km 以下になると、電源ポジションを ON にしたときにメッセージが表示されます。
メンテナンスモニターの設定方法や表示内容は、マツダコネクト取扱書のメンテナンスモニターを参照してください。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示

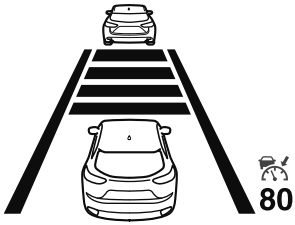


システムの作動状態を表示します。
→273 ページ「ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは」

車間認知支援システム表示

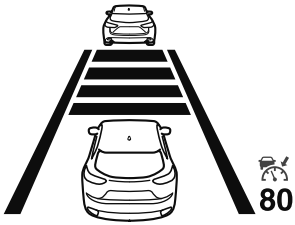
前方車との車間距離を表示します。
→285 ページ「車間認知支援システムとは」

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 表示 グレード/仕様別装備



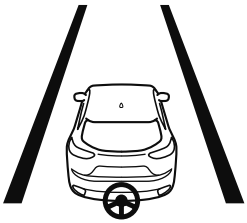
システムの作動状態を表示します。
→295 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」 グレード/仕様別装備

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 グレード/仕様別装備



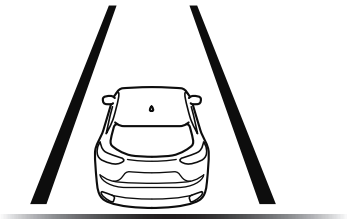
システムの作動状態を表示します。
→309 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備

クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 表示 グレード/仕様別装備



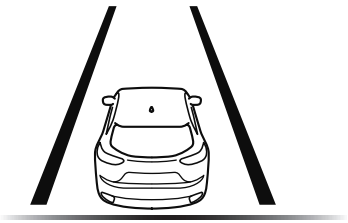
システムの作動状態を表示します。
→325 ページ「クルージング&トラフィック･サポート (CTS) とは」 グレード/仕様別装備

車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→267 ページ「車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示
グレード/仕様別装備



システムの作動状態を表示します。
→344 ページ「レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」
グレード/仕様別装備

メッセージ表示

システムの作動状態や故障･異常状態などのメッセージを表示します。

メッセージと同時にメーター内の警告灯/表示灯が点灯/点滅、またはディスプレイにシンボルが表示されたとき

警告灯/表示灯、または表示されたシンボルの内容を確認してください。
→194 ページ「警告表示/警告灯」
→197 ページ「表示/表示灯」

ディスプレイにメッセージのみ表示されたとき

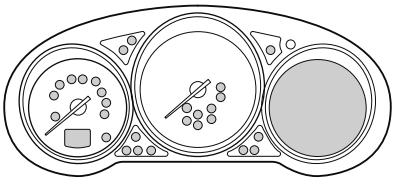
メーター、警告灯、表示灯の見方

ディスプレイの指示に従ってください。表示の内容については次のページを参照ください。
→598 ページ 「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

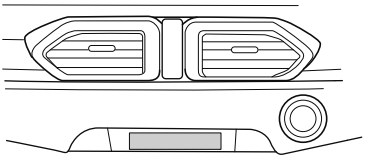
警告表示/警告灯、表示/表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。

メーター



インストルメントパネル中央



警告表示/警告灯

故障時などに点灯します。

表示	警告灯名称	ページ
	ブレーキ警告灯[*1]	588
	充電警告表示/警告灯[*1]	588
	オイル警告灯[*1]	588
(赤)	高水温警告灯	588
	電動パワーステアリング警告表示	588

表示	警告灯名称	ページ
	マスター警告表示	590
	ABS 警告灯[*1]	590
	電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯[*1]	590
	エンジン警告灯[*1]	590
i-stop (橙)	i-stop 警告灯[*1]	点滅したとき 590 点灯したとき 154
i-ELOOP	i-ELOOP 警告表示 グレード/仕様別装備	590
AT	オートマチックトランスミッション警告表示 グレード/仕様別装備	590
4WD	AWD 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯[*1]	590
(橙/白)	KEY 警告表示	橙 590 白/橙 596
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示	590

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	警告灯名称	ページ
(橙)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯[*1]	590
	車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	590
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) ＆車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	590
(橙)	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
(橙)	ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 警告表示 グレード/仕様別装備	590
	LED ヘッドランプ警告灯[*1]	590
(橙)	スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示	596
	燃料残量警告表示	596
	エンジンオイルレベル警告灯[*1]	596
PASSENGER	シートベルト警告灯 (フロント)	596
REAR (赤)	シートベルト警告灯 (リア)	596

表示	警告灯名称	ページ
	ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	596
	半ドア警告表示	596
	リアゲート開警告表示	596

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

表示/表示灯

システムが作動中または停止しているときに表示/点灯/点滅します。

表示	表示灯名称	ページ
REAR (緑)	シートベルト表示灯 (リア)	92
	セキュリティ表示灯*1	110
	予熱表示灯*1 グレード/仕様別装備	202
DPF	DPF 表示 グレード/仕様別装備	446
	レンチ表示	201
(青)	低水温表示灯	202
i-stop (緑)	i-stop 表示灯	154

メーター、警告灯、表示灯の見方

表示	表示灯名称	ページ
	セレクトレバー位置表示	212
	車幅灯表示/表示灯	237
	ヘッドランプ上向き表示灯	ヘッドランプが上向き(ハイビーム)のとき 240
		パッシング合図のとき 240
	方向指示/非常点滅表示灯	方向指示灯 243
		非常点滅表示灯 244
	リアフォグランプ表示灯 グレード/仕様別装備	245
	電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯[*1][*2]	590
HOLD	オートホールド作動表示灯[*1]	232
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	321
	クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示灯[*1] グレード/仕様別装備	342

表示	表示灯名称	ページ
	TCS/DSC 作動表示灯*1	TCS が作動したとき 256 DSC が作動したとき 259 点灯したとき 590
TCS OFF	TCS OFF 表示灯 (2WD 車) *1	257
	オフロード･トラクション･アシスト表示灯 (AWD 車) *1	261
SPORT	セレクトモードインジケーター グレード/仕様別装備	223
	ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯 *1	システムを停止しているとき 277 故障したとき 590
(緑)	アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 表示灯	267
	車線逸脱警報システム OFF 表示灯*1 グレード/仕様別装備	272
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム OFF 表示灯*1 グレード/仕様別装備	357
	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示 グレード/仕様別装備	348

表示	表示灯名称	ページ
(白)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) メイン表示 グレード/仕様別装備	300
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) メイン表示 グレード/仕様別装備	314
	クルージング&トラフィック・サポート (CTS) メイン表示 グレード/仕様別装備	334
(緑)	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) セット表示 グレード/仕様別装備	300
	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) セット表示 グレード/仕様別装備	314
	クルージング&トラフィック・サポート (CTS) セット表示 グレード/仕様別装備	334
(橙)	スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 表示	アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) 360
		スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) 370

表示	表示灯名称	ページ
	スマート·ブレーキ·サポート/スマート·シティ·ブレーキ·サポート (SBS/SCBS) OFF 表示灯*1	アドバンスト·スマート·シティ·ブレーキ·サポート (アドバンスト SCBS) 361
		スマート·シティ·ブレーキ·サポート [後退時] (SCBS R) 370
		スマート·ブレーキ·サポート (SBS) 376
(白)	ドライバー·アテンション·アラート (DAA) 表示 グレード/仕様別装備	290

*1 作動確認のため、電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯、またはエンジンがかかると消灯します。点灯しない、または消灯しないときはマツダ販売店で点検を受けてください。

*2 パーキングブレーキをかけているときは点灯し続けます。

レンチ表示

メンテナンス時期になると表示します。

- あらかじめ設定されたメンテナンス時期になると表示します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

- **メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。**
- **エンジンオイル交換時期を過ぎたまま走行を続けると、エンジン故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までにエンジンオイルを交換してください。**
- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  お車の使用状態によっては、燃料がエンジンオイルに混入することでエンジンオイルが劣化して交換が必要になることがあります。メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、"エンジンオイル量が規定値を超えています点検を受けてください"と表示されているときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

- **(SKYACTIV-D 2.2)**
  エンジンオイルが劣化または、規定量より多いときに表示します。
  マツダ販売店で点検を受けてください。
- フューエルフィルター (セジメンタ) の水抜きが必要なときに表示します。
  マツダ販売店へご相談ください。

知識

お車の使用条件によっては、別冊のメンテナンスノートに記載された交換時期よりも早く表示されることがあります。

低水温表示灯 (青)

エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続けます。
エンジンの暖機が完了すると消灯します。

予熱表示灯 (SKYACTIV-D 2.2)

電源ポジションを ON にすると点灯します。予熱が終了すると消灯します。
→142 ページ「エンジンをかけるとき」

次のようなときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 点滅しているとき

知識

予熱が終了したあと、電源ポジションが ON のままエンジンをかけずに長時間放置した場合、再度予熱を行い点灯することがあります。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

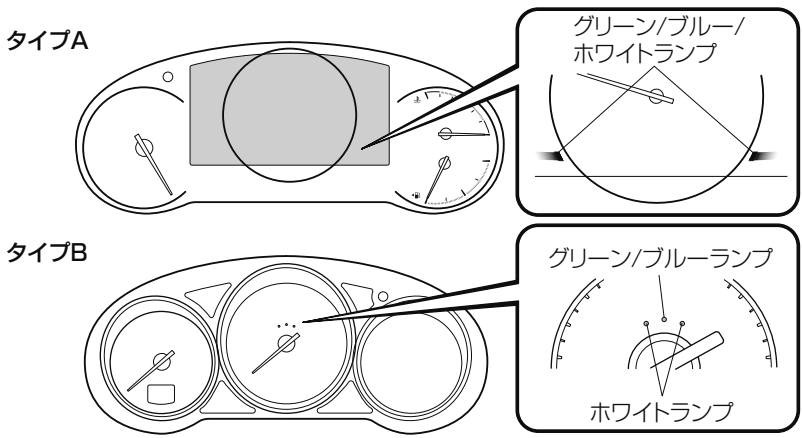
i-DM はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) ランプ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況を知らせます。 (コーチング機能)

知識

- i-DM ランプを非表示にしているときは表示しません。
- i-DM ランプの表示/非表示を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。



グリーンランプ

次の運転のときはランプが緑で点灯します。

内容	運転のポイント
やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。	● 加速をするとき/やめるときに、アクセルペダルをゆっくり踏む/もどす ● 減速をするとき/やめるときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む/もどす ● 旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る/もどす

ブルーランプ

次の運転のときはランプが青で点灯します。

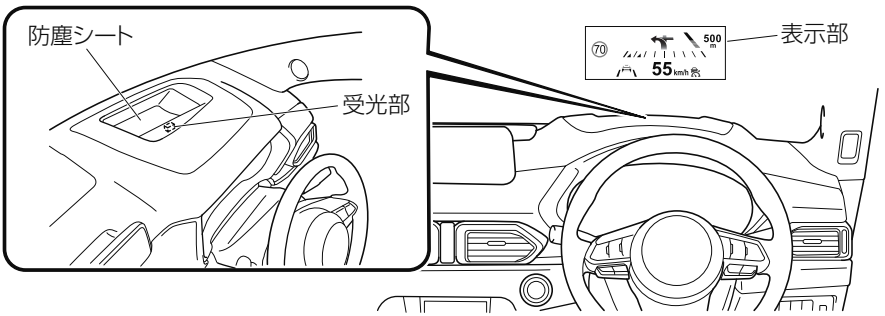
内容	運転のポイント
しなやかな運転を示します。特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 **走行タイプ 1** 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 **走行タイプ 2** 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。	**走行タイプ 1 の場合** ● 加速をするときに、最適な踏み込み量/速さでアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、最適な踏み込み量/速さでブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、最適な切り込み量/速さでハンドルを操作する **走行タイプ 2 の場合** ● 加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ホワイトランプ

次の運転のときはランプが白で点灯します。

内容	運転のポイント
体が揺れる運転を示します。 やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまりよくない運転です。	● 加速をするとき/やめるときに、アクセルペダルをやや急に踏む/もどす ● 減速をするとき/やめるときに、ブレーキペダルをやや急に踏む/もどす ● 旋回をするとき/直進にもどすときに、ハンドルをやや急に切る/もどす

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ グレード/仕様別装備



⚠警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう。

必ず守る

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体がアクティブ・ドライビング・ディスプレイにかかると装置の故障の原因となります。

禁止

表示の妨げとなりますので、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの上にものを置いたり、受光部にシール等を貼らないでください。

禁止

⚠注意

表示輝度をコントロールするためのセンサーが内蔵されています。受光部を塞ぐと表示輝度が下がり、表示が見えにくくなります。

禁止

受光部に強い光を当てないでください。故障の原因になります。

禁止

知識

- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの特性上、偏光サングラスを着用すると視認性が低下します。
- バッテリーを脱着したとき、またはバッテリーの電圧が低下してきたときは、調節した位置がずれることがあります。
- 気象条件 (雨、雪、光、温度等) によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受ける場合があります。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイは次の情報を表示します。

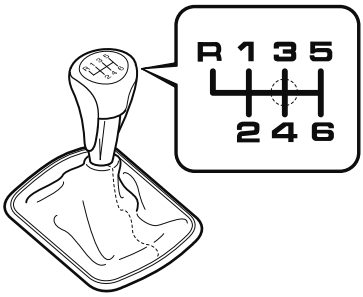
- 車速
- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の作動状態と警告
  →273 ページ「ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは」
- 交通標識認識システム (TSR) の警告
  →278 ページ「交通標識認識システム (TSR) とは」 グレード/仕様別装備
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の作動状態と警告
  →295 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) とは」
  グレード/仕様別装備
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の作動状態と警告
  →309 ページ「マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは」 グレード/仕様別装備
- クルージング&トラフィック･サポート (CTS) の作動状態と警告
  →325 ページ「クルージング&トラフィック･サポート (CTS) とは」
  グレード/仕様別装備
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムの作動状態と警告
  →344 ページ「レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムとは」 グレード/仕様別装備
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) の警告
  →358 ページ「アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは」
- AT 誤発進抑制制御 [前進時] の警告
  →361 ページ「AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは」 グレード/仕様別装備

- AT 誤発進抑制制御 [後退時] の警告
  →371 ページ「AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは」 グレード/仕様別装備
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の警告
  →374 ページ「スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは」
- ナビゲーションガイダンス (方向と距離)

知識

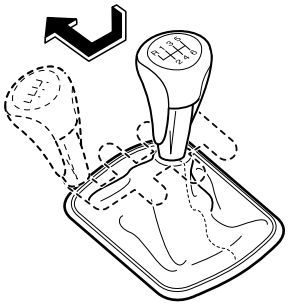
- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
- アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報)を記憶させ、記憶させた位置にセットすることができます。
  →65 ページ「ドライビングポジションメモリー機能」 グレード/仕様別装備

マニュアルトランスミッション



チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。

◯ニュートラル位置



マニュアルトランスミッションは、シフトの誤操作を防ぐ装置が装備されています。
R に入れるときは、チェンジレバーを下方向へ押しながら R 方向へ操作してください。

⚠注意

必ず守る **R に入れるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

禁止 **5 速から 4 速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず 2 速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。**

禁止 **R に入れるとき以外は、誤操作を防ぐためにチェンジレバーを下方向へ押さないでください。**

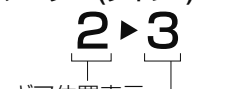
知識

- R に入らないときは、チェンジレバーをニュートラル位置にもどし、クラッチペダルを踏み直して、再度操作してください。
- エンスト時、エンジンが完全停止したあと 3 秒以内にクラッチペダルを再度踏み込むとエンジンを再始動することができます。
  次のようなときは、クラッチペダルを踏み込んでも再始動させることができません。
  - 運転席のドアが開いているとき
  - 運転席のシートベルトが装着されていないとき
  - エンスト後にクラッチペダルを完全に放していないとき
  - エンジンが完全に止まっていない状態でクラッチペダルを踏んだとき

ギア・シフト・インジケーター (GSI)

GSI は、燃費のよい快適な走行をサポートします。メーター内で選択したギア位置を表示し、実際の走行状態に適したギア位置に変更するよう運転者に知らせます。

メーター (タイプA)



ギア位置表示　推奨ギア位置

メーター (タイプB)

ギア位置表示　推奨ギア位置

表示	内容
ギア位置表示	現在のギア位置を表示
推奨ギア位置	走行状態に適したギア位置を表示

注意

必ず守る **GSI を過信しないでください。実際の走行状況では、表示と異なるシフト操作が必要な場合があります。変速する前に道路や周囲の状況を正確に判断してください。**

知識

次のようなとき、GSI は表示しません。

- 停車時
- チェンジレバーがニュートラル位置または R のとき
- 後退時
- 発進時、クラッチを完全につないでいないとき
- 走行中に 2 秒以上クラッチペダルを踏み続けたとき

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

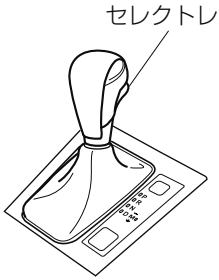
走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンすることができます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

知識

アクセルペダルを踏み込んでいくと途中で重くなり、さらに踏み込むと軽くなります。この踏力の変化はキックダウンさせるためのアクセルペダルの踏み込み量を容易に認識し、キックダウンさせる·させないをコントロールするための機能です。

各位置の働き



P (パーキング)
駐車およびエンジンを始動する位置。

R (リバース)
車を後退させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが R に入っていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)
動力が伝わらない位置。
エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。

D (ドライブ)
通常走行する位置。
車速に応じて 1 速から 6 速までを自動変速します。

M (マニュアル)
マニュアル走行する位置。
ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
→214 ページ「マニュアルモード」

セレクトレバー位置表示

メーター (タイプA)

メーター (タイプB)

電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を表示します。

ギア位置表示

マニュアルモードのとき使用しているギア位置を表示します。

AAS モードについて

AAS (アクティブアダプティブシフト) モードとは、運転者が快適に運転するため、道路の状況や運転者の操作に最適なシフトポイントを自動的にコントロールするモードです。
セレクトレバーが D の状態で、登り坂や下り坂、コーナーや高地を走行したり、アクセルペダルをすばやく操作することで AAS モードになる場合があります。
走行状態、路面状態、シーンや操作に応じて、最適なギヤ位置を維持するためシフトチェンジが遅れたり、行なわれない場合がありますが、異常ではありません。

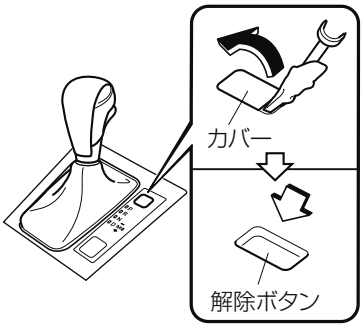
シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

知識

電源ポジションが ACC または OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。

シフトロック装置の解除

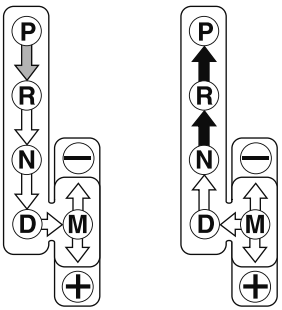


万一、セレクトレバーを P から操作できないときは、カバーをはずし、ブレーキペダルを踏み、マイナスドライバーなどで解除ボタンを押したまま、セレクトレバーボタンを押してセレクトレバーを操作します。

知識

マイナスドライバーなどを使用するときは、先端に布などを巻いてください。マイナスドライバーなどが直接カバーにあたると、傷がつくおそれがあります。

セレクトレバーの操作

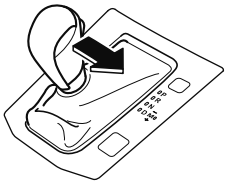


レバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
⇨	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

知識

- **誤作動防止について**
  ⇨の操作は、誤作動防止のため、ギヤ位置ごとに節度をつけ確実に行なってください。
- **先にブレーキペダルを踏んでから操作する**
  セレクトレバーを P から操作するとき、セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

マニュアルモード



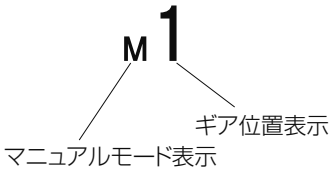
セレクトレバーを D から M に入れるとマニュアルモードになります。
マニュアルモードでは、ギア位置を手動で切り替えることができます。
セレクトレバーを M から D に入れるとマニュアルモードが解除されます。

知識

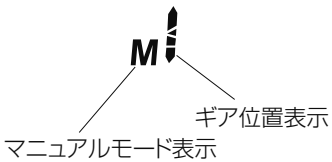
- 停車時にマニュアルモードにした場合、ギアは 1 速になります。
- D レンジ 5 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギアは 4 速になります。また、D レンジ 6 速走行時にアクセルペダルを踏み込まずにマニュアルモードにした場合、ギアは 5 速になります。

表示

メーター (タイプA)



メーター (タイプB)



マニュアルモード表示

マニュアルモードにすると、メーター内にあるセレクトレバー位置表示の M が表示されます。

ギア位置表示

ギア位置が表示されます。
高速走行中、速度によりシフトダウンできないときは、ギア位置表示が 2 回点滅します。

知識

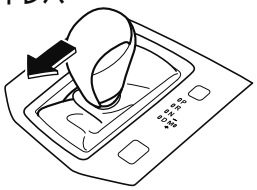
自動変速になる場合があります
オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温になると、マニュアルモードが解除される場合があり、マニュアルモードが解除されるとメーター内のギア位置表示が消灯し、自動変速になります。これはオートマチックトランスミッションを保護するための正常な機能です。しばらくして ATF 温度が下がるとギア位置表示が再び点灯しマニュアルモードでの走行が可能になります。

オートマチックトランスミッションの使いかた

シフトアップのしかた

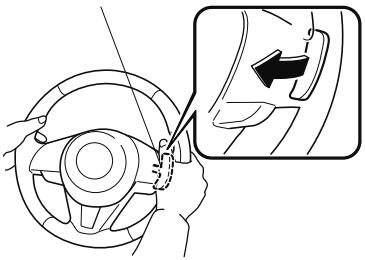
セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトアップ (M1→M2→M3→M4→M5→M6) することができます。

セレクトレバー



ステアリングシフトスイッチ☆

UPスイッチ(+/OFF)



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを＋側に動かすとシフトアップ (高速ギアに変速) します。

ステアリングシフトスイッチでの操作

ハンドル右裏側の UP スイッチ (**+/OFF**) を手前に引くとシフトアップ (高速ギアに変速) します。

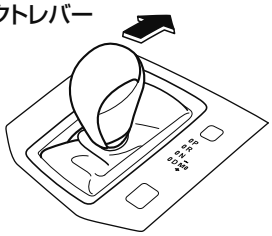
知識

- 低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。
- マニュアルモードではタコメーターの指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。なお、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでいる間は自動変速に切り替わります。
  ただし、TCS を OFF にしている、またはオフロードトラクションアシストを ON にしているときは、この機能は停止されます。また、エンジン回転が高い状態で連続走行されたときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。
- ステアリングシフトスイッチは、走行中セレクトレバーが D レンジでも、一時的に使用することができます。また、UP スイッチ (**+/OFF**) を一定時間以上手前に引いたときは自動変速にもどります。

シフトダウンのしかた

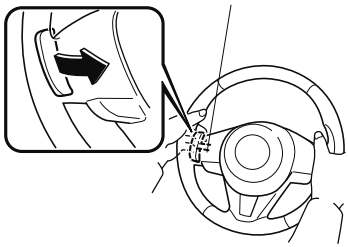
セレクトレバーまたはステアリングシフトスイッチによりシフトダウン (M6→M5→M4→M3→M2→M1) することができます。

セレクトレバー



ステアリングシフトスイッチ☆

DOWNスイッチ(−)



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

セレクトレバーでの操作

セレクトレバーを**−**側に動かすとシフトダウン (低速ギアに変速)します。

ステアリングシフトスイッチでの操作

ハンドル左裏側の DOWN スイッチ (**−**) を手前に引くとシフトダウン (低速ギアに変速)します。

⚠警告

必ず守る 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

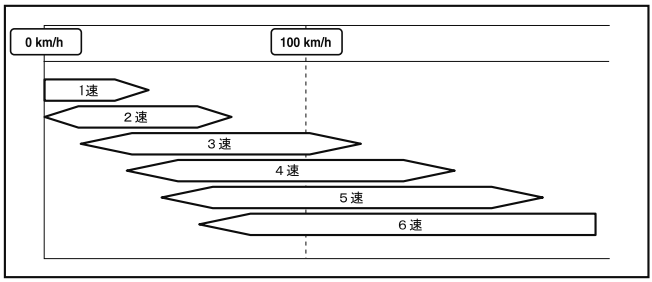
- 高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
- 減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。
- マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンします。ただし、TCS を OFF にしている、またはオフロードトラクションアシストを ON にしているときは、キックダウンしません。
→211 ページ「オートマチック車の特性」

2 速固定モード

車速が約 10 km/h 以下のときにセレクトレバーを＋側に動かして 2 速にすると 2 速固定モードになり、ギア位置は 2 速に固定されます。雪道などすべりやすい路面での発進や走行がしやすくなります。
2 速固定モードのときに、セレクトレバーを＋側または－側に動かして 2 速以外にすると 2 速固定モードは解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

マニュアルモードでは、各ギア位置において次の表のような制限速度を設けています。制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



シフトアップ

制限速度より低いときはシフトアップしません。

シフトダウン

制限速度を超えているときはシフトダウンしません。
制限速度を超えていてシフトダウンしなかった場合には、ギア位置表示が 2 回点滅し、変速できないことを運転者に知らせます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンします。
ただし、TCS を OFF にしている、またはオフロードトラクションアシストを ON にしているときは、キックダウンしません。

知識

2 速固定モード時も、キックダウンします。

オートシフトダウン

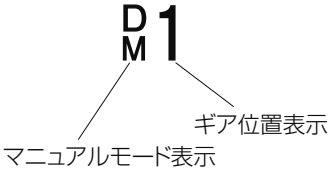
減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。

知識

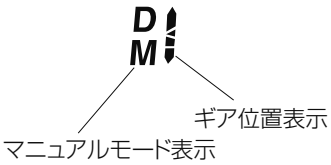
2 速固定モード時は、2 速のまま停車します。

ダイレクトモード グレード/仕様別装備

メーター (タイプA)



メーター (タイプB)



セレクトレバーを D の位置で走行中、ステアリングシフトスイッチを操作すると一時的にギア位置を切り替えることができます。
ダイレクトモードのときは、メーターに D と M が表示され、使用しているギア位置が表示されます。
ダイレクトモードは、次の状態になると解除されます。

- UP スイッチ (**+/OFF**) を一定時間以上手前に引いたとき
- 一定時間以上走行したとき (操作時の走行状態により時間は異なります)
- 停車したとき、または、低速走行になったとき

オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき

警告

禁止

セレクトレバーが P または N の位置のときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
   前進…D、M
   後退…R

2. セレクトレバーの位置を確認します。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルを踏み発進します。

⚠注意

後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
必ず守る

知識

- セレクトレバーを R の位置に入れるとチャイムが鳴り、セレクトレバーが R の位置に入っていることを運転者に知らせます。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーを R に入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーを N にもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルを踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキを解除します。

走行するとき

通常走行

セレクトレバーを D に入れて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。
ギヤは 1 速から 6 速の間で、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行

停車中または走行中にセレクトレバーを D から M に入れると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
→214 ページ「マニュアルモード」

急加速

セレクトレバーが D または M のとき、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速できます。

知識

セレクトレバーが M で TCS を OFF、またはオフロードトラクションアシストを ON にしているときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでも自動変速されません。セレクトレバーを操作してください。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じ、マニュアルモードで変速してください。エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、マニュアルモードにして、低速ギアにシフトダウンしてください。
マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

停車するとき

1. ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P に入れます。

⚠警告

禁止 **停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。**
セレクトレバーが P、N 以外に入っているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る **停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。**
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置に入れ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。**

駐車するとき

1. 車を完全に止めます。
2. セレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
4. エンジンを止めます。

⚠警告

必ず守る **駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかける。**
パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチックトランスミッションの使いかた

⚠警告

エンジンをかけたまま駐車しない。
万一セレクトレバーが P、N 以外に入っていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。
車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

⚠警告

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進しない。
エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) について

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) とは

Mi-Drive は、運転状況、路面状況、車両状況により走行モードを切り替えることができるシステムです。
ノーマルからスポーツ、オフロードを切り替えできます。

スポーツモード グレード/仕様別装備

アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性を高めるモードです。
より安全に高速道路に合流したり、追い越したりしたいときにご使用ください。

オフロードモード グレード/仕様別装備

オフロード走行時の駆動輪の空転を防ぎ、走破性を高めるモードです。
ぬかるみ、砂地、深雪路など滑りやすい路面を走行するときにご使用ください。

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) について

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) を使用する上での警告・注意

⚠警告

- **システムを過信しない。**
- **Mi-Drive が作動した状態でも車両の安定性には限界があります。**
- **無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあるため、常に安全運転を心がけてください。**
- **舗装された道路を走行するときは、オフロードモードを使用しないでください。駆動系部品に悪影響をおよぼし事故につながるおそれがあります。**

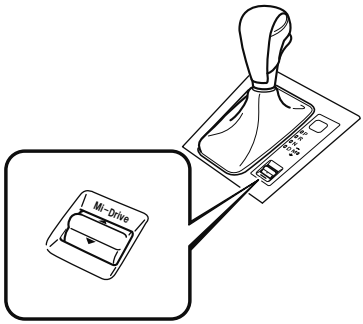
⚠注意

- **ぬれた路面や積雪路などすべりやすい路面を走行しているときは、スポーツモードの使用を避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。**
- **システムを正常に作動させるために次の点をお守りください**
  - **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。**
  - **摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。**
- **タイヤチェーン使用時は、慎重に運転してください。**
  - **タイヤ径が異なるため、システムが正常に作動しないことがあります。**

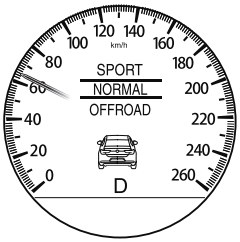
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) の使いかた

A タイプ

1. Mi-Drive スイッチを前方に押す、または手前に引く。



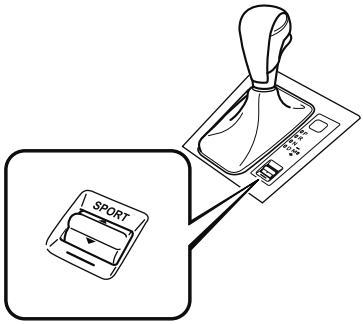
2. メーター内のリスト表示を確認しながら、Mi-Drive スイッチを前方に押す、または手前に引いて走行モードを選択する。



走行モードが確定すると、メーター内の表示が切り替わります。
→160 ページ「メーター、警告灯、表示灯の見方」

B タイプ

1. Mi-Drive スイッチを**SPORT**側 (前方) に押すと、スポーツモードになります。



2. スポーツモードを選択しているときに、メーター内のセレクトモードインジケーターが点灯します。

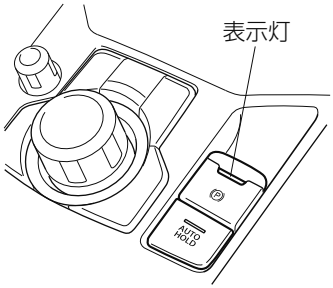
3. Mi-Drive スイッチを――側 (手前) に引くと、スポーツモードが解除されます。

知識

- スポーツモードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時はスポーツモードを解除して走行することをおすすめします。
- スポーツモードを選択したときの走行状態によっては、シフトダウンしたり、少し加速したりすることがあります。
- **(A タイプ)**
  表示がグレーアウトした走行モードは選択できません。
- オフロードモードが作動中や作動可能な状態にしたとき、車体の振動や作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- 次の操作をするとスポーツモードは解除されます。
  - 電源ポジションを OFF にしたとき。
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) で定速走行しているとき
  - クルージング&トラフィック・サポート (CTS) で定速走行しているとき

ブレーキの操作

電動パーキングブレーキ (EPB)



EPB とは、電気モーターでパーキングブレーキをかける装置です。
スイッチの表示灯は、パーキングブレーキをかけると点灯し、解除すると消灯します。
EPB スイッチ操作中は、スイッチの表示灯が点滅します。

⚠警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない

禁止

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱しブレーキシステムが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行するときはパーキングブレーキを解除し、メーター内の EPB 表示灯が消灯していることを確認してください。

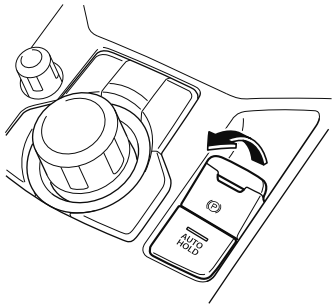
知識

- バッテリーがあがったときは、パーキングブレーキをかけたり、解除したりすることはできません。
→574 ページ「バッテリーあがりについて」
- パーキングブレーキをかけたり、解除したときに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- EPB を長期間使用しない場合は、駐車中にシステムの自動点検を行います。作動音が聞こえますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけて電源ポジションを OFF にしたときは、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキをかけたり、解除したときに、ブレーキペダルが動くことがありますが、異常ではありません。

知識

- 走行中にブレーキシステム (フットブレーキ) が故障した時や運転手がブレーキペダルを踏めないような緊急時などに、EPB スイッチを引き続けると、その間はブレーキがかかり車両を減速・停止させることができます。ブレーキ作動中は、パーキングブレーキ戻し忘れチャイムが鳴り、スイッチから手を離すとブレーキは解除されチャイムが停止します。
→603 ページ「チャイムがなったときは」
- 電源ポジションが OFF または ACC のときにパーキングブレーキがかかっている場合は、メーター内の EPB 表示灯およびスイッチの表示灯が 15 秒間点灯することがあります。
- 前輪を載せて車両を動かすタイプの自動洗車機を使用する場合は、車両を自動洗車機に入れる際に、パーキングブレーキを解除した状態で電源ポジションを OFF にする必要があります。

パーキングブレーキをかけるとき

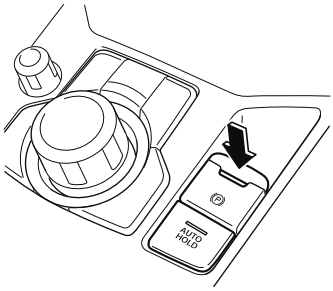


電源ポジションに関係なく、パーキングブレーキをかけることができます。
ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを引き上げます。
パーキングブレーキがかかり、メーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が点灯します。
メーター (タイプ A)
→177 ページ「表示/表示灯」
メーター (タイプ B)
→197 ページ「表示/表示灯」

パーキングブレーキを解除するとき

電源ポジションが ON またはエンジン回転中に解除できます。パーキングブレーキを解除するとメーター内の EPB 表示灯および EPB スイッチの表示灯が消灯します。

手動で解除するとき



ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、EPB スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏み込まずに EPB スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示させ、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。→598 ページ「マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは」

自動で解除するとき

パーキングブレーキがかかっている状態で、次の条件をすべて満たしているときにアクセルペダルを踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。

- エンジン回転中のとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- **(マニュアル車)**
  - チェンジレバーがニュートラル位置以外のとき
  - 半クラッチ操作をしているとき
- **(オートマチック車)**
  - セレクトレバーが D、M、R の位置のとき

知識

エンジン回転中でパーキングブレーキがかかっているときは、アクセルペダルに足などがあたると、パーキングブレーキを自動解除してしまう場合があります。ただちに発進しない場合は、マニュアル車はチェンジレバーをニュートラル位置に、オートマチック車はセレクトレバーを P または N の位置にしてください。

オートホールド

停車中にブレーキペダルから足を放しても、ブレーキを制御して車両の停車状態を保持する機能です。発進操作を行うと、ブレーキが解除されます。信号待ちなどの停車時に運転者の負担を軽減します。

⚠警告

オートホールドを過信しない

必ず守る **オートホールドは、あくまでも停車時のブレーキ操作を補助する機能です。機能を過信してブレーキ操作を怠ると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。道路状況や周囲の状況に応じて、適切にブレーキを操作してください。**
積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますので、ご注意ください。

停車中、急な坂道ではブレーキペダルから足を放さない

必ず守る **オートホールド機能による停車保持ができない可能性があるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**

凍結路、積雪路および未舗装路などのすべりやすい路面では、オートホールドの使用を控える

必ず守る

オートホールド機能による停車保持が作動していても、車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてアクセルやブレーキ、ハンドルを適切に操作してください。

次のような場合は、ただちにブレーキペダルを踏み込む

必ず守る **オートホールド機能が強制解除されるため、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ保持システム異常 ブレーキを踏んでください」とメッセージが表示され、同時にブザーが鳴ったとき**

駐車するとき、および車両から離れるときは、パーキングブレーキをかける

必ず守る

意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するとき、および車両から離れるときは、セレクトレバーを P の位置 (オートマチック車) にして、パーキングブレーキをかけてください。

⚠注意

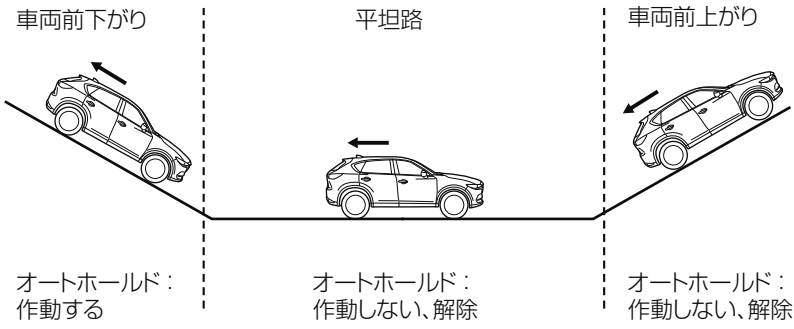
車両が発進する前にアクセル操作をやめた場合、停車状態を保持する力が弱まっている場合があります。ブレーキペダルをしっかり踏み込む、または発進するまでアクセルペダルを踏み込んでください。

必ず守る

知識

- 車両前上がりの状態、または平坦路でセレクトレバー/チェンジレバーを後退 (R) の位置にシフトチェンジすると、オートホールドが解除されます。必要に応じてブレーキを操作してください。
- オートホールド作動中に電源ポジションを OFF にすると、自動的にパーキングブレーキがかかり、駐車するときに必要な運転者の操作を補助します。

←：後退時 (セレクトレバー/チェンジレバーが後退 (R) の位置)



- 次のようなときは、オートホールドに不具合が発生しています。速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - オートホールド作動中やオートホールドスイッチを操作したときに、約 5 秒間、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されてブザーが鳴る
- オートホールド作動中にブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

オートホールドを ON にするとき

オートホールドスイッチを押して、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯すると、オートホールドが ON になります。

知識

- 次のすべての条件を満たすと、オートホールドスイッチを押したときに、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯して、オートホールドが ON になります。
  - 電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、または i-stop 中)
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 運転席ドアが閉まっているとき
  - オートホールドが故障していないとき

オートホールドを作動させ、ブレーキを保持するには

1. ブレーキペダルを踏み、車両を停車させます。
2. メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯し、ブレーキが保持されます。

3. ブレーキペダルから足を放すと、車両の停車状態が保持されます。

知識

- 次のすべての条件を満たすと、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
  - 電源ポジションが ON のとき (エンジン回転中、または i-stop 中)
  - 車両が停止しているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯しているとき
  - アクセルペダルを踏んでいないとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 運転席ドアが閉まっているとき
  - オートホールドが故障していないとき
  - パーキングブレーキが解除されている、または故障していないとき
  - **オートマチック車**
    セレクトレバーが後退 (R) 以外の位置、または後退 (R) の位置で車両が前下がりの状態のとき

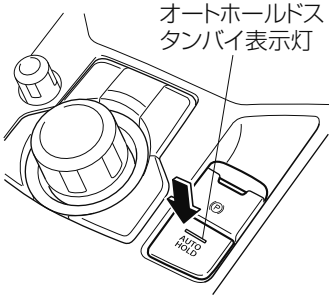
オートホールドを解除させ、発進するには

- 車両を発進させようとすると、ブレーキ保持が解除され、メーター内のオートホールド作動表示灯が消灯します。

知識

- オートホールドが作動しているときに、電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き上げると、パーキングブレーキがかかり、オートホールドが解除されます。また、この状態からパーキングブレーキを解除すると、オートホールドが作動して、ブレーキが保持されます。
- 次のようなときは、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが解除されます。オートホールドが解除される前の状態にもどすと、オートホールドが復帰します。
  - 運転席シートベルトをはずしたとき
  - 運転席ドアを開けたとき
- オートホールドが作動開始してから約 10 分以上経過すると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキを解除すると、オートホールドが復帰するため、再度オートホールドでのブレーキ保持を開始します。
- **マニュアル車**
  発進したい方向が下り坂の場合、クラッチペダルを踏み込みチェンジレバーを発進したい下り坂方向のギヤの位置にして、アクセルペダルを踏み込むとオートホールドが解除されます。

オートホールドを OFF にするとき



ブレーキペダルを踏み込み、オートホールドスイッチを押します。オートホールドが OFF になり、オートホールドスタンバイ表示灯が消灯します。

知識

- 走行中などブレーキが保持されていないときは、オートホールドスイッチを押すだけでオートホールドを OFF することができます。
- オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、ブレーキペダルを踏み込まずにオートホールドスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキペダルを踏んでください」とメッセージを表示させ、ブレーキペダルを踏み込むように運転者に知らせます。
- オートホールドが作動しているとき (メーター内のオートホールド作動表示灯が点灯中) に、次のような状況になると、パーキングブレーキが自動でかかり、オートホールドが OFF になります。電動パーキングブレーキ (EPB) の操作方法については、電動パーキングブレーキ (EPB) を参照してください。
→227 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
  - オートホールドが故障したとき

i-ACTIV AWD について グレード/仕様別装備

AWD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

本格的なオフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
AWD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。

ヘッドランプスイッチ

ヘッドランプの点灯/消灯

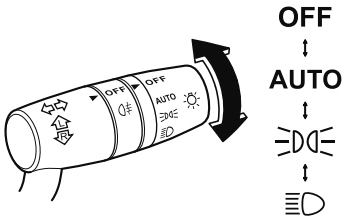
電源ポジションが ON のとき使用できます。車幅灯、尾灯、番号灯のみ電源ポジションが ON 以外でも使用できます。ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯/消灯します。

車幅灯表示灯

各ランプが点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

知識

- エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため、海外のような一時的な右側通行で使用するときでも、ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。



電源ポジション	ACC もしくは OFF				ON			
スイッチ位置	OFF*1	AUTO			OFF*1	AUTO		
ヘッドランプ	消灯	消灯	消灯	消灯	自動で点灯/消灯*2*4		自動で点灯/消灯*3*4	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯*5	点灯	点灯*5				点灯

*1 ランプスイッチは自動で AUTO の位置に戻ります。

*2 夜間はヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動で点灯します。

*3 車幅灯、尾灯、番号灯は、昼夜問わず自動で点灯します。ヘッドランプは、昼間は自動で消灯し、夜間は自動で点灯します。

*4 停車中にランプスイッチを OFF の位置に切り替えると、点灯しているランプがすべて消灯します。停車中にランプスイッチを 以外の位置から の位置に切り替えると、ヘッドランプが消灯します。消灯したランプは、車両を発進させると、再び点灯します。

*5 ランプが点灯しているときに、電源ポジションを ON から ON 以外にしても、ランプは点灯し続けます。運転席ドアを開く、または点灯状態が 30 秒経過すると消灯します。

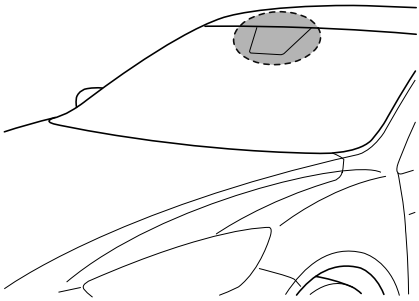
オートライト機能

電源ポジションが ON のとき使用できます。
ランプスイッチを AUTO、 の位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯/消灯します。

⚠ 注意

禁止

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



知識

- 長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。
  この場合、走行中を除きランプスイッチを OFF の位置にすれば消灯します。
- 車幅灯やヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。

ランプ消し忘れ防止チャイム

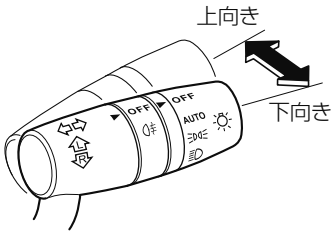
ランプを点灯させたまま、電源ポジションを OFF にして、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

知識

ランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

スイッチの使いかた

ヘッドランプの切り替え

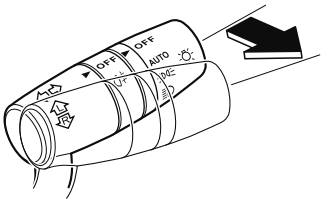


レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯しているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

パッシング合図



電源ポジションが ON のとき使用できます。ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。

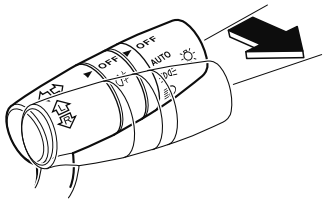
ヘッドランプ上向き表示灯

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

カミング・ホーム・ライト

レバーを操作すると、ヘッドランプ (下向き) を点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションが ACC または OFF のときに、レバーを引くとヘッドランプが下向き (ロービーム) で点灯します。ドアを閉めてから一定時間経過すると消灯します。

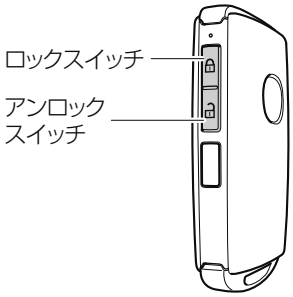
知識

- すべてのドアを閉めてからヘッドランプが消灯するまでの時間を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
- レバーを引いたあと、何も操作しない状態が 3 分間続いた場合、ヘッドランプは消灯します。
- ヘッドランプが点灯中に、もう一度レバーを引くとヘッドランプは消灯します。

リービング・ホーム・ライト

車両から離れているときにキーのアンロックスイッチを押すと、ランプを点灯させるシステムです。

作動させるとき



電源ポジションおよびランプスイッチが、次の状態のときにキーのアンロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信するとランプが点灯します。一定時間 (30 秒) 経過すると消灯します。

- 電源ポジション: OFF
- ランプスイッチ:、、AUTO

リービング・ホーム・ライトを作動させると、次のランプが点灯します。
ヘッドランプの下向き (ロービーム)、車幅灯、尾灯、番号灯

知識

- リービング・ホーム・ライトの作動/非作動を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。
- キーのロックスイッチを押し、車両がキーの信号を受信すると消灯します。
- 電源ポジションを ON にすると消灯します。
- ランプスイッチを OFF にすると消灯します。

ヘッドランプレベリング

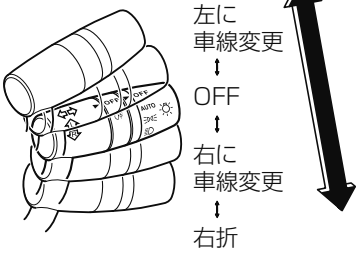
ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

方向指示器

方向指示器の操作

電源ポジションが ON のとき使用できます。

方向指示器



車線変更する場合
レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。
左折、または右折する場合
レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

方向指示灯

知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器のブザーの音量を変更することができます。
  マツダコネクト取扱書を参照してください。

スリーフラッシュターンシグナル

レバーを操作し、すぐに手を離すと方向指示灯が 3 回点滅します。

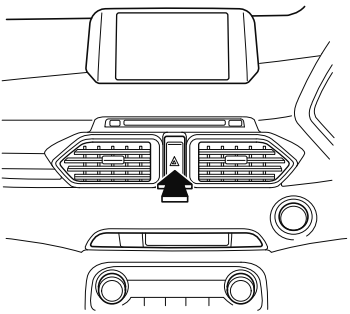
知識

スリーフラッシュターンシグナルの作動/非作動を変更することができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

非常点滅灯スイッチ



スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内にある非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

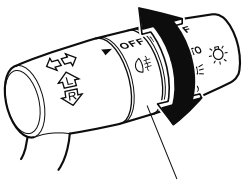
非常点滅表示灯

知識

- すべりやすい路面でブレーキを踏むと、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しすべての方向指示灯が点滅することがあります。
→255 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」
- エマージェンシーシグナルシステム (ESS) 作動中はすべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながします。
→255 ページ「エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは」

リアフォグランプスイッチ グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。



リアフォグランプスイッチ

OFF

↕

次の条件のときリアフォグランプを使用できます。

- 電源ポジション: ON
- ヘッドランプ点灯時

リアフォグランプスイッチを⇕の位置にするとリアフォグランプが点灯します。リアフォグランプスイッチは自動で OFF の位置に戻ります。
リアフォグランプスイッチを⇕の位置にする、またはランプスイッチを OFF にすると消灯します。

リアフォグランプ表示灯

リアフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリアフォグランプ表示灯が点灯します。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき作動します。

⚠警告

必ず守る **寒冷地では不凍液が入ったウォッシャー液を使用する。また寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスを温めてから行なう。**
寒冷時に不凍液が含まれないウォッシャー液を使用した場合、フロントガラス上で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、デフロスターを使用してフロントガラスが十分に温まっていることを確認してください。

⚠注意

必ず守る **凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。**

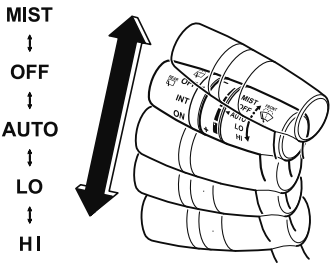
禁止 **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。**

知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。マツダ販売店にご相談ください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを OFF の位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

フロントワイパー/ウォッシャー

ワイパーの操作



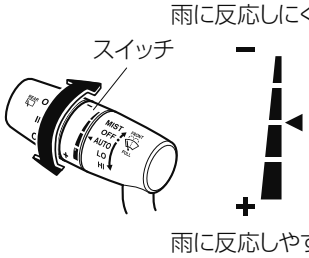
レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上に押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	オートワイパー機能/間欠作動*1
LO	低速作動
HI	高速作動

*1 オートワイパー機能は、設定変更で作動/非作動を変更することができます。オートワイパー機能を非作動にすると、間欠作動に固定されます。マツダコネクト取扱書を参照してください。

オートワイパー機能

レバーを AUTO の位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

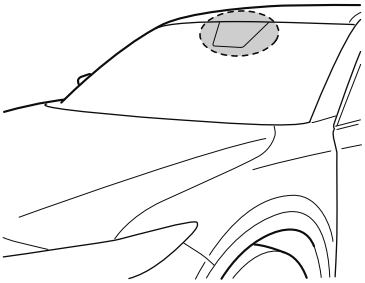
雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動



スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

⚠注意

禁止 **フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の雨量を感知できなくなり、オートワイパー機能が正常に作動しないことがあります。**



禁止 **・電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。**

- **フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などで拭いたとき。**
- **フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。**

必ず守る **電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、フロントガラスやワイパーを触らないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟んだり、ワイパーが損傷するおそれがあります。**
氷や雪を除去する、またはフロントガラスを清掃するときは、確実にワイパーレバーが OFF の位置になっていることを確認してください。

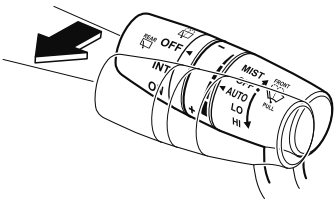
知識

- レインセンサーの温度が-10℃以下、または 85℃以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物 (氷や塩水などを含むもの) が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを LO または HI にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。

知識

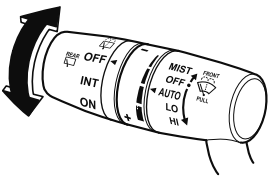
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

ウォッシャーの操作



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

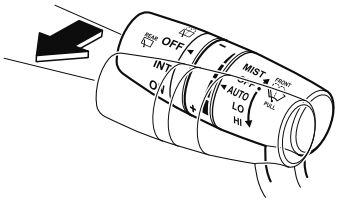
リアワイパー/ウォッシャー



スイッチ位置	作動状態
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動
OFF	停止
INT	間欠作動
ON	連続作動
	リアウォッシャーおよびリアワイパー作動*1

*1 ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを ON の位置から上側にまわします。

ヘッドランプウォッシャースイッチ グレード/仕様別装備



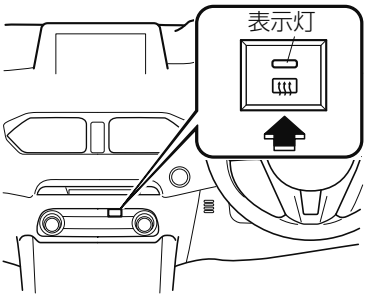
電源ポジションが ON でヘッドライトが点灯しているときに、レバーを手前に 2 回引くとヘッドランプウォッシャーが作動します。

知識

ヘッドランプ点灯後、初めてフロントウォッシャーを作動させると、ヘッドランプウォッシャーが自動で作動します。

リアウインドーデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リアウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



注意

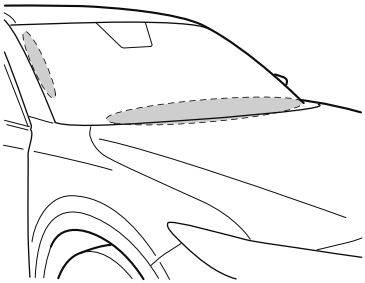
禁止 **リアウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。**
→542 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

知識

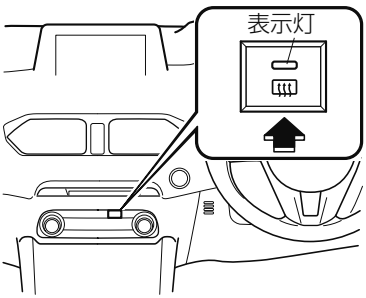
- エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ウインドーワイパーデアイサー グレード/仕様別装備

次の位置の熱線をあたため、フロント窓ガラスにたまった雪を取り除きやすくします。

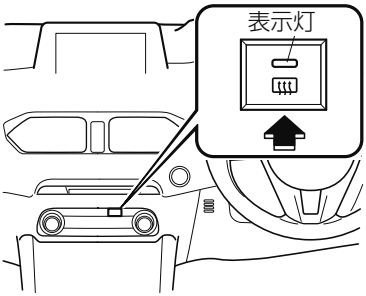


電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとウインドーワイパーデアイサーが作動します。
→250 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



ミラーの曇り取り

ドアミラーの曇りを取ることができます。
ミラーの曇り取りは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
電源ポジションを ON にして、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押すとミラーの曇り取りが作動します。
→250 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」



ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

必ず守る

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ジャリ道、新雪道を走行しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**
- **道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。**
- **凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。**

⚠ 注意

必ず守る

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

1. 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
2. ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
3. 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

知識

- ABS は低速 (約 10 km/h 以下) では作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後に、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) とは

HLA とは､坂道発進を補助する機能です。坂道停車後の発進時､ブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際の車両の後退を防ぎます。
急な坂道でブレーキペダルを放したときに自動でブレーキ力を保持します。

- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーが R 以外のときは上り坂で作動し､R の位置のときは下り坂で作動します。
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが前進の位置のときは上り坂で作動し､R の位置のときは下り坂で作動します。

⚠警告

禁止

HLA を過信しない。
HLA はあくまでも発進するときの補助機能です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので､アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると､車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって､車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

知識

- 緩勾配の坂道では HLA が作動しません。また､積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
- パーキングブレーキがかかっているときや､車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。
- HLA 作動中にブレーキペダルが硬くなったりペダルが振動することがありますが､異常ではありません。
- TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは､HLA が作動しないことがあります。
- TCS OFF スイッチを押して TCS を解除しても HLA は解除されません。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) とは

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は、急ブレーキをかけた時の車速が約 55 km/h 以上の時に、すべての方向指示灯を自動的に高速で点滅させ、後続車に注意をうながすシステムです。

知識

- **点滅について**
  すべての方向指示灯が高速点滅中に停車した場合、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。このときは、非常点滅灯スイッチを操作するとすべての方向指示灯が消灯します。
- **作動について**
  - ABS 作動時は、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキを踏むと、すべての方向指示灯が点滅することがあります。
  - 非常点滅灯スイッチが操作されると、エマージェンシーシグナルシステム (ESS) は作動しません。

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS とは グレード/仕様別装備

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。

⚠ 警告

必ず守る **TCS を過信せず安全運転に心がける。**
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- エンジン回転が高いときに TCS が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- **(2WD 車)**
  TCS を解除するときは、TCS OFF スイッチを押して解除してください。
  →257 ページ「TCS OFF スイッチ」

TCS/DSC 作動表示灯

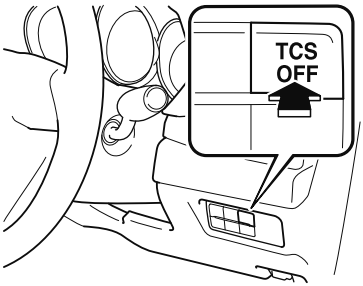
点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

TCS OFF スイッチ



スイッチを押すと TCS が停止され、メーター内の TCS OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと TCS が作動可能な状態になり、TCS OFF 表示灯が消灯します。

知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時にアクセルペダルを踏み込んでも、TCS が作動してエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS を停止します。
- TCS を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS は作動可能な状態にもどります。
- TCS を停止したときは、TCS が装備されていない車と同じ走行性能になります。
- TCS OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、その後 TCS OFF スイッチを押しても TCS を停止することができなくなります。
  その場合、一度電源ポジションを OFF にして、再度電源ポジションを ON にすると、通常の TCS OFF スイッチの操作が可能になります。
- TCS を停止した状態でアドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動すると、TCS は自動的に作動可能な状態に復帰します。

TCS OFF 表示灯

TCS
OFF

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- TCS OFF スイッチを押して、TCS を停止すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - TCS を停止していないのに点灯したとき。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について

DSC とは

DSC (ダイナミック･スタビリティ･コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。
DSC は約 20 km/h 以上で作動可能な状態になります。
「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。
→253 ページ「ABS とは」
→256 ページ「TCS とは」 グレード/仕様別装備

⚠警告

必ず守る **DSC を過信せず安全運転に心がける。**
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

⚠注意

必ず守る **DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。**

- **前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン (溝の模様) が同一のタイヤを装着してください。**
- **摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。**
- **指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。**

知識

- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。
- 電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TCS/DSC 作動表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

オフロード･トラクション･アシストについて

オフロード･トラクション･アシストとは グレード/仕様別装備

オフロード･トラクション･アシストは、ぬかるみ、砂地、深雪路などでスタックした場合に駆動輪の空転を防ぎ、スタック脱出を補助する機能です。
凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。

⚠警告

必ず守る

オフロード･トラクション･アシストを過信しない。
オフロード･トラクション･アシストには限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあるため、路面状態に応じた安全運転に心がけてください。また、次のようなときには、オフロード･トラクション･アシストを作動させた状態で走行しないでください。駆動系部品に悪影響をおよぼし思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **舗装路を走行するとき。**
- **指定サイズと異なるタイヤや、応急用スペアタイヤなどを装着しているとき。**
- **タイヤチェーンを装着しているとき。**

⚠注意

必ず守る

オフロード・トラクション・アシストは、スタック脱出を補助する機能です。必要がない場合は、オフロード・トラクション・アシストを作動させた状態での連続走行は避けてください。
オフロード・トラクション・アシストを作動させた状態で連続走行すると、AWD警告表示が表示されることがあります。
→590 ページ「AWD 警告表示」

知識

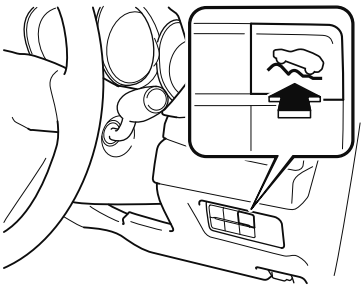
オフロード･トラクション･アシストが作動中や作動可能な状態にしたとき、車体の振動や作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

オフロード･トラクション･アシスト表示灯

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- オフロード･トラクション･アシストスイッチを押して、オフロード･トラクション･アシストを作動させると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
  - オフロード･トラクション･アシストを作動させていないのに点灯したとき。

オフロード･トラクション･アシストスイッチ



車両を停止させて、スイッチを押すとオフロード･トラクション･アシストが作動可能な状態になり、メーター内のオフロード･トラクション･アシスト表示灯が点灯します。
もう一度押すとオフロード･トラクション･アシストが停止し、オフロード･トラクション･アシスト表示灯が消灯します。

知識

オフロード･トラクション･アシストを作動可能な状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動するとオフロード･トラクション･アシストは停止します。

i-ACTIVSENSE とは

i-ACTIVSENSE (アイ･アクティブセンス) とは、フォワードセンシングカメラ (FSC) やレーダーセンサーなどの検知システムを利用したマツダの先進安全･運転支援システムの総称です。これらのシステムは、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術で構成されています。
これらのシステムはあくまで、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術とは

アクティブセーフティ技術とは、安全･安心な運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。

認知支援システム

夜間視界

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....265 ページ

左右側面･後側方認知

車線逸脱警報システム.....267,344 ページ
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM).....273 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR).....278 ページ

車間認知

車間認知支援システム..... 285 ページ

運転者疲労検知

ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....289 ページ

駐車場発進時後方認知

リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA).....291 ページ

全周囲認知

360° ビュー･モニター..... 377 ページ

運転支援システム

車間距離

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))..... 309 ページ

車間距離･車線保持

クルージング＆トラフィック･サポート (CTS).....325 ページ

車線逸脱

レーンキープ･アシスト･システム (LAS).....344 ページ

プリクラッシュセーフティ技術とは

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故が避けづらい状況での衝突回避、避けられず衝突した際の被害低減を図る技術です。

低速度域衝突被害軽減

前進時

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)... 358 ページ
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....361 ページ

後退時

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)..... 366 ページ
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....371 ページ

中･高速度域衝突被害軽減

スマート･ブレーキ･サポート (SBS).....374 ページ

カメラ、センサーについて

フォワードセンシングカメラ (FSC)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、車線表示を検知したり、夜間走行時にはヘッドランプ、テールランプ、街灯を認識したりしています。また、前方の車両や歩行者、障害物も認識します。フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のシステムが共用しています。

- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) ＆車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]

- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- クルージング＆トラフィック･サポート (CTS)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、フロントガラスの上のルームミラー付近に設置されています。
→407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」

レーダーセンサー (フロント)

レーダーセンサー (フロント) は、レーダーセンサーから送信される電波が前方車や障害物に反射し、もどってきた電波により対象物を検知します。レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- 車間認知支援システム
- クルージング＆トラフィック･サポート (CTS)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は、ラジエーターグリルの裏側に設置されています。
→413 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」

レーダーセンサー (リア)

レーダーセンサー (リア) は、レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
- リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) はリアバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
→415 ページ「レーダーセンサー (リア) について」

超音波センサー (フロント)

超音波センサー (フロント) は、超音波センサーから送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。超音波センサー (フロント) は AT 誤発進抑制制御 [前進時] で使用しています。
超音波センサー (フロント) はフロントバンパーに設置されています。
→417 ページ「超音波センサー (フロント) について」 グレード/仕様別装備

超音波センサー (リア)

超音波センサー (リア) は、超音波センサーから送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。超音波センサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)

- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

超音波センサー (リア) はリアバンパーに設置されています。
→417 ページ「超音波センサー (リア) について」

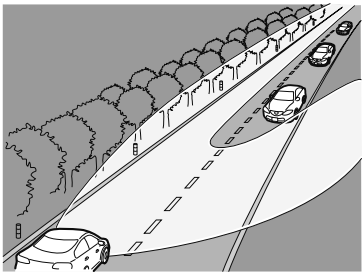
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ

フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。各カメラは 360° ビュー・モニターで使用しています。
各カメラはフロントバンパー、ドアミラー、およびリアゲートに設置されています。
→418 ページ「フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ」 グレード/仕様別装備

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) とは

ALH は、フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方車や対向車の状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲、照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。
→407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
ALH は、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を次のように制御し、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

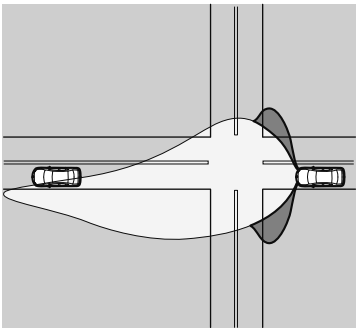


ヘッドランプ上向き (ハイビーム) の配光を前方車の部分だけ減光して照射します。
車速約 30 km/h 以上で走行中に、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を切り替えます。また、車速が約 20 km/h 未満になると、ヘッドランプは下向き (ロービーム) に切り替わります。

知識

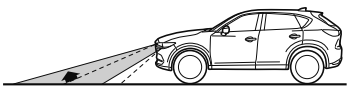
ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ワイド配光ロービーム



車速約 40 km/h 未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。

ハイウェイモード



高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

ALH が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

⚠注意

禁止 **サスペンションの改造、ヘッドランプユニットの改造、カメラの取りはずしを行なわないでください。ALH が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **システムを過信せず、常に周囲の状況に注意を払い、必要に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えるなど、安全運転に心がけてください。**

知識

次のような状況では、ALH が正常に作動しない場合があります。視界や道路状況、交通状況に応じて、上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲に反射板や標識などの反射物があるとき
- 雨、雪、霧などで視界が悪いとき
- カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
- 前方車や対向車のランプが暗いときや電球切れしているとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき

知識

- 前方車が水をまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) を作動させるとき

電源ポジションが ON の状態でランプスイッチが AUTOの位置のときにヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると作動します。同時にメーター内の ALH 表示灯 (緑) が点灯します。

周囲の明るさから ALH が夜と判断すると作動します。
ランプスイッチをAUTOの位置以外にするか、下向き (ロービーム) またはパッシングにすると解除します。

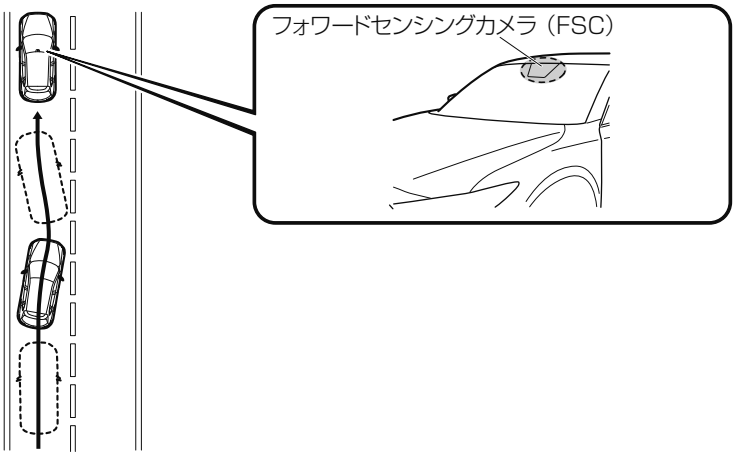
知識

ALH を作動しないように変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

車線逸脱警報システムとは グレード/仕様別装備

車線逸脱警報システムは自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせる装置です。走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、車線逸脱警報により運転者に知らせます。白線 (黄線) の整備された道路でご使用ください。

→407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠警告

禁止 **次のような状況のときは、車線逸脱警報システムを使わない。**
実際の走行状況にあわせた適切な作動ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急カーブのある道**
- **悪天候のとき (雨、霧、雪のときなど)**

禁止 **車線逸脱警報システムを過信しない。**
車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。車線逸脱警報システムは、前方不注意を補助するものではないため、車線逸脱警報システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **サスペンションの改造を行わないでください。車線逸脱警報システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。**

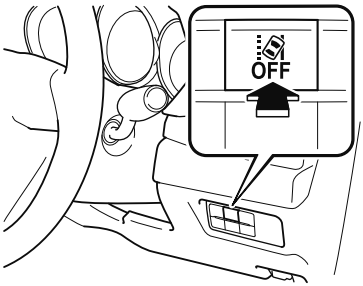
知識

- 自車が車線を逸脱したときは、車線逸脱警報 (警報音と警告表示) が作動します。適切にハンドルを操作し、車線に沿って車線の中央を走行するようにしてください。

知識

- 車線変更などで方向指示器を操作すると、車線逸脱警報システムの警報を自動解除します。方向指示器をもどし、車線の中央付近を走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、車線逸脱警報システムが復帰します。
- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作をしながら車線の白線 (黄線) へ接近したときは、運転者が車線を変更すると判断し、車線逸脱警報システムの警報を自動解除します。
- 短時間のうちに連続して車線をはみ出したときは、車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。
- 車線の白線 (黄線) を検知していないときは、車線逸脱警報システムは作動しません。
- 次のようなときは、車線の白線 (黄線) を正しく検知することができず、車線逸脱警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写ったとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
  - 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路を走行するとき
  - 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 前方車が白線 (黄線) の近くを走行して、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまった轍など、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
  - トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - 逆光を浴びて路面が光っているとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 2 本以上の白線 (黄線) が隣接して描かれているとき
  - 交差点付近に様々な路面表示や様々な形状のレーンマーカーがあるとき

作動させるとき



車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。
メーター内の車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯していることを確認します。
車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯するとシステムが待機状態になります。

車線逸脱警報システム OFF 表示灯が消灯した状態で車線の中央を走行します。
次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- 左右もしくは一方に白線 (黄線) が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速約 45 km/h 以上で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき

次のとき、車線逸脱警報システムは待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が 40 km/h 未満になったとき
- 急なカーブを走行したとき
- 不適切な速度でカーブを走行したとき

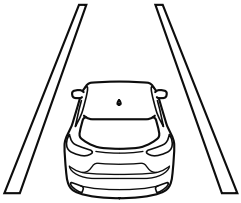
知識

- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、車線逸脱警報システムは待機状態のままになります。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は警報できません。
- 車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断する距離を変更できます。
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

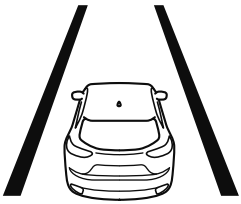
車線表示

車線逸脱警報システム が待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わります。

待機状態



作動状態



自動解除

次のようなときは、車線逸脱警報システムが自動で解除され、ディスプレイに車線表示 (待機状態) が表示されます。なお、車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰し、ディスプレイに車線表示 (作動状態) が表示されます。

- カメラ内部の温度が高温または低温になったとき
- カメラ付近のフロントガラスが曇ったとき
- カメラ付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

警報の自動中止

次のような操作を行なうと、運転者の意思で車線変更しているとシステムが判断し、車線逸脱警報システムの警報が自動で中止されます。なお、操作後は、車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

- 急なハンドル操作をしたとき
- 急なブレーキ操作をしたとき
- 急なアクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき (方向指示器がもどった後、進路を修正するための 3 秒程度は、車線逸脱警報システムが作動しない場合があります)

知識

方向指示器を出したまま約 30 秒経過した後、車線の白線 (黄線) に近づくと、車線逸脱警報システムが警報を行なう場合があります。

解除するとき

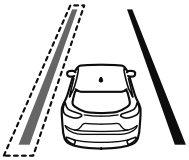
車線逸脱警報システムを解除するときは、車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。
車線逸脱警報システム OFF 表示灯が点灯します。

知識

- 電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車線逸脱警報システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車線逸脱警報システムは作動可能な状態のままです。

車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、警報チャイムが鳴るとともに、逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

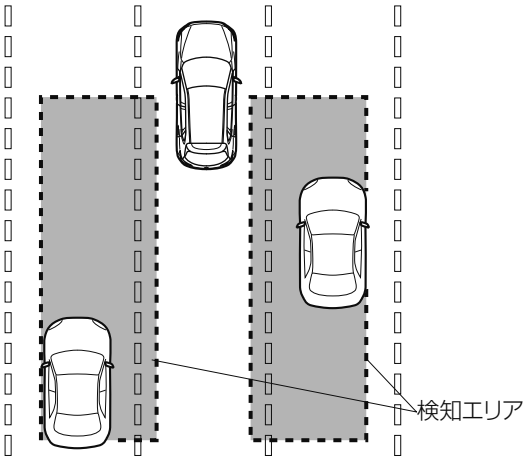


知識

- 外部の騒音など状況によっては、車線逸脱警報システム警報チャイムが聞こえない場合があります。
- 車線逸脱警報システム警報チャイムの音量を変更できます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) とは

BSM は､自車の後方から接近する車両の存在を知らせることにより､車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
BSM は､車速が約 15 km/h 以上で前進しているときに後方からの接近車両を検知して､その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯を点灯させます。BSM 接近表示灯が点灯した状態で､その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると､BSM 接近表示灯が点滅､マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイの警告表示､および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。
当システムの検知エリアは､自車の左右に隣接する車線で､自車のフロントドア後端付近から自車の後方約 50 m までです。



⚠警告

実際の車線変更時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。

必ず守る **本システムは車線変更時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため､隣接車線に車両が存在する場合でも BSM 接近表示灯が点滅しなかったり､点滅が遅れる場合があります。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。**

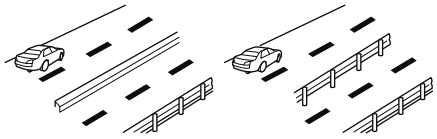
知識

- BSM は次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - メーター内の BSM OFF 表示灯が消灯しているとき
  - 車速が約 15 km/h 以上のとき
- BSM は次のときには作動しません。
  - BSM OFF 表示灯が消灯している場合でも、車速が約 10 km/h を下回ったとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R に入れて後退中のとき
  - 回転半径が小さいとき (急カーブや交差点を曲がるときなど)
- 次の場合、システムは BSM OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。BSM OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - BSM 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー上に雪や氷などが多量についたとき (氷、雪や泥が付着しているときは、これらを取り除いてください。)
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダーセンサー (リア) 付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき
- 次のような対象物は、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両 (接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。)
  - 自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両
  - 対向車
  - 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両
  - 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両 (レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 次のような場合は、BSM 接近表示灯の点滅、警告表示、および警報チャイムの警告が遅れるか、点滅/警告ができないことがあります。
  - 車両が 2 つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき
  - 急勾配を走行しているとき
  - 峠を越えるとき
  - 自車線と隣接車線の高さに差があるとき
  - BSM を作動可能な状態にした直後

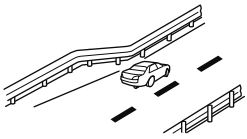
知識

- 道路幅が極端に狭い場合は、2 車線横の車両を検知する場合があります。 (レーダーセンサー (リア) の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。)
- 道路上および道路端の停止物 (ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など) に対して BSM 接近表示灯が点灯し、警告表示を表示する場合があります。

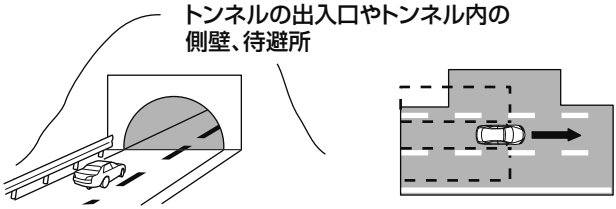
ガードレール、コンクリート壁等が並行している場合



ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ



トンネルの出入口やトンネル内の側壁、待避所



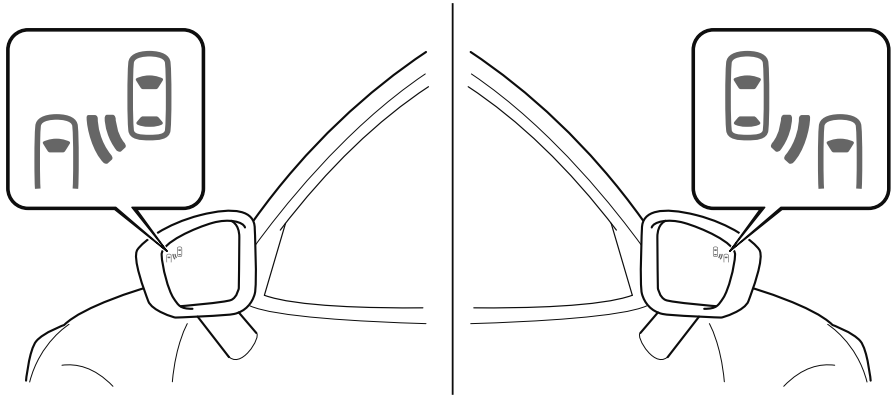
- 市街地の交差点を曲がるときなどに、BSM 接近表示灯が点滅、警告表示、または警報チャイムが複数回鳴る場合があります。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、BSM を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- 次のような場合は、ドアミラーに取り付けられている BSM 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇り、雪、汚れ、霜が付着しているとき
- チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると、リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) に切り替わります。
  →291 ページ「リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは」

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 表示/ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報チャイム

BSM またはリア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動中は、BSM 接近表示灯や警報チャイムで、隣接車線や自車後方に車両が存在することを知らせます。

BSM 接近表示灯

ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯します。
電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。



前進時 (BSM 作動)

後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置した BSM 接近表示灯が点灯します。また、BSM 接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、BSM 接近表示灯 が点滅します。

後退時 (リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動)

自車後方および自車後方の左右に接近する車両を検知して、BSM 接近表示灯が点滅します。

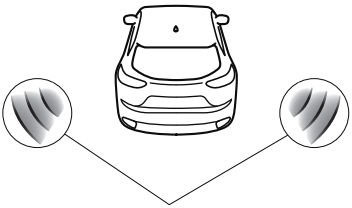
減光解除機能

車幅灯が点灯しているとき、BSM 接近表示灯が点灯すると、点灯したときの明るさが減光されます。
雪道や霧での走行時など、周囲が明るく減光状態では BSM 接近表示灯が見えにくい場合には、減光解除ボタンを押すと減光が解除され BSM 接近表示灯が点灯したときの明るさが明るくなります。
メーター (タイプ A)
→168 ページ「パネルライトコントロール」
メーター (タイプ B)
→189 ページ「パネルライトコントロール」

ディスプレイ表示

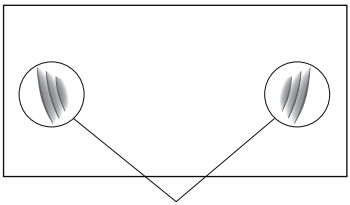
前進時、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警告表示を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



検知および警告表示

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



検知および警告表示

BSM 警報チャイム

BSM 接近表示灯の点滅と同時に鳴ります。

知識

BSM 警報チャイムの音量を変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) を停止させるには

BSM を作動しないようにできます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
BSM を作動しないようにすると、BSM OFF 表示灯が点灯します。

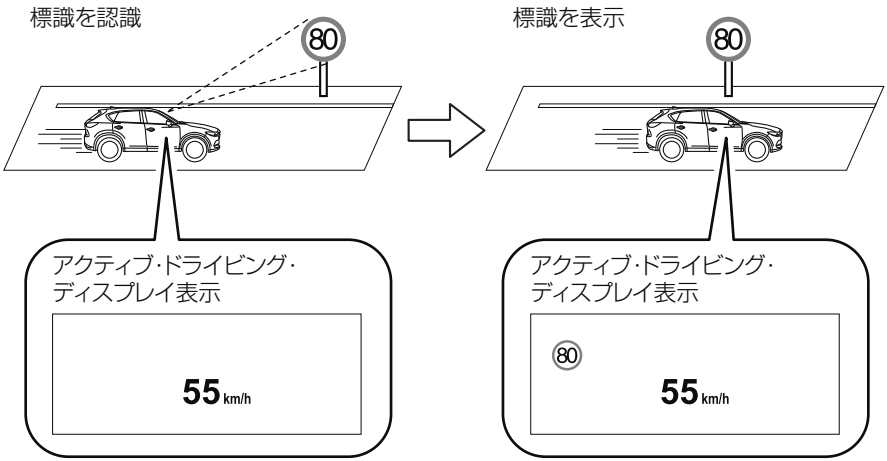
知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、BSM およびリア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) が作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは BSM およびリア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) は作動可能な状態のままです。

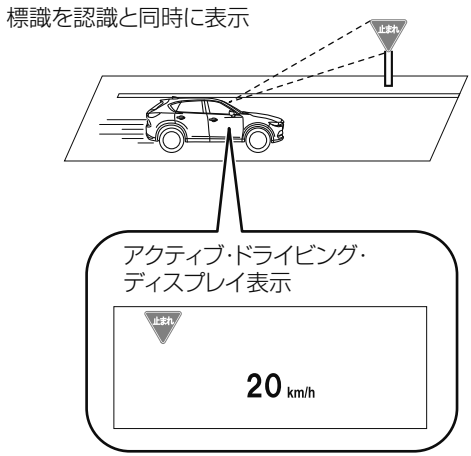
交通標識認識システム (TSR) とは グレード/仕様別装備

※TSR: Traffic Sign Recognition
TSR は、走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が認識した交通標識を、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示することで、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。
TSR は、最高速度標識 (補助標識も含む)、車両進入禁止標識、一時停止標識、および追越しのための右側部分はみ出し禁止標識の交通標識を表示します。
走行中、アクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示した最高速度標識の速度を、自車の速度が超えているときは、アクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示および警報音で運転者にお知らせします。

最高速度標識、車両進入禁止標識、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識



一時停止標識



⚠ 警告

走行中は必ず目視にて交通標識を確認する。

必ず守る **TSR は、交通標識の見落とし防止を図り、安全運転を支援するシステムです。天候状況や交通標識に問題がある場合など、交通標識を認識できないまたは実際の状況とは異なる交通標識を表示することがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任において、実際の交通標識を確認してください。**

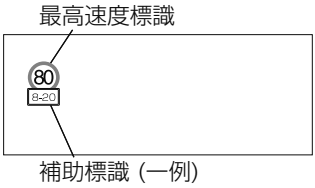
知識

- フォワードセンシングカメラ (FSC) に異常がある場合、TSR は作動しません。
- 次のようなときは、TSR が正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写っているとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
  - 標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 高速道路などの、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどの分岐路やその周辺を走行しているとき
  - トンネルの出入り口などの、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - フロントガラス、カメラに露 (水滴) が生じているとき
  - 前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 急カーブを走行しているとき
  - 強い光が道路に反射しているとき
  - 夜間やトンネル内などを走行中、交通標識が自車のヘッドランプの光を受けにくい位置にあるとき
  - 雨、霧、雪などの天候時に走行しているとき
  - 交通標識が泥、雪などで汚れているとき
  - 交通標識が木の茂み、車などで隠れているとき
  - 影などで交通標識の明るさが一部異なるとき
  - 交通標識が曲がっていたり、歪んでいるとき
  - 交通標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
  - 交通標識が明るすぎたり、暗すぎたりするとき (電光標識含む)
  - 交通標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
  - 読み取る交通標識の色、形などに似たものがあるとき (類似の交通標識、看板など)
- アクティブ・ドライビング・ディスプレイの設定を非表示にした場合は、TSR は作動しません。
- TSR を作動しないように変更できます。
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

交通標識ディスプレイ表示

次の交通標識をアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示します。

最高速度標識（補助標識も含む）



補助標識の条件（時間帯、右左折時、区間の終わりなど）をフォワードセンシングカメラ（FSC）が正しく分類できなかった場合、次の画面を表示します。

車両進入禁止標識

一時停止標識

追越しのための右側部分はみ出し禁止標識

追越しのための右側部分はみ出し禁止標識は、最高速度標識と同時に表示することができます。

知識

最高速度標識 (補助標識も含む)

- 次の条件をすべて満たしているとき、最高速度標識を表示します。
  - 約 1 km/h 以上で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を自車対象標識として認識し、最高速度標識を通過したとき
- 次のときは、最高速度標識表示を終了します。
  - 最高速度標識を認識し、車両が最高速度標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
  - 自車が路線を変えたと判断したとき
  - 新たに、フォワードセンシングカメラ (FSC) が異なる最高速度標識を認識したとき (新しい最高速度標識を表示する)
  - 最高速度標識を表示してから一定の時間経過後、表示中の最高速度標識より約 30 km/h 以上速度超過しているとき

車両進入禁止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、車両進入禁止標識を表示します。
  - 約 60 km/h 以下で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が車両進入禁止標識を自車対象標識として認識し、車両進入禁止標識を通過したとき
- 車両進入禁止標識を認識し、車両が車両進入禁止標識を通過してから、一定の時間経過したときは、車両進入禁止標識表示を終了します。

一時停止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、一時停止標識を表示します。
  - 約 30 km/h 以下で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が一時停止標識を自車対象標識として認識したとき
- 一時停止標識表示を開始してから、一定の時間経過したときは、一時停止標識表示を終了します。

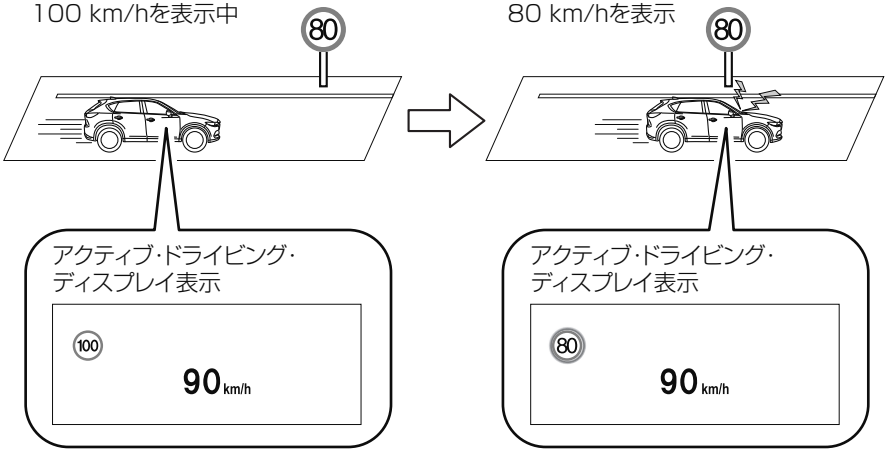
知識

追越しのための右側部分はみ出し禁止標識

- 次の条件をすべて満たしているとき、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を表示します。
  - 約 1 km/h 以上で走行しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を自車対象標識として認識し、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過したとき
- 次のときは、追越しのための右側部分はみ出し禁止標識表示を終了します。
  - 追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を認識し、車両が追越しのための右側部分はみ出し禁止標識を通過してから、一定の距離を走行したとき
  - 自車が路線を変えたと判断したとき

速度超過警報

アクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識より自車の速度が超えるとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時に警報音が 3 回吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速してください。



速度超過警報は初期設定で作動しないように設定されています。速度超過警報を作動させたいときは、カスタマイズ設定を行なってください。なお、警報パターンおよび警報タイミングは設定内容によって異なります。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
警報パターン

- Off: 速度超過警報は作動しません。
- 表示のみ: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。
- 表示＋音: ディスプレイに表示されている最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時に警報音が 3 回吹鳴します。速度超過の状態が続いていれば点灯に切り替わります。

警報タイミング

- ＋0: ディスプレイに表示されている最高速度標識を超えたとき速度超過警報が作動します。
- ＋5: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 5 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。
- ＋10: ディスプレイに表示されている最高速度標識を 10 km/h 超えたとき速度超過警報が作動します。

知識

- 次のときは、速度超過警報を終了します。
  - 車速が表示している最高速度標識未満になったとき (カスタマイズで速度超過警報の警報タイミングを変更している場合は、変更した車速未満になったとき、速度超過警報は終了します)
  - 最高速度標識表示が更新され、更新された表示より自車の速度が低いとき
  - 最高速度標識表示を終了したとき
- 表示している最高速度標識より、自車の速度が超えているときは、警報表示と同時に速度超過警報音が鳴ります。
→603 ページ「チャイムがなったときは」
- 補助標識付き最高速度標識を認識し、表示することは可能ですが、補助標識の条件 (時間帯、右左折時、区間の終わりなど) を判断することはできません。
したがって、自車が補助標識の条件以外のときでも、表示された最高速度標識より速度が超えたときは、速度超過警報が作動します。
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が最高速度標識を低い速度で誤認識した場合は、法定速度で走行しているときでも速度超過警報が作動します。

車間認知支援システムとは

車間認知支援システムは、車速が約 30 km/h 以上のとき、レーダーセンサー (フロント) が前方車との車間距離を計測し、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。さらに、車速に応じた適正な車間距離よりも前方車に近づきすぎた場合に、ディスプレイにお知らせを表示して、適正な車間距離を保って運転ができるようアドバイスします。

⚠ 警告

車間認知支援システムを過信しない

禁止

車間認知支援システムは前方車との安全な車間距離の目安をお知らせし、安全運転のアドバイスを行なうシステムです。前方車の種類、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界がありますので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

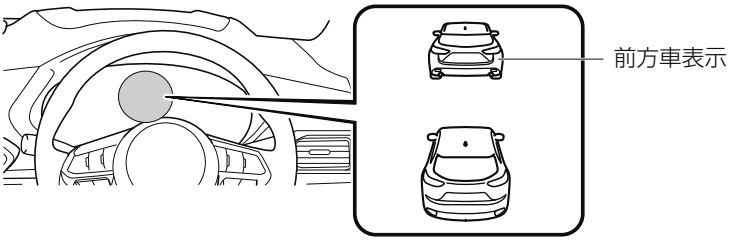
知識

- 次の条件をすべて満たしているときに車間認知支援システムは作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - 車間認知支援システムが ON のとき
  - セレクトレバーが R レンジ以外のとき
  - 車速が約 30 km/h 以上のとき
- システムの作動対象は 4 輪車両です。
- バイクや自転車等にも車間認知支援システムが作動するときがあります。
- 次の条件のときは、車間認知支援システムが正常に作動しないときがあります。
  - DSC が故障しているとき
  - 前方車が極低速のとき
- 次の対象物には作動しません。
  - 対向車
  - 静止物 (停車車両、障害物)
- 車間認知支援システムを作動しないようにできます。
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

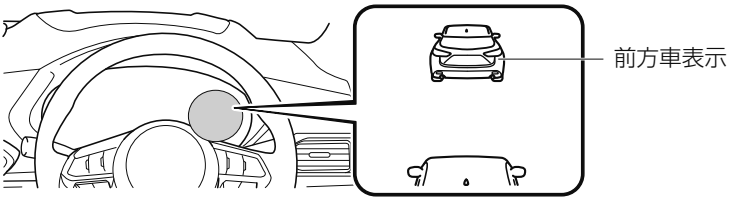
ディスプレイ表示

車間認知支援システムの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。故障状態については、センターディスプレイに表示します。故障の場合は、表示されたメッセージの方法で処置してください。

メーター (タイプA)



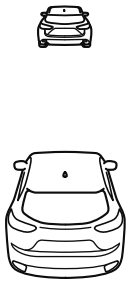
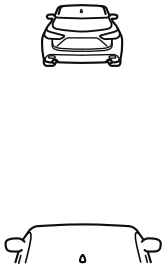
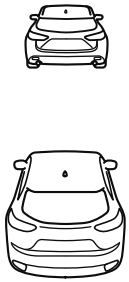
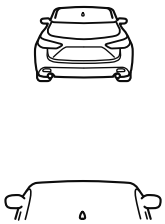
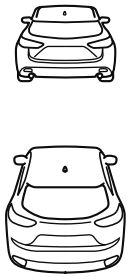
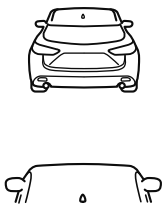
メーター (タイプB)

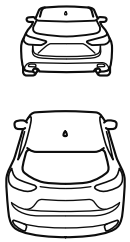
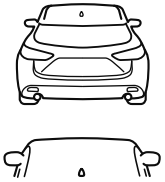
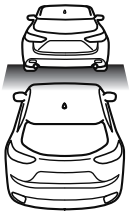
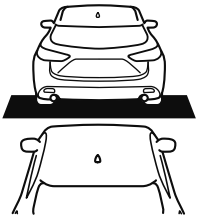


知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、車間認知支援システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたときは車間認知支援システムは作動可能な状態になります。

車間表示の目安[*1]

ディスプレイ表示		車間距離の目安 (約 40 km/h 走行時)	車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)
メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)		
		約 25 m	約 50 m
		約 20 m	約 40 m
		約 15 m	約 30 m

ディスプレイ表示		車間距離の目安 (約 40 km/h 走行時)	車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)
メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)		
		約 10 m	約 20 m
 (前方車と自車表示の間が橙色で点灯*2)	 (前方車と自車表示の間が橙色で点灯*2)	約 10 m 以下	約 20 m 以下

*1 車間距離は車速によって異なります。

*2 前方車に近づきすぎた場合にお知らせする距離を、「近い」に設定したときの表示です。

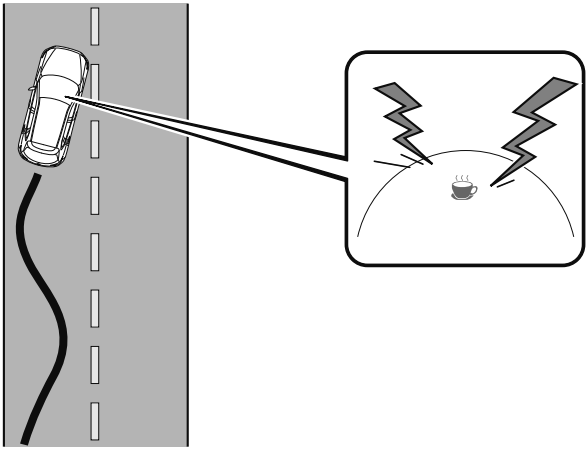
知識

ディスプレイ表示の前方車表示が点滅または点灯する車間距離を変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

ドライバー･アテンション･アラート (DAA) とは

グレード/仕様別装備

DAA は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者に休憩を促すシステムです。
DAA は、車線内を車速が約 65 km/h 以上で走行しているとき、フォワードセンシングカメラ (FSC) や各種車両情報から運転者の疲労増加や注意力低下を推定して、マルチインフォメーションディスプレイの表示、警報チャイムにより運転者へ休憩を促します。
DAA は高速道路や自動車専用道路などで使用してください。
→407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠警告

DAA を過信せず安全運転に心がける。

必ず守る **DAA は、運転者の疲労や注意力の低下を検知し、運転者へ休憩を促すシステムです。ふらつきを防止するものではないため、過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し、適切にハンドルを操作してください。**
また、道路状況や走行状況等によっては、運転者の疲労や注意力の低下を適切に検知出来ない場合があります。運転者は十分に休憩を取り、安全運転に心がけてください。

知識

- DAA は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。
  - 車速が約 65 km/h 以上のとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
  - 運転者の走行データ学習が完了したとき
- DAA は、次のときには作動しません。
  - 車速が約 65 km/h を下回ったとき
  - 車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  - 急カーブを走行しているとき
  - 車線変更したとき
- DAA は、次のときには正常に作動しない場合があります。
  - 車線の白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき
  - スポーティーな走行をしているとき
  - 頻繁に車線変更を行っているとき
- DAA は、車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに、運転者の疲労や注意力の低下を検知しています。次のときは学習した走行データがリセットされます。
  - 15 分以上停車したとき
  - 車速が約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
  - 電源ポジションを OFF にしたとき
- DAA は、一度休憩を促すと、45 分間は次回休憩をお知らせしません。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 表示 (白)

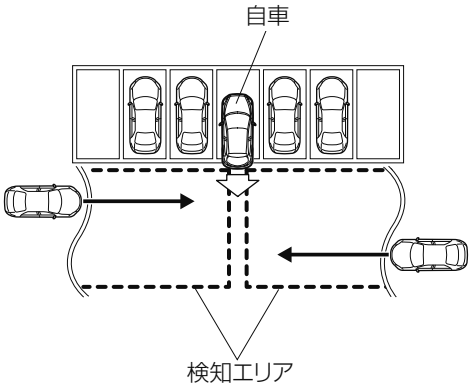
休憩をおすすめします	運転者の疲労や注意力の低下を検知すると、警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドライバー・アテンション・アラート (DAA) を停止させるには

DAA を作動しないようにできます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは

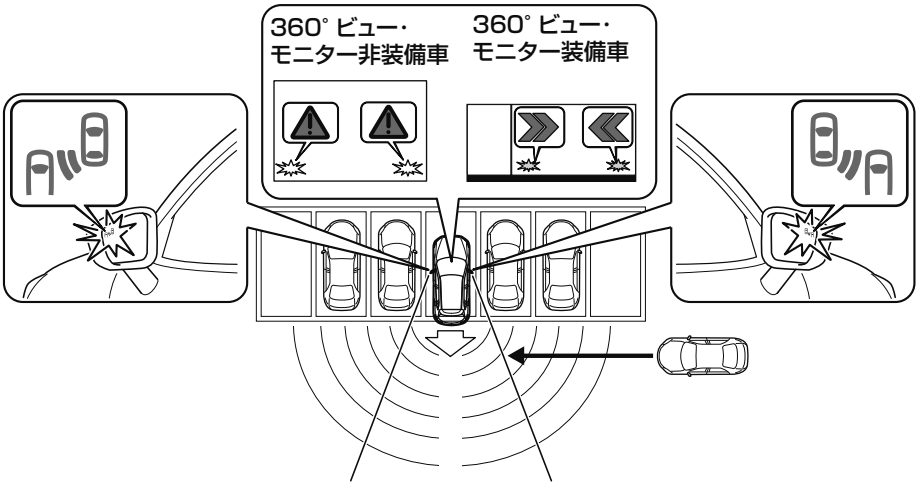
RCTA は、自車の後方に接近する車両の存在を知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
RCTA は、駐車場などから後退するときに自車の左右および後方に接近した車両を検知して、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅、および警報チャイムにより運転者に危険を知らせます。



RCTA 作動

1. チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にすると、RCTA が作動します。

2. 車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、360°ビュー・モニター (360°ビュー・モニター装備車)/バックガイドモニター (360°ビュー・モニター非装備車) に警告が表示され、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅、同時に警報チャイムが鳴ります。



⚠ 警告

実際の車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認する。

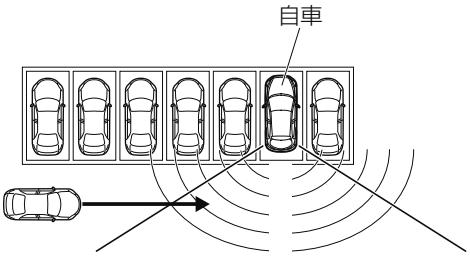
必ず守る **本システムは車両後退時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でもブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。**

知識

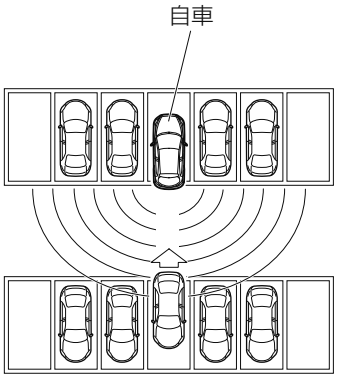
- 次の場合、システムはブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯を点灯させ、システムの作動を停止します。ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯 が点灯し続ける場合は速やかにマツダ販売店で点検を受けてください。
  - ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯を含むシステムに何らかの異常が認められるとき
  - レーダーセンサー (リア) の車両への搭載位置に大きなズレが生じたとき
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー上に雪や氷などが多量についたとき
  - 雪道を長時間走行したとき
  - 夏場に上り坂を長時間走行するなどレーダー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が下がっているとき

知識

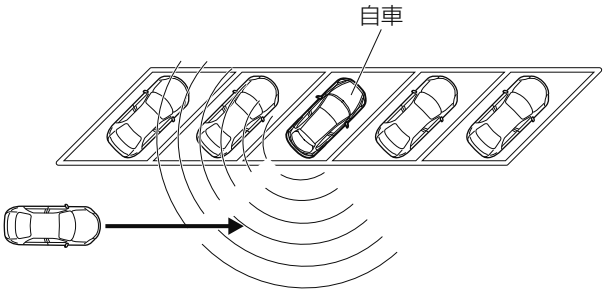
- 次の場合、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 後退時の車速が約 10 km/h 以上のとき
  - 隣接した壁や駐車車両によりレーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられているとき (レーダーセンサー (リア) の検知エリアが妨げられない位置まで、自車を後退させてください。)



  - 自車の真後ろから車両が接近してきたとき



  - 車両が斜めに駐車されているとき



知識

- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を作動可能な状態にした直後
- 隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき

- 次のような場合は、ドアミラーに取り付けられているブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯の点灯/点滅が見えにくいことがあります。
  - ドアミラーに氷や雪が付着しているとき
  - フロント窓ガラスに曇りや雪、汚れ、霜が付着しているとき
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、RCTA を解除してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。

マツダレーダークルーズコントロール (MRCC) とは

グレード/仕様別装備

MRCC は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
MRCC は高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車専用道路などで使用してください。
MRCC を使用するときは、使用前に次の記載もあわせてお読みください。

- 413 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」

警告

禁止

MRCC を過信しない
MRCC は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

⚠警告

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない

- **自動車専用道路以外の一般道 (道路状況に合わせた走行はできません。)**
- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路 (道路状況に合わせた走行はできません。)**
- **高速道路などでインターチェンジ·サービスエリア·パーキングエリアへ進入するなど本線から出るとき (本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。)**
- **凍結路や積雪路などの滑りやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります。)**
- **長い下り坂 (車間距離を保つため MRCC 制御によるブレーキが作動し続け、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。)**

MRCC を使用しないときは、安全のため MRCC を OFF にする

⚠注意

けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動させないよう、システムを OFF にしてください。

知識

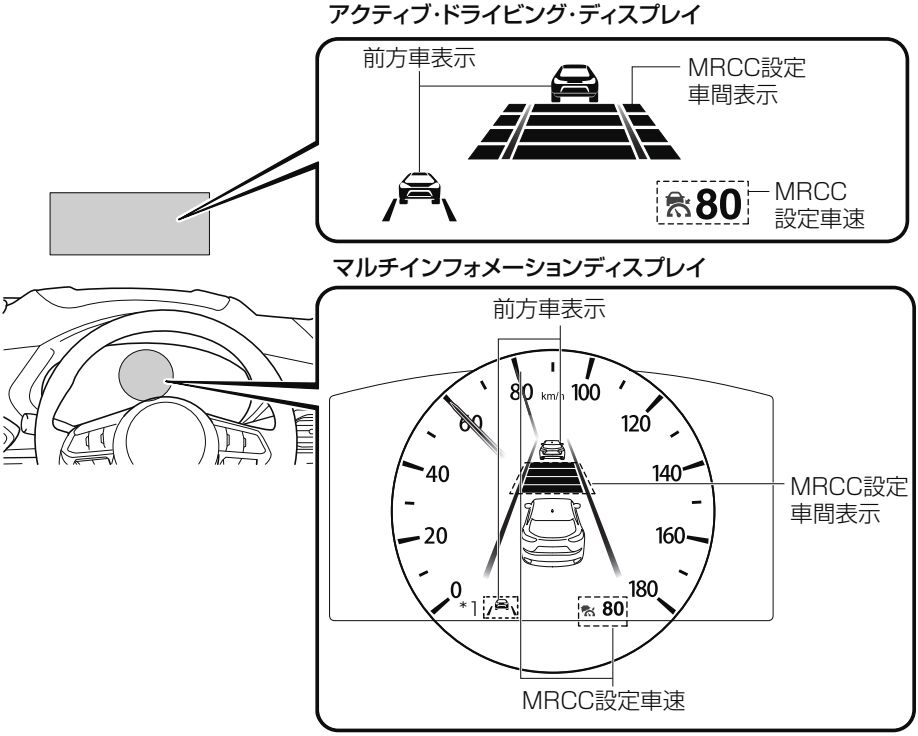
- MRCC は次のすべての条件を満たしているときに作動できます。
  - 車速が約 30 km/h 以上のとき
  - MRCC が ON のとき
  - ブレーキペダルを踏んでいないとき
  - 電動パーキングブレーキ (EPB) が解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
  - DSC が正常に作動できる状態のとき
  - すべてのドアが閉まっているとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - チェンジレバーが R、N 以外のとき
  - クラッチペダルを踏んでいないとき

知識

- 次のときは、前方車と接近したときでも、警報や MRCC 制御によるブレーキが作動しない場合があります。
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - MRCC をセットした直後
  - アクセルペダルを踏んでいるとき、またはアクセルペダルを離した直後
  - 他車が割り込んだとき
- 次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
  - 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 追従走行をするときはバイク、自転車等の 2 輪車を前方車として設定しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行ないますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行なってください。
- MRCC を使用して走行しているときは、チェンジレバーを操作しても MRCC が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- MRCC 制御によるブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- MRCC 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中はブレーキランプが点灯しないときがあります。
- 追従走行を解除し、定速走行のみを作動するように切り替えることができます。→307 ページ「定速走行機能」

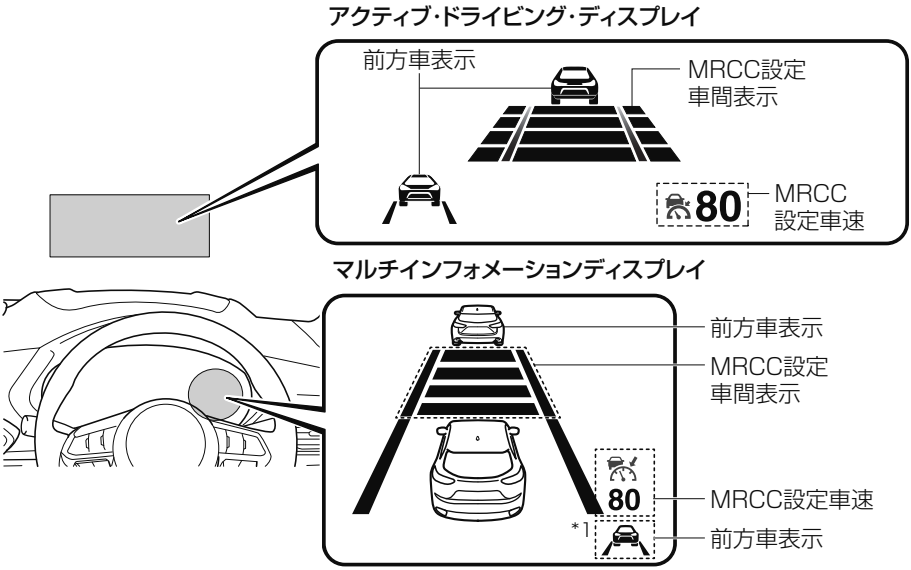
マツダレーダークルーズコントロール (MRCC) ディスプレイ表示

MRCC の設定状況および作動状態をマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。
メーター (タイプ A)



*1: 基本画面のときに表示されます。

メーター (タイプ B)



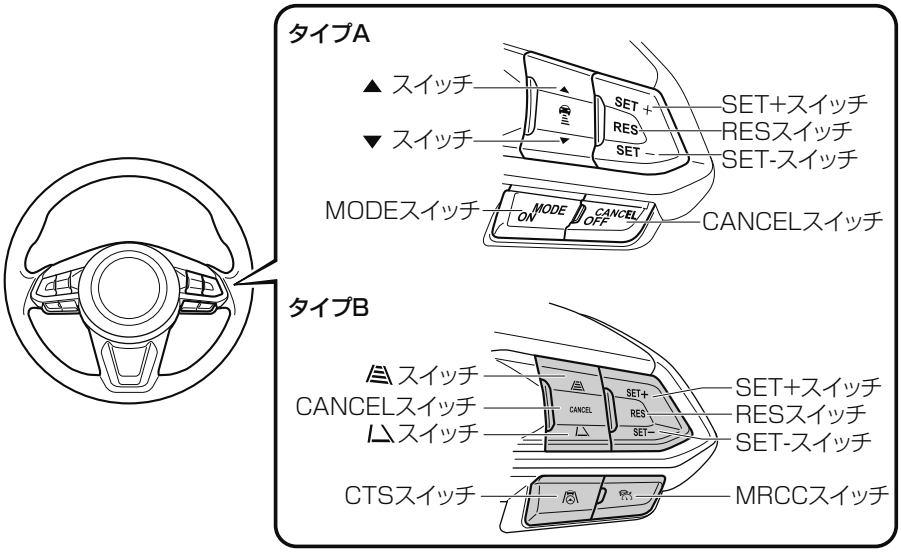
*1: 基本画面のときに表示されます。

接近警報

ブレーキ！

追従走行時に前方車が急制動を行ったときなど前方車に接近したときは、警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

設定するとき

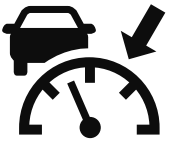


ハンドル (A タイプ)
MODE スイッチを 1 回押すと MRCC が ON になり、MRCC メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。
ハンドル (B タイプ)
MRCC スイッチを 1 回押すと MRCC が ON になり、MRCC メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

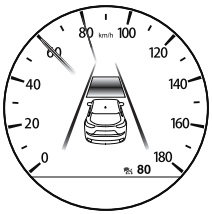
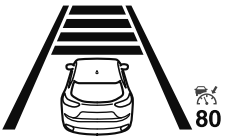
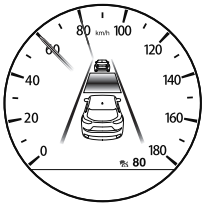
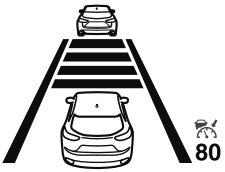
知識

- MRCC を ON にしたまま電源ポジションを ACC または OFF にしたとき、MRCC は自動的に OFF になります。
- 定速走行機能のみが作動するように切り替えることができます。
→307 ページ「定速走行機能」

速度を設定するとき



1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調節します。
2. SET+または SET-スイッチを押すと定速走行をはじめます。マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイに設定速度が表示され、MRCC 作動状態表示が白色から緑色に、車間表示の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時に MRCC 表示 (緑) が表示され、チャイムが 1 回鳴ります。

走行状態	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
定速走行時			80
追従走行時			80

知識

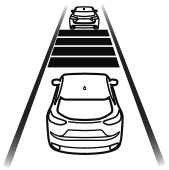
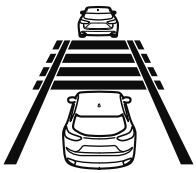
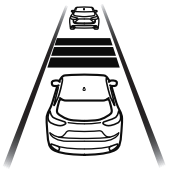
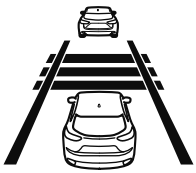
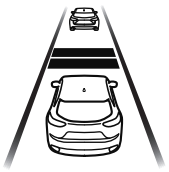
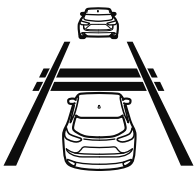
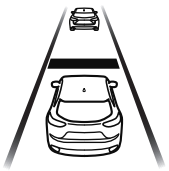
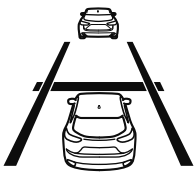
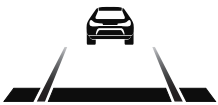
- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行います。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- 設定速度より速い速度で走行している車両を前方車としての追従走行はできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。

知識

- ディスプレイの車間距離表示が白線表示のとき、SET+または SET-スイッチを押すとチャイムが 3 回鳴る場合があります。そのときは速度が設定できないことをお知らせしています。

追従走行時の車間距離を設定するとき

ハンドル (A タイプ)
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
▼スイッチを押すことにより車間距離を短く設定し、▲スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。
ハンドル (B タイプ)
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
⩓スイッチを押すことにより車間距離を短く設定し、⩔スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
長 (約 50 m)			
中 (約 40 m)			
短 (約 30 m)			
極短 (約 20 m)			

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更するとき

スイッチで加速するとき

SET+スイッチを押したまま設定車速を変更すると、10 km/h ずつ調整することができます。
また SET+スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET+スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がります。

スイッチで減速するとき

SET-スイッチを押したまま設定車速を変更すると、10 km/h ずつ調整することができます。
また SET-スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度を 5 km/h ずつ調節することができます。
たとえば、SET-スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、SET+スイッチまたは SET-スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- 追従走行中に SET+スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速しません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離表示は白線表示になります。
- 設定速度の下限は 30 km/h です。スイッチ操作で設定速度が 30 km/h になったときは、SET-スイッチを押しても約 30 km/h の定速走行を行います。このとき MRCC は解除されません。

解除するとき

CANCEL スイッチを 2 回押すと、MRCC が解除されます。

一時的に解除されるとき

次のようなときは MRCC が一時的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイ内の MRCC 作動状態表示が緑色から白色に変わります。

- CANCEL スイッチを 1 回押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキがかかったとき
- チェンジレバーが R になったとき

次のようなときは、MRCC キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

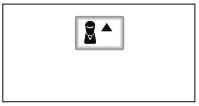
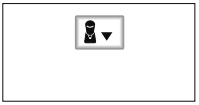
- 車速が 25 km/h 以下になったとき
- DSC が作動したとき
- TCS が一定時間作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき
- クラッチペダルを一定時間踏んだとき
- エンストしたとき

知識

- 雨・霧・雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたときも MRCC が解除される場合があります。
- MRCC が一時的に解除されたときは、再度作動条件をすべて満たしているとき、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。
- CANCEL スイッチを押して MRCC を解除したときは、RES スイッチを押しても、もとの設定速度にもどりません。

シフトアップ/シフトダウン要求表示について

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要表示が表示されることがあります。このときは、ギアの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
シフトアップ	 シフトアップ	
シフトダウン	 シフトダウン	

知識

- シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンジンを損傷するおそれがあります。
- シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときはマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) が自動的に解除される、または、エンストすることがあります。

マツダレーダークルーズコントロール (MRCC) 警報

システムの故障や、使用上の注意が必要なときは MRCC 警報でお知らせします。チャイムによって確認してください。

警報	確認すること
MRCC を設定するときに、チャイムが 3 回鳴るとき	車速が低すぎるなど、MRCC が作動可能な条件を満たしていません。
MRCC 作動時に、チャイムが 1 回鳴るとき	車速が 25 km/h 以下になるなどで、MRCC が解除されています。
走行中にチャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。

警報	確認すること
MRCC 作動時に、チャイムとメーター内の MRCC 警告表示 (橙) が表示されるとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

定速走行機能

追従走行を解除し、定速走行のみを作動するようにする機能です 。
車速を約 30～100 km/h の間に設定できます。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

次のような場所では使用しない。

禁止

思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、設定速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

安全運転に心がける

必ず守る

定速走行機能使用中は追従走行を行わないため、警報やブレーキ制御が作動しません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、前方車との車間距離を十分に確保し、安全運転を心がけてください。

定速走行機能に切り替えるとき

ハンドル (A タイプ)
MRCC を ON にした状態で、メーター内のクルーズメイン表示 (白) が表示されるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。また、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ハンドル (B タイプ)
マツダコネクトを使用して定速走行機能に切り替えます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

⚠ 警告

定速走行機能を使用しないときは、必ず OFF にする。

必ず守る **常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

速度を設定するとき

アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
SET+または SET-スイッチを押すと定速走行をはじめます。
同時にマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイにクルーズコントロール表示 (緑) が表示されます。

知識

- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET+スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET-スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき

SET+スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところで SET+または SET-スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

SET-スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき

CANCEL スイッチで解除する

CANCEL スイッチを 1 回押すと、定速走行機能が解除されます。

MODE スイッチで解除する (ハンドル (A タイプ))

MODE スイッチを押すと定速走行機能が解除され、追従走行が可能な状態に切り替わります。

マツダコネクトで解除する (ハンドル (B タイプ))

マツダコネクトを使用して、追従走行が可能な状態に切り替えます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
次のようなときは、定速走行機能が自動的に解除されます。車速が 30 km/h 以上であれば、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- CANCEL スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- クラッチペダルを踏んだとき。
- チェンジレバーをニュートラルの位置にしたとき

知識

- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、定速走行機能が解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、定速走行機能が解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。定速走行機能を設定しなおしてください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) とは グレード/仕様別装備

MRCC (全車速追従機能付) は、レーダーセンサー (フロント) が前方車を検知することで、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度での定速走行や、前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つ追従走行ができるシステムです。
また、追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
前方車に追従して停車したときは、停車状態を保持 (停車保持制御) し、運転者が RES スイッチを押すなどの発進操作を行うと、追従走行を再開します。
MRCC (全車速追従機能付) を使用するときは、使用前に次の記載もあわせてお読みください。

- 150 ページ「i-stop について」
- 230 ページ「オートホールド」
- 407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」
- 413 ページ「レーダーセンサー (フロント) について」

⚠警告

MRCC（全車速追従機能付）を過信しない
MRCC（全車速追従機能付）は運転者の負担を軽減するために、走行速度を一定に保つ、あるいは、前方車を検知して前方車との車間距離を車速に応じて一定に保つシステムですが、前方車の種類や状態、天候状況、道路状況等によっては前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保し、安全運転に心がけてください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しない

- **自動車専用道路以外の一般道（道路状況に合わせた走行はできません。）**
- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路（道路状況に合わせた走行はできません。）**
- **高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに侵入するなど本線から出るとき（本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。）**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面（タイヤが空転して、車のコントロールを失ったり、停車保持制御が作動しないおそれがあります。）**
- **長い下り坂（車間距離を保つため MRCC（全車速追従機能付）制御によるブレーキが作動し続け、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。）**
- **勾配が急な坂（前方車を正しく検知できなかったり、停車保持制御中に車両がずり下がったり、発進時に飛び出すおそれがあります。）**

MRCC（全車速追従機能付）を使用しないときは、安全のため MRCC（全車速追従機能付）を OFF にする

停止保持制御中に車両から離れない
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、MRCC（全車速追従機能付）を OFF にして、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P の位置にしてください。

⚠注意

けん引されるとき、または、他の車をけん引するときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

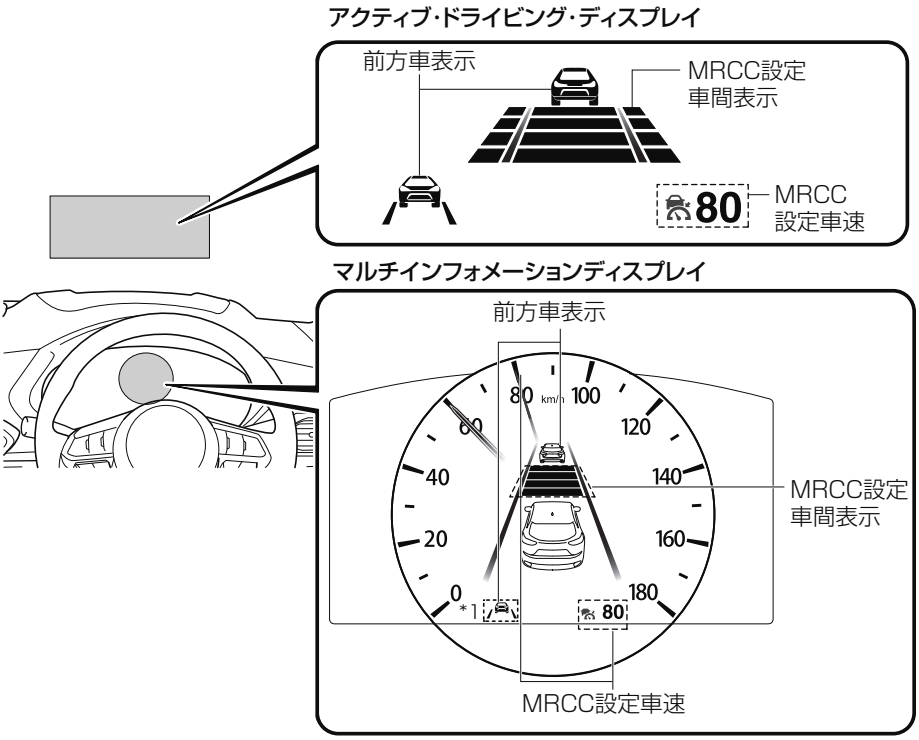
シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動させないよう、システムを OFF にしてください。

知識

- MRCC (全車速追従機能付) は、次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
  - 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 追従走行をするときは、バイク、自転車等の２輪車を前方車として設定しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、MRCC (全車速追従機能付) を使用しないでください。
- 追従走行時は前方車の速度にあわせて加速や減速を行いますが、車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行ってください。
- MRCC (全車速追従機能付) を使用して走行しているときは、セレクトレバーを操作しても MRCC (全車速追従機能付) が解除されないため、意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- MRCC (全車速追従機能付) 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中は、ブレーキランプが点灯しないときがあります。

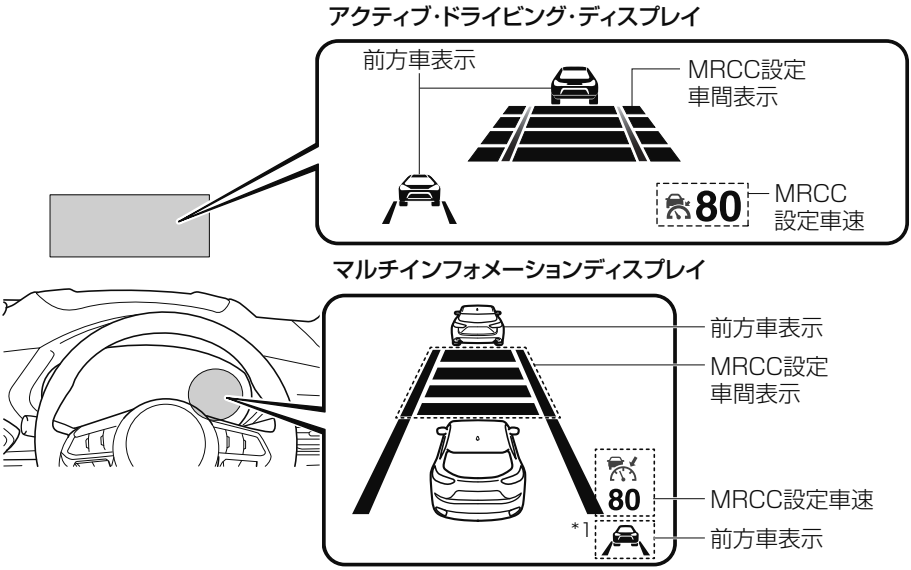
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) ディスプレイ表示

MRCC (全車速追従機能付) の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。
メーター (タイプ A)



*1: 基本画面のときに表示されます。

メーター (タイプ B)



*1: 基本画面のときに表示されます。

MRCC (全車速追従機能付) が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容をセンターディスプレイで確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。
→601 ページ「センターディスプレイにメッセージが表示されたときは」

接近警報

ブレーキ！

追従走行時に前方車が急制動を行なったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

知識

次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。

- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- MRCC (全車速追従機能付) をセットした直後
- アクセルペダルを離した直後
- 他の車が割り込んできたとき

設定するとき

MRCC (全車速追従機能付) は、次のすべての条件を満たしているときに作動します。

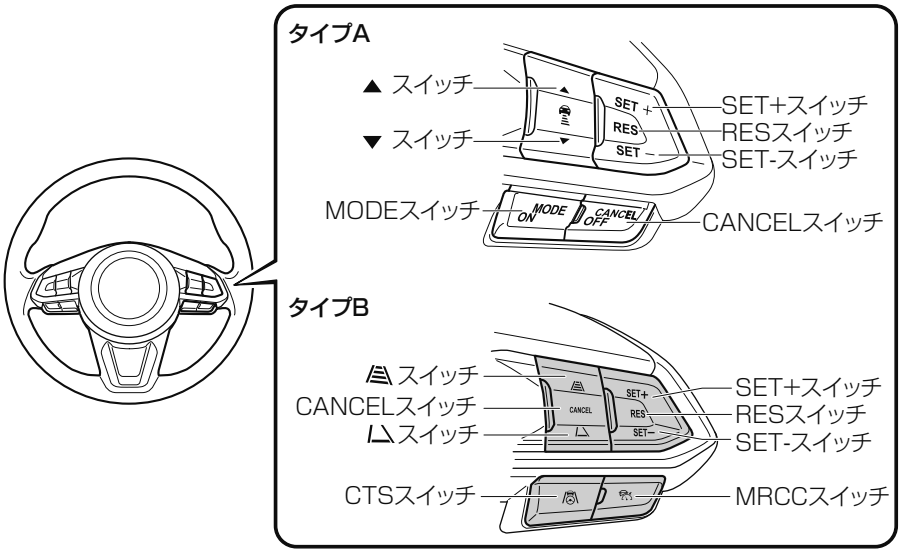
- MRCC (全車速追従機能付) が ON のとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
- DSC が故障していないとき
- 全てのドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき

知識

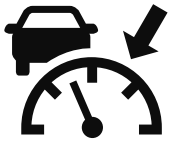
- 次の場合、30 km/h 以下のときは MRCC (全車速追従機能付) が使用できません。また、マルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに「30km/h 以下の制御できません」とメッセージが表示されます。
  - フォワードセンシングカメラが対象物を検知できなくなったとき (故障やフロントガラスが汚れたとき)
  - 停車保持制御の機能が故障したとき
  - 電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき

知識

- エンジン始動直後は、DSC の作動チェックのため、MRCC (全車速追従機能付) がセットできないときがあります。



ON する


(白)

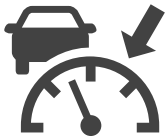
ハンドル (A タイプ)
MODE スイッチを 1 回押すと MRCC (全車速追従機能付) が ON になり、MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC (全車速追従機能付) ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

ハンドル (B タイプ)
MRCC スイッチを 1 回押すと MRCC (全車速追従機能付) が ON になり、MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白) が点灯し、速度の設定や追従走行時の車間距離の設定ができる状態になります。
また同時に、MRCC (全車速追従機能付) ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイ、およびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに表示されます。

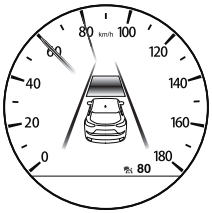
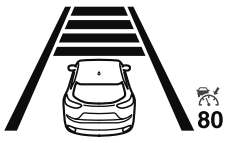
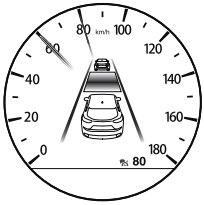
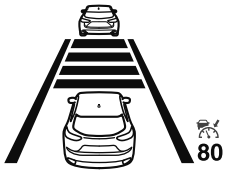
知識

- MRCC (全車速追従機能付) を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、MRCC (全車速追従機能付) は自動的に OFF になります
- 定速走行機能のみが作動するように切り替えることができます。
→323 ページ「定速走行機能」

速度を設定する


(緑)

1. アクセルペダルの操作で設定したい速度に調整します。
2. SET+または SET-スイッチを押すと定速走行をはじめます。ディスプレイに設定速度が表示され、車間距離の白線表示が白色の塗りつぶし表示に変わります。同時に MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白色) から MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) に変わり、チャイムが 1 回鳴ります。

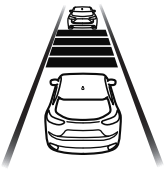
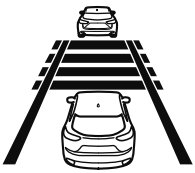
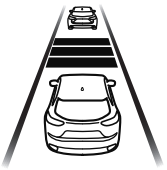
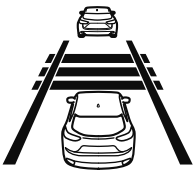
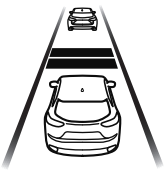
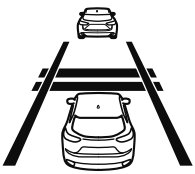
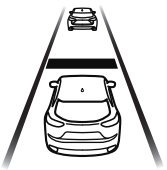
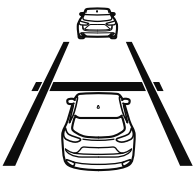
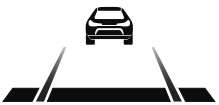
走行状態	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
定速走行時			80
追従走行時			80

知識

- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行います。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- MRCC (全車速追従機能付) の設定速度の下限は 30 km/h です。
- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。

追従走行時の車間距離を設定する

ハンドル (A タイプ)
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
▼スイッチを押すことにより車間距離を短く設定し、▲スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。
ハンドル (B タイプ)
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
⩓スイッチを押すことにより車間距離を短く設定し、⩔スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ[*1]
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
長 (約 50 m)			
中 (約 40 m)			
短 (約 30 m)			
極短 (約 25 m)			

*1 運転者がスイッチ操作をしたときのみ、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにポップアップ表示されます。

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更する

スイッチで加速/減速するとき

SET+スイッチを押すと加速し、SET-スイッチを押すと減速します。

- 短押し：5 km/h
- 長押し：10 km/h

知識

たとえば SET スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がり、または下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET+スイッチまたは SET-スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

⚠ 注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- 停車保持制御中に SET+スイッチまたは SET-スイッチを操作すると、設定速度を変更することができます。
- 追従走行中に SET+スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速はしません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離の白線表示が白抜き表示になります。

一時的に解除されるとき

次の操作をおこなうと、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除され、同時に MRCC (全車速追従機能付) セット表示 (緑色) から MRCC (全車速追従機能付) メイン表示 (白色) に変わります。

- CANCEL スイッチを 1 回押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- セレクトレバーが P、N または R レンジになったとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき

次のようなときは、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

- DSC が作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- 停車保持制御中に自動でパーキングブレーキがかかったとき
- レーダーセンサー (フロント) が対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)

制御を再開するとき

MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても、作動しません。

OFF する

MRCC (全車速追従機能付) が作動中に、CANCEL スイッチを 2 回押すと、MRCC (全車速追従機能付) が OFF になります。

停車保持制御

MRCC (全車速追従機能付) で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、MRCC (全車速追従機能付) 表示灯が点灯します。

知識

- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、停車状態は維持されます。次の操作を行うことで、停車保持制御を解除できます。
  - アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させる。
  - ブレーキを強く踏みながら、MRCC (全車速追従機能付) を OFF する。
- 停車保持制御が 10 分以上経過した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、MRCC (全車速追従機能付) は一時的に解除されます。
- 停車保持制御中、i-stop の作動条件を満たしている場合は、ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。
  →150 ページ「i-stop について」
- 停車保持制御中は、ブレーキランプが点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に、前方車が発進した後、RES スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

知識

- RES スイッチで再発進するときは、前方車との車間距離が規定値以上開かないと発進しません。
- i-stop が作動している場合、再発進操作を行うと、自動でエンジンが再始動します。
- 停車保持制御中に、MRCC (全車速追従機能付) が一時的に解除された場合、前方車がいないときは RES スイッチでは再発進できません。アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させてください。
- 停車保持制御で停車後、前方車が 3 秒以内に発進した場合は、運転者がアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

停車保持制御中に、前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行わないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅し、運転者に発進を促します。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警報

システムの故障や使用上の注意が必要なときは MRCC (全車速追従機能付) 警報でお知らせします。チャイムによって確認してください。

警報	確認すること
MRCC (全車速追従機能付) を設定するときに、チャイムが 3 回鳴るとき	MRCC (全車速追従機能付) が作動可能な条件を満たしていません。
MRCC (全車速追従機能付) 作動時に、チャイムが 1 回鳴るとき	MRCC (全車速追従機能付) が解除されています。
走行中にチャイムが断続的に鳴るとき	前方車との車間距離が近すぎます。周囲の安全を確認し、減速してください。
MRCC (全車速追従機能付) 作動時に、チャイムとメーター内の MRCC (全車速追従機能付) 警告表示 (橙) が表示されるとき	システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

定速走行機能

追従走行を解除し、定速走行のみを作動するようにする機能です 。
車速を約 30～100 km/h の間に設定できます。
高速道路、加速/減速の繰り返しが少ない自動車道などで使用してください。

⚠警告

次のような場所では使用しない。

禁止 **思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路 (道路状況に合わせた走行はできません)**
- **急な下り坂 (エンジンブレーキが十分に効かず、設定速度をこえることがあります)**
- **凍結路や積雪路などのすべりやすい路面 (タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります)**

安全運転に心がける

必ず守る **定速走行機能使用中は追従走行を行わないため、警報やブレーキ制御が作動しません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、前方車との車間距離を十分に確保し、安全運転を心がけてください。**

定速走行機能に切り替えるとき

ハンドル (A タイプ)
MRCC (全車速追従機能付) を ON にした状態で、メーター内のクルーズメイン表示 (白) が表示されるまで MODE スイッチを押すと、定速走行機能に切り替わります。また、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ハンドル (B タイプ)
マツダコネクトを使用して定速走行機能に切り替えます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

⚠警告

定速走行機能を使用しないときは、必ず OFF にする。

必ず守る **常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

速度を設定するとき

アクセルペダルの操作で希望の速度に調節します。
SET+または SET-スイッチを押すと定速走行をはじめます。
同時にメーター内のクルーズコントロール表示 (緑) が表示されます。

知識

- 急な上り坂または下り坂など、走行条件によっては設定速度を一定に保てない場合があります。
- SET+スイッチを押したままにすると加速をはじめます。SET-スイッチを押したままにすると減速をはじめます。

設定速度を上げるとき

次の操作で設定速度を上げることができます。

スイッチで加速するとき

SET+スイッチを押したまま、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 上がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏み、希望の速度になったところで SET+または SET-スイッチを押します。
スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を離すと、もとの設定速度にもどります。

設定速度を下げるとき

SET-スイッチを押し続け、希望の速度になったところで手を離します。
スイッチを押してすぐに手を離すと、設定速度の調節 (約 1 km/h) ができます。たとえば、スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 4 km/h 下がります。

解除するとき

CANCEL スイッチで解除する

CANCEL スイッチを 1 回押すと、定速走行機能が解除されます。

MODE スイッチで解除する (ハンドル (A タイプ))

MODE スイッチを押すと定速走行機能が解除され、追従走行が可能な状態に切り替わります。

マツダコネクトで解除する (ハンドル (B タイプ))

マツダコネクトを使用して、追従走行が可能な状態に切り替えます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
次のようなときは、定速走行機能が自動的に解除されます。車速が 30 km/h 以上であれば、RES スイッチを押すと、もとの設定速度にもどります。

- CANCEL スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき

- セレクトレバーを N または P レンジにしたとき

知識

- 設定速度より、約 15 km/h 以上下がったとき、定速走行機能が解除されることがあります。
- 車速が 30 km/h 未満になると、定速走行機能が解除されます。この場合、車速を 30 km/h 以上にして RES スイッチを押しても、もとの設定速度にはもどりません。定速走行機能を設定しなおしてください。

クルージング&トラフィック・サポート (CTS) とは

グレード/仕様別装備

CTS は、高速道路や自動車専用道路で渋滞したときに運転疲労を軽減するための追従走行機能とステアリングアシスト機能で構成されているシステムです。
このシステムは、運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度で前方車との車間距離を一定に保つ追従走行を行ないます。さらに、ステアリングアシスト機能では、車線を検知している場合は、車線に沿った走行をアシストし、車線を検知していない場合は、前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。

警告

禁止

CTS を過信しない。
CTS は、自動運転システムではありません。そのため、機能には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
道路状況、環境に応じて制限速度内に車速を設定してください。
CTS は前方車の種類や状態、天候状況、道路状況などによって前方車を検知できないことがあります。また、前方車が急ブレーキをかけたとき、他車が割り込んだとき、前方車と速度差が大きいときなどは十分な減速ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保し、安全運転に心がけてください。

i-ACTIVSENSE について

⚠警告

禁止

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では使用しない。

- **高速道路や自動車専用道路以外の一般道（道路状況にあわせた走行はできません。）**
- **急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分にとれない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路（道路状況にあわせた走行はできません。）**
- **高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど本線から出るとき（本線上で追従走行していたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。）**
- **凍結路、積雪路、未舗装路などのすべりやすい路面（タイヤが空転して、車のコントロールを失うおそれがあります。）**
- **長い下り坂（車間距離を保つため CTS 制御によるブレーキが作動し続け、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。）**
- **前方にバイク、自転車などの二輪車がいるとき**
- **（オートマチック車）**
  勾配が急な坂（前方車を正しく検知できなかったり、停車保持制御中に車両がずり下がったり、発進時に飛び出すおそれがあります。）
- **悪天候のとき（雨、霧、雪のときなど）**
- **応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき**
- **十分な溝がないタイヤを使用しているとき**
- **タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき**
- **キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき**
- **タイヤチェーンを装着しているとき**
- **白線（黄線）の整備された高速道路、自動車専用道路以外を走行するとき**

必ず守る

CTS を使用しないときは、安全のため CTS を OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤って CTS を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

停止保持制御中に車両から離れない。（オートマチック車）
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、CTS を OFF にして、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P の位置にしてください。

⚠注意

CTS を正常に作動させるために次の点をお守りください。

必ず守る

- **シャシーローラーを使用するときは、シャシーローラー上を走行中に誤って作動しないよう、システムを OFF にしてください。**
- **サスペンションの改造を行なわないでください。**
- **前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換など行なうときは、マツダ販売店に相談してください。**

知識

- 追従走行は、次の対象物については、対象物として検知しません。
  - 対向車両
  - 歩行者
  - 静止物 (停車車両、障害物等)
- 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないときがあります。
- 前方に地上から低い位置にある道路構造物や障害物 (モノレールなど) があるときは、システムが作動する場合がありますので、CTS を使用しないでください。
- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、CTS を使用しないでください。
- 車線変更などで加速が必要なときや、前方車の急ブレーキなどで急接近したときは、状況に応じてアクセルペダルで加速、ブレーキペダルで減速を行なってください。
- CTS 機能を使用して走行しているときは、チェンジレバー/セレクトレバーを操作しても意図したエンジンブレーキがかかりません。減速が必要なときは、設定速度を下げるか、ブレーキペダルを踏んでください。
- CTS 制御によるブレーキ作動中は作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- CTS 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中は、ブレーキランプが点灯しないときがあります。

i-ACTIVSENSE について

知識

- 次のようなときは、車線の白線 (黄線) や先行車を正しく検知することができず、CTS が正常に作動しない場合があります。
  - 汚れや曇りなどでフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方を認識できないとき
  - 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) や先行車が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れたりしているとき)
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
  - 前方車が白線(黄線)の近くを走行していて、白線(黄線)が見えにくいとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - 交差点や合流地点、分岐路などを走行するとき
  - 道路状況や天候などで車線の白線 (黄線) を検知できないとき
  - トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変わるとき
  - 夜間、ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱い時や光軸がずれているとき
  - 逆光や雨あがりなどで路面が光っているとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いとき、または広いとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 交差点付近にさまざまな路面表示やさまざまな形状の区画線 (レーンマーカ) があるとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方の汚れまたは視界をさまたげるようなものを取り付けたとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 夕方、朝方など、薄暗いとき
  - 前方車が特殊なテールランプ形状のとき
  - 前方車が自車の中心から大きくはずれて走行しているとき
  - 前方車が蛇行しているとき
  - 急カーブのとき

追従走行機能

定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。

ステアリングアシスト機能

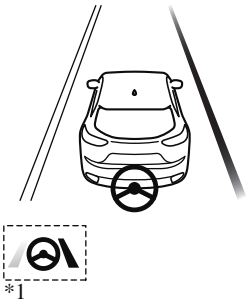
車線を検知している場合は車線に沿った走行をアシストし、車線を検知していない場合は前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。

知識

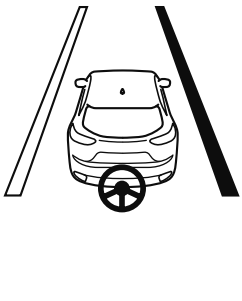
ステアリングアシスト限界警報

ステアリングアシスト機能が作動中に、ステアリングアシスト機能で車線に沿った走行を維持できない場合、運転者にステアリング操作を促すよう警報チャイムが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。

メーター (タイプA)



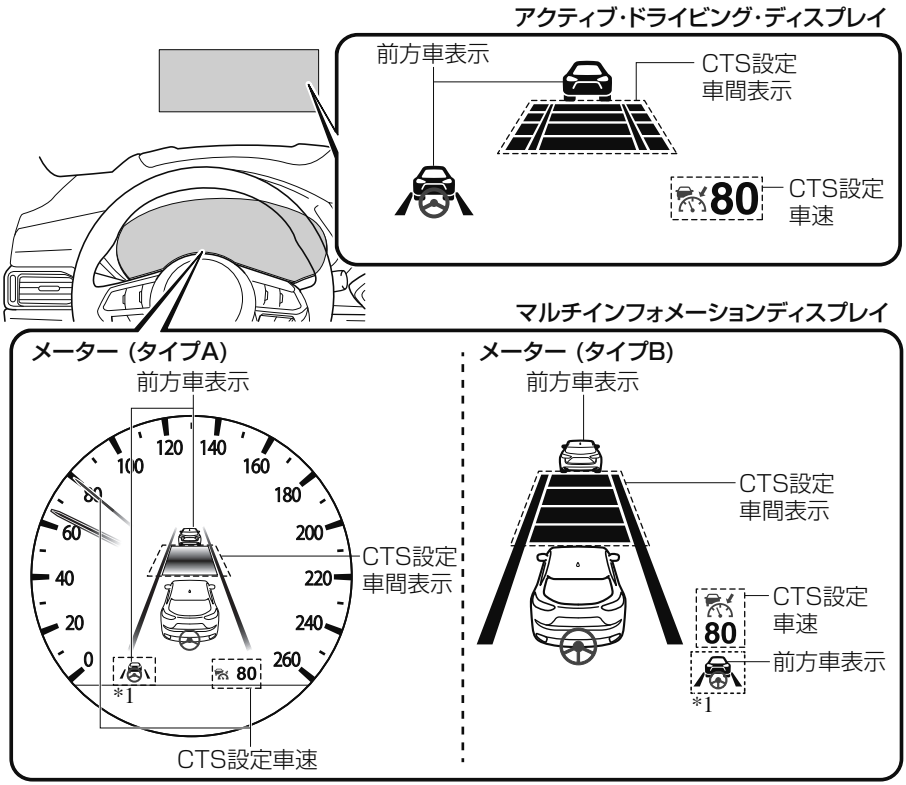
メーター (タイプB)



*1: 基本画面のときに表示されます。

クルージング&トラフィック･サポート (CTS) ディスプレイ表示

CTS の設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。



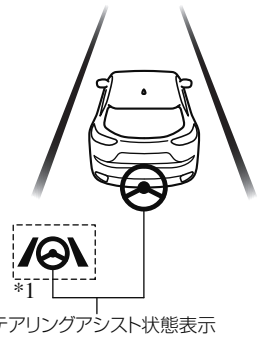
*1: 基本画面のときに表示されます。

ステアリングアシスト機能表示

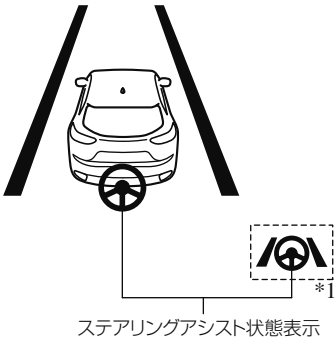
ステアリングアシスト機能が作動すると、ディスプレイのステアリングアシスト状態表示が白色から緑色に変わります。

マルチインフォメーションディスプレイ

メーター (タイプA)

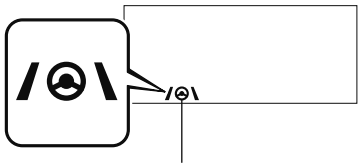


メーター (タイプB)



*1: 基本画面のときに表示されます。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



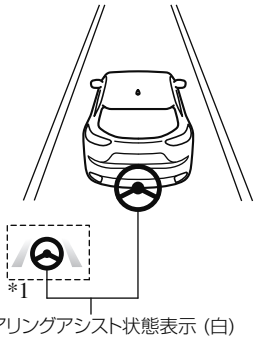
知識

ステアリングアシストが車線または前方車にあわせて制御するかどうかをマルチインフォメーションディスプレイで確認することができます。

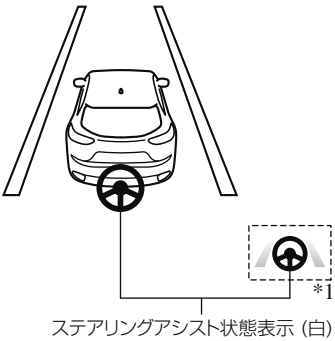
知識

待機状態

メーター (タイプA)



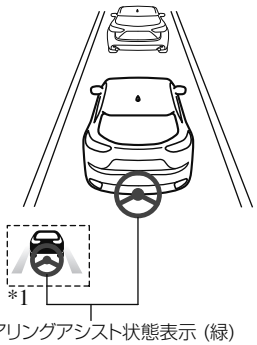
メーター (タイプB)



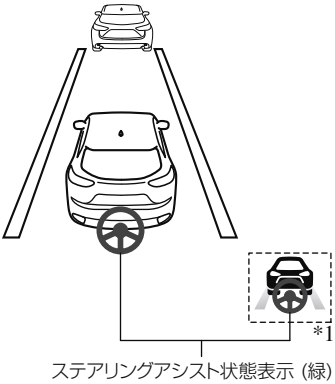
*1: 基本画面のときに表示されます。

作動状態 (前方車)

メーター (タイプA)



メーター (タイプB)

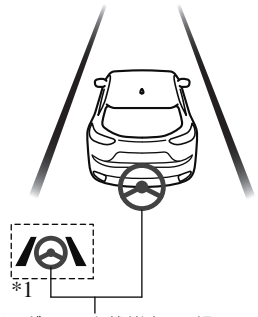


*1: 基本画面のときに表示されます。

知識

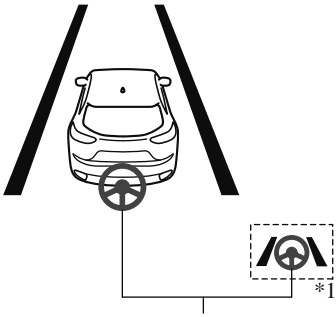
作動状態 (車線)

メーター (タイプA)



ステアリングアシスト状態表示 (緑)

メーター (タイプB)



ステアリングアシスト状態表示 (緑)

*1: 基本画面のときに表示されます。

CTS が故障したときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。故障内容を確認し、マツダ販売店で点検を受けてください。

接近警報

ブレーキ！

追従走行時に前方車が急制動を行なったときなど前方車に接近したときは、警報音が鳴り、ディスプレイにブレーキ警告が表示されます。周囲の安全を確認してブレーキペダルを踏むなど、前方車との車間距離を十分に確保してください。また、後続車との車間距離も確保してください。

知識

次のときは、前方車と接近したときでも、警報やブレーキが作動しない場合があります。

- 前方車と同程度の速度で走行しているとき
- CTS が作動した直後
- アクセルペダルを離した直後
- 他の車が割り込んできたとき

設定するとき

作動条件

追従走行機能

追従走行機能は、次のすべての条件を満たしているときに作動します。

- CTS が ON のとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキが解除されているとき (電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯が消灯しているとき)
- DSC が故障していないとき
- すべてのドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- **(マニュアル車)**
  - マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の追従走行機能を有効にしているとき
  - 車速が約 30 km/h 以上のとき
  - チェンジレバーが R､N 以外のとき
  - クラッチペダルを踏んでいないとき
- **(オートマチック車)**
  - マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) の追従走行機能を有効にしているとき
  - セレクトレバーが D または M (マニュアルモード) のとき

知識

- **(オートマチック車)**
  次の場合､30 km/h 以下のときは CTS が使用できません。
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できなくなったとき (故障やフロントガラスが汚れたとき)
  - 停車保持制御の機能が故障したとき
  - 電動パーキングブレーキ (EPB) が故障したとき
- エンジン始動直後は CTS をセットできないことがあります。

ステアリングアシスト機能

ステアリングアシスト機能は､次のすべての条件を満たしているときに作動します。

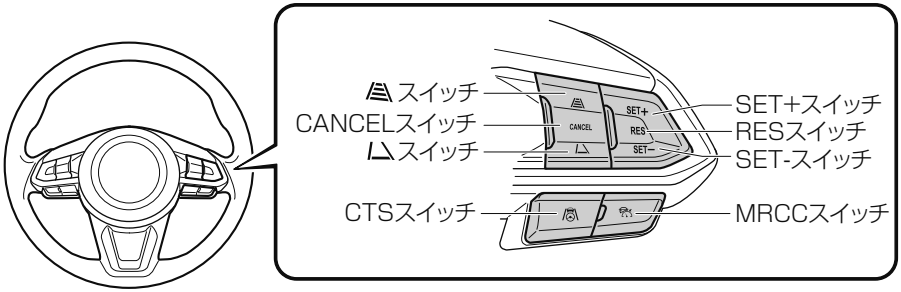
- 両側の白線 (黄線) を安定して検知している状態で車線の中央付近を走行しているとき､または前方車を自車の正面で安定して検知している状態で車速が約 55 km/h 未満のとき
- ハンドルを大きく操作していないとき

- 方向指示器を使用していないとき
- 追従走行機能が作動しているとき
- オフロード･トラクション･アシストが作動していないとき
- マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) でオフロードモードが選択されていないとき

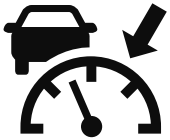
知識

- 前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 55 km/h 以上では作動しません。
- 走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作のアシストを行ないますが、カーブの形状、路面の傾斜や起伏、速度などによっては、中央付近を走行できない場合があります。

設定方法

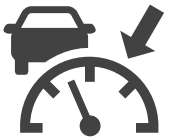


1. CTS スイッチを押すと CTS スタンバイ表示 (白) が点灯します。また同時に、CTS ディスプレイ表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



(白)

2. アクセルペダルの操作で設定したい速度に速度を調整し、SET+スイッチまたは SET-スイッチを押すと定速走行を始めます。
ディスプレイに設定速度が表示されます。同時に CTS スタンバイ表示 (白) が CTS セット表示 (緑) に変わります。



(緑)

3. 追従走行機能の条件をすべて満たすと追従走行が作動可能になります。また、ステアリングアシスト機能の条件をすべて満たすと、ステアリングアシスト機能が作動可能になります。

知識

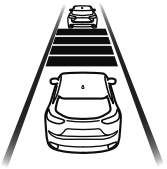
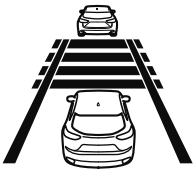
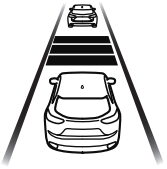
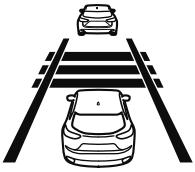
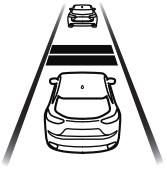
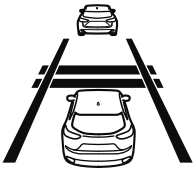
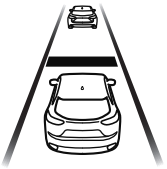
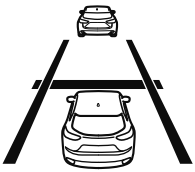
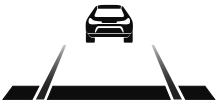
- 定速走行中に前方車を検知すると、ディスプレイに前方車表示が表示され、追従走行を行ないます。また、前方車を検知しなくなったときは、ディスプレイの前方車表示が消灯し、定速走行に切り替わります。
- CTS の設定速度の下限は 30 km/h です。

知識

- 設定した速度より速い速度で走行している車両を、前方車として追従走行することはできません。アクセルペダルの操作で希望の速度に調節してください。
- 車速の条件など CTS の作動条件が揃っていない場合で CTS スタンバイ表示 (白) のときに、SET+スイッチまたは SET-スイッチを押すとチャイムが鳴り、速度を設定できないことをお知らせします。
- CTS を ON にしたまま電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON したとき、CTS は自動的に OFF になります。
- MRCC または MRCC (全車速追従機能付) が作動している状態で CTS スイッチを押すと、CTS が作動します。また、CTS が作動している状態で MRCC スイッチを押すと、MRCC または MRCC (全車速追従機能付) が作動します。

追従走行時の車間距離を設定する

車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。
スイッチを押すことにより車間距離を短く設定し、スイッチを押すことにより車間距離を長く設定します。

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	ディスプレイ表示		
	マルチインフォメーションディスプレイ		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ*1
	メーター (タイプ A)	メーター (タイプ B)	
長 (約 50 m)			
中 (約 40 m)			
短 (約 30 m)			
極短 (約 25 m)			

*1　運転者がスイッチ操作をしたときのみ、アクティブ・ドライビング・ディスプレイにポップアップ表示されます。

知識

- 車間距離は速度により異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。
- 電源ポジションを ACC または OFF にしたときは、次回エンジン始動時に前回設定した車間距離が自動的に設定されます。

設定速度を変更する

スイッチで加速/減速するとき

SET+スイッチを押すと加速し、SET-スイッチを押すと減速します。

- 短押し：5 km/h
- 長押し：10 km/h

知識

たとえば SET スイッチを 4 回押すと、設定速度が約 20 km/h 上がり、または下がります。

アクセルペダルで加速するとき

アクセルペダルを踏んで、希望の速度になったところで、SET+スイッチまたは SET-スイッチを押し、手を放します。スイッチを操作しなければ、アクセルペダルから足を放すと、もとの設定速度にもどります。

⚠注意

アクセルペダルを踏んでいるときは、警報やブレーキ制御が作動しません。

知識

- **(オートマチック車)**
  停車保持制御中に SET+スイッチまたは SET-スイッチを操作すると、設定速度を変更することができます。
- 追従走行中に SET+スイッチで加速したとき、設定速度の調節はできますが加速はしません。前方車がいなくなったとき、設定速度になるまで加速し続けます。設定速度はディスプレイの設定速度表示で確認してください。
- アクセルペダルを踏んでいるときは、ディスプレイの車間距離の白線表示が白抜き表示になります。

一時的に解除されるとき

追従走行機能

次の条件のいずれかを満たすと追従走行機能が一時的に解除され、同時に CTS セット表示 (緑) から CTS スタンバイ表示 (白) に変わります。

- CANCEL スイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- **(マニュアル車)**
  チェンジレバーを R にしたとき
- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーを P、N、または R レンジにしたとき

次のようなときは、CTS キャンセル表示とチャイムが 1 回鳴ります。

- DSC が作動したとき
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) が作動したとき
- 下り坂を長時間走行したとき
- システムに異常が発見されたとき
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトをはずしたとき
- レーダーセンサー (フロント) が対象物を検知できなくなったとき (雨、霧、雪など天候が悪いときやラジエーターグリルの前面が汚れたとき)
- **(マニュアル車)**
  - 車速が 25 km/h 以下になったとき
  - チェンジレバーが一定時間ニュートラル位置だったとき
  - クラッチペダルを一定時間踏んだとき
  - エンストしたとき
- **(オートマチック車)**
  停車保持制御中に自動でパーキングブレーキがかかったとき

ステアリングアシスト機能

次の条件のいずれかを満たすと、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。

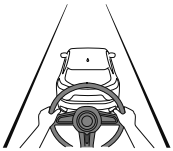
- 追従走行機能が解除されたとき
- 白線 (黄線) を検知できない、または前方車を認識できないとき
- 白線 (黄線) を検知できない、かつ車速が約 55 km/h 以上のとき
- アクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき
- オフロード・トラクション・アシストが作動したとき

- マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) でオフロードモードが選択されているとき
- 急なカーブを走行したとき
- 車線の幅が狭いとき、または広いとき
- 車線をまたいで走行したとき
- 運転者がハンドルから手を放したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- システムに異常が発見されたとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮へい物があり前が見えないとき

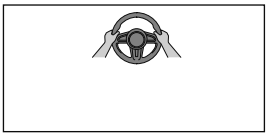
知識

- 前方車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストする機能は、車速が約 55 km/h 以上になると解除されます。
- 運転者がハンドルから手を放すと、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。その後もハンドルから手を放した状態を続けると、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されるとともに、警報チャイムが鳴ります。

  マルチインフォメーションディスプレイ



  アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



- ハンドルを軽く持っているとき、または道路状態によってはハンドルを握っていてもハンドルから手を放しているとシステムが判断し、マルチインフォメーションディスプレイおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されることがあります。

制御を再開するとき

CTS が一時的に解除された場合、再度作動条件をすべて満たしたときに RES スイッチを押すと、一時的に解除された前の設定速度で作動します。

知識

- ディスプレイに設定速度が表示されていないときは、RES スイッチを押しても作動しません。
- 操作後、走行車線を検知、または前方車を認識するまでの最大 5 秒間は、ステアリングアシストが作動しない場合があります。

OFF にする

CTS 作動中に CTS スイッチを押すと、CTS が OFF になります。

停車保持制御 (オートマチック車)

CTS で追従走行中に前方車が停車すると、追従して自車も停車します。停車して停車保持制御が作動すると、CTS 表示灯が点灯します。

知識

- 停車保持制御中に CTS が一時的に解除された場合、停車状態は維持されます。次の操作を行うことで、停車保持制御を解除できます。
  - アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させる。
  - ブレーキを強く踏みながら、CTS を OFF する。
- 停車保持制御が 10 分以上経過した場合、自動でパーキングブレーキがかかり、停車状態を維持します。このとき、CTS は一時的に解除されます。
- 停車保持制御中、i-stop の作動条件を満たしている場合は、ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。
  →150 ページ「i-stop について」
- 停車保持制御中は、ブレーキランプが点灯します。

再発進するとき

停車保持制御中に前方車が発進した後、RES スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏み込むと、停車保持制御が解除され、車両が発進します。

知識

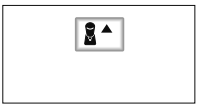
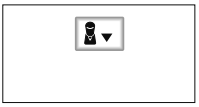
- RES スイッチで再発進するときは、前方車との車間距離が規定値以上開かないと発進しません。
- i-stop が作動している場合、再発進操作を行うと、自動でエンジンが再始動します。
- 停車保持制御中に CTS が一時的に解除された場合、前方車がいないときは RES スイッチでは再発進できません。アクセルペダルを踏み込んで、車両を発進させてください。
- 停車保持制御で停車後、前方車が 3 秒以内に発進した場合は、運転者がアクセルペダルを踏み込むなどの発進操作をしなくても追従走行を継続します。

発進報知

停車保持制御中に前方車が発進した後、しばらく再発進操作を行わないと、マルチインフォメーションディスプレイの前方車表示が点滅し、運転者に発進を促します。

シフトアップ/シフトダウン要求表示について（マニュアル車）

CTS 作動中に、シフトアップ要求表示、またはシフトダウン要求表示が表示されることがあります。このときは、ギヤの位置が不適切であるためシフトチェンジをしてください。

要求	ディスプレイ表示	
	マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
シフトアップ	 シフトアップ	
シフトダウン	 シフトダウン	

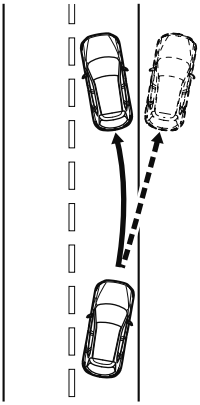
知識

- シフトアップ要求表示が表示されてもシフトアップしないときはエンジンに負荷がかかり、CTS が自動的に解除される、またはエンジンを損傷するおそれがあります。
- シフトダウン要求表示が表示されてもシフトダウンしないときは、CTS が自動的に解除される、またはエンストすることがあります。

レーンキープ・アシスト・システム（LAS）&車線逸脱警報システムとは グレード/仕様別装備

LAS &車線逸脱警報システムは、自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるとともに、ハンドル操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避を支援する装置です。

走行中に、フォワードセンシングカメラ (FSC) で車線の白線 (黄線) を検知して、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、電動パワーステアリングを作動させ運転者のハンドル操作をアシストするとともに、車線逸脱警報、ハンドルの振動、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示により運転者に知らせます。高速道路や自動車専用道路で白線 (黄色) が整備された道路でご使用ください。
→407 ページ「フォワードセンシングカメラ (FSC) について」



⚠警告

LAS &車線逸脱警報システムを過信しない。

必ず守る

- **LAS &車線逸脱警報システムは、自動運転システムではありません。また、前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **LAS &車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。**

⚠警告

必ず守る

次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムを使わない。実際の走行状況にあわせた適切な作動ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **急カーブのある道**
- **悪天候のとき (雨、霧、雪のときなど)**
- **凍結路、積雪路や未舗装路などのすべりやすい路面**
- **交通量が多く車間距離が十分にとれない道路**
- **車線の白線 (黄線) が引かれていない道路**
- **工事中や車線規制で車線幅の狭い道路**
- **工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れているとき)**
- **高速道路、自動車専用道路以外を走行しているとき**
- **タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき**
- **キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき**
- **応急用スペアタイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき**

⚠注意

必ず守る

LAS &車線逸脱警報システムを正常に作動させるために次の点をお守りください。

- **サスペンションの改造を行わないでください。**
- **前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。**

知識

- 車線変更などで方向指示器を操作すると、LAS &車線逸脱警報システムの作動を自動解除します。方向指示器をもどし、走行車線内を通常走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、LAS &車線逸脱警報システムが復帰します。
- 急なハンドル操作、アクセル操作、ブレーキ操作をしながら車線の白線 (黄線) へ接近したときは、運転者が車線を変更すると判断し、LAS &車線逸脱警報システムの作動を一時的に解除します。走行車線内を通常走行して、システムが白線 (黄線) を検知すると、LAS &車線逸脱警報システムが復帰します。
- 短時間のうちに連続して車線をはみ出したときは、LAS &車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。

知識

- 車線の白線 (黄線) を検知していないときは、LAS &車線逸脱警報システムは作動しません。
- 次のようなときは、車線の白線 (黄線) を正しく検知することができず、LAS &車線逸脱警報システムが正常に作動しない場合があります。
  - インストルメントパネルの上に置いた物が、フロントガラスに反射してカメラに写ったとき
  - 荷室やリアシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
  - 標準タイヤ以外のタイヤを装着しているとき
  - 交差点や合流地点、分岐路などを走行するとき
  - 白線 (黄線) がかすれや汚れなどにより見えにくいとき
  - 前方車が白線 (黄線) の近くを走行して、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 天候 (雨、霧、雪のときなど) により、白線 (黄線) が見えにくいとき
  - 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行するとき (白線 (黄線) が複数引かれていたり、途切れているとき)
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまった轍など、白線 (黄線) と紛らわしい線が見えるとき
  - トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
  - フロントガラスが汚れているときや曇っているとき
  - フロントガラス、カメラに露 (水滴) が生じているとき
  - 逆光を浴びて路面が光っているとき
  - 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
  - ガードレールなどの影が、道路上に白線 (黄線) と平行して写っているとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき
  - 急カーブのとき
  - 道路がうねっているとき
  - 段差などにより車が大きく揺れたとき
  - 2 本以上の白線 (黄線) が隣接して描かれているとき
  - 交差点付近に様々な路面表示や様々な形状のレーンマーカーがあるとき

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムを作動させるとき

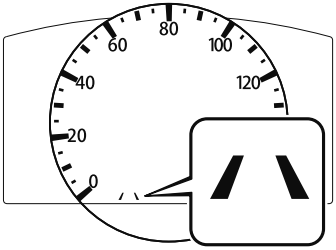
電源ポジションを ON にすると､システムが待機状態となります。
システム待機状態で車線の中央付近を走行します。次の条件をすべて満たすと､システム作動状態になります。

- エンジンがかかっているとき
- 車速が約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 車線の白線 (黄線) を検知しているとき
- 運転者がハンドルを持ち操作しているとき
- 車線の幅が狭くないとき､または広くないとき
- CTS のステアリングアシスト機能が作動していないとき

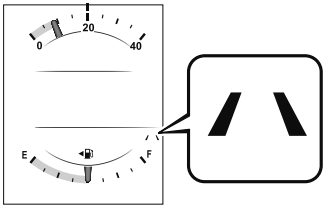
システムが作動状態のときには､アクティブ・ドライビング・ディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに LAS &車線逸脱警報システム表示 (白) が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)

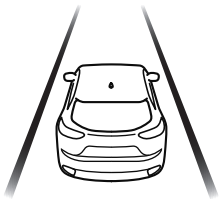
メーター (タイプA)



メーター (タイプB)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

次のとき､LAS &車線逸脱警報システムは待機状態になります。

- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が約 60 km/h 未満になったとき
- ABS/TCS/DSC が作動しているとき
- TCS を OFF にしたとき
- オフロード･トラクション･アシストを ON にしたとき
- マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) でオフロードモードが選択されているとき
- 急なカーブを走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- 車線の幅が狭いとき､または広いとき
- CTS のステアリングアシスト機能が作動したとき

知識

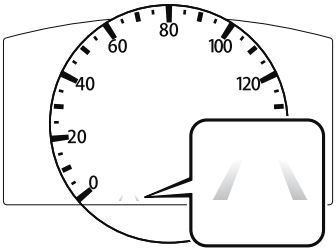
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは､LAS &車線逸脱警報システムは作動しません。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合､検知できていない方向への逸脱は作動しません。検知できている方向への逸脱のみ作動します。
- ハンドル操作アシスト作動時に運転者が手放し運転をしているとシステムが判断し､さらにその状態が一定時間内に複数回継続すると､警報チャイムが鳴ります。なお､ハンドル操作アシストの回数が増加するごとに､警報チャイムの継続時間が長くなります。
- 車線逸脱警報とハンドル操作のアシストを行うタイミングは異なります。
- LAS &車線逸脱警報システムの次の設定を変更できます。設定変更の方法については､マツダコネクト取扱書を参照してください。
  - ハンドル操作アシストの ON/OFF

車線表示

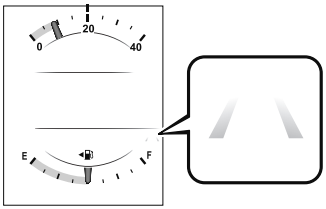
LAS &車線逸脱警報システムが待機状態になると､マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し､作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わり､アクティブ･ドライビング･ディスプレイに車線表示が表示されます。

(待機状態)
マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)

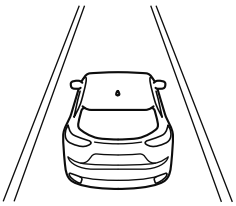
メーター (タイプA)



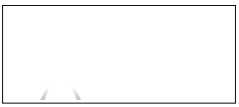
メーター (タイプB)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)

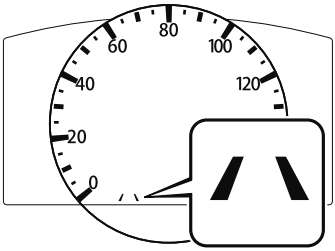


アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

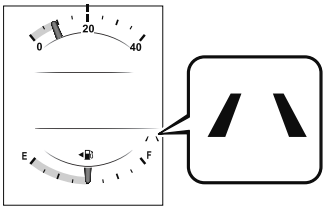


(作動状態)
マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)

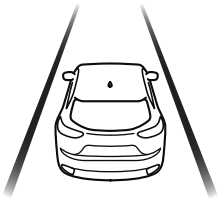
メーター (タイプA)



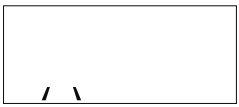
メーター (タイプB)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



知識

車線の白線 (黄線) を片側のみ検知しているとき、マルチインフォメーションディスプレイの車線表示は、検知している方向の車線のみ白色に変わります。

自動解除

次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムが自動で解除されます。なお、LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰します。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

警報/アシストの自動中止

次のような操作をおこなうと、LAS &車線逸脱警報システムの作動が自動で中止されます。なお、操作後は、LAS &車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- アクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき
- 車線をまたいで走行したとき

知識

操作後、走行車線を検知するまでの最大 5 秒間は、LAS &車線逸脱警報システムが作動しない場合があります。

ハンドル操作アシストを OFF にした場合

LAS &車線逸脱警報システムは、ハンドル操作アシストを OFF にできます。ただし、CTS の機能を使用して走行しているときは、ハンドル操作アシストが自動的に ON になります。
ハンドル操作アシストを OFF にしたときは、車線逸脱警報のみ作動します。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

システムを作動させるとき

システム待機状態で車線の中央付近を走行します。次の条件をすべて満たすと、システム作動状態になります。

- 左右もしくは一方に白線 (黄線) が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- CTS のステアリングアシスト機能が作動していないとき

次のとき、LAS &車線逸脱警報システムは待機状態になります。

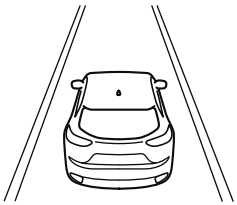
- 白線 (黄線) を検知できないとき
- 車速が約 60 km/h 未満になったとき
- 急なカーブを走行したとき
- 不適切な速度でカーブを走行したとき
- CTS のステアリングアシスト機能が作動したとき

知識

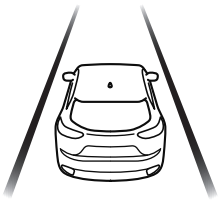
- 左右のどちらか一方、または左右両方の車線の白線 (黄線) を検知するまでは、LAS &車線逸脱警報システムは待機状態のままになります。
- 左右のどちらか一方の車線の白線 (黄線) を検知した場合、検知できていない方向への逸脱は警報できません。

車線表示

LAS &車線逸脱警報システムが待機状態になると、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が表示されます。
左右両方の車線の白線 (黄線) を検知し、作動状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車線表示が白色に変わります。
(待機状態)



(作動状態)



知識

車線の白線 (黄線) を片側のみ検知しているとき、マルチインフォメーションディスプレイの車線表示は、検知している方向の車線のみ白色に変わります。

(自動解除)
次のようなときは、LAS &車線逸脱警報システムが自動で解除され、ディスプレイに車線表示 (待機状態) が表示されます。なお、LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態になると自動で復帰し、ディスプレイに車線表示 (作動状態) が表示されます。

- フォワードセンシングカメラ (FSC) 内部の温度が高温または低温になったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスが曇ったとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスに遮蔽物があり前が見えないとき

(警報の自動中止)
次のような操作を行うと、運転者の意思で車線変更しているとシステムが判断し、LAS &車線逸脱警報システムの作動が自動で中止されます。なお、操作後は、LAS &車線逸脱警報システムが自動で復帰します。

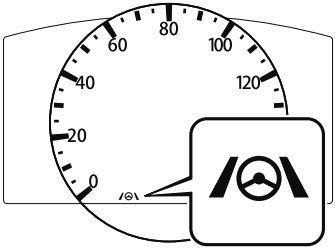
- 急なハンドル操作をしたとき
- ブレーキ操作をしたとき
- アクセル操作をしたとき
- 方向指示器を操作したとき
- 車線をまたいで走行したとき

ハンドル操作アシスト

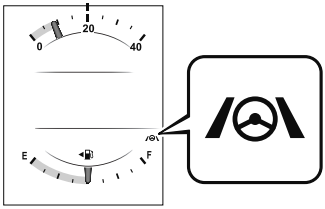
車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、ハンドル操作アシストが作動します。
システムがハンドル操作アシストしていることをマルチインフォメーションディスプレイとアクティブ･ドライビング･ディスプレイでお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)

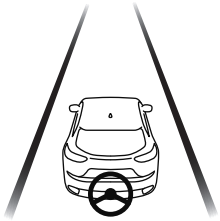
メーター (タイプA)



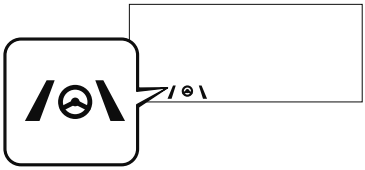
メーター (タイプB)



マルチインフォメーションディスプレイ (i-ACTIVSENSE 表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



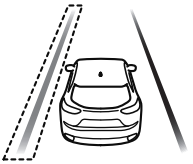
知識

ハンドル操作アシストが作動中に、運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

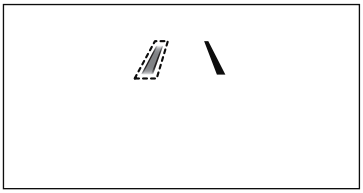
車線逸脱警報

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、警報 (ビープ音が鳴るまたはハンドルの振動) とともに、逸脱する可能性があるとシステムが判断した方向をアクティブ・ドライビング・ディスプレイとマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



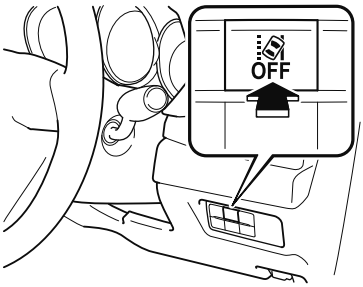
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



知識

- 車線逸脱警報の種類をビープ音に設定しているときは、外部の騒音など状況によっては、警報音が聞こえない場合があります。
- 車線逸脱警報の種類をハンドル振動に設定しているときは、路面状況によっては、振動を感じない場合があります。
- ハンドル操作アシストを ON にしているときは、警報の ON/OFF を変更できます。 (ハンドル操作アシストを OFF にしているときは、警報を OFF に設定することができません。)
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
- LAS &車線逸脱警報システムは、ハンドル操作アシストの ON/OFF 設定に関係なく、次の設定を変更できます。運転するときには必ず設定状況を確認し、必要に応じて設定を変更してください。
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
  - 警報 (ハンドルの振動) の強弱
  - 警報音量
  - 警報の種類 (ハンドル振動/ビープ音)

レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムを停止するとき



LAS &車線逸脱警報システムを停止するときは、LAS &車線逸脱警報システム OFF スイッチを押します。

メーター内の､LAS &車線逸脱警報システム OFF 表示灯が点灯します。

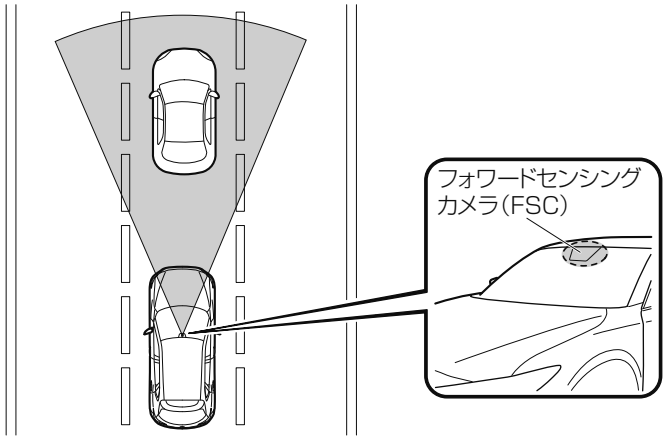
知識

- CTS の機能を使用して走行しているときは､LAS &車線逸脱警報システムが自動的に ON になります。
- 電源ポジションを OFF にしたときは､OFF にする前の状態が保持されます。たとえば LAS &車線逸脱警報システムが作動可能な状態で電源ポジションを OFF にすると､次に電源ポジションを ON にしたときは LAS &車線逸脱警報システムは作動可能な状態のままです。
- 次のようなときは､LAS &車線逸脱警報システムが自動で停止され､メーター内に LAS &車線逸脱警報システム OFF 表示が表示されます。マツダ販売店で点検を受けてください。
  - 電動パワーステアリングに異常があるとき
  - DSC に異常があるとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC) に異常があるとき

LAS &車線逸脱警報システムを停止すると､アクティブ･ドライビング･ディスプレイの車線表示も非表示になります。

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) とは

アドバンスト SCBS は、車速が約 4 km/h～約 80 km/h (対象が前方車のとき)/約 10 km/h～約 80 km/h (対象が歩行者のとき)で走行中にフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車や歩行者へ衝突する可能性があると判断したときに、ディスプレイや警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、ブレーキ制御 (アドバンスト SCBS ブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。 (ブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト))



⚠警告

システムを過信しない

禁止

- **アドバンスト SCBS は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **アドバンスト SCBS は、前方車および歩行者に対して作動するシステムです。2 輪車や動物、壁に対しては作動保障しません。**

⚠注意

次のようなときは、誤って作動しないようにシステムを停止させてください。

必ず守る

- **けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき**
- **シャシーローラーを使用するとき**
- **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき**

作動を停止させるときは次のページを参照してください。
→361 ページ「アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS) を停止させるには」

知識

- アドバンスト SCBS は次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - **(対象が前方車のとき)**
    車速が約 4 km/h～約 80 km/h のとき
  - **(対象が歩行者のとき)**
    車速が約 10 km/h～約 80 km/h のとき
  - アドバンスト SCBS を停止していないとき
- 次のような状態のときはアドバンスト SCBS が正常に作動しない場合があります。
  - 運転者が意図的に運転操作 (アクセル操作、ハンドル操作) を行なったとき
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - 濡れた路面や積雪、じゃり道などの滑りやすい路面を走行しているとき
  - 気温が低いときやブレーキが濡れているときなどブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルを操作しているとき
  - セレクトレバーを操作しているとき

知識

- 次のようなときは、アドバンスト SCBS が作動する場合があります。
  - カーブ入口に路側物があるとき
  - カーブで対向車両とすれ違うとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - ETC ゲートを通過するとき
  - 前方車に急接近したとき
  - 2 輪車や動物、壁、立ち木
- **(マニュアル車)**
  アドバンスト SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。

衝突警報

ブレーキ！

前方車や障害物と衝突する可能性がある場合、衝突警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、アクティブ･ドライビング･ディスプレイまたは、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。

知識

衝突警報の作動距離や音量を変更できます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。

自動ブレーキ作動表示

SCBS
自動ブレーキ作動

アドバンスト SCBS ブレーキ作動後やブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト) 作動後に、マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 自動ブレーキ作動」と表示されます。

知識

- アドバンスト SCBS ブレーキ作動中やブレーキアシスト (アドバンスト SCBS ブレーキアシスト) 作動中は、衝突警報音が断続的に吹鳴します。
  →603 ページ「チャイムが鳴ったときは」
- アドバンスト SCBS ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが吹鳴し、アドバンスト SCBS ブレーキが自動的に解除されます。

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) を停止させるには

アドバンスト SCBS を作動しないようにできます。
設定変更の方法については､マツダコネクト取扱書を参照してください。

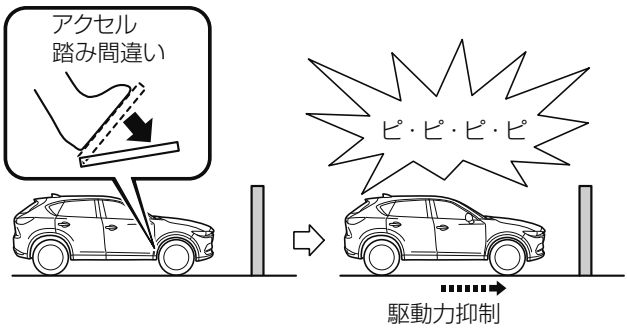
アドバンスト SCBS を作動しないようにすると､スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

- アドバンスト SCBS を作動しないようにすると､スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) およびスマート･ブレーキ･サポート (SBS) も作動しなくなります。
- アドバンスト SCBS を停止した状態でエンジンを停止した場合､次にエンジンを始動するとアドバンスト SCBS は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] とは グレード/仕様別装備

AT 誤発進抑制制御 [前進時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時､前方に車や壁などの障害物があるにも関わらず､必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに､エンジン出力を抑制することで､衝突時の被害を軽減します。システム作動中は､AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示で作動中をお知らせすると同時に､警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を過信せず安全運転に心がける

必ず守る **AT 誤発進抑制制御 [前進時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。シフト、アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない

禁 止 **停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

⚠注意

必ず守る **踏切内に閉じ込められた場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が遮断機を障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続ける、または踏みなおして脱出してください。脱出の際、車両が急加速することがありますので注意して運転してください。**

知識

- AT 誤発進抑制制御 [前進時] は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止していないとき
  - TCS OFF スイッチを押して TCS を作動停止状態にしていないとき
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - セレクトレバーが D/M レンジのとき
- フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) の検知能力には限界があります。次のようなときは、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - フロントガラスまたはフロントバンパーに氷、雨滴曇り、雪、霜、汚れ、ビニール袋等の異物が付着しているとき
  - ウインドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき

知識

- 次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - 障害物の高さが低いとき (低い壁、低いガードレール、トレーラーなどの後部)
  - 障害物が小さいとき
  - 障害物が細いとき (標識の支柱や電柱など)
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき
  - フェンス、ガラスなど均一な模様や模様のない障害物
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

知識

- 次のような状況では、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動しない場合があります。
  - カーブ、坂道のとき
  - ハンドルを大きく切っているとき
  - ボンネットの上に雪などの障害物があるとき
  - 雨・霧・雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 障害物などと部分的な接触の可能性があるとき
  - カーブが連続する道路やカーブの出入口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) をおおうような長尺物を装着したとき
  - 超音波センサー (フロント) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 車、歩行者、二輪車、自転車などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
  - 朝方、夕方の薄暗いとき、夜間や屋内駐車場など周囲が暗いとき
  - ヘッドランプが照射されていない場所に障害物があるとき
  - 前方に強い光を受けているとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 自車が進路変更を行ない、障害物のすぐ後ろに接近したとき
  - 衝突などで、超音波センサー (フロント) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき

知識

- 次のようなときは、フォワードセンシングカメラ (FSC) および超音波センサー (フロント) が障害物と判断し、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスを感知しているとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - ビニールカーテン、旗などを潜って通行するとき
  - パイロンなどのプラスチック類
  - 完全に開いていない遮断機
  - シャシーダイナモなど使用するとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - 前方車に接近して走行するとき
  - カーブや交差点の先に障害物があるとき
  - 障害物に接近して通過するとき
- システムが故障しているときは、スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
→596 ページ「処置する」

AT 誤発進抑制制御 [前進時] 表示

マルチインフォメーション ディスプレイ

注意！
アクセルを
踏んでいます

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

アクセルを踏んでいます

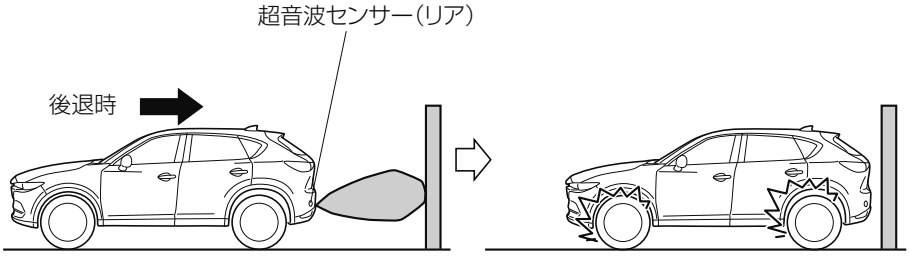
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

AT 誤発進抑制制御 [前進時] を停止させるには

アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が停止します。
作動を停止させる方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) とは

SCBS R は車速が約 2 km/h～約 8 km/h で後退中に後方の障害物を超音波センサーが検知し、衝突を回避できないと判断したときに、ブレーキ制御 (SCBS R ブレーキ) を行なう装置で、衝突時の被害を軽減します。



⚠警告

システムを過信しない。

必ず守る

- **SCBS R は、あくまでも衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **SCBS R の超音波センサー（リア）はリアバンパーに設置され、AT 誤発進抑制制御 [後退時] と共用しています。SCBS R の正しい作動のため、次のことをお守りください。**
  - **超音波センサー（リア）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けないでください。超音波センサー（リア）が障害物を正しく検知できず思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  - **超音波センサー（リア）の分解などを行なわないでください。**
  - **飛び石などで超音波センサー（リア）周辺に傷などが認められるときは、ただちに SCBS R の使用を停止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。超音波センサー（リア）の周辺にひび割れや引っかき傷などがあるまま運転を続けると意に反して作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
    作動を停止させる方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
  - **リアバンパーを交換する際は、マツダ販売店に相談してください。**

サスペンションを改造しない。

禁止

車高や車の傾きが変わると障害物を正しく検知できないため、SCBS R が正常に作動しない場合があります。

超音波センサー（リア）に強い衝撃を与えない。

禁止

洗車時に超音波センサー（リア）に強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。また、荷物の出し入れなどでリアバンパーに強い衝撃を与えないでください。障害物を正しく検知できず、SCBS R が正常に作動しない場合があります。

⚠注意

必ず守る

草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行する際は、SCBS R を停止してください。

必ず守る

4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、SCBS R が正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **超音波センサー (リア) は氷、雪などが付着した場合など、状況によっては障害物を正しく検知できない場合があります。このようなときは、正しい制御ができないおそれがあります。常に後方を注意して運転してください。**

知識

- アクセル操作、ブレーキ操作やハンドル操作によって車両姿勢が変化し、障害物が見えにくくなったり、不要な障害物が見えやすくなったりします。このような場合、SCBS R が作動しなかったり、作動する場合があります。
- SCBS R は、次の条件のとき作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - チェンジレバー (マニュアル車) またはセレクトレバー (オートマチック車) を R の位置にしているとき
  - スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 後退時作動しません」と表示されていないとき
  - 車速が約 2 km/h～約 8 km/h のとき
  - アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS)を停止していないとき
  - DSC が故障状態でないとき
- SCBS R は、超音波センサー (リア) が発信した超音波が、後方の障害物に反射し、超音波センサー (リア) に戻ってきた超音波を受信することで、後方の障害物を検知し、作動しています。
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物を検知できず、SCBS R が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき

知識

- 次のような状況では、超音波センサー (リア) が障害物を正しく検知できず、SCBS R が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー (リア) 付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー (リア) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー (リア) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー (リア) など、他の音波の影響を受けたとき
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が対象の障害物だと検知し、SCBS R が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
- **(マニュアル車)**
  SCBS R ブレーキの作動により車両が停止した場合、クラッチペダルを踏み込まないとエンジンが停止します。
- システムが故障しているときは、スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
  →596 ページ「処置する」

自動ブレーキ作動表示

SCBS R ブレーキ作動後に、マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 自動ブレーキ作動」と表示されます。

SCBS
自動ブレーキ作動

知識

- SCBS R ブレーキ作動中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。
→603 ページ「チャイムがなったときは」
- SCBS R ブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと、約 2 秒後にチャイムが鳴り、SCBS R ブレーキが自動的に解除されます。

スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止させるには

SCBS R を作動しないようにできます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

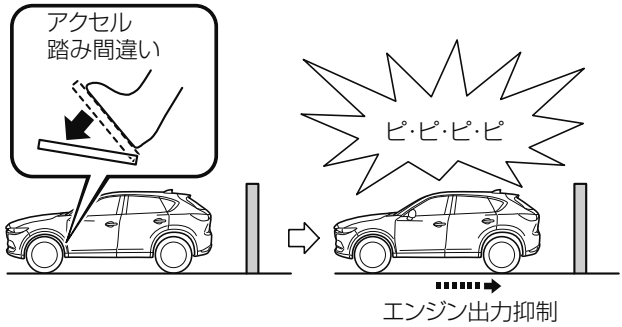
SCBS R を作動しないようにすると、スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SCBS) OFF 表示灯が点灯します。

知識

- SCBS R を作動しないようにすると、アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) およびスマート･ブレーキ･サポート (SBS) も作動しなくなります。
- SCBS R を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると SCBS R は作動可能な状態にもどります。

AT 誤発進抑制制御 [後退時] とは グレード/仕様別装備

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は車両が徐行中 (約 10 km/h 以下) や停車時、後方に車や壁などの障害物があるにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた (アクセルペダルを踏み間違えたと判断した) ときに、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害を軽減します。システム作動中は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示で作動中をお知らせすると同時に、警報音で運転者に警告します。



⚠警告

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を過信せず安全運転に心がける。

必ず守る

AT 誤発進抑制制御 [後退時] は、ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時はシフトやペダルの位置を十分に確認して操作してください。アクセルやブレーキなどの操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。

禁止

停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。また、障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- AT 誤発進抑制制御 [後退時] は次の条件のときに作動します。
  - エンジンがかかっているとき
  - セレクトレバーを R の位置にしているとき
  - アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)/スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R) を停止していないとき
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - マルチインフォメーションディスプレイに「SCBS 後退時作動しません」と表示されていないとき
- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物を検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動しない場合があります。
  - 低い壁、荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき
  - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき
  - 障害物が車両や壁のように大きくないとき
  - 標識のポールなど、障害物が細いとき
  - 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき
  - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき
  - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき
  - 障害物が凹凸のある形状をしているとき
  - 障害物が極端に近いとき
- 次のような状況では、超音波センサー (リア) が障害物を正しく検知できず、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しない場合があります。
  - 超音波センサー (リア) 付近に何か付着したりしているとき
  - ハンドルを大きく切ったり、ブレーキやアクセル操作をしているとき
  - 障害物の周辺に他の障害物があるとき
  - 雨、霧、雪など天候が悪いとき
  - 湿度が低いとき、高いとき
  - 気温が低いとき、高いとき
  - 風が強いとき
  - 走行路が平坦ではないとき
  - 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき
  - 超音波センサー (リア) 付近に無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取りつけたとき
  - 衝突などで、超音波センサー (リア) の方向がずれたとき
  - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサー (リア) など、他の音波の影響を受けたとき

知識

- 次のようなときは、超音波センサー (リア) が障害物と検知し、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動する場合があります。
  - 急な登坂路があるとき
  - 輪留めがあるとき
  - 垂れ幕、ETC や踏切などバーがあるとき
  - 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行するとき
  - 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき
  - 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき
  - トーイングバーやトレーラーを装着しているとき
- システムが故障しているときは、スマート・ブレーキ・サポート/スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙) が表示されます。
→596 ページ「処置する」

AT 誤発進抑制制御 [後退時] 表示

マルチインフォメーション ディスプレイ

注意！
アクセルを
踏んでいます

AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動中に、アクティブ・ドライビング・ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

アクセルを踏んでいます

AT 誤発進抑制制御 [後退時] を停止させるには

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS)/スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R) を停止させると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が停止します。
作動を停止させる方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) とは

SBS は、車速が約 15 km/h 以上でレーダーセンサー (フロント) およびフォワードセンシングカメラ (FSC) が前方車に衝突する可能性があると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ･ドライビング･ディスプレイへの警告表示、および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。さらに衝突を回避できないと判断したときには、SBS 制御によるブレーキが作動することで衝突時の被害を軽減します。また、運転者がブレーキペダルを踏んだときは、ブレーキが素早く確実にかかるよう補助します。

⚠ 警告

禁止

SBS を過信しない
SBS は衝突時の被害を軽減するシステムであり、対象物、天候状況、道路状況等によっては対象物の検知に限界があります。このためアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の安全を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

⚠ 注意

必ず守る

次のときは誤って作動しないようにシステムを OFF にしてください。

- **けん引されるとき、または、他の車をけん引するとき**
- **シャシーローラーを使用するとき**
- **草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき**

作動を停止させる方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

知識

- 次の条件をすべて満たしているときに SBS は作動します。
  - 電源ポジションが ON のとき
  - SBS が ON のとき
  - SBS 警告表示 (橙) が表示されていないとき
  - 車速が約 15 km/h 以上で前進しているとき
  - 自車と前方車との相対速度が約 15 km/h 以上のとき
  - DSC が作動していないとき

知識

- 次のような状態のときは、SBS が作動しないときがあります。
  - 前方車と部分的な接触の可能性があるとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき
  - 急なアクセルペダル操作をしているとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - ハンドルを操作しているとき
  - セレクトレバーを操作しているとき
  - 方向指示器を操作しているとき
  - フォワードセンシングカメラ (FSC)/レーダーセンサー (フロント) に関する警告や汚れのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されているとき
- システムの作動対象は 4 輪車両ですが、次のような検知対象物は、レーダーセンサー (フロント) が障害物と判断し、SBS が作動する場合があります。
  - カーブ入り口に路側物があるとき (ガードレール、雪壁等も含む)
  - コーナーを曲がるときやカーブですれ違うときに対向車両があるとき
  - 狭い鉄橋を通るとき
  - 低いゲートやトンネル、狭いゲートなどを通過するとき
  - 地下駐車場の入り口などに侵入するとき
  - 路面上に金属物、段差または突起物があるとき
  - 前方車に急接近したとき
  - 背の高い草むらなどを走行するとき
  - バイク、自転車などの 2 輪車
  - 歩行者、立ち木など
- システムが作動しているときは、運転者にマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ·ドライビング·ディスプレイの表示で知らせます。
- システムが故障しているときは、SBS 警告表示 (橙) が表示されます。
  → 596 ページ「処置する」

衝突警報

ブレーキ！

前方車と衝突する可能性がある場合、警報音が「ピピピピピ･･･」と鳴り続け、アクティブ･ドライビング･ディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されます。

知識

衝突警報の作動距離や音量を変更できます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を停止させるには

SBS を作動しないようにできます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

SBS を作動しないようにすると、SBS OFF 表示灯が点灯します。

知識

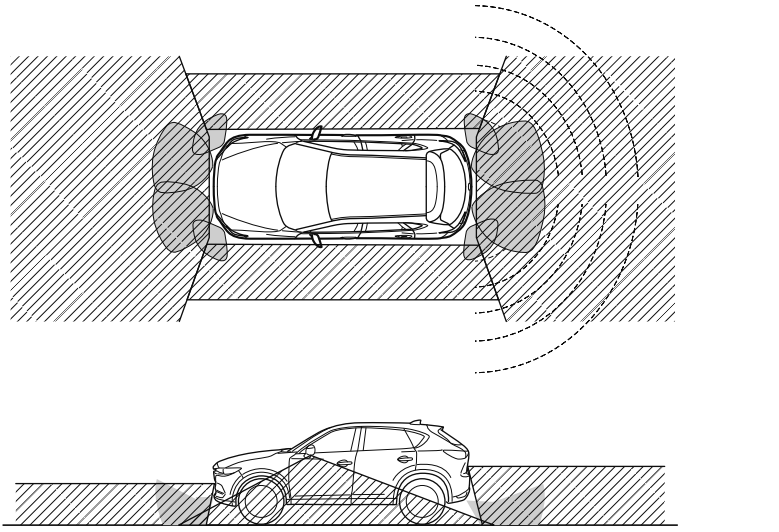
- SBS を作動しないようにすると、アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS) も作動しなくなります。

360° ビュー・モニターとは グレード/仕様別装備

360° ビュー・モニターは次のシステムで構成されており、センターディスプレイの表示や各種警報により、低速走行時や駐車時に車両周辺の確認を支援するシステムです。

- **トップビュー**
  車両の前後左右にある 4 つのカメラの映像を組み合わせ、車両を真上から見たイメージをセンターディスプレイに表示します。トップビューは、フロントビュー/フロントワイドビュー、またはリアビュー/リアワイドビュー画面を表示しているときに、画面左側に表示します。車両の前進時、または後退時に車両周辺の確認を補助するシステムです。
- **フロントビュー/フロントワイドビュー**
  センターディスプレイに車両前方の映像を表示します。
  表示した車両前方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両前方の確認を補助するシステムです。
- **サイドビュー**
  センターディスプレイに車両左右前側面の映像を表示します。
  表示した車両左右前側面の映像上にガイド線を映し出すことで、車両側面の確認を補助するシステムです。
- **リアビュー/リアワイドビュー**
  センターディスプレイに車両後方の映像を表示します。
  表示した車両後方の映像上にガイド線を映し出すことで、車両後方の確認を補助するシステムです。
- **パーキングセンサー**
  トップビュー/サイドビュー表示中、車両周辺に障害物がある場合、センターディスプレイに検知表示を表示します。
  車庫入れや縦列駐車などの低速走行時に、車両周辺の障害物を超音波センサーで検出し、おおよその距離をブザーおよび検知表示により運転者に知らせるシステムです。
  →437 ページ「パーキングセンサー」
- **後側方接近車両検知 (RCTA)**
  リアビュー/リアワイドビュー表示中、車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、センターディスプレイに警告を表示します。
  後側方接近車両検知 (RCTA) は、自車の後左右から接近する車両の存在をレーダーセンサー (リア) で検知し、ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 接近表示灯の点滅および警報チャイムで知らせることにより、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。
  →291 ページ「リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA) とは」

360°ビュー・モニター範囲



：カメラ
：超音波センサー
：レーダーセンサー (リア)

⚠警告

必ず車両周辺の安全をミラーや目視で直接確認しながら運転する。

必ず守る **360°ビュー・モニターはあくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。**
カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラの映像のつなぎ目は死角となり対象物が映らない場合があります。また、車幅延長線および予想進路線などはあくまで目安であり、画面に映し出されている映像は、実際の状況とは異なる場合があります。

⚠注意

禁止 **次のような状況では危険ですので、360° ビュー・モニターを使用しないでください。**

- **凍結したすべりやすい路面や雪道**
- **タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき**
- **フロントドアやリアドアが完全に閉まっていないとき**
- **坂道などの平坦でない道路**
- **ドアミラーを格納しているとき**

禁止 **フロントカメラ部、リアカメラ部、フロントバンパー、リアゲート、ドアミラーに強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。**

禁止 **カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。**

禁止 **カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。**

禁止 **カメラのレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カメラのレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

必ず守る **フロントカメラ部、リアカメラ部、フロントバンパー、リアゲート、ドアミラー付近を修理、塗装、交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。**

必ず守る **360° ビュー・モニターを正常に作動させるために次の点をお守りください。**

- **サスペンションの改造を行なわないでください。**
- **前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。**

必ず守る **ディスプレイが冷えているときは、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず前方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**

必ず守る **360° ビュー・モニターを使って駐・停車する方法は、道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐・停車スペースに車両が駐・停車できるかを確認してください。**

i-ACTIVSENSE について

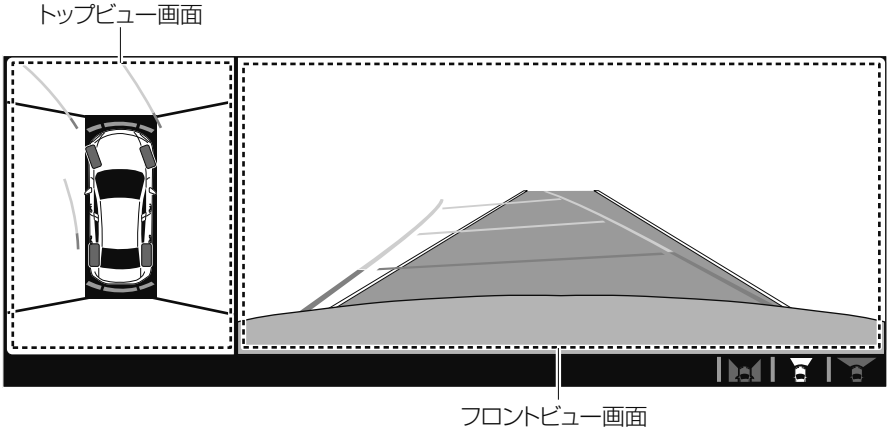
知識

- サイドカメラとセンターディスプレイは保安基準適合部品です。サイドカメラまたはセンターディスプレイが故障したときは速やかにマツダ販売店にご相談ください。
- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 接触事故などでフロントバンパー、リアゲート、ドアミラーなどカメラ取り付け位置周辺に衝撃が加わったときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えると 360°ビュー・モニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときは画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- 360°ビュー・モニターには限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- カメラの映像範囲よりも上にある障害物については表示されません。
- 次のような状況では、画面が見えにくくなることがありますが、故障ではありません。
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなど高輝度な光がカメラのレンズに直接当たったとき
  - 周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  - 極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)
- 360°ビュー・モニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- リアビューおよびリアワイドビューのみ、カメラが写したものが左右反転されて画面に表示されます。
- 人や障害物などが実際とは異なって表示されることがあります。 (倒れているように表示されたり、実際より長く、または大きく表示されたりすることがあります)
- カメラやその周辺にステッカーを貼り付けたり、アクセサリー用品、字光式ナンバープレートなどを取り付けたりしないでください。カメラが周囲の状況を正確に映し出さなくなります。
- **フリー/オープンソース ソフトウェア情報**
  この製品は、フリー/オープン ソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
  https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/mazda/

画面に表示できる映像の種類

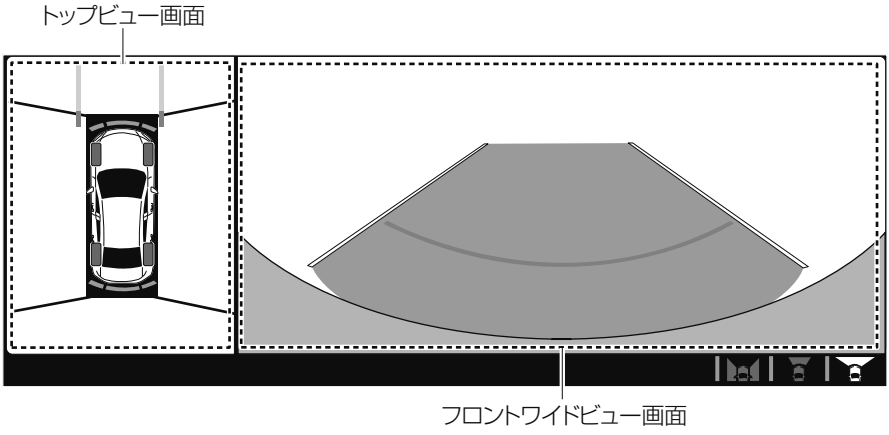
トップビュー/フロントビュー

車両周辺および車両前方の映像を表示します。



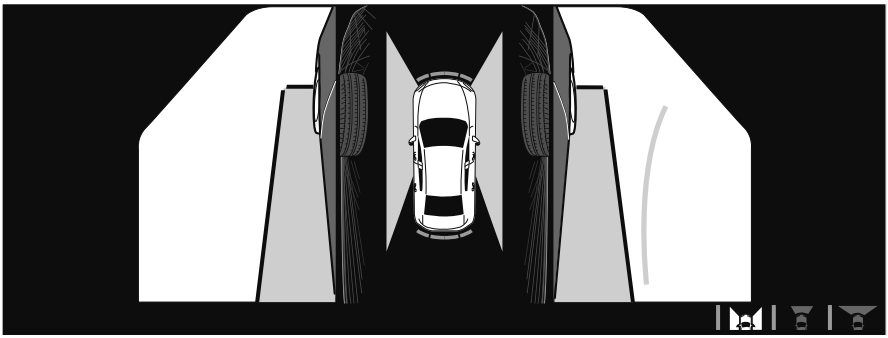
トップビュー/フロントワイドビュー

車両周辺および車両前方 (広域) の映像を表示します。



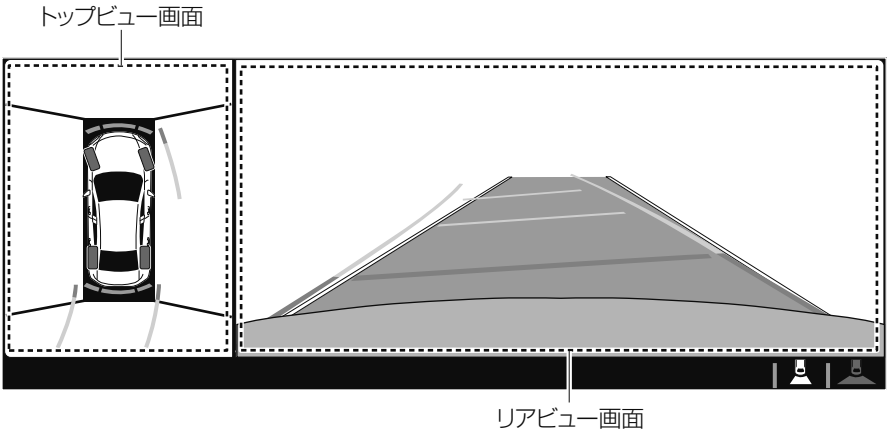
サイドビュー

車両左右前側面の映像を表示します。



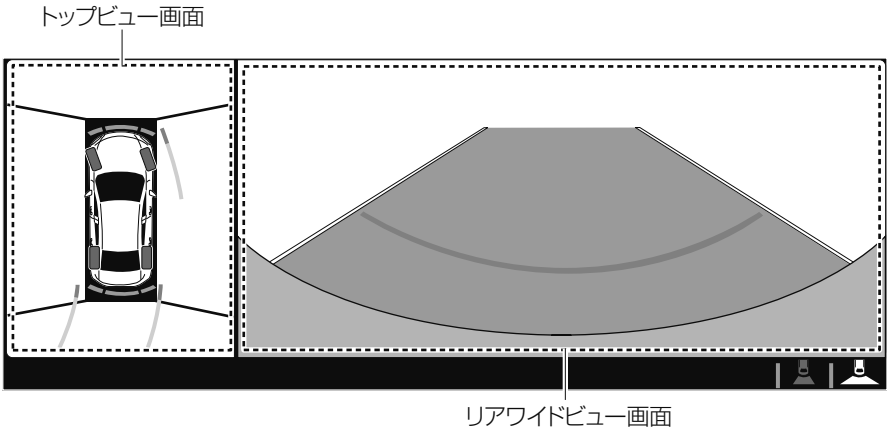
トップビュー/リアビュー

車両周辺および車両後方の映像を表示します。



トップビュー/リアワイドビュー

車両周辺および車両後方 (広域) の映像を表示します。



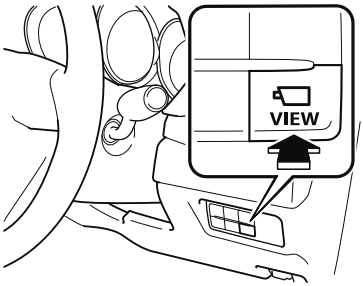
使用するとき

トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビュー

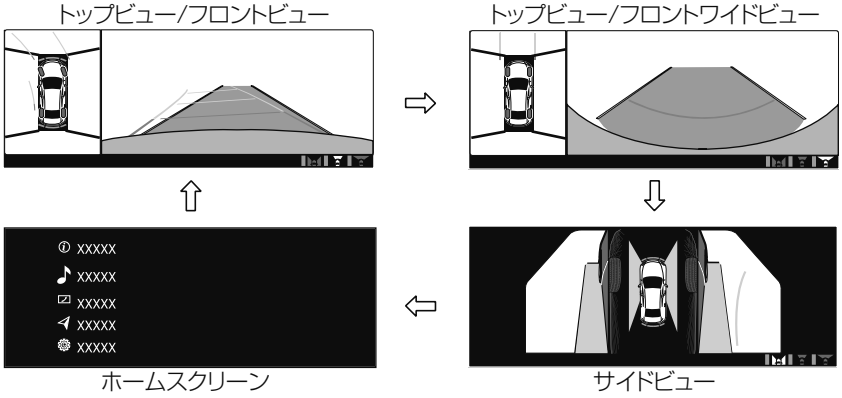
表示

次の条件をすべて満たしているときに 360° ビュー・モニター・スイッチを押すと画面に映像を表示します。

- 電源ポジションが ON のとき
- チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置以外にしているとき



表示の切り替え
表示される画面を 360° ビュー･モニタースイッチを押すたびに変更できます。



知識

- チェンジレバー/セレクトレバーが R の位置のときは、トップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、およびサイドビューに切り替わりません。
- 表示条件を満たしていても、次のいずれかの場合はトップビュー/フロントビュー、フロントワイドビュー、サイドビューの表示を終了します。
  - コマンダーノブ周囲のスイッチを押したとき
  - **(マニュアル車)**
    パーキングブレーキをかけたとき
  - **(オートマチック車)**
    - セレクトレバーを P の位置にしたとき (セレクトレバーが P の位置以外のときに表示させた場合)
  - **(車速が 15 km/h 未満のときに表示させた場合)**
    - 4 分 30 秒経過したとき
    - 車速が約 15 km/h 以上になったとき
  - **(車速が約 15 km/h 以上のときに表示させた場合)**
    - 360° ビュー･モニター･スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が約 15 km/h 以上のとき
    - 360° ビュー･モニター･スイッチを操作して 8 秒経過したときに、車速が 15 km/h 未満のときは、その時点から 4 分 22 秒経過したとき

知識

- 360°ビュー･モニターの設定を次のように変更することができます。
  - 超音波センサーが障害物を検知したときの 360°ビュー･モニター自動表示
  - 電源ポジションを ON にしたときの 360°ビュー･モニター自動表示
  - システム起動時の優先画面表示

  設定変更の方法については､マツダコネクト取扱書を参照してください。

トップビュー/リアビュー､トップビュー/リアワイドビュー

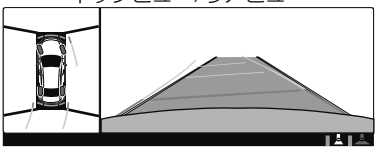
次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 電源ポジションが ON のとき
- チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にしているとき

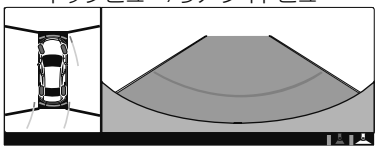
表示の切り替え

表示される画面を 360°ビュー･モニタースイッチを押すたびに変更できます。

トップビュー/リアビュー



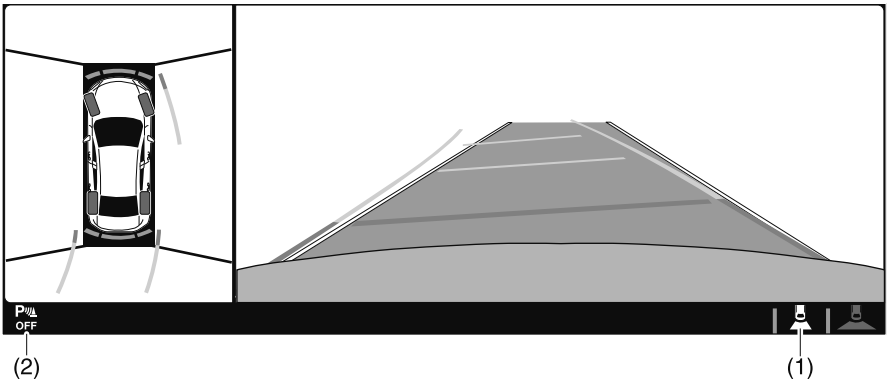
トップビュー/リアワイドビュー



知識

- トップビュー/リアビュー､トップビュー/リアワイドビューは､360°ビュー･モニター･スイッチの ON/OFF にかかわらず､チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にすると自動的に表示されます。
- 縦列駐車時などに､360°ビュー･モニター･スイッチを操作しなくても､前方の確認ができるよう､後退から前進へシフトチェンジしたとき､トップビュー/フロントビューを表示するように設定を変更できます。
  設定変更の方法については､マツダコネクト取扱書を参照してください。

画面操作/アイコン

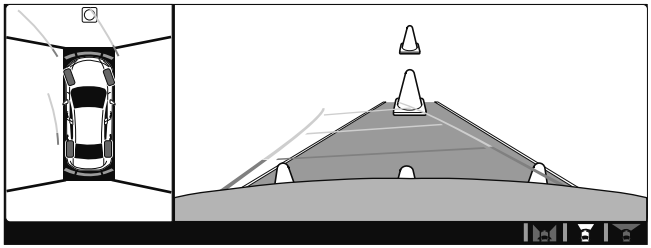


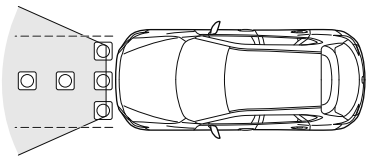
	表示/アイコン	内容
(1)	ビューステータスアイコン	フロントビュー/フロントワイドビュー/サイドビュー/リアビュー/リアワイドビューのうち、どの映像を表示しているかを示します。
(2)	パーキングセンサーステータスアイコン	パーキングセンサーに異常があるとき、またはOFF であることを示します。

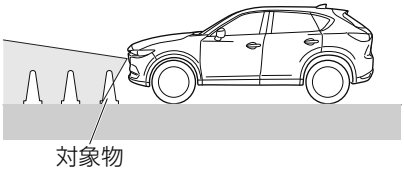
トップビュー/フロントビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲



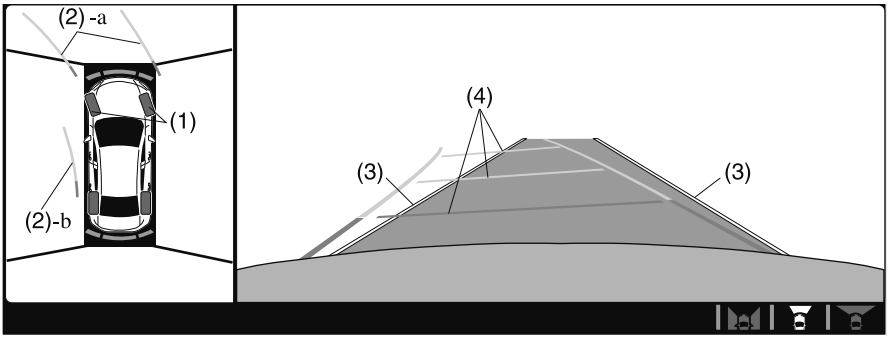




知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの端が通過する目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (赤色/黄色)	車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 ● 赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先を示します。 ● 黄色のラインはフロントバンパー前端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

⚠注意

必ず守る

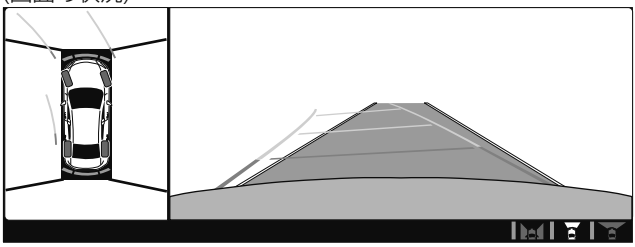
パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→437 ページ「パーキングセンサー」

知識

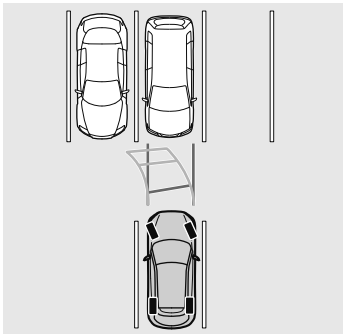
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

予想進路線の使用方法

(画面の状況)



(実際の状況)

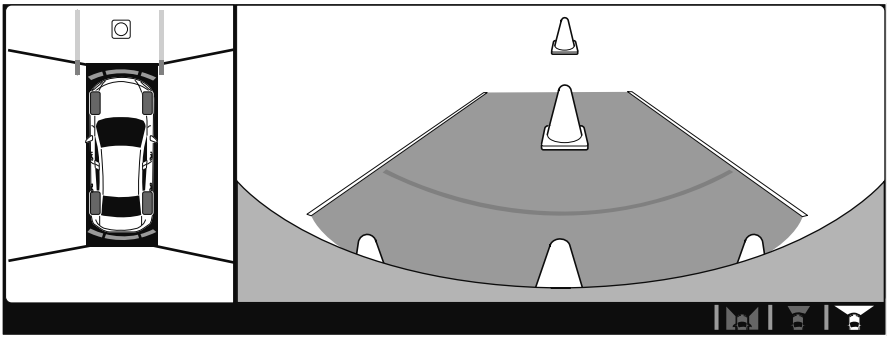


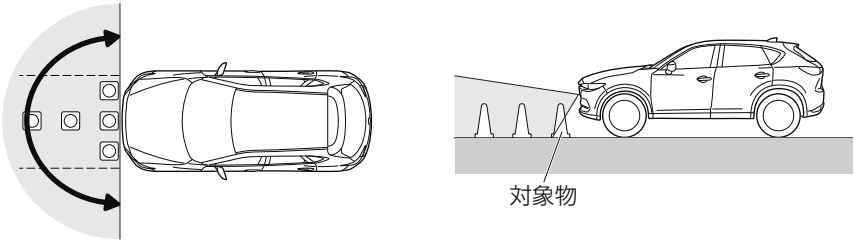
予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物にかからないようハンドルを操作して前進します。

トップビュー/フロントワイドビュー

発進時、または丁字路や交差点への進入時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

表示範囲

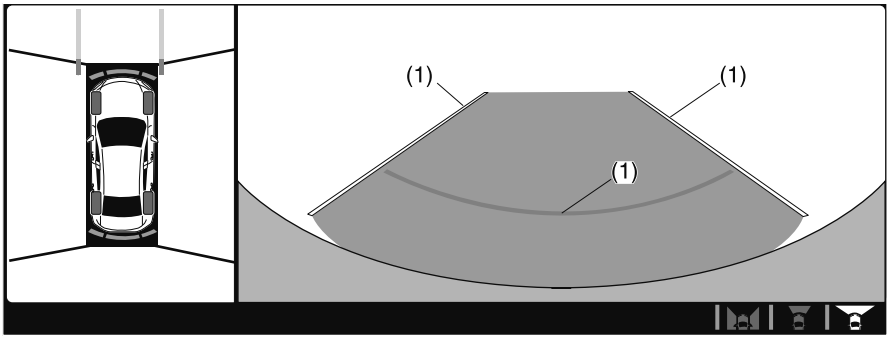




知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両前方の距離 (バンパー前端から) を示します。 • 赤色のラインはフロントバンパー前端から約 0.5 m 先までを示します。 • 青色のラインはフロントバンパー前端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

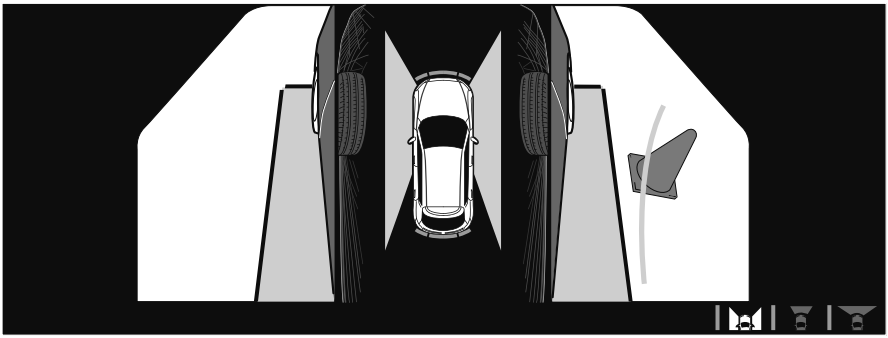
知識

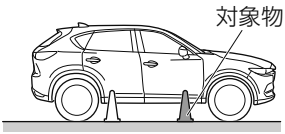
フロントワイドビュー画面は、車両の前方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

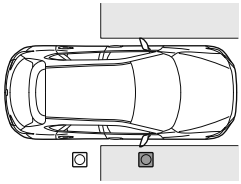
サイドビュー

発進時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

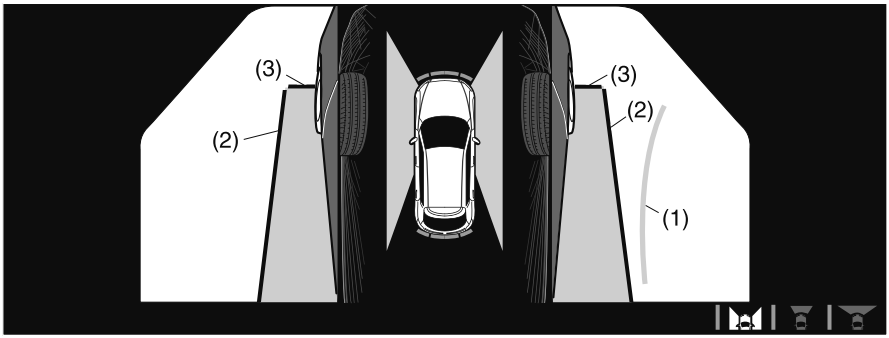
表示範囲







画面の見方



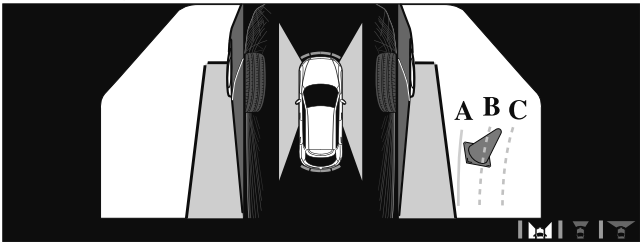
	表示/アイコン	内容
(1)	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 予想進路線 (黄色) は車両の内側が通過する目安を示すラインです。
(2)	車両平行線 (青色)	ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。
(3)	車両前端線 (青色)	車両の最前端 (バンパー先端) から約 0.25 m 先を示します。

知識

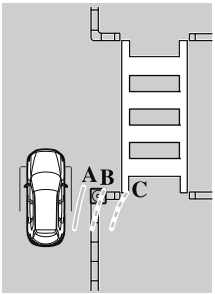
予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

予想進路線の使用方法

(画面の状況)



(実際の状況)



予想進路線が障害物にかかっていないことを確認します。
予想進路線が障害物の内側 (A) になるハンドル操作量を保持して車両が障害物を通り過ぎるまで前進します。
予想進路線が障害物上にあるとき (B) や障害物の外側 (C) にあるときは、小回りをすると障害物に触れる可能性があります。

⚠注意

必ず守る **パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**
詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
→437 ページ「パーキングセンサー」

禁止 **サイドビューの映像から障害物が見えなくなっても車両が障害物を通り過ぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すと小回りすることになり障害物に接触する可能性があります。**

知識

- 画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ずミラーや目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。

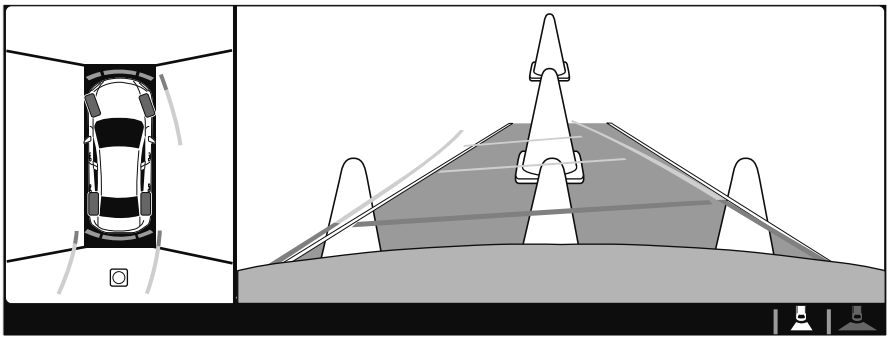
知識

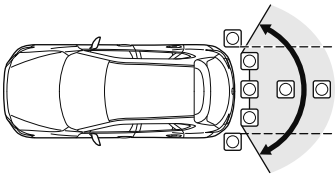
- 画面に映し出されている路肩の縁石や駐車スペースの区画線などの目標物と車両平行線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

トップビュー/リアビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲





知識

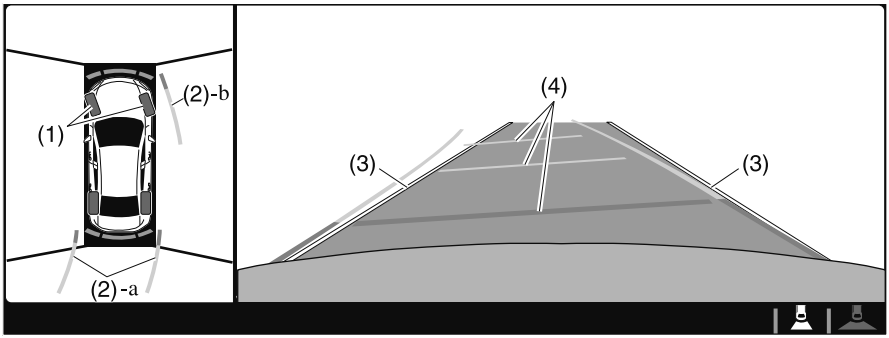
- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。

i-ACTIVSENSE について

知識

- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - リアビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	タイヤアイコン	タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
(2)	予想進路線 (黄色/赤色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) 後輪が通過する目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン
(3)	車幅延長線 (青色)	車幅の延長の目安を示します。
(4)	予想進路距離目安線 (黄色/赤色)	車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 • 赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先を示します。 • 黄色のラインはリアバンパー後端から約 1 m と約 2 m 先を示します。

知識

予想進路線を表示させないように設定を変更できます。
設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

予想進路線の使用方法

⚠注意

必ず守る

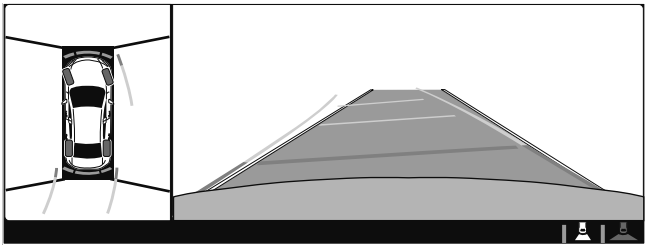
- **後退時にハンドル操作を行うと、車両の先端が外側に大きく振れます。車両と障害物の間は十分な間隔を保ってください。**
- **パーキングセンサーの検出範囲には限界があります。たとえば、側方から近づく障害物や背の低いものなどは検出できないことがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**
  詳細はパーキングセンサーの検知表示とブザーを参照してください。
  →437 ページ「パーキングセンサー」

知識

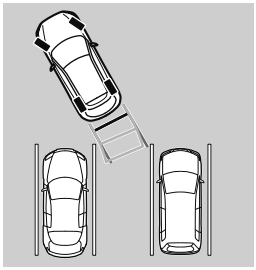
- 駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  - 画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  - 駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
- 次に示す状況は、ハンドルを左側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

1. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

(画面の状況)



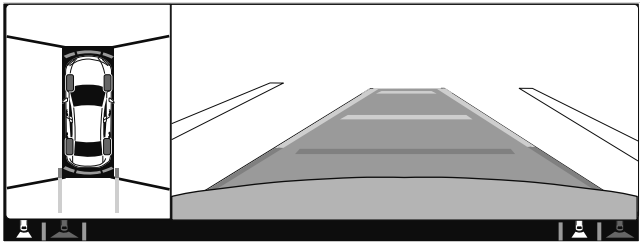
(実際の状況)



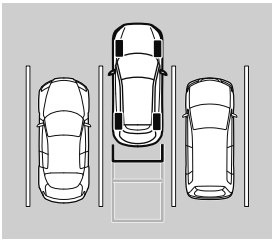
2. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

3. 車幅延長線と駐車スペースが平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。（駐車スペースに区画線がある場合は区画線と車幅延長線が平行になったとき）

(画面の状況)



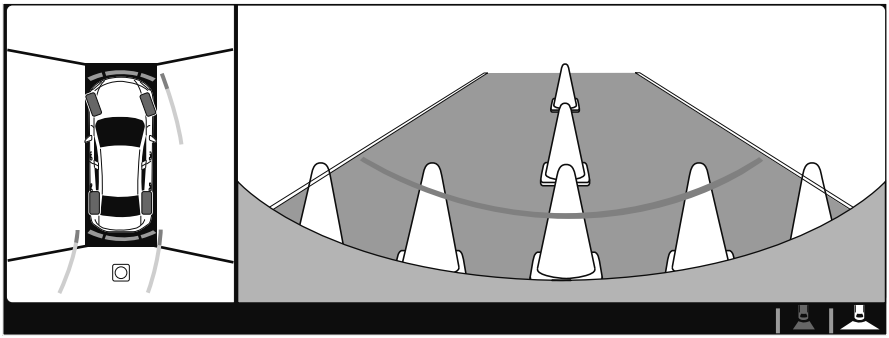
(実際の状況)

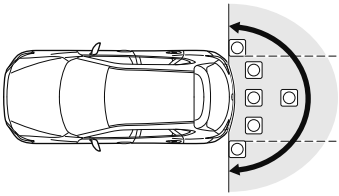


トップビュー/リアワイドビュー

後退時、または駐･停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

画面に映し出される範囲

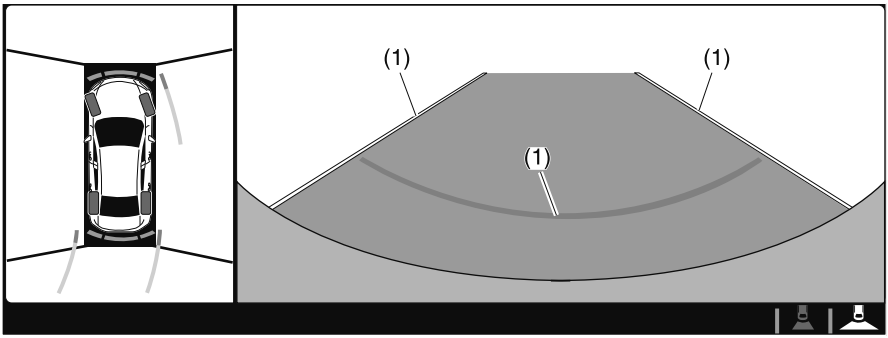




知識

- トップビュー画面は、車両アイコン前後の黒い範囲および各カメラからの映像のつなぎ目は死角となります。
- トップビュー画面は、各カメラからの映像を加工処理し表示しているため、次のように表示される場合があります。
  - いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲写すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
  - フロントビューで表示されている障害物が表示されないことがあります。
  - 車両の傾きで各カメラの位置や角度が変わると映像がずれて表示されることがあります。
  - 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
  - いずれかのカメラ付近の照度条件により、画面全体が明るく/暗く表示されることがあります。

画面の見方



	表示/アイコン	内容
(1)	車幅延長線、距離目安線 (赤色/青色)	車幅の延長の目安、車両後方の距離 (バンパー後端から) を示します。 ● 赤色のラインはリアバンパー後端から約 0.5 m 先までを示します。 ● 青色のラインはリアバンパー後端の約 0.5 m 先から約 2 m 先までを示します。

知識

リアワイドビュー画面は、車両の後方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくする目的で映像を補正しています。そのため、実際の見え方とは異なります。

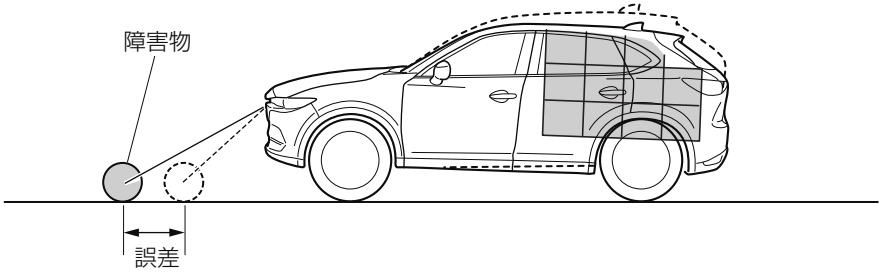
画面上の路面と実際の路面の誤差

画面上の路面と実際の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

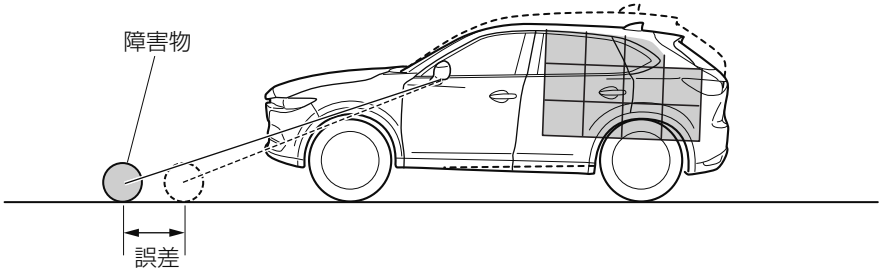
人や荷物の重みで車が傾いているとき

車両が傾いているときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際の位置と違って見えます。

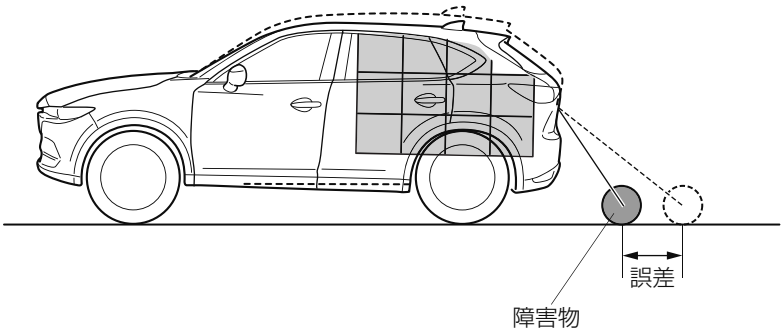
フロントカメラ



サイドカメラ



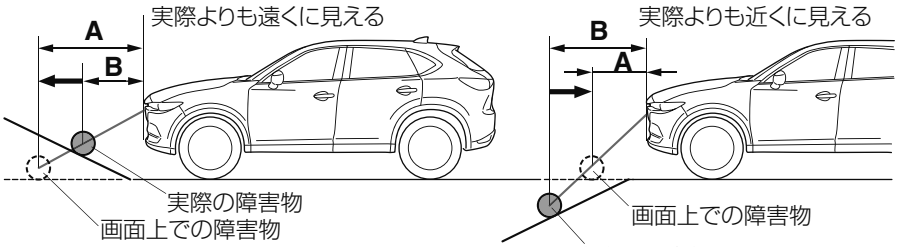
リアカメラ



車両前方、または後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

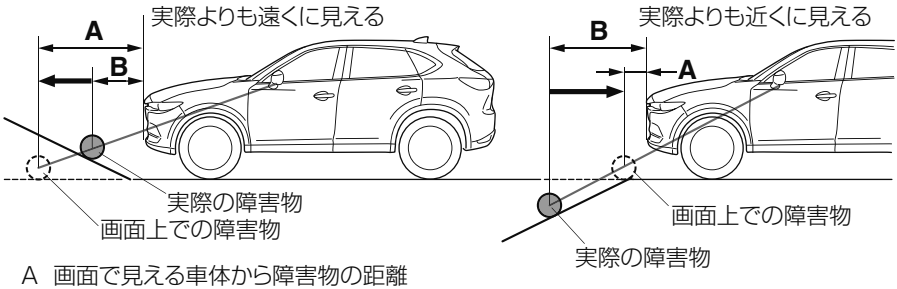
車両前方、または後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。

フロントカメラ



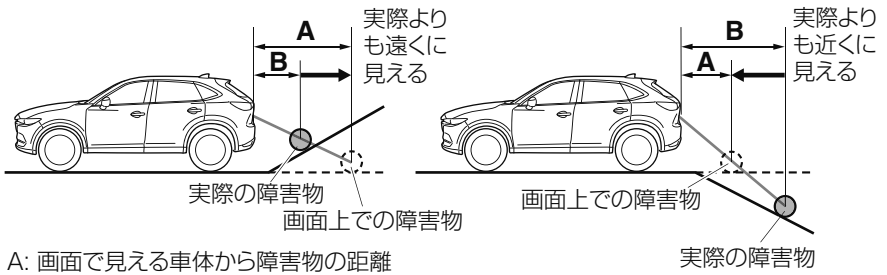
A 画面で見える車体から障害物の距離
B 車体から障害物の実際の距離離

サイドカメラ



A 画面で見える車体から障害物の距離
B 車体から障害物の実際の距離離

リアカメラ



A: 画面で見える車体から障害物の距離
B: 車体からの障害物の実際の距離

知識

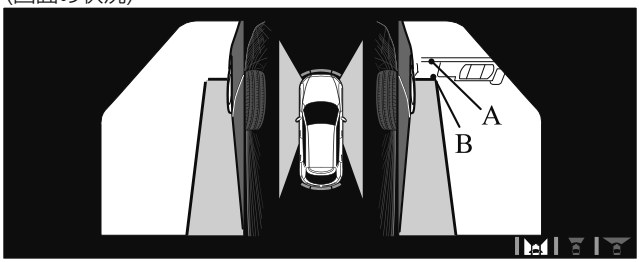
車両が坂にある場合でも同じように誤差が生じます。

車両前方、または後方に立体物があるとき

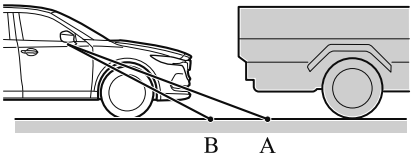
車両前端線 (サイドカメラ)、または距離目安線 (リアカメラ) は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

サイドカメラ

(画面の状況)

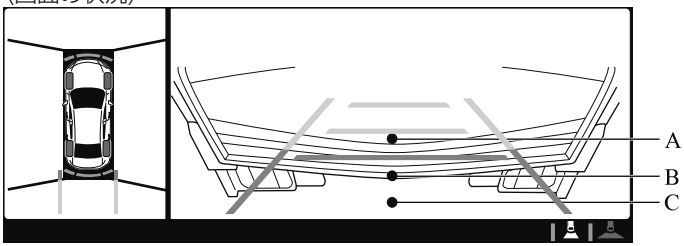


(実際の状況)



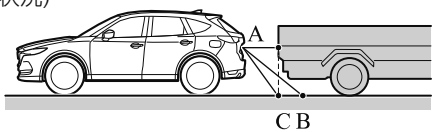
リアカメラ

(画面の状況)



画面上の距離感 A>B>C

(実際の状況)



実際の距離 B>C=A

こんなときは

センターディスプレイの表示	原因	処置方法
「カメラ映像信号がありません」と表示される。	制御ユニットの故障が考えられます。	マツダ販売店で点検を受けてください。
画面が真っ暗で何も映らない。	カメラなどの故障が考えられます。	

フォワードセンシングカメラ (FSC) について

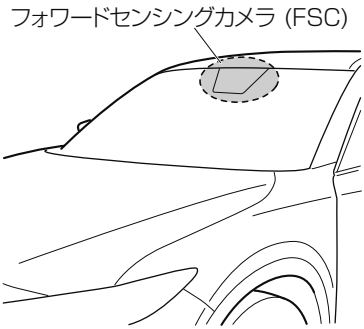
この車両にはフォワードセンシングカメラ (FSC) が装備されています。フォワードセンシングカメラ (FSC) は次のシステムが共用しています。

- アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
- アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- クルージング& トラフィック･サポート (CTS)

フォワードセンシングカメラ (FSC) は、夜間走行時に前方の状況を判断したり、車線表示を検知したりしています。フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。

i-ACTIVSENSE について

フォワードセンシングカメラ (FSC) はルームミラー付近に設置されています。



⚠ 警告

サスペンションを改造しない

禁止

車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、システムが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

正しい作動のため、次のことをお守りください。

必ず守る

- **フォワードセンシングカメラ (FSC) を取りはずさないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のカバーをはずさないでください。**
- **インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを貼らないでください。フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズの前方に妨げとなるものがあると、透明なステッカーでも誤作動の原因となります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常に綺麗な状態にしてください。曇ったときは、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。**
- **フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどが、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズに付着しないようにしてください。また、フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズには触れないでください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 前方のフロントガラス内側の清掃はマツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) のレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障、誤動作の原因になります。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体周辺の修理を行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **ルームミラー周辺の修理を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。**
- **カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) 本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、次のシステムの使用を中止しマツダ販売店にご相談ください。**
  - **アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)**
  - **車線逸脱警報システム**
  - **レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム**
  - **交通標識認識システム (TSR)**
  - **ドライバー・アテンション・アラート (DAA)**
  - **アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンスト SCBS)**
  - **AT 誤発進抑制制御 [前進時]**
  - **スマート・ブレーキ・サポート (SBS)**
  - **マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))**
  - **クルージング&トラフィック・サポート (CTS)**
- **フォワードセンシングカメラ (FSC) の向きは厳密に調整されていますので、フォワードセンシングカメラ (FSC) の取り付け位置を変更したり、取りはずしたりしないでください。故障、誤動作の原因になります。**

i-ACTIVSENSE について

⚠注意

必ず守る **4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正常に作動しなくなるおそれがあります。**

必ず守る **フォワードセンシングカメラ (FSC) は、ガラスの汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。**

知識

- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、次のすべての条件を満たしたときに歩行者を認識します。
  - 歩行者が身長約 1 m～2 m のとき
  - 頭部、両肩、脚などの輪郭が判別できるとき
- 次のようなときはフォワードセンシングカメラ (FSC) が歩行者と認識できない場合があります。
  - 複数人で歩いているとき、集団でいるとき
  - 別の障害物の近くにいるとき
  - 歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
  - 歩行者が急に目の前に飛び出してきたとき
  - 歩行者が傘をさしている、大きな荷物を持っているなど、何かを持っているとき
  - 夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど背景に溶け込んでいるとき
- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が正確に対象物を検知できず、各システムが正常に作動しない場合があります。
  - 前方車が車高の低い車両のとき
  - 前方車と同程度の速度で走行しているとき
  - 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

知識

- 次のような場合は、フォワードセンシングカメラ (FSC) が対象物を検知できないことがあります。
  - 雨･霧･雪など天候が悪いとき
  - ウィンドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき
  - フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなどの異物が付着しているとき
  - 荷台の低いトラック、極端に車高の低い車両や車高の高い車両
  - 模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
  - 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき
  - 前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
  - 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
  - トンネルの出入り口を走行しているとき
  - ルーフレールなどを装着してフォワードセンシングカメラ (FSC) をおおうような長尺物をのせたとき
  - 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき
  - 偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき
  - 下り坂や凸凹な道路を走行しているとき
  - 路面に水たまりがあるとき
  - 夜間や夕方、朝方、トンネルや屋内の駐車場など周囲が暗いとき
  - ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているときなどヘッドランプの明るさが十分でないとき
  - 対象物がフォワードセンシングカメラ (FSC) の死角にいるとき
  - 対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだとき
  - 自車が車線変更をして対象物に接近したとき
  - 対象物との距離が極端に近い状態で走行しているとき
  - タイヤチェーン･応急用スペアタイヤを使用しているとき
  - 他の車をけん引しているとき
  - 重い荷物の積載などにより車が傾いているとき
  - 前方に強い光を受けたとき (逆光やヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
  - 車両前方にたくさんの光を発するものがあるとき
  - 前方車にテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき
  - キャリアカーなど、特殊な形状をした車両

知識

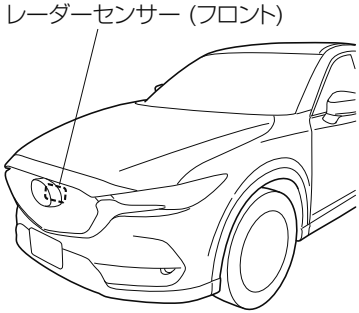
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、逆光や霧などで正常に作動できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。
  - アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
  - クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 警告表示
- フォワードセンシングカメラ (FSC) は、高温で正常に機能できない場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。エアコンを作動させるなどしてフォワードセンシングカメラ (FSC) 周辺の温度を下げてください。
  - アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム 警告表示
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
  - クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 警告表示
- フォワードセンシングカメラ (FSC) が、ガラスの汚れや曇りを検知した場合、フォワードセンシングカメラ (FSC) に関連するシステムの機能を一時的に停止し、次の警告灯/警告表示を点灯させますが、故障ではありません。ガラスの汚れを取り除く、または、曇り取りスイッチを押してガラスの曇りを取ってください。
  - アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯
  - 車線逸脱警報システム警告表示
  - レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム警告表示
  - スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示 (橙)
  - マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示
  - クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 警告表示
- 飛び石などでフロントガラスに傷などが認められるときは、フロントガラスを必ず交換してください。交換する際は、マツダ販売店にご相談ください。

レーダーセンサー (フロント) について

この車両にはレーダーセンサー (フロント) が装備されています。
レーダーセンサー (フロント) は次のシステムが共用しています。

- 車間認知支援システム
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))
- クルージング& トラフィック･サポート (CTS)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

レーダーセンサー (フロント) は､レーダーセンサー (フロント) から送信される電波が前方車や障害物に反射し､もどってきた電波を検知することで制御しています。
レーダーセンサー (フロント) はフロントのエンブレムの裏側に設置されています。



マルチインフォメーションディスプレイに「レーダー汚れレーダー前面を清掃してください」が表示されたときは､レーダー センサー (フロント) 付近を清掃してください。

⚠注意

必ず守る

各システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- **レーダーセンサー (フロント) 付近のラジエーターグリル、およびエンブレム表面にステッカー (透明なものを含む) などを貼り付けたり、ラジエーターグリルおよびエンブレムをレーダーセンサー (フロント) 用の正規品以外の物に取り換えたりしないでください。**
- **レーダーセンサー (フロント) は、センサー前面の汚れを検知してお知らせする機能を備えていますが、ビニール袋や氷、雪などが付着した場合などは、検出に時間がかかったり、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがありますので、センサーはいつもきれいにしておいてください。**
- **グリルガードなどを取り付けないでください。**
- **接触事故などでフロント部分を破損したときは、レーダーセンサー (フロント) の位置がずれることがあります。ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。**
- **駐車スペースなどから車両を出すときに、他の車両や障害物をフロントバンパーで押さないでください。レーダーセンサー (フロント) に荷重が加わり、位置がずれる可能性があります。**
- **レーダーセンサー (フロント) を取りはずしたり、分解、改造しないでください。**
- **レーダーセンサー (フロント) 付近を修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。**
- **サスペンションを改造しないでください。サスペンションの改造をすると車の傾きが変わり、前方車や障害物を正しく検知できないことがあります。**

知識

- 次のようなときは、レーダーセンサー (フロント) が前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。
  - 前方車が空荷のトレーラーや荷台を幌で囲った車両、樹脂製リアゲートの車両、丸い形状の車両など後面が電波を反射しにくい車両のとき
  - 前方車が車高の低い車両など電波を反射する面積が小さい車両のとき
  - 前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど前方の視界状況が悪いとき
  - ラゲッジルームや後席へ重い荷物をのせたとき
  - フロントのエンブレムの表面に氷や雪、汚れなどが付着しているとき
  - 雨、雪、砂嵐など天候が悪いとき
  - 強力な電波を発生させる施設や物体などの近くを走行しているとき

知識

- 次のような場合は、レーダーが隣の車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できないことがあります。
  - カーブの始まりやカーブの終わり
  - カーブが連続する道路
  - 工事中や車線規制で車線幅の狭い道路
  - 前方車がレーダーセンサー (フロント) の死角にいるとき
  - 前方車が事故や故障で不安定な走行をしているとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返される道路
  - 悪路、未舗装の道路を走行しているとき
  - 前方車との車間距離が極端に短いとき
  - 割り込みなどで急接近したとき
- システムが正常に作動しなくなるおそれがあるため、4 輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。また、摩耗差の著しいタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。 (応急用スペアタイヤも含む)
- バッテリーが弱ってきた場合は、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 交通量が少なく、レーダーセンサー (フロント) が検知する前方車が少ない道路を走行すると、ディスプレイに「レーダー汚れレーダー前面を清掃してください」が一時的に表示されることがありますが異常ではありません。
- レーダーセンサー (フロント) は電波法の基準に適合しています。レーダーセンサー (フロント)に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解および改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

レーダーセンサー (リア) について

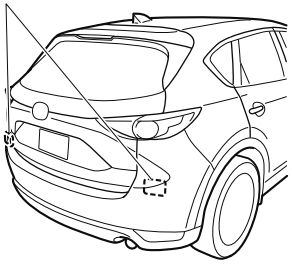
この車両にはレーダーセンサー (リア) が装備されています。レーダーセンサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
- リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA)

レーダーセンサー (リア) は、レーダーセンサーから送信される電波が後方からの接近車両や障害物に反射し、もどってきた電波を検知することで制御しています。

i-ACTIVSENSE について

レーダーセンサー(リア)



レーダーセンサー (リア) は、リアバンパーの内側に左右 1 つずつ設置されています。
レーダーセンサー (リア) の正しい作動のため、レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパー表面は、いつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。
→540 ページ「外装の手入れ」

⚠注意

リアバンパーに強い衝撃が加わったときは、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちにシステムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

- レーダーセンサー (リア) の検知性能には限界があります。次のような場合は検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
  - レーダーセンサー (リア) 付近のリアバンパーが変形したとき
  - リアバンパーのレーダーセンサー (リア) 付近に氷、雪や泥が付着しているとき
  - 雨、雪、霧などの悪天候のとき
- 次のような対象物は、レーダーセンサー (リア) が検知しない、もしくは検知しにくいことがあります。
  - 小型の二輪車、自転車、歩行者、動物、ショッピングカート、道路上および道路端の静止物体
  - レーダーが反射しにくい形状の車両 (車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど)
- レーダーセンサー (リア) が接近車両を正しく検知するために、車両搭載状態でレーダーセンサー (リア) の向きを車両ごとに調整して出荷しています。レーダーセンサー (リア) の向きが何らかの原因でずれた場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサー (リア) の修理、交換およびレーダーセンサー (リア) 付近のバンパー修理、塗装、交換をするときは、マツダ販売店にご相談ください。
- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合は、システムを停止してください。レーダーの電波がさえぎられるためシステムが正常に作動しない可能性があります。
- レーダーセンサー (リア) は、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

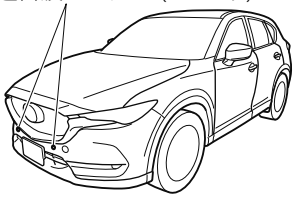
超音波センサー (フロント) について グレード/仕様別装備

この車両には超音波センサー (フロント) が装備されています。超音波センサー (フロント) は次のシステムが使用しています。

- AT 誤発進抑制制御 [前進時]

超音波センサー (フロント) は、超音波センサー (フロント) から送信される超音波が前方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。
超音波センサー (フロント) は、フロントバンパーに設置されています。

超音波センサー (フロント)



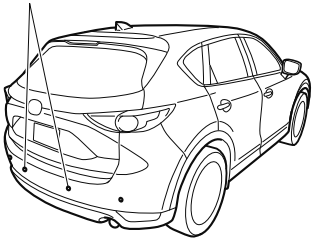
超音波センサー (リア) について

この車両には超音波センサー (リア) が装備されています。超音波センサー (リア) は次のシステムが共用しています。

- スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

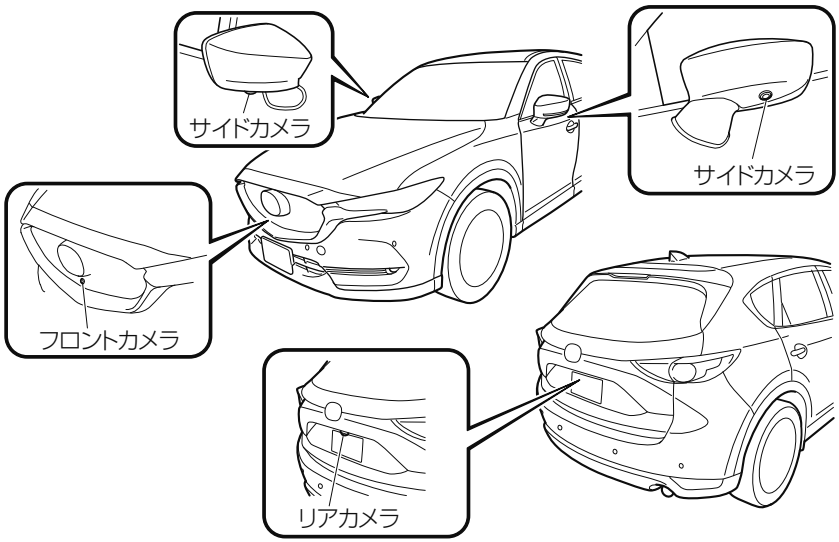
超音波センサー (リア) は、超音波センサー (リア) から送信される超音波が後方の障害物に反射し、もどってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。
超音波センサー (リア) は、リアバンパーに設置されています。

超音波センサー(リア)



フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ グレード/仕様別装備

この車両にはフロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラが装備されています。各カメラは 360° ビュー・モニターで使用しています。
フロントカメラ、サイドカメラ、およびリアカメラは、車両周辺の映像を撮影します。
各カメラは、次の位置に設置されています。

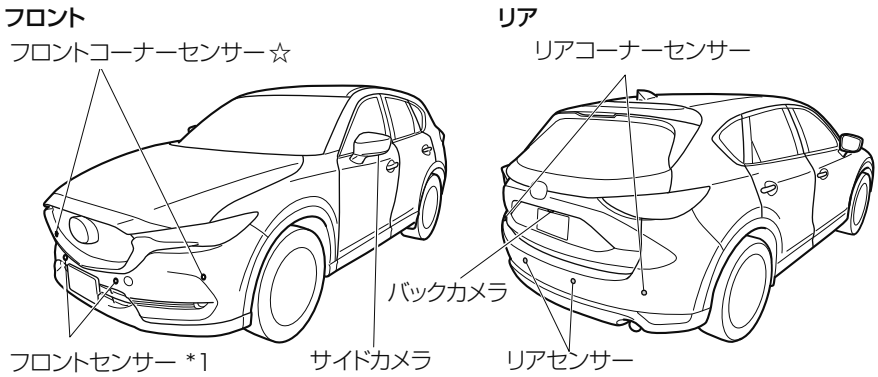


駐車支援システムとは

駐車支援システムとは、カメラとセンサーを使用して、周囲の安全確認を補助するシステムです。
駐車支援システムは次のシステムで構成されています。

- サイドモニター グレード/仕様別装備
- バックガイドモニター グレード/仕様別装備
- パーキングセンサー

カメラとセンサーの取り付け位置



☆印はグレードや仕様により装備の有無が異なります

*1: 360° ビュー・モニター非装備車は、AT誤発進抑制制御 [前進時] のみで使用します

サイドモニター グレード/仕様別装備

サイドモニターは、車両左前方側面の映像上に映し出したガイド線で、車の前進と左前側面を補助するシステムです。

⚠警告

必ず左前側面および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

必ず守る **サイドモニターはあくまでも車の前進と左前側面を補助する装置です。画面に映し出されている映像は実際の状況とは異なることがあります。サイドモニターを過信して運転すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

駐車支援システムについて

⚠注意

次のような状況では危険ですので、サイドモニターを使用しないでください。

- **凍結した滑りやすい路面や雪道**
- **タイヤチェーン·応急用タイヤを使用しているとき**
- **坂道などの平坦でない道路**

ディスプレイが冷えているとき、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなり、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。

カメラ部は防水構造となっていますので、分解·改造·取りはずしをしないでください。

カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤·有機溶剤·ワックス·ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布等でふき取ってください。

カメラのカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーまたはレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。

知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などがついているときは、やわらかい布等でふき取ってください。よごれがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 車両側面をぶつけたときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化をあたえるとサイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときや、アイドリングストップが再始動するときに画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- ディスプレイに「映像信号を受信できません。」と表示されたときは、カメラ等の故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

サイドモニター表示位置

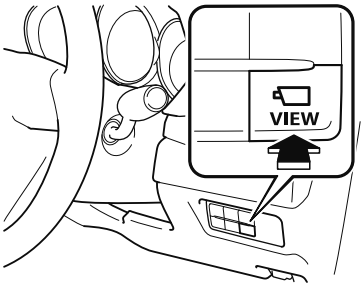
センターディスプレイに表示します。

知識

モニターの明るさは自動で調整されます。

サイドモニターに切り替えるには

電源ポジションが ON のときに、モニタースイッチを押すとサイドモニターに切り替わります。



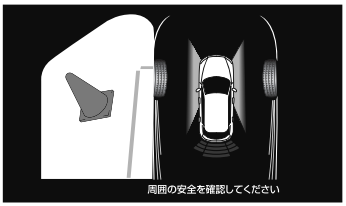
知識

- サイドモニターは、次の状態になると解除されます。
  - 電源ポジションを ACC または OFF にしたとき
  - 連続表示が約 4 分 30 秒経過したとき
  - 車速が約 20 km/h 以上になったとき (サイドモニター表示から約 8 秒経過後)
- チェンジレバー/セレクタレバーを R の位置にしてバックガイドモニターを表示しているとき、モニタースイッチを押すと、サイドモニターが表示されます。 その後、チェンジレバー/セレクタレバーを D/N に変更しても、サイドモニター表示が継続されます。
- サイドモニターを表示しているとき、チェンジレバー/セレクタレバーを R の位置にすると、バックガイドモニターが表示されます。 その後、チェンジレバー/セレクタレバーを D/N に変更すると、サイドモニター表示に切り替わります。

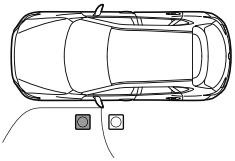
画面に映し出される範囲

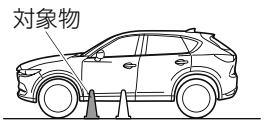
左ドアミラー内に設置されたカメラから、車両左前方側面を映し出します。

（画面の状況）



（実際の状況）





⚠注意

ドアミラーを格納したまま使用しないでください。

必ず守る

知識

- サイドカメラとセンターディスプレイは保安基準適合部品です。サイドカメラとセンターディスプレイが故障したときは速やかにマツダ販売店にご相談ください。
- 自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
- サイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- 装備によってはカメラに写りこむ場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野を遮るもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど) は取り付けないでください。
- 次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間など暗いところ
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物がついたとき
  - 太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接当たったとき
  - 周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります。)
  - 極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります。)

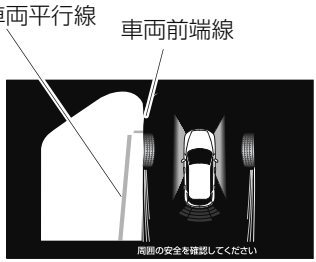
知識

- **フリー/オープンソース ソフトウェア情報**
  この製品は、フリー/オープン ソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
  https://www.denso.com/global/en/opensource/svss/mazda/

画面の見方

車両の左前方の映像を映し出して発車時、駐·停車時に周囲の安全を確認するときの補助としてご使用ください。

進路線表示画面



車両平行線 (黄色)

- ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。

車両前端線 (黄色)

- 車両の先端の目安を示します。

サイドモニターの使用

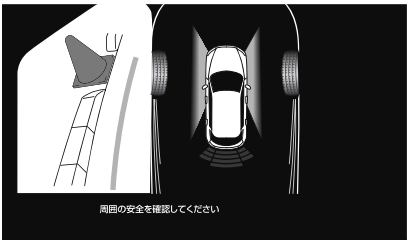
⚠注意

禁止 **サイドモニターを使って運転する方法は、道路事情･路面状況･自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング･操作量は状況によって異なりますので、周囲を確認しながら状況に合わせた操作を行なってください。**

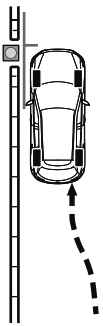
車両平行線

車両平行線が路肩の縁石などの障害物にかかっていないことを確認します。
路肩の縁石などの障害物と車両平行線が重ならないように車両を幅寄せします。このとき車両平行線と目標物が平行になるようにハンドルを操作すると目標物と平行に駐車することができます。

（画面の状況）



（実際の状況）



知識

画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ずミラーや目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。

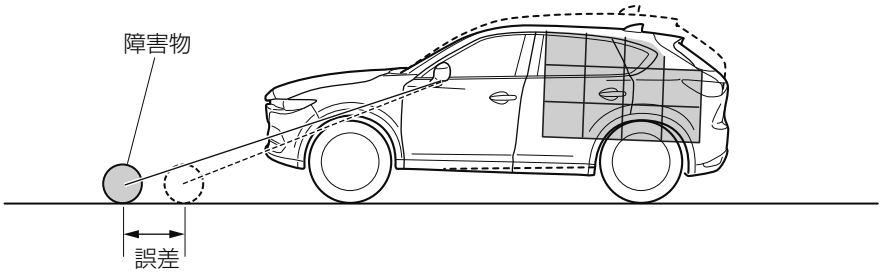
- 画面に映し出されている路肩の縁石や駐車スペースの区画線などの目標物と車両平行線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

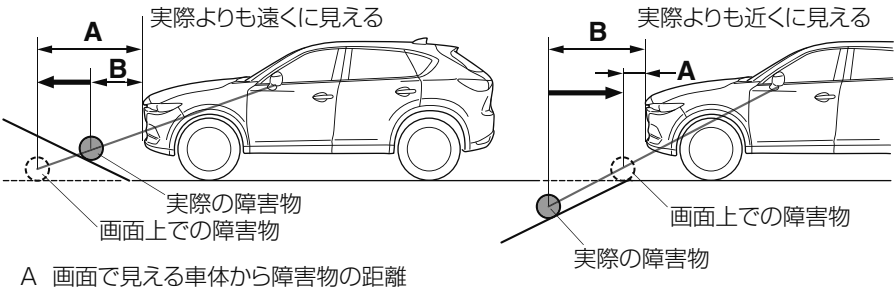
人や荷物の重みで車が傾いているとき

車両が傾いているときは、カメラに映る障害物は車体前部からの距離が実際の位置と違って見えます。



車両前方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

車両前方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体前部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。



A 画面で見える車体から障害物の距離
B 車体から障害物の実際の距離離

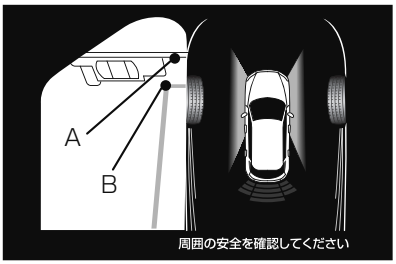
知識

車両が坂にある場合でも同じように誤差が生じます。

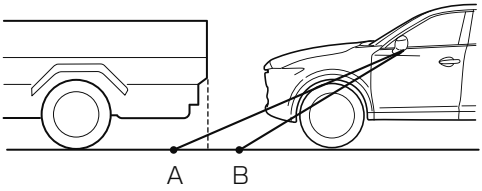
車両前方に立体物があるとき

車両前端線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。

（画面の状況）



（実際の状況）



バックガイドモニター　グレード/仕様別装備

バックガイドモニターは、車両後方の映像上に映し出したガイド線で、車の後退を補助するシステムです。

⚠警告

必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

バックガイドモニターはあくまでも車の後退操作を行なうための補助装置です。画面に映し出されている映像は実際の状況とは異なることがあります。バックガイドモニターを過信して後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- **次のような状況では危険ですので、バックガイドモニターを使用しないでください。**
  - **凍結した滑りやすい路面や雪道**
  - **タイヤチェーンまたは応急用タイヤを使用しているとき**
  - **リアゲートが完全に閉まっていないとき**
  - **坂道などの平坦でない道路**
- **ディスプレイが冷えていると、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったりして、車両周辺の状況を確認しにくくなる場合があります。必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。**
- **カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。**

⚠注意

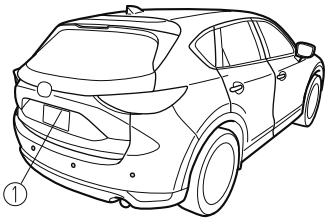
- **カメラ部は防水構造となっていますので、分解、改造、取りはずしをしないでください。**
- **カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。**
- **カメラのカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどでみがいたりしないでください。カバーまたはレンズが傷つき、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

知識

- カメラのレンズに水滴や雪、泥などが付いているときは、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。
- 車両後部を接触したときは、カメラ (位置、取り付け角度) がずれているおそれがあります。必ずマツダ販売店で確認を行なってください。
- 寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えるとバックガイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの電圧が低いときや、アイドリングストップが再始動するときに画面が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
- ディスプレイに「映像信号を受信できません。」と表示されたときは、カメラなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

バックガイドモニターのカメラ取り付け位置

バックガイドモニターのカメラはリアバンパーに設置されています。



1. カメラ

バックガイドモニター表示位置

センターディスプレイに表示します。

知識

モニターの明るさは自動で調整されます。

バックガイドモニターに切り替えるには

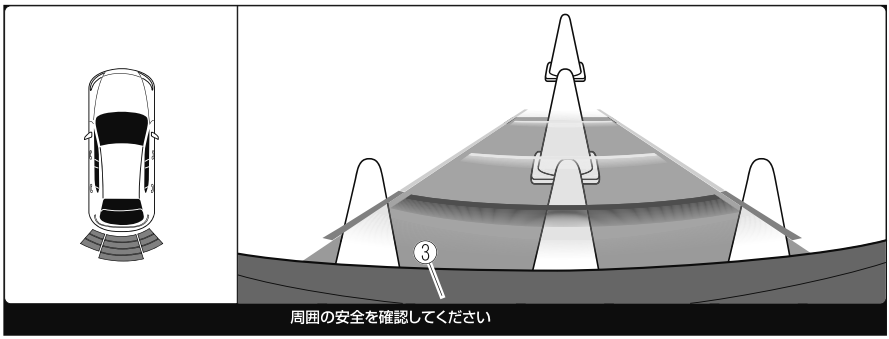
電源ポジションが ON のとき、チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にするとバックガイドモニターに切り替わります。

画面に映し出される範囲

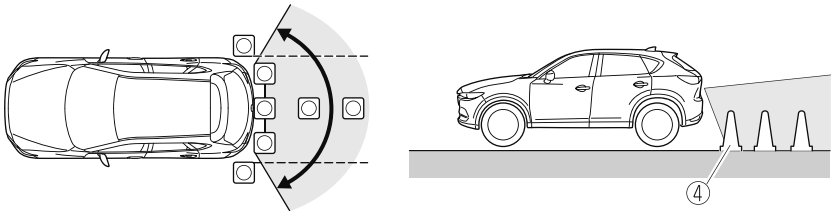
車両後方の映像を映し出して駐車または停車時に障害物や車間距離を確認するときの補助としてご使用ください。

車両後部に設置されたカメラから、車両後方の映像を表示します。

①



②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. バンパー
4. 対象物

知識

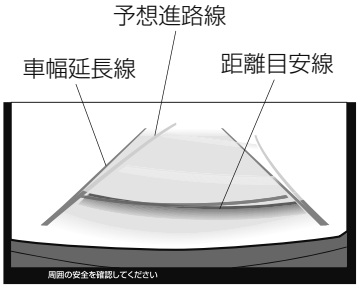
- 自車の状況や路面状況により、映し出される範囲は異なります。
- カメラが映す範囲には限界があります。バンパーの下にあるものやバンパーの両端付近は映りません。
- バックガイドモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離間隔は実際の距離とは異なります。
- バックガイドモニターは鏡面画像になっています。
- 装備によってはカメラに写り込む場合があります。カメラの視野に影響をおよぼすもの (視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできたものなど)は取り付けないでください。

駐車支援システムについて

知識

- 次のような状況では、画面が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
  - 夜間など暗いところ
  - レンズ付近の温度が高い/低いとき
  - 雨天時など、カメラに水滴が付いたときや湿度が高いとき
  - カメラ付近に泥などの異物が付いたとき
  - 太陽やヘッドランプなどの光がカメラのレンズに直接あたったとき
  - 周囲が車両のライト、蛍光灯の光または、LED の光で照らされているとき (ディスプレイがちらつくことがあります)
  - 極小の黒い点または極小の白い点が画面に含まれているとき (点がちらつくことがあります)

ガイド線の見方



a) 予想進路線 (黄色)
車両の予想進路の目安を示すライン
ハンドルを操作すると、予想進路線が連動して動きます。
b) 車幅延長線 (青色)
車幅の延長の目安を示すライン
ハンドルが直進状態のときは、表示されません。
c) 距離目安線
車両後方の距離 (バンパー後端から) を示すライン

- ハンドル操作と連動するライン (赤色と黄色) は、それぞれの中心位置で、約 0.5m 先 (赤色) 約 1m 先 (黄色) を示します。
- ハンドルが直進状態ではないときは、誤差が生じます。
- 画面では、距離目安線が示す実際の距離 (赤色: 約 0.5m 先、黄色: 約 1m 先) より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

⚠注意

バックガイドモニターを使って駐車する方法は、駐車時の道路事情、路面状況、自車の状況によって違います。ハンドル操作のタイミング、操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作を行なってください。また、操作を行なう前は、必ず駐車スペースに車両が駐車できるかを確認してください。

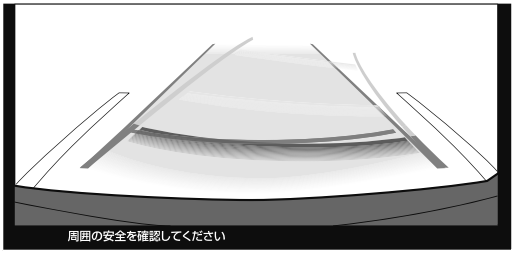
知識

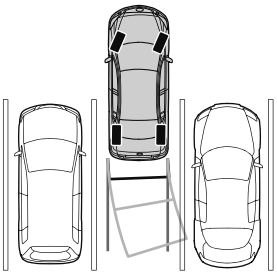
次に示す状況は、ハンドルを右側にまわして後退し、駐車する例を示しています。逆方向から後退し駐車するときは、左右が逆になります。

1. チェンジレバー/セレクトレバーを R の位置にし、バックガイドモニターを表示します。

2. 車両が駐車スペースの中に入るようにハンドル操作を行ない後退します。

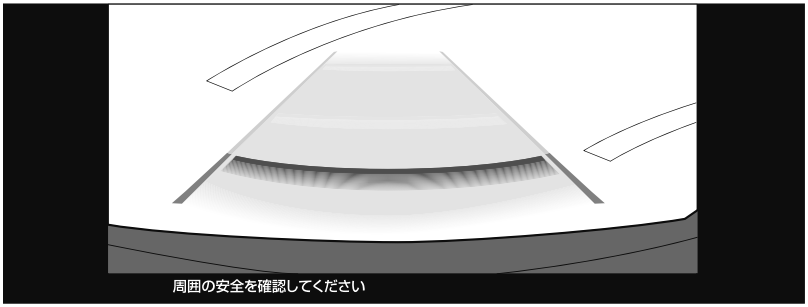
（画面の状況）　（実際の状況）



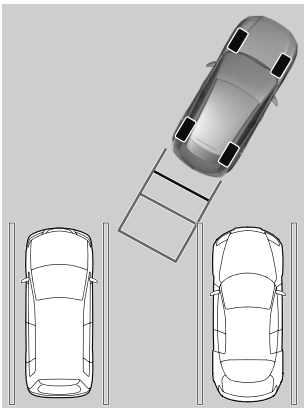


3. 車両が駐車スペース内に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の間隔が、車両付近の位置で同じくらいになるようにハンドルを操作して、ゆっくり後退します。

①



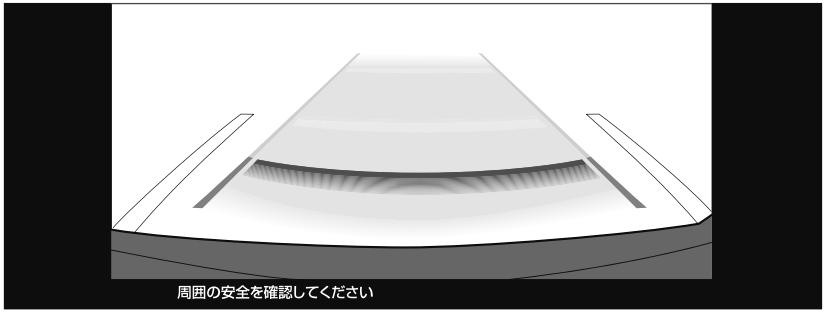
②



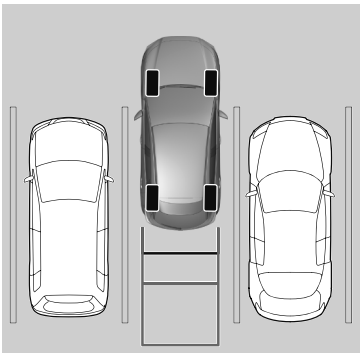
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

4. 車幅延長線と駐車スペースが平行になるようにハンドルを操作します。
5. 平行になったら、ハンドルを直進状態にして、ゆっくり後退します。周囲の状況を十分に確認し、最適な位置で停止します。

①



②



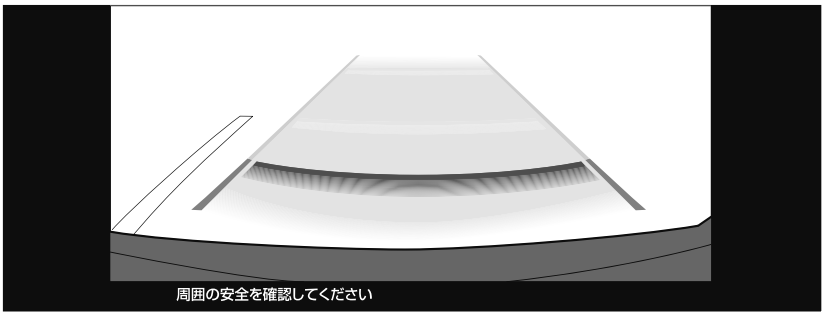
1. (画面の状況)
2. (実際の状況)

知識

- 駐車スペースに区画線がある場合は、区画線と車幅延長線が平行になったら、ハンドルを直進状態にしてください。

知識

- 駐車するときは、次のように画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
  - 画面に映し出される駐車スペース（車庫など）の後端と距離目安線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。
  - 駐車場の区画線が片側しかないときは、区画線と車幅延長線が平行に見えていても、実際には平行ではないことがあります。

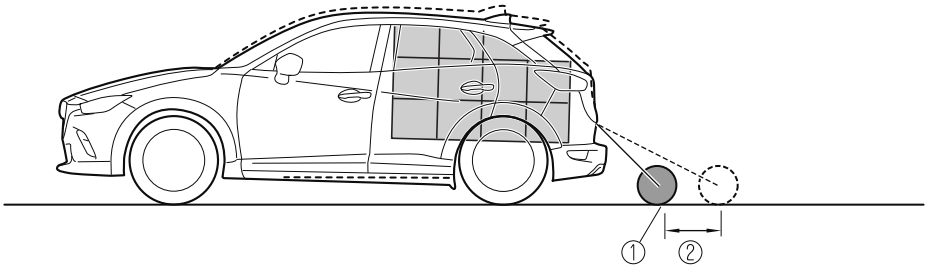


実際の画面と路面の誤差

実際の路面と画面上の路面とでは距離に誤差が生じます。距離感の誤差は事故につながるおそれがありますので、次のような、誤差の起こりやすい状況を確認しておいてください。

人や荷物の重みで車が傾いているとき

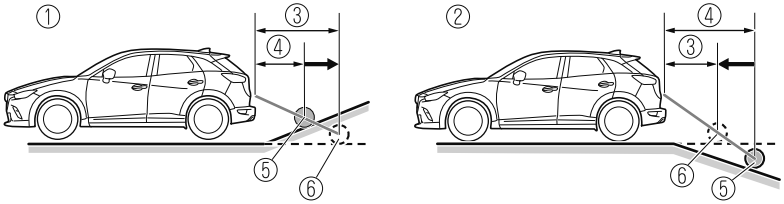
車両が傾いて後部が下がっているときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠くにあるように見えます。



1. 障害物
2. 誤差

車両後方に勾配の急な上り坂や下り坂があるとき

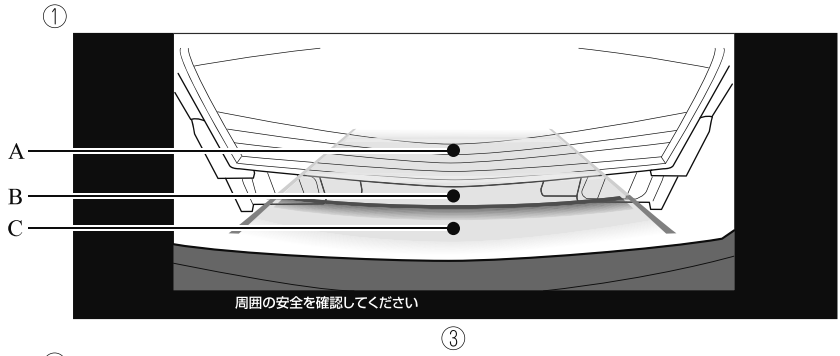
車両後方に勾配の急な上り坂 (下り坂) があるときは、カメラに映る障害物は車体後部からの距離が実際よりも遠く (近く) にあるように見えます。



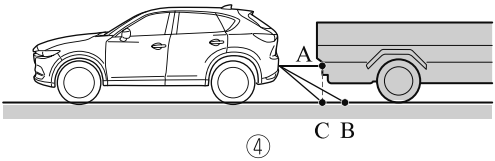
1. 実際よりも遠くに見える
2. 実際よりも近くに見える
3. 画面で見える車体から障害物までの距離
4. 車体から障害物までの実際の距離
5. 実際の障害物
6. 画面上での障害物

車両後方に立体物があるとき

距離目安線は水平な路面を基準に表示されているため、画面に映っている立体物との距離は実際とは異なります。



②



1. (画面の状況)
2. (実際の状況)
3. 画面上の距離感 A>B>C
4. 実際の距離 B>C=A

パーキングセンサー

パーキングセンサーは、車庫入れや縦列駐車など低速走行時に、超音波センサーで検出した車両周辺の障害物とのおおよその距離を、ブザーおよび検知表示により運転者に知らせます。

⚠警告

必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転する。

必ず守る

パーキングセンサーはあくまでも前進/後退するときの補助装置です。また、センサーの検出範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると障害物に接触したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止

センサーの検出範囲内にアクセサリー用品などを取り付けないでください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

障害物の種類や周囲の条件によっては、センサーが障害物を検出できる距離が短くなったり、障害物を検出できない場合があります。必ず前方/後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

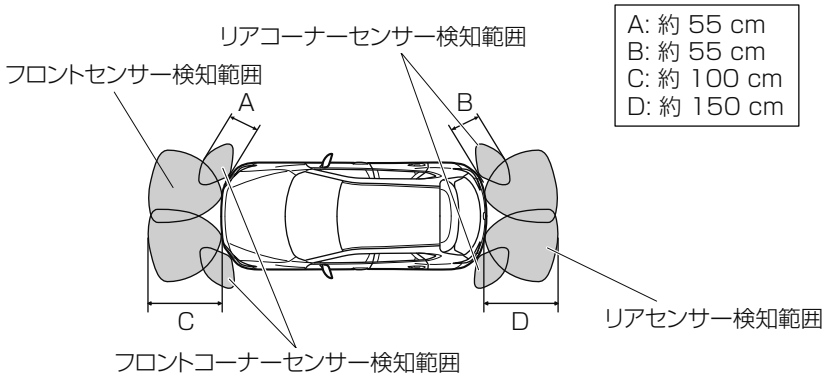
- 次のようなときは、システムが正常に作動しない場合があります。
  - センサー部に氷、雪、泥などが付着したとき (取り除けば正常に復帰します。)
  - センサー部が凍結したとき (溶ければ正常に復帰します。)
  - センサーを手でふさいだとき
  - センサー付近に強い衝撃が加わったとき
  - 車両姿勢が大きく傾いたとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
  - 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
  - 市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に取り付けたとき
  - 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
  - 障害物がセンサーに近付きすぎているとき

知識

- 次のような障害物は、パーキングセンサーが検出しない、もしくは検出しにくいことがあります。
  - 針金、ロープなどの細いもの
  - 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
  - 鋭角的な形を持つもの
  - 背が高く上部が張り出しているもの
  - 背の低いもの
- バンパーの真下付近は感知しません。センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- 接触事故などでバンパーへ衝撃が加わったときは、必ずマツダ販売店で点検を受けてください。センサーの位置がずれると障害物を正常に検出できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パーキングセンサースイッチを ON にしてもブザーが鳴らない場合や表示灯が点灯しない場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- システムの異常を示すブザーが鳴った場合は、システムの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
- 低温時やセンサー部に泥や氷、雪などが付着した場合にも、システムの異常を示すブザーが鳴る場合があります。センサー部に付着した異物を取り除いてください。

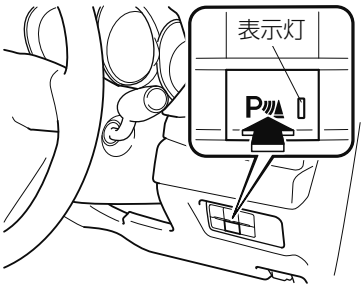
センサーの検出可能範囲

センサーは、次に示す範囲の障害物を検出します。



作動させるとき

電源ポジションが ON のときに、パーキングセンサースイッチを押すと、ブザーが鳴り、表示灯が点灯します。
パーキングセンサーが ON のときに電源ポジションを ON にした場合は、表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。



知識

電源ポジションを OFF にしたときは、OFF にする前の状態が保持されます。たとえば、パーキングセンサーが ON の状態で電源ポジションを OFF にすると、次に電源ポジションを ON にしたとき、パーキングセンサーは ON の状態のままです。

作動条件

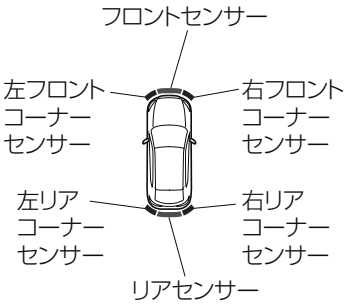
電源ポジションが ON のときにパーキングセンサースイッチを ON にすると使用できます。

知識

フロントセンサー/フロントコーナーセンサー装備車

- **(オートマチック車)**
  セレクトレバーが P の位置のとき、フロントセンサー/フロントコーナーセンサーの検知表示およびブザーは作動しません。
- 電動パーキングブレーキがかかっているときは、検知表示およびブザーは作動しません。

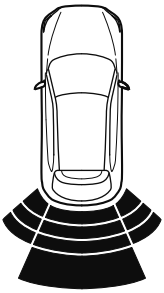
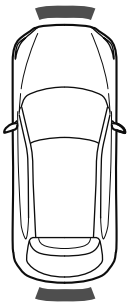
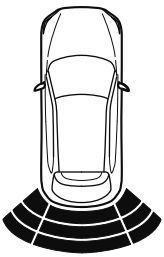
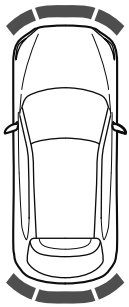
検知表示



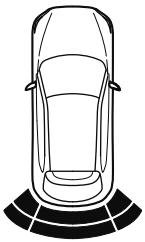
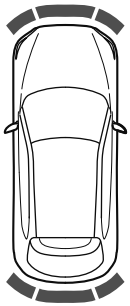
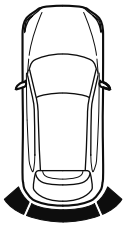
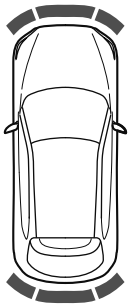
知識

検知表示は表示/非表示を変更することができます。
マツダコネクト取扱書を参照してください。
(360°ビュー・モニター装備車)
検知表示を「表示」に設定しているときは、360°ビュー・モニターを表示していない状態でも、フロントセンサーまたはフロントコーナーセンサーが障害物を検知すると、360°ビュー・モニターの表示に自動 で切り替わります。障害物を検知しなくなったときは、障害物を検知する前の表示に切り替わります。
ただし、360°ビュー・モニターを表示しているときは、障害物の検知有無に関わらず、360°ビュー・モニターを表示し続けます。

距離表示の見方

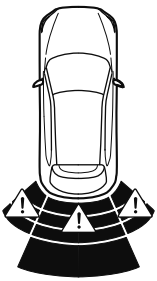
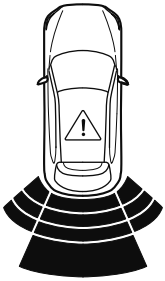
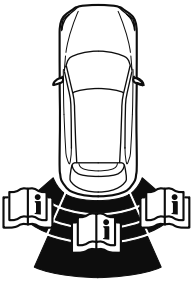
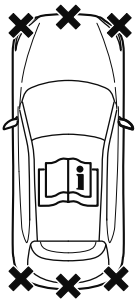
表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー
	緑色 	フロントセンサー: 約 100～60 cm	リアセンサー: 約 150～60 cm
	黄色 	フロントセンサー: 約 60～45 cm フロントコーナーセンサー: 約 55～38 cm	リアセンサー: 約 60～45 cm リアコーナーセンサー: 約 55～38 cm

駐車支援システムについて

表示		車両と障害物の距離	
360°ビュー･モニター非装備車	360°ビュー･モニター装備車	フロントセンサー/フロントコーナーセンサー	リアセンサー/リアコーナーセンサー
	橙色 	フロントセンサー: 約 45～35 cm フロントコーナーセンサー: 約 38～25 cm	リアセンサー: 約 45～35 cm リアコーナーセンサー: 約 38～25 cm
	赤色 	フロントセンサー: 約 35 cm 以内 フロントコーナーセンサー: 約 25 cm 以内	リアセンサー: 約 35 cm 以内 リアコーナーセンサー: 約 25 cm 以内

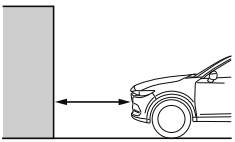
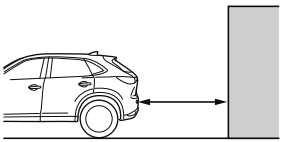
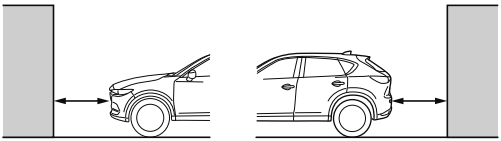
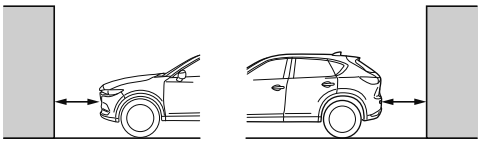
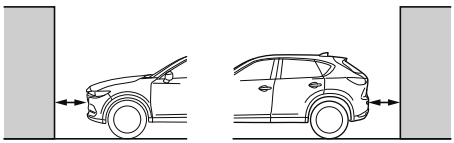
こんなときは

異常が発生した場合は、次の表示により異常が発生したことをお知らせします。

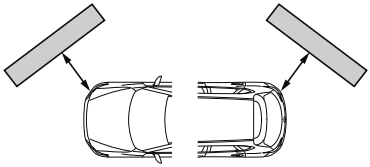
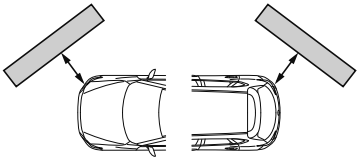
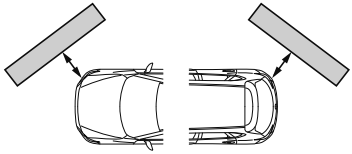
原因	検知表示		解決方法
	360°ビュー・モニター非装備車	360°ビュー・モニター装備車	
断線			マツダ販売店で点検を受けてください。
システム異常			マツダ販売店で点検を受けてください。
霜/汚れ			障害物検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認してください。システムが復帰しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

ブザー

障害物との距離に応じた鳴り方で、障害物とのおよその距離を運転者に知らせます。複数個所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。
システム作動中は、ブザーが次のように作動します。
フロントセンサー、リアセンサー

<table>
<tr><th colspan="2">車両と障害物の距離</th><th rowspan="2">ブザーの鳴り方</th></tr>
<tr><th>フロントセンサー</th><th>リアセンサー</th></tr>
<tr><td>約 100 cm～60 cm
  </td><td>約 150 cm～60 cm
  </td><td>ピッ･ピッ･ピッ (遅い継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 60～45 cm
  </td><td>ピッピッピッ (継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 45～35 cm
  </td><td>ピピピピ (早い継続音)</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 35 cm 以内
  </td><td>ピー (連続音)</td></tr>
</table>

フロントコーナーセンサー、リアコーナーセンサー

車両と障害物の距離	ブザーの鳴り方
約 55 cm～38 cm 	ピッピッピッ (継続音)
約 38～25 cm 	ピピピピ (早い継続音)
約 25 cm 以内 	ピー (連続音)

こんなときは

次のようなとき、ブザーの鳴らし方や表示の仕方で異常を知らせます。

表示/ブザー	確認すること
ブザーが吹鳴しない。	システムの異常が考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
ブザーが「ピピピッ」と 5 回なった。	センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。
特定の検知表示が表示し続ける。	検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) について

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) とは

グレード/仕様別装備

ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) はディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる PM (Particulate Matter:粒子状物質) のほとんどを捕集し、除去するものです。
通常走行中は DPF で捕集された PM は自動で除去されますが、次のようなときは PM が自動で除去されません。

- 車速約 15km/h 以下で走り続けているとき
- 10 分以下の短時間走行の繰り返しやエンジンが暖機できないような走行を繰り返したとき
- 長時間アイドリング状態のとき

知識

走行中に自動で PM を除去しているとき、エンジン音や排気ガスの臭いが変化することがあります。

システムの故障状態をメーター内のディスプレイでお知らせします。

ディスプレイに「DPF 内に PM が堆積しています」と表示されるとき

PM の除去が自動で行なわれず、DPF で捕集した PM が規定量以上になると表示します。
PM を除去するために、完全暖機 (水温 80°C 以上) のときに、アクセルペダルを踏み 20km/h 以上でおよそ 15 分から 20 分走行してください。

ディスプレイに「DPF 異常」と表示されるとき

システムに異常があると表示します。
ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

注意

必ず守る

ディスプレイに「DPF 内に PM が堆積しています」と表示されたまま運転を続けると、さらに PM が堆積し、ディスプレイの表示が「DPF 異常」に変わることがあります。この場合はただちにマツダ販売店で点検を受けてください。点検を受けずにそのまま運転を続けると、エンジンの不調につながるおそれがあります。

知識

ディスプレイに「DPF 異常」と表示されているときは、ディーゼルパティキュレートフィルターを保護するために、エンジン出力は制限されます。

悪天候での運転

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。
このようなときは、吹き出し口を に切り替えます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

⚠警告

禁止 ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→548 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。
ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは

- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。

⚠注意

必ず守る **運転席/助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。**

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車のときにもエンジンを止めましょう。10 分間のアイドリングで、130cc 程度の燃料を浪費します。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。
100 kg の不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。

空ぶかしをしない

空ぶかしをやめると、燃料を節約できます。
空ぶかしは環境にも車にもよくありません。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。外気温 25℃の時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
タイヤの空気圧が適正値より 50 kPa (0.5 kg/cm^2) 不足した場合、市街地で 2%程度、郊外で 4%程度、それぞれ燃費が悪化します。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
速度にムラのある走り方をすると、市街地で 2%程度、郊外で 6%程度燃費が悪化します。

経済的速度

一般道路で 40km/h、高速道路で 80km/h 程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき (ガソリンエンジン車)

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき (ガソリンエンジン車)

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。
アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

WLTC モード燃費について

「WLTC モード」とは

「市街地モード (WLTC-L) 」、「郊外モード (WLTC-M) 」、「高速道路モード (WLTC-H) 」の３つの走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な燃費試験方法です。
WLTC とは Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle (世界統一試験サイクル) モードの略称です。

知識

WLTC モードは従来の JC08 モードよりも実際の走行環境に近い燃費試験方法です。

市街地モード (WLTC-L)	信号や渋滞などの影響を受ける比較的低速な走行を想定
郊外モード (WLTC-M)	信号や渋滞などの影響をあまり受けない走行を想定
高速道路モード (WLTC-H)	高速道路などでの走行を想定

ただし、お客様の使用環境 (気象、渋滞など) や運転方法 (急発進、エアコン使用など) に応じて燃料消費率は異なります。

3 快適装備の使いかた

空調 452

エアコンの上手な使いかた....452
吹き出し口....453
フルオートエアコン....455

マツダコネクト 460

マツダコネクトとは?....460
マツダコネクトの基本操作....464

室内装備 479

サンバイザー....479
室内照明....479
電源ソケット....486
USB 電源ソケット....488
ワイヤレス充電 (Qi)....489
アジャスター機能付きカップホルダー....495
ボトルホルダー....496
収納....497

エアコンの上手な使いかた

エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラスとボンネットの間にある外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。冷媒の仕様はエンジンルームに貼られたラベルに記載してあります。

エアコンを使用するときは

使用について

エアコンは、エンジンをかけた状態で使用してください。

知識

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にエンジンが自動で再始動することがあります。
→150 ページ「i-stop について」
- アイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少する場合があります。
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置 (モーターなど) の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは、室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンを使用したあとは

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときでも、内部のオイル循環のため、1 か月に 1 回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に交換してください。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

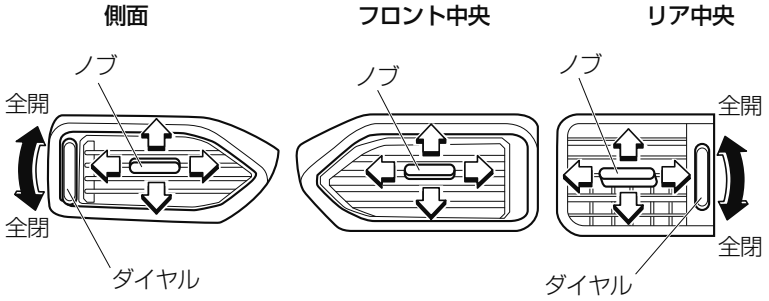
知識

エアフィルターの交換について

- エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

吹き出し口

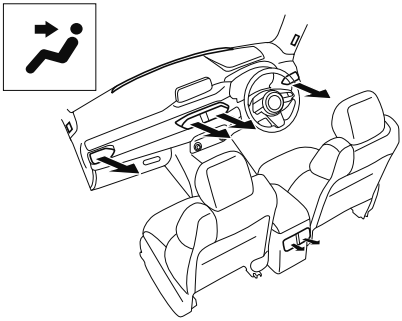
吹き出し口の調節



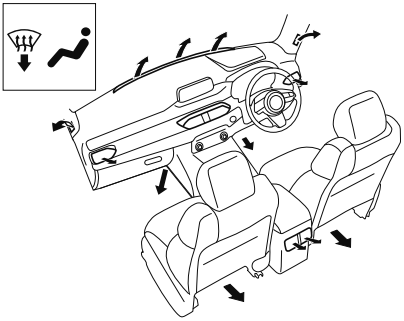
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

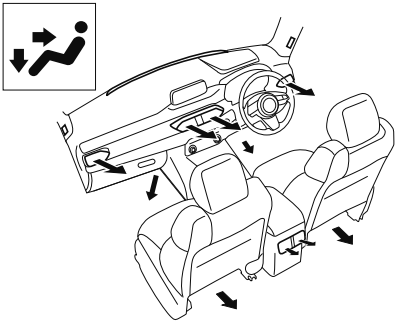
上半身に送風するとき



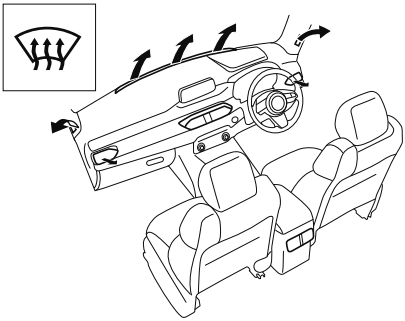
足元への送風とガラスの曇りを取るとき



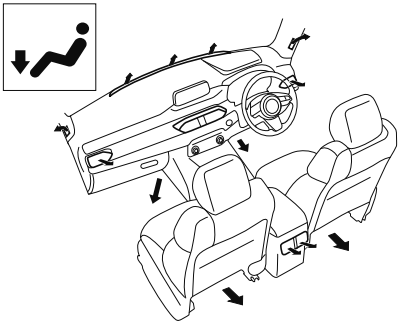
上半身、足元に送風するとき



ガラスの曇りを取るとき



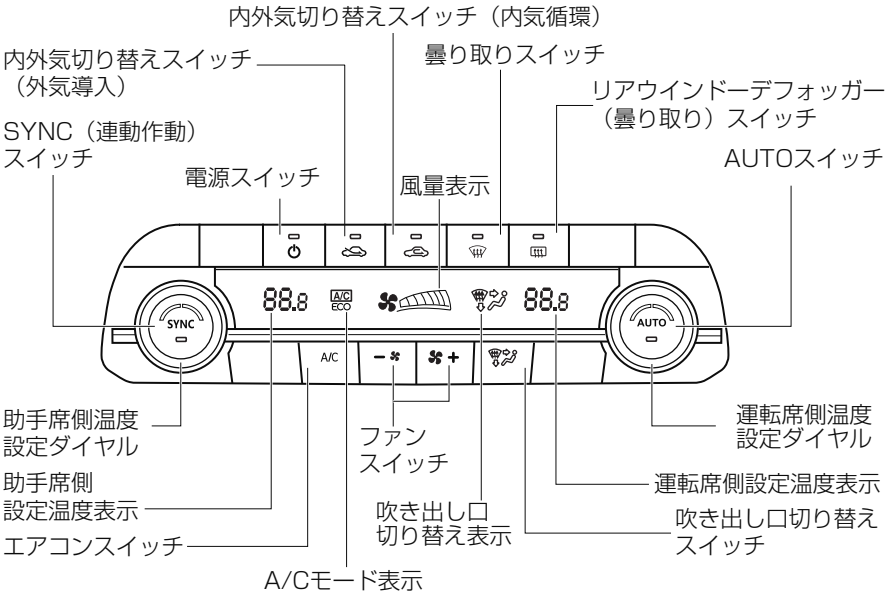
主に足元に送風するとき



知識

吹き出し口の開閉状態により、風が出る位置や風量が変化する場合があります。

フルオートエアコン



各スイッチの使いかた

AUTO スイッチ

スイッチを押すと設定温度にあわせて、次の機能が自動制御されます。

- 吹き出し風の温度調節
- 吹き出し風量調節
- 吹き出し口の切り替え
- 内気循環/外気導入の切り替え
- エアコン (冷房·除湿機能) の作動/停止
- A/C と A/C ECO の切り替え

知識

表示灯について

- 点灯―オート作動時。

知識

- 消灯―オート作動中に吹き出し口切り替えスイッチ、ファンスイッチ、曇り取りスイッチのいずれかのスイッチを操作したとき。
  操作した箇所以外は自動で作動しています。

電源スイッチ

スイッチを押すことによりエアコンが ON/OFF します。

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
Lo (18.0) から Hi (32.0) の間で 0.5 ずつ変化します。

知識

Lo (18.0) に設定すると最大冷房、Hi (32.0)に設定すると最大暖房に固定されます。

- SYNC スイッチが ON のとき
  運転席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。
- SYNC スイッチが OFF のとき
  運転席側温度設定ダイヤルまたは助手席側温度設定ダイヤルをまわして調節します。

知識

- SYNC スイッチが ON のときでも、助手席側温度設定ダイヤルをまわすと独立モードになり (SYNC スイッチ表示灯消灯)、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- SYNC スイッチを OFF にすると独立モードになり、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。

ファンスイッチ

風量を 7 段階に調節できます。

吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。
→454 ページ「吹き出し口の選択」

知識

吹き出し口を に設定するには、曇り取りスイッチを押してください。

エアコンスイッチ

スイッチを押すごとにエアコン (冷房·除湿機能) の作動と停止が切り替わります。

知識

- エアコンが停止しているときにエアコンスイッチを押すと、エアコンが作動します。
- スイッチを押すごとに次のように切り替わり、表示部に表示されます。
  A/C→A/C ECO→停止 (表示なし)
  A/C ECO は A/C よりもエアコンの作動頻度が少なくなり、経済的な運転になります。
- 外気温が 0℃近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。

知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- (内気循環)
  トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- (外気導入)
  外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

SYNC (連動作動) スイッチ

独立モードと連動モードの切り替えができます。

- 独立モード (表示灯消灯)
  運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
- 連動モード (表示灯点灯)
  運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

知識

独立モードから連動モードに切り替えると、助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロント窓ガラスの曇りを取りたいときに使用します。
→458 ページ「ガラスの曇りを取るとき」

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→250 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ」

通常の使いかた

1. AUTO スイッチを押します。吹き出し口、内外気切り替え、吹き出し風量が自動的に調整されます。
2. 温度設定ダイヤルを操作して希望温度にあわせます。
   運転席と助手席の設定温度を独立して調節するときは、SYNC スイッチを押す、または助手席側温度設定ダイヤルをまわして独立モードにします。

知識

- 推奨設定温度は 25.0 ℃です。その後、お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く (高く) しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

3. 作動を停止したいときは、電源スイッチを押します。

ガラスの曇りを取るとき

曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロント窓ガラスに送風されます。吹き出し風量も多くなります。

警告

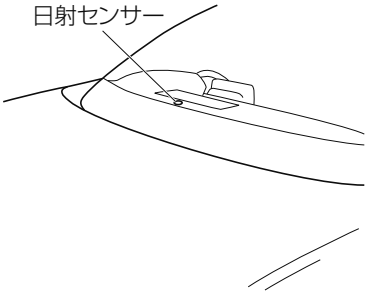
禁止
ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

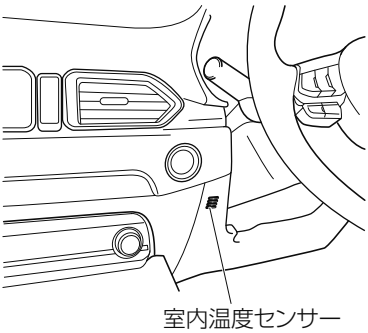
- ファンスイッチを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

日射センサーについて



日射センサーの上に物を置かないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

室内温度センサーについて

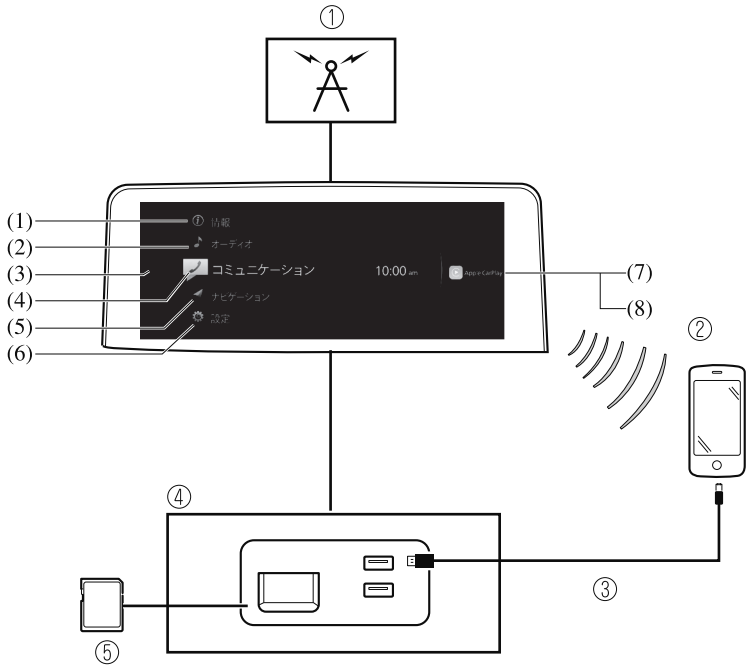


室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

マツダコネクトとは?

マツダコネクトとは?

本書では、マツダコネクトの一部取り扱い情報のみ記載しています。詳細は、マツダサイトから、ウェブ取扱説明書をご確認ください。



1. ラジオ/テレビ
2. Bluetooth®オーディオ/Bluetooth®ハンズフリー/SMS (Short Message Service)
3. USB オーディオ/USB ビデオ
4. USB ポート*1/SD カードスロット*2
5. SD カード (ナビゲーションシステム) グレード/仕様別装備

*1 USB ポートの位置は仕様により異なります。

*2 SD カードスロットは、ナビゲーションシステム用です。ナビゲーションシステム用の SD カード (マツダ純正品) を差し込んで使用します。

No.	メニュー	内容
(1)	情報	**i-DM:** i-DM のスコアや運転操作傾向が確認できます。 **燃費モニター:** 走行中の燃費推移や効果の確認ができます。 **車両ステータスモニター:** 車両ステータス情報が確認できます。
(2)	オーディオ	交通情報 FM AM Bluetooth USB1 Audio/USB2 Audio USB1 Video/USB2 Video TV グレード/仕様別装備 オーディオ OFF
(3)	通知一覧	車両からのおしらせを表示します。
(4)	コミュニケーション	スマートフォンなどの携帯機器とマツダコネクトをBluetooth®で接続することで、ハンズフリー通話やショートメッセージ機能をご利用いただけます。
(5)	ナビゲーション	ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれている場合に、ナビゲーションシステムが使用できます (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。コンパスは、車両停車時、または低速走行時には、正しい方位を示さない場合があります。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

No.	メニュー	内容
(6)	設定	マツダコネクトの画面/サウンド設定や車両機能の設定を変更できます。 **画面表示:** ディスプレイの明るさや表示内容の設定をします。 **サウンド:** オーディオや警報音などの設定をします。 **安全装備:** i-ACTIVSENSE の設定をします。 **車両装備:** ライトやドアロックなど車両装備の設定をします。 **通信:** Bluetooth などの設定をします。 **システム:** 言語や操作などの一般的な設定をします。
(7)	Apple CarPlay	Apple CarPlay に対応した iPhone を USB スロットに接続することにより、Apple CarPlay を利用することができます。
(8)	Android Auto	Android Auto™に対応した Android™スマートフォンを USB スロットに接続することにより、Android Auto™を利用することができます。

⚠警告

オーディオは、車を止めてから操作する。

走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

USB 端子に接続したコードが、チェンジレバー/セレクトレバーに絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にポータブルオーディオ機器などを調節しない。

⚠警告

走行中に調節すると前方不注意で重大な事故につながるおそれがあります。ポータブルオーディオ機器などの調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

⚠注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

知識

- エンジンを止めたままで、マツダコネクトを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内、または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがありますが故障ではありません。

マツダコネクトの基本操作

マツダコネクトの基本操作

知識

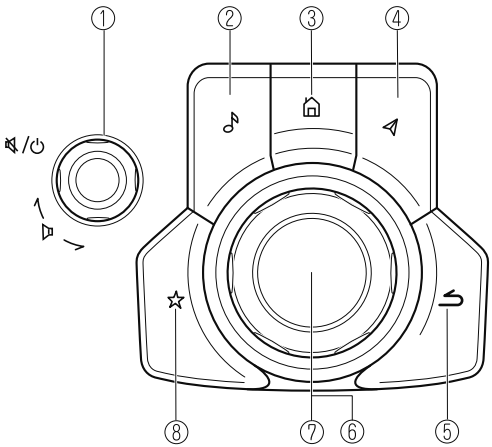
本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際と異なる場合があります。
また、これらのコンテンツは、今後のソフトアップデートに応じて、予告なしに順次変更される可能性があります。

コマンダースイッチによる操作

各画面へのスイッチ操作と、コマンダー操作ができます。
コマンダースイッチに包み込むように持つと各画面へのスイッチに指がかかります。
手元を見なくても、各画面に切り替えることができます。

知識

安全のため、走行中は一部の操作をすることができません。



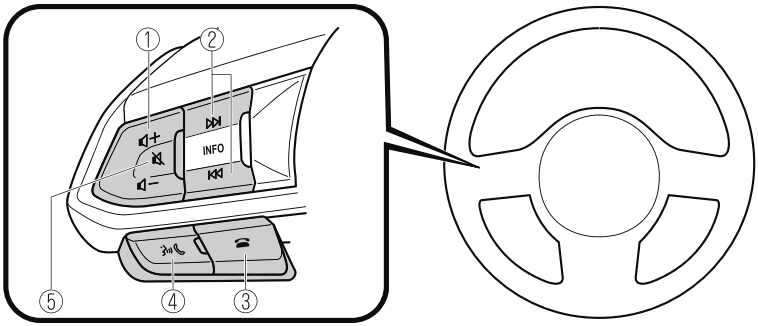
スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1		**音量ノブ:** **音量調節** 音量ノブをまわして音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。 音量ノブを押すと消音できます。もう一度音量ノブを押すと、消音が解除されます。 **電源 OFF/ON** 長押しすると、マツダコネクトの電源が OFF になり、画面が消えます。 もう一度長押しすると、マツダコネクトの電源が ON になります。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中に音量ノブを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度音量ノブを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。
2		**オーディオボタン:** 最後に再生されたオーディオソース画面が表示されます。 **(Apple CarPlay/Android Auto™音楽再生中)** Apple CarPlay/Android Auto™の再生画面を表示します。

No.	アイテム	説明
3		ホームボタン: ホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™表示中)** Apple CarPlay/Android Auto™のホーム画面を表示します。 **(Apple CarPlay/Android Auto™接続中)** マツダコネクトの画面を表示しているときに長押しすると、Apple CarPlay または Android Auto™の画面に切り替わります。また Apple CarPlay または Android Auto™の画面を表示しているときに長押しすると、マツダコネクトの画面に切り替わります。
4		**マップボタン:** ナビゲーション画面を表示します (ナビゲーションシステム装備車)。 ナビゲーションシステムを機能させるには、ナビゲーションシステム用 SD カードが必要となります。 ナビゲーションシステム用 SD カードが差し込まれていない場合は、車両の進行方向を示すコンパスが表示されます。 ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。 **(Apple CarPlay/Android Auto™ルート案内中)** Apple CarPlay/Android Auto™のマップ画面を表示します。
5		**バックボタン:** 前の画面に戻ります。
6		**コマンダーノブ (選択):** コマンダーノブをまわす、または、スライドさせて使いたい機能を選択します。
7		**コマンダーノブ (決定):** コマンダーノブを押して使いたい機能を決定します。
8		**お気に入りボタン:** お気に入り画面を表示します。 長押しすると、そのとき画面に表示している連絡先や放送局、ナビゲーションの地点などをお気に入りに登録できます。

オーディオリモートコントロールスイッチによる操作

ハンドルの左側にあります。手元でオーディオの操作ができます。



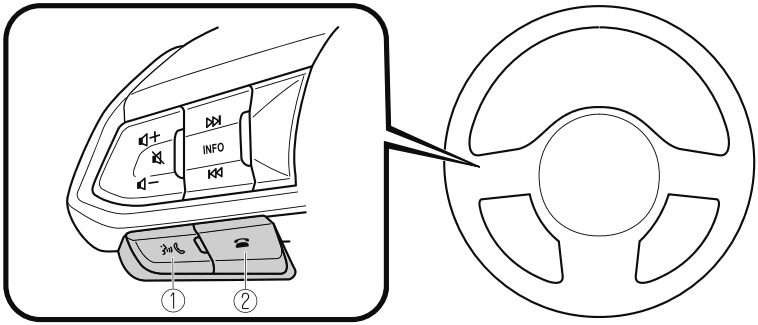
スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1	 	**音量調節ボタン:** +、-ボタンを操作して、音量を調節します。 音声ガイダンスされているときに音量調節すると、音声ガイダンスの音量変更となります。 ハンズフリーで通話しているときに音量調節すると、通話音量の変更になります。
2	 	**選局ボタン:** **選局** **(FM/AM ラジオ)** FM/AM ラジオを聞いているときにボタンを押して、お気に入りに登録している放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたびに切り替わります。 また、ピッと音がするまで長押しすると自動選局を始めます。放送を受信すると止まります。 **(テレビ)** テレビを視聴しているときにボタンを押して、チャンネルリスト順に放送局を呼び出すことができます。放送局は、ボタンを押すたび切り替わります。 **頭出し** オーディオやビデオを再生中にボタンを操作すると、曲やビデオファイルの頭出しをすることができます。 を押すと次の曲の頭に進み、を押すと前の曲の頭に戻ります (曲順は選択しているファイルリスト順です)。
3		**ハングアップボタン[*1]:** **(通話中)** ボタンを押すと、通話を終了します。 **(電話を着信中)** ボタンを押すと、応答保留になります。
4		**トーク/ピックアップボタン[*1]:** **(電話を着信中)** ボタンを押すと、電話に応答します。

No.	アイテム	説明
5		**ミュートボタン:** ボタンを押すと消音します。 もう一度押すと、消音が解除されます。 **知識** Apple CarPlay、USB オーディオ、Bluetooth®オーディオなど一時停止が可能なオーディオソースを再生中にミュートボタンを押して消音すると、音楽は一時停止します。もう一度ミュートボタンを押すと消音が解除され、同時に一時停止も解除されます。

*1 トーク/ピックアップボタンとハングアップボタンは音声認識の操作でも使用します。
→469 ページ 「音声認識機能による操作」

音声認識機能による操作



スイッチの形状は仕様により異なります。

No.	アイテム	説明
1		**トーク/ピックアップボタン：** ボタンを押すと音声認識のトップ画面が表示され、音声認識が起動します。 **(音声ガイダンスが流れているとき)** ボタンを押すと、音声ガイダンスをスキップできます。
2		**ハングアップボタン:** ボタンを押すと、音声認識が終了します。

音声認識の起動

オーディオリモートコントロールスイッチのトーク/ピックアップボタンを押すと、音声認識のトップ画面が表示されます。

知識

Apple CarPlay または Android Auto™を接続中は、マツダコネクトの音声認識は起動せず、Siri または Android Auto™の音声認識が起動します。

常に使用できるコマンド

「ヘルプ」 - 使用可能な音声コマンドを確認できます。
「戻る」- 前の画面に戻ります。電話番号、または住所入力画面で発話したときは、直前に入力した内容を削除します。
「キャンセル」 - 音声認識が終了します。

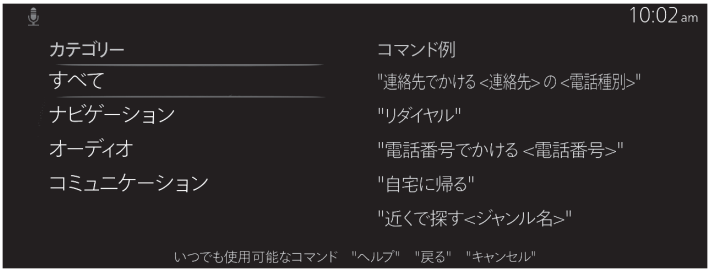
音声認識を終了する

次の操作のいずれかを行ないます:

- ハングアップボタンを押す。
- トーク/ピックアップボタンを長押しする。
- 発話: 「キャンセル」

音声認識機能の便利な使いかた

音声認識のトップ画面では、それぞれのカテゴリーにおいて有効な音声コマンドの例がディスプレイに表示されます。
使用できる音声コマンドをあらかじめ知っておくと便利です。



知識

- 本書に記載しているコマンドは、使用可能なコマンドの一例です。仕様により使用できないコマンドもあります。
- 機器の接続状況や使用状況によっては、使用できないコマンドがあります。
- バージインの設定が ON のときは、音声ガイダンスが流れている間でも音声コマンドを発話して操作することができます。バージイン設定については、マツダコネクト取扱書をご覧ください。
- ナビゲーション画面で使用できる音声コマンドの詳細は、ナビゲーションシステム取扱書をご覧ください。

音声認識を失敗しないようにするために、次のポイントに注意してください:

- Bluetooth®で接続されている電話があるときに、電話関連のコマンドが利用可能になります。音声認識で電話を操作する前に電話を Bluetooth®に接続してください。
- 少し大きめの声で発話すると認識されやすくなりますが、過度に大声を出す必要はありません。同乗者に話しかけるよりも少し大きめの声が目安です。
- 必要以上にゆっくりしゃべらず、通常話す時の速さで発話してください。
- 機器側の電話帳にふりがな情報が未登録の場合、音声認識で電話帳を呼びだすことができません。
- 機器側の電話帳の人物を音声認識で呼びだす場合、登録されている名前が長いほど認識率は向上します (「はは」、「いえ」、「つま」などのように短い場合、認識に失敗するときがあります)。
- 単語や数字の間で区切らないように発音してください。
- 指定された音声コマンド以外は、認識することができません。指定された音声コマンドを発話してください。
- マイクの方に向いたり近づいたりする必要はありません。安全運転中の姿勢のまま音声コマンドを発話してください。

- Bluetooth®ハンズフリーを使用するときは、窓とサンルーフを閉めてください。窓またはサンルーフが開いていると、車外の雑音やエアコンの気流の乱れにより、音声が正しく認識されないことがあります。
- エアコンの風がマイクに当たっていないことを確認してください。
- 音声ガイダンス中に音声コマンドを発話するときは、少し大きめの声で発話してください。ただし過度に大声を出す必要はありません。
- ガイダンス音量を大音量に設定すると、音声が正しく認識されないことがあります。その場合は、バージインの設定を OFF にしてください。

音声認識機能に対応しているコマンドの一例

{}内には、指定する名前や数字が入ります。

共通

- 戻る
- ヘルプ (画面ごとのヘルプガイダンスを聞くことができます。)
- {行番号} (画面の何番目かを選択できます。)
- 次のページ
- 前のページ
- キャンセル

メニュー

- すべて
- ナビゲーション
- オーディオ
- コミュニケーション

設定

- 音声認識設定画面
- ディスプレイ OFF

音楽

- アーティストで再生 (“アーティストで再生 {アーティスト名}” も利用できます。)
- アルバムで再生 (“アルバムで再生 {アルバム名}” も利用できます。)
- プレイリストで再生 (“プレイリストで再生 {プレイリスト名}” も利用できます。)
- 曲で再生 (“曲で再生 {曲名}” も利用できます。)
- オーディオブックで再生 (“オーディオブックで再生 {オーディオブック名}” も利用できます。)
- ポッドキャストで再生 (“ポッドキャストで再生 {ポッドキャスト名}” も利用できます。)

ラジオ

- {AM 放送局名}
- {FM 放送局名}

ソース

- オーディオ切替え (“オーディオ切替え USB”*1 や “USB”*1 も利用できます。)
- オーディオ OFF (“オーディオ切替え オーディオ OFF” も利用できます。)

電話

- 電話番号でかける (“電話番号でかける {電話番号}” も利用できます。)
- 電話履歴
- 連絡先でかける (“連絡先でかける {連絡先}” や “連絡先でかける {連絡先}の{番号種別}” も利用できます。)
- リダイヤル

*1 : “USB” 以外にも次のオーディオソース名が利用できます: Bluetooth/交通情報/AM/FM/USB1 Audio/USB2 Audio/USB1 Video/USB2 Video/TV

マツダコネクトをご使用の前に

Gracenote® データベース

USB オーディオ、Bluetooth®オーディオを再生した場合、車両に収録されているデータベースの中からアルバムアートを検索し、情報がデータベースに収録されていると、情報を自動で付与します。本機に収録されているデータベース情報は、Gracenote®音楽認識サービスのデータベース情報を使用しています。

テレビ

⚠注意

- **本機は、ARIB (電波産業会) 規格に基づいた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。**
- **各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。**
- **本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行なったりそれに関与してはいけません。**
- **本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。**

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。

Apple CarPlay

⚠注意

- **適用法によって認められる最大の範囲で Apple Carplay（以下「アプリケーション」）およびその情報は、瑕疵（かし）の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。**
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
  適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - **逸失利益**
  - **データの破損または損失**
  - **事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等**
- **Apple CarPlay を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Apple CarPlay を使用してください。**

知識

- Apple CarPlay は Apple 社によって提供されています。使用するには Apple iOS 利用規約および Apple CarPlay 利用規約に同意していることを条件としています。
- Apple CarPlay 使用中は、場所や速度などの車両データが iPhone に転送されます。詳しくは Apple プライバシーポリシーを参照ください。

Android Auto™

⚠注意

- **適用法によって認められる最大の範囲で Android Auto™ (以下「アプリケーション」) およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証を伴わない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客様の責任の下で使用されるものとします。**
  アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
  適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害等について、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
  なお、当該損害等には以下のものを含みます。
  - **逸失利益**
  - **データの破損または損失**
  - **事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失等**
- **Android Auto™を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Android Auto™を使用してください。**

知識

- Android Auto™は Google 社によって提供されています。使用するには Android Auto™利用規約に同意していることを条件としています。
- Android Auto™使用中は、場所や速度などの車両データが Android™スマートフォンに転送されます。詳しくは Google プライバシーポリシーを参照ください。

商標について

- iPhone, iPod touch, iPod nano, Siri and Apple Music are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
- The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
- Apple CarPlay is trademarks of Apple Inc.
- iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.
- “Made for iPhone” and “Made for iPod” mean that an accessory has been designed to connect specifically to iPhone or iPod, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.
  Please note that the use of this accessory with iPhone or iPod may affect wireless performance.
  Made for
  iPhone 7 Plus
  iPhone 7
  iPhone SE
  iPhone 6s Plus
  iPhone 6s
  iPhone 6 Plus
  iPhone 6
  iPhone 5s
  iPhone 5c
  iPhone 5
  iPhone 4s
  iPod touch (6th generation)
  iPod touch (5th generation)
  iPod nano (7th generation)

- Google, Android, Android Auto and other related marks are trademarks of Google LLC.
- AUDIOPILOT は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
- Centerpoint は、ボーズコーポレーションの登録商標です。

- Windows Media and Microsoft are registered trademarks of Microsoft Corporation U.S. in the United States and other countries.
本製品は、Microsoft Corporation と複数のサードパーティの一定の知的財産権によって保護されています。
本製品以外での前述の技術の利用もしくは配布は、Microsoft もしくは権限を有する Microsoft の子会社とサードパーティによるライセンスがない限り禁止されています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

- SDHC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.

- Gracenote および Gracenote ロゴとロゴタイプは、米国およびその他の国における Gracenote Inc.の登録商標または商標です。

オーディオアンプのライセンスについて（ボーズオーディオ付車は除く）

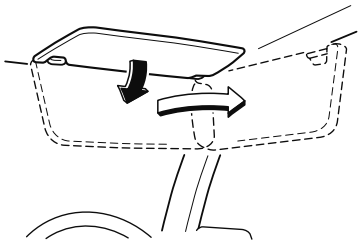
License for CMSIS-RTOS RTX Implementation
Copyright (c) 1999-2009 KEIL, 2009-2015 ARM Germany GmbH,
2013-2016 ARM Ltd All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- Neither the name of ARM nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
IN NO EVENT SHALL COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

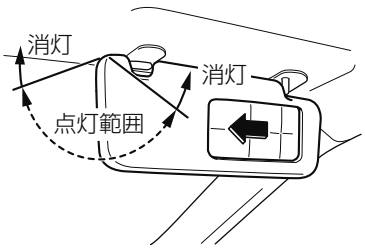
サンバイザー



前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー (化粧鏡)

バニティミラーは、サンバイザーの裏側にあります。
フタを開けるとランプが点灯します。
バッテリーあがりを防止するため、サンバイザーの傾きが点灯範囲内のときのみランプが点灯します。



室内照明

知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。
アンビエントライトは、ルームランプスイッチ位置に関係なく点灯します。

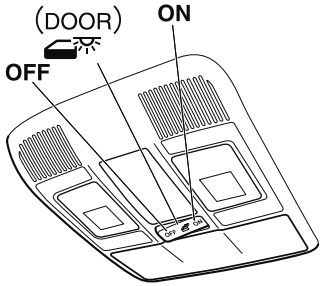
- 電源ポジションが OFF で、運転席ドアを解錠したとき。
- すべてのドアが閉まっている状態で、電源ポジションを OFF にしたとき。

知識

- 点灯時間は操作によって異なります。
- バッテリーあがりを防止するため、電源ポジションが OFF で室内照明が点灯したままのときは、一定時間経過後に自動的に消灯します。
- イルミネーテッドエントリーシステムの作動時間を変更することができます。設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。
- **(B タイプ)**
  ルームランプの ON/OFF スイッチを操作してルームランプを点灯させているときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。
A タイプ

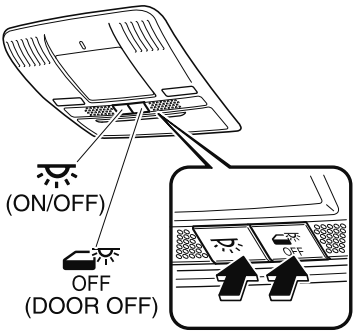


スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	● ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 ● イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

知識

ルームランプのスイッチの操作に連動してリアマップランプも点灯/消灯します。

B タイプ



スイッチ	ルームランプ
OFF (DOOR OFF)	DOOR と DOOR OFF を切り替えます。 **(DOOR)** • いずれかのドアを開けるとランプが点灯します。 • イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。 **(DOOR OFF)** • いずれかのドアを開けてもランプは点灯しません。 • イルミネーテッドエントリーシステムの作動による点灯/消灯はしません。
(ON/OFF)	常時点灯/常時消灯

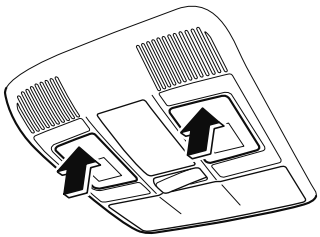
マップランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

フロントマップランプ

A タイプ

ルームランプのスイッチ位置が DOOR または OFF のときに、レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

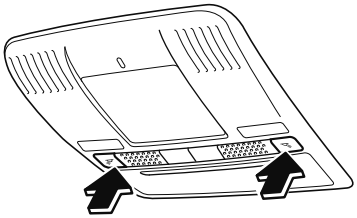


知識

- 次のときはレンズを押しても消灯しません。
  - ルームランプのスイッチ位置が ON のとき。
  - ルームランプのスイッチ位置が DOOR でドアが開いているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

B タイプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



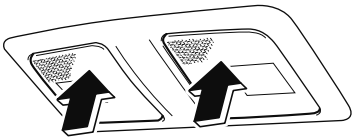
知識

- 次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  - ルームランプの ON/OFF スイッチ (☼) を操作して、ランプを点灯させているとき。
  - ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

リアマップランプ

A タイプ

ルームランプのスイッチ位置が DOOR または OFF のときに、レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

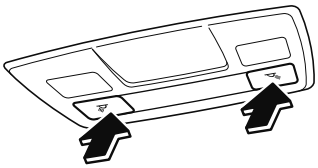


知識

- リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチ位置に連動して点灯/消灯します。
- 次のときはレンズを押しても消灯しません。
  - ルームランプのスイッチ位置が ON のとき。
  - ルームランプのスイッチ位置が DOOR でドアが開いているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

B タイプ

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

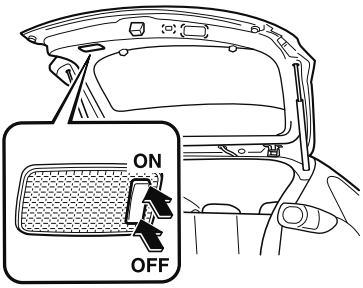


知識

- リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチの操作に連動して点灯/消灯します。
- 次のときはスイッチを押しても消灯しません。
  - ルームランプの ON/OFF スイッチ (⁂) を操作して、ランプを点灯させているとき。
  - ドアの開閉に連動して、ランプが点灯しているとき。
  - イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

ラゲッジルームランプ

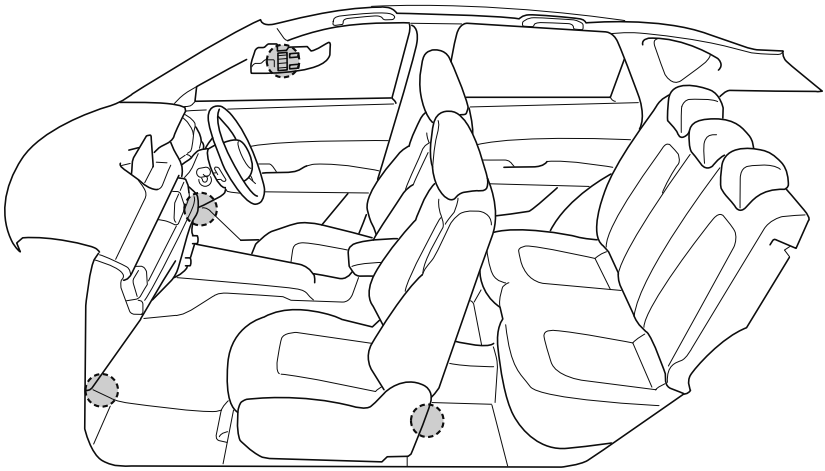
電源ポジションに関係なく使用できます。



スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リアゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

アンビエントライト グレード/仕様別装備

電源ポジションを ON にしたとき、アンビエントライトが点灯し続けます。
車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときは、アンビエントライトが減光します。



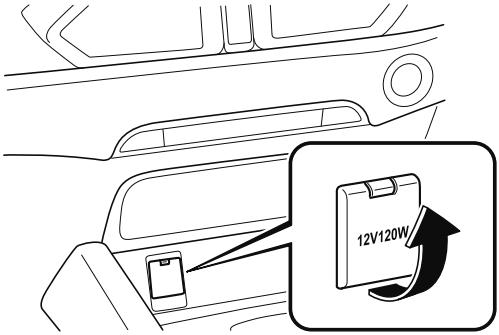
知識

- 電源ポジションを OFF にしたとき、イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
- 車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときの、アンビエントライトの照度を変更することができます。
  設定変更の方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

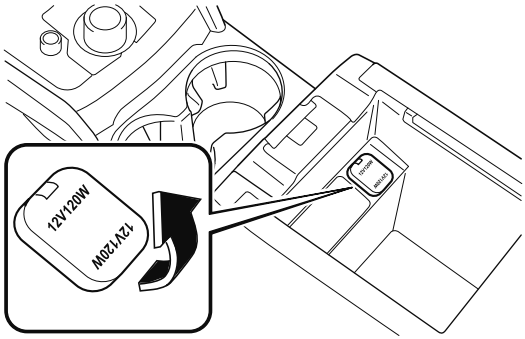
電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120W (DC12V—10A) 以下の電気製品を使用してください。

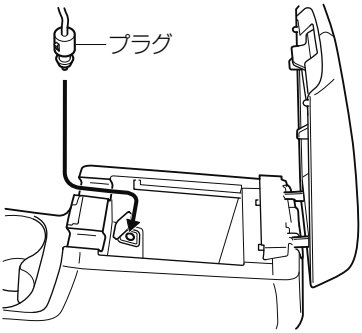
フロント



センター

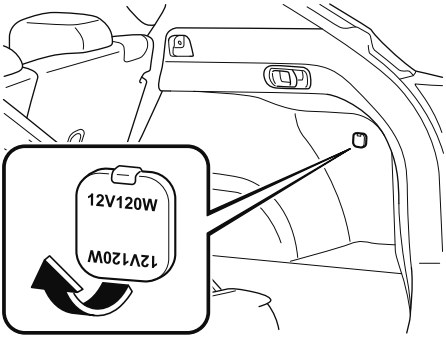


接続のしかた



コンソールボックスの溝にコードを通し、コード先端のプラグを電源ソケットに接続します。

リア



⚠注意

使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。

必ず守る

電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。

必ず守る

消費電力が 120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。

禁 止

電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。

必ず守る

⚠注意

必ず守る **電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットからはずしたあと、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。**

知識

- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。
- シガーライターを差し込まないでください。

USB 電源ソケット

電源ポジションが ACC または ON のとき、USB 機器の電源として使用します。
最大消費電力 10.5W (DC5V-2.1A) 以下の USB 機器を使用してください。

⚠注意

必ず守る **使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。USB 電源ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。**

必ず守る **USB 端子は USB 電源ソケットに確実に差し込んでください。USB 端子が確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。**

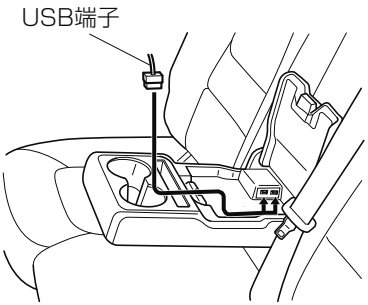
禁止 **消費電力が 10.5W (DC5V-2.1A) を超える USB 機器は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。**

知識

- このUSB電源ソケットは充電専用です。車両のオーディオ機器に接続することはできません。
- エンジンを停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

接続のしかた

アームレストボックスの溝からUSB電源ソケットに接続するコードを通すことができます。



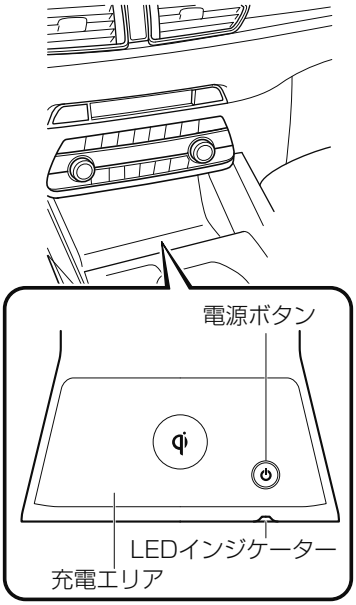
1. アームレストボックスのフタを開けます。
2. アームレストボックスの溝にコードを通し、コード先端のUSB端子をUSB電源ソケットに接続します。

ワイヤレス充電（Qi） グレード/仕様別装備

ワイヤレス充電Qi規格に対応したスマートフォンなどの携帯機器を充電できます。

室内装備

最大消費電力が 5W、または 15W 以下の携帯機器を使用してください。 最大消費電力は携帯機器によって異なります。



⚠ 警告

ワイヤレス充電器 (Qi) からの電波は、植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

- **医療用機器を使用している方は、ワイヤレス充電器 (Qi) の電波の影響を医師や医療用機器製造業者などに確認してください。**
- **医療用機器への影響を防ぐために、ワイヤレス充電器 (Qi) の機能を作動させないようにすることができます。 詳しくは、マツダ販売店 にご相談ください。**

ワイヤレス充電器 (Qi) の故障や損傷、火災、発熱によるやけど、または感電などの事故につながるおそれがあるため、次の点を守って使用してください。

- **ワイヤレス充電器 (Qi) の取り付け、取り外し、分解、配線の変更はしないでください。取り付け、取り外しが必要な場合はマツダ販売店にご相談ください。**
- **ワイヤレス充電器 (Qi) が故障している状態で使用しないでください。また、煙が出たり、異音、異臭がしたりする場合には、車両を安全な場所に停止し、電源ポジションを OFF にしてマツダ販売店にご相談ください。**

⚠警告

- **小物入れとして使用する場合は、ワイヤレス充電器 (Qi) の電源を OFF にしてください。**
- **充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまないでください。また、ワイヤレス充電器 (Qi) に金属製のシールなどを貼り付けないでください。**
- **充電するときは、ワイヤレス充電器 (Qi) 上に携帯機器以外の物を置かないでください。また、金属物、IC カード、硬貨、磁気を帯びたものなどを充電エリア周辺に置かないでください。**
- **充電エリアのほこりや汚れなどを落としてから使用してください。**
- **強い力や衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。**
- **ワイヤレス充電器 (Qi) に対応している携帯機器のみを使用してください。**

使用方法

1. エンジンを始動させます。
2. ワイヤレス充電器 (Qi) の電源が ON になり、LED インジケーターが点灯します。
   - ワイヤレス充電器 (Qi) の電源ボタンを約 3 秒間押すことで、電源の ON/OFF を切り替えることができます。
   - 電源を OFF にすると LED インジケーターが消灯します。
3. ワイヤレス充電 Qi 規格準拠機器をトレー上の充電エリア中央に置きます。
   - 充電を開始すると LED インジケーターが橙色、または緑色で点灯します。
   - LED インジケーターの詳細は次の LED インジケーターの表を参照してください。
   - すべてのドア、リフトゲートが閉まっている状態で充電が開始されます。
   - 充電しているときに電源ボタンを約 1 秒間押すことで、ラジオのノイズを低減できる機能が作動します。ワイヤレス充電器 (Qi) の干渉により、ラジオにノイズが混ざるときにご使用ください。再度電源ボタンを約 1 秒間押すと機能が停止します。

LED インジケーター

ワイヤレス充電器 (Qi) の状態を LED インジケーターで確認できます。

状態	点灯/点滅パターン
OFF	点灯しない
待機中 (充電可能状態)	白色の点灯
普通充電中	橙色の点灯
急速充電中*1	緑色の点灯
普通充電中 (充電効率低下中)	橙色の点滅
急速充電中*1 (充電効率低下中)	緑色の点滅
待機中 (充電不可状態)	白色の点滅
高温、異物検知による充電停止中	赤色の点滅
内部異常、故障による充電停止中	赤色の点灯

*1　携帯機器によっては、普通充電と急速充電の切り替えができるものがあります。

⚠注意

- **携帯機器を充電エリアに置いている場合、ワイヤレス充電器 (Qi) と車両のキーは離してください。ワイヤレス充電器 (Qi) が電波干渉して、車両のキーを認識しない場合があります。**
- **次のような場合は、充電が正常に作動しない場合があります。**
  - **携帯機器が満充電のとき**
  - **携帯機器と充電エリアの間に異物があるとき**
  - **携帯機器の温度が高温になっているとき**
  - **携帯機器の充電側を上にして置いたとき**
  - **携帯機器を置く場所が極端に充電エリアの中央からずれているとき**
  - **近くにテレビ塔、発電所、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき**
  - **携帯機器の Near Field Communication (NFC) 機能が ON に設定されているとき (携帯機器の機種によります)**

⚠注意

- **以下のものは、携帯機器のデータが消える、または故障につながるおそれがあるため、充電エリアに近づけないでください。**
  - **磁石、磁気カード、磁気記録メディアなど、磁気を帯びたもの**
  - **腕時計などの精密機器**
- **ご使用の前には必ず携帯機器のデータのバックアップをとってください。携帯機器のデータが消えるおそれがあります。**
- **ワイヤレス充電器 (Qi) を油類・アルコール、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしないでください。故障やひび割れの原因となります。**
- **携帯機器を車内に放置しないでください。車内が高温となり、故障につながるおそれがあります。**

知識

- 充電エリアより大きい携帯機器は充電できません。また、充電エリア内に入っていても携帯機器の設置位置によっては充電効率が下がる、または充電ができない場合があります。
- ラジオのノイズを低減させる機能を使用した場合、充電中の携帯機器によっては急速充電ができなくなることがあります。
- LED インジケーターが橙色、または緑色に点滅している場合は充電効率が低下しています。携帯機器と充電エリアの間に異物がないことを確認し、携帯機器の位置を充電エリア中央付近に合わせてください。
- ご使用のケースやアクセサリによっては携帯機器が充電できない、または充電効率が下がり充電時間が長くなることがあります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が開始されない場合は、ケースやアクセサリを外してください。
- キーレスエントリーが動作しているときは、一時的に充電が停止することがありますが異常ではありません。
- 充電中はワイヤレス充電器 (Qi) と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
- 充電中に携帯機器の温度が上がると、携帯機器の保護機能により充電が停止する場合があります。その場合には、携帯機器の温度が十分に下がってから充電を行なってください。
- ワイヤレス充電器 (Qi) を使用する際、Near Field Communication (NFC) 機能を用いたアプリケーションが起動することがありますが、ワイヤレス充電器 (Qi) の故障ではありません。
- i-stop 作動中、一時的に充電量を制限したり充電を停止したりすることがありますが、異常ではありません。

商標について

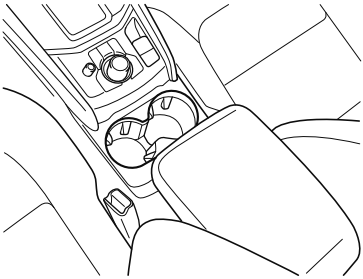
「Qi」および Qi シンボルはワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標または、登録商標です。

アジャスター機能付きカップホルダー

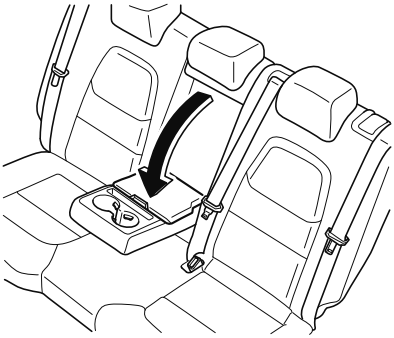
⚠注意

禁止 **走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。**

フロント



リア



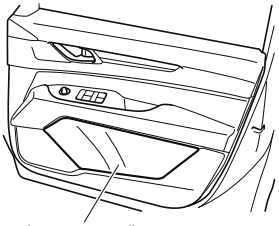
ボトルホルダー

⚠注意

禁止 **ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。**

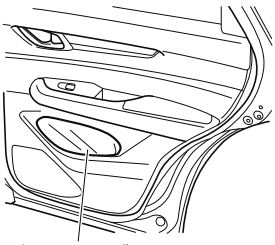
ペットボトルなどを置くことができます。

フロント



ボトルホルダー

リア



ボトルホルダー

収納

⚠警告

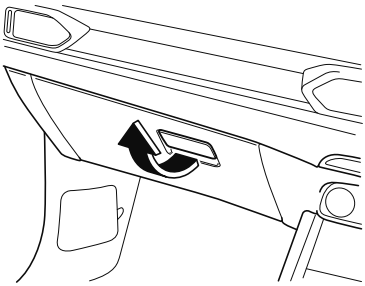
必ず守る **荷物を積むときは確実に固定する。**
荷物を確実に固定しないと、走行中や急ブレーキ時などに荷物が移動したりくずれたりして、けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る **走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。**

禁止 **炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。**

グローブボックス

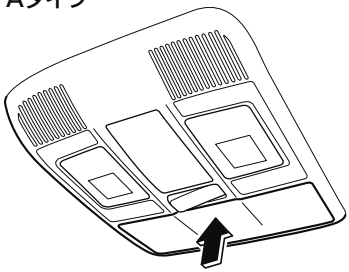


閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

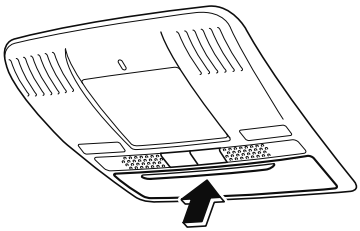
オーバーヘッドコンソール

Aタイプ

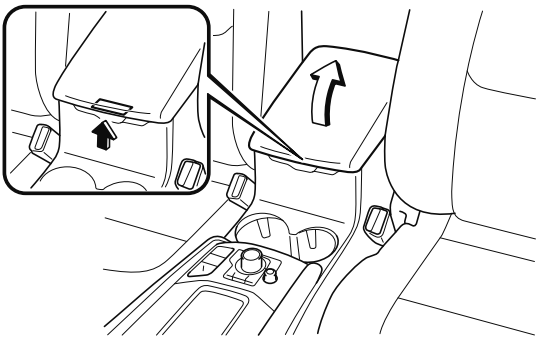
メガネやサングラスなどを入れることができます。



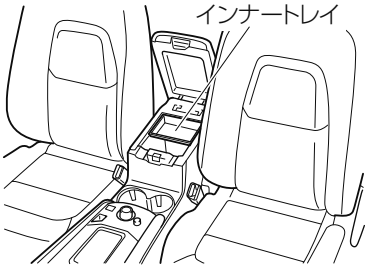
Bタイプ



大型コンソールボックス

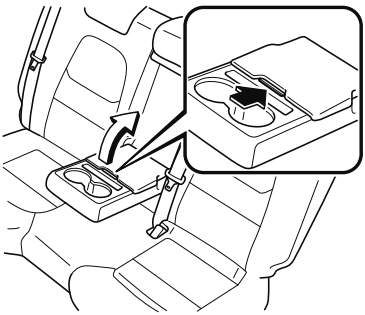


インナートレイ



インナートレイは取りはずすことができます。

アームレストボックス

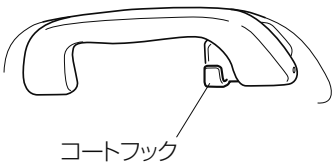


開けるときはボタンを押して、フタを上に引き上げます。

リアコートフック

⚠警告

禁止
アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

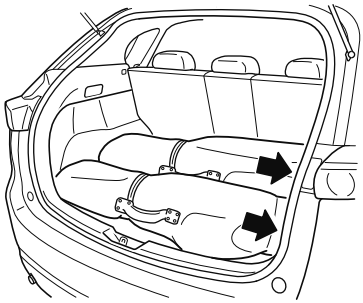


ラゲッジルーム

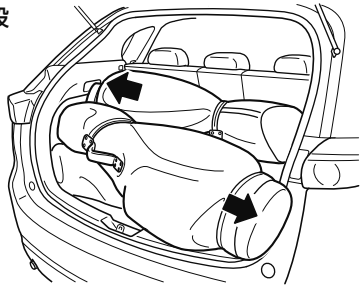
知識

ゴルフバッグを載せるとき
(ゴルフバッグの大きさによっては、以下の方法で入らない場合があります。)
ゴルフバッグは最大 4 個載せることができます。
ゴルフバッグを 4 個載せる場合は、トノカバーを取りはずして、床下に収納してください。
→56 ページ「トノカバーを収納するとき」
下段:1 個目と 2 個目はゴルフバッグの底側を右にしてラゲッジルーム内に収まるように載せます。
上段:3 個目のゴルフバッグの底側を左にし、4 個目のゴルフバッグの底側を右にしてラゲッジルーム内に収まるように載せます。

下段



上段



矢印はゴルフバッグの底側を示します。

サブトランクボックス

サブトランクボックスはラゲッジボードの下にあります。小物などを収納することができます。

⚠注意

ラゲッジボードを立てかけているときは、ラゲッジボードに無理な力をかけないでください。無理な力がかかると、ラゲッジボードが変形または破損するおそれがあります。

禁止

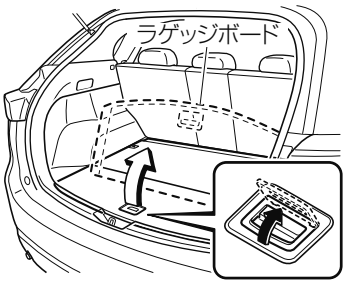
走行するときはラゲッジボードをもとの位置にもどしてください。立てかけたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

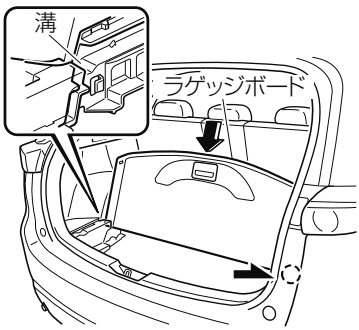
ハンドルを使用しないときはもとの位置にもどしてください。もとの位置にもどさないまま、荷物などをのせるとハンドルに干渉し、ハンドルが変形または破損するおそれがあります。

必ず守る

1. ラゲッジボードを開きます。



2. ラゲッジボードを左右の溝に差し込みます。



ラゲッジボード

ラゲッジボードの取り付け位置を変えることで、床面の高さを調節することができます。

リバーシブルラゲッジボード グレード/仕様別装備

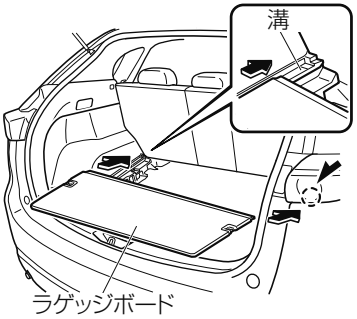
リバーシブルラゲッジボードは、用途に応じて裏面を上側にして使用することができます。裏面は汚れにくく、汚れが取りやすい材質になっています。

⚠注意

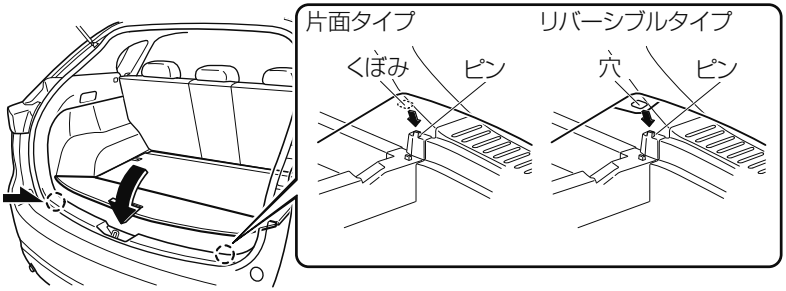
禁止 **ラゲッジボードに大量の水などの液体をかけないでください。ラゲッジボードに大量の水などの液体をかけると、下に漏れてラゲッジボード下の荷物が濡れるおそれがあります。**

上段で使用するとき

1. フロントラゲッジボードを載せます。



2. リアラゲッジボードの左右のくぼみまたは穴をピンに差し込みます。

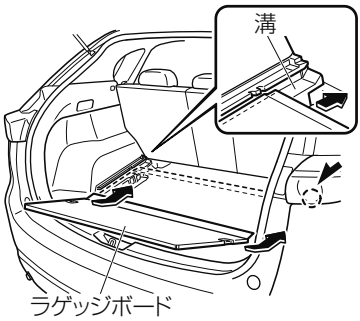


3. 取りはずすときは、取り付けた手順と逆の手順で取りはずしてください。

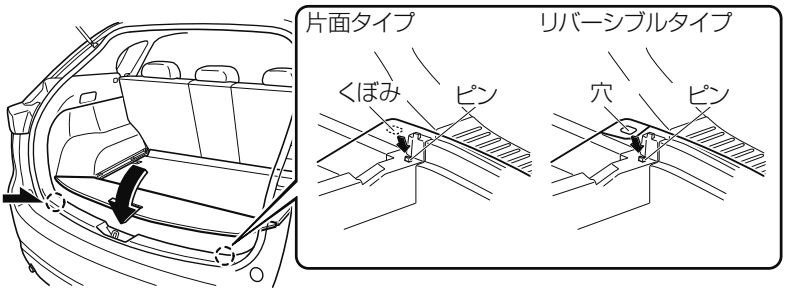
下段で使用するとき

1. フロントラゲッジボードを脱着するときは、ラゲッジフックをフロントラゲッジボードにもどしてください。

2. フロントラゲッジボードを下段の溝にスライドさせて取り付けます。



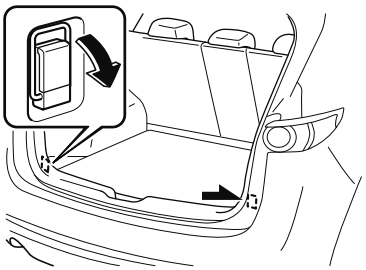
3. リアラゲッジボードの左右のくぼみまたは穴をピンに差し込みます。



4. 取りはずすときは、取り付けた手順と逆の手順で取りはずしてください。

ラゲッジフック

ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。
フックの引っ張り荷重は 20 kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。
トリム側

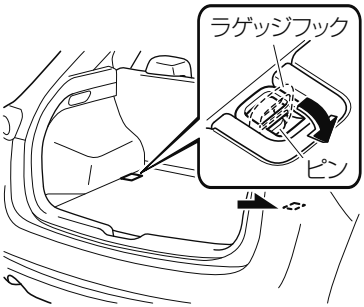


ラゲッジボード側

⚠注意

必ず守る **ラゲッジフックを使用しないときはもとの位置にもどしてください。もとの位置にもどさないまま、荷物などをのせるとラゲッジフックに干渉し、ハンドルが変形または破損するおそれがあります。**

ラゲッジフックを使用するときは、ラゲッジフックをピンに引っかけます。



4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 506
必ずまもる....506
お車に触れるときはけがに注意する....507
点検、整備 508
点検整備について....508
定期点検....509
日常点検の前に....510
日常点検....512
その他の手入れ....521
ヒューズ切れ、電球切れのとき 522
ヒューズの受け持つ装置....522
ランプ類、電気装置が作動しないとき....528
電池交換 537
電池を交換するときは....537
車の手入れ 540
外装の手入れ....540
内装の手入れ....543
季節の準備 547
冬にそなえて....547
夏にそなえて....549
環境保護のために 550
廃棄物を処理するときは....550

必ずまもる

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジンの改造や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品を装着するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

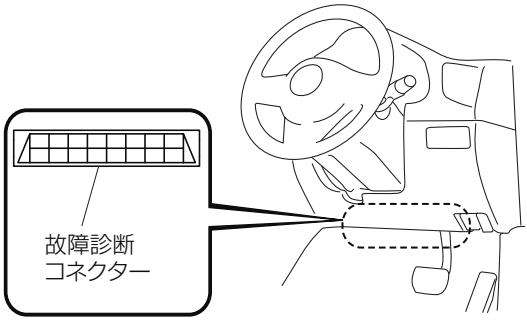
タイヤ、ホイール、ホイールナットはマツダが推奨するサイズを使用してください。推奨以外のサイズを使用すると走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、違法改造になることがあります。詳しくは車両スペックのページをご確認ください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。
また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障診断コネクターに点検整備用の故障診断器以外を接続しない

故障診断コネクターは、専用の機器を接続することで故障などを自己診断するためのコネクターです。
故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断器以外を接続しないでください。故障診断器以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。



お車に触れるときはけがに注意する

手入れをするとき

日常点検やタイヤ交換などの作業、洗車など手入れをするときは、けがをしないように注意してください。

見えにくい箇所へ触れるとき

手にけがをするおそれがありますので、軍手など厚手の手袋を使用して点検や作業などを行なってください。

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。
使用済みバッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

必ず守る **点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。**
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。**
手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。**

必ず守る **エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。**
置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

無料点検について
新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。

車両データの記録について

本車両は、車両の制御や操作、その他の走行環境に関する主要なデータを記録するコンピューターを装備しています。

記録されるデータ

- エンジン回転数や車速など、車両の状態
- アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報
- その他、各車載コンピューターの制御に関する情報

知識

記録されるデータの項目は、車両のグレードやオプション装備の種類により異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、コンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意 (リース車は借貸主の同意) がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

定期点検

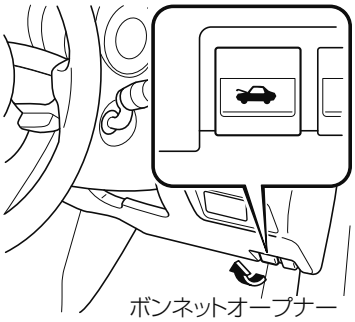
1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

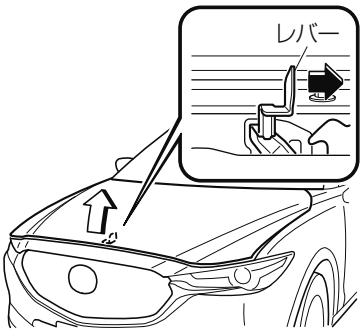
- **点検結果について**
  点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。
- **シビアコンディションについて**
  一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。
  詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検の前に

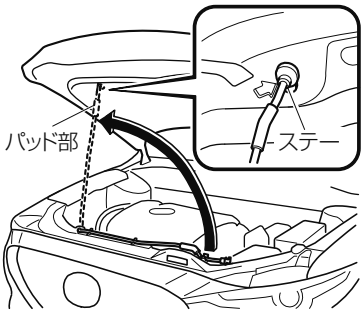
ボンネットの開けかた



1. 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

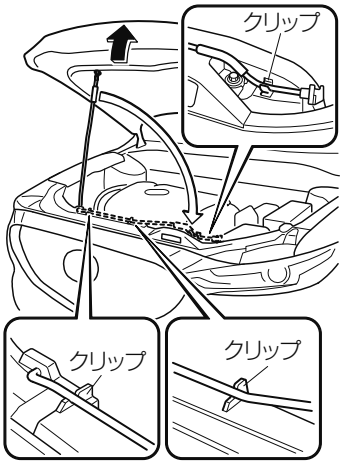


2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げます。



3. パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

ボンネットの閉めかた



1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。
2. ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。
3. ボンネットをゆっくりおろし、約 20 cm の高さから静かに落として閉めます。

⚠ 警告

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

知識

点検結果について
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

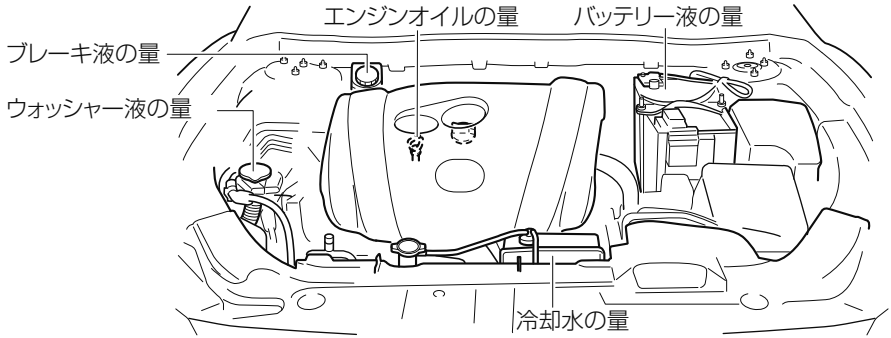
点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

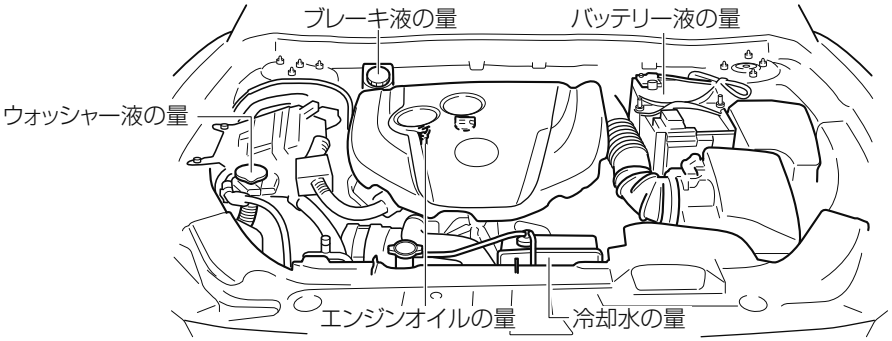
前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。
点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジンルームをのぞいて

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



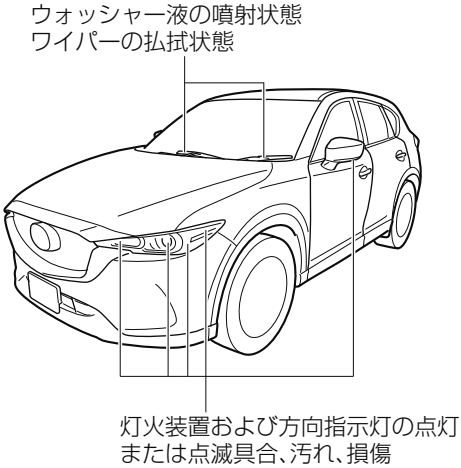
⚠注意

エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

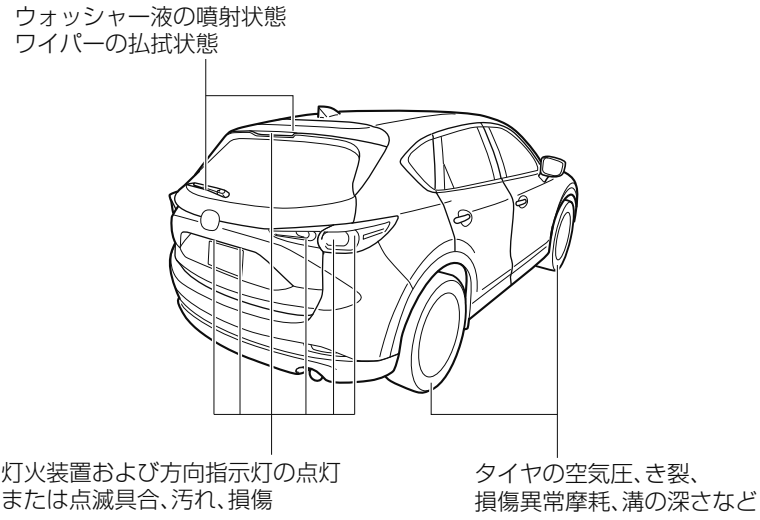
必ず守る

全体を見まわして

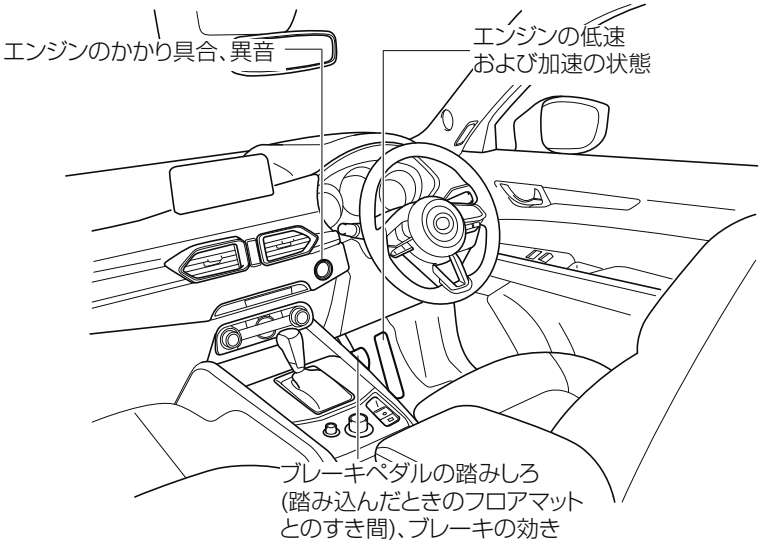
フロント



リア



運転席にすわって



タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

知識

タイヤの劣化について
タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後 5～7 年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

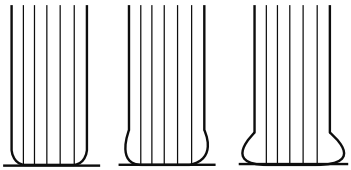
空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調整してください。

⚠警告

禁止
タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る
タイヤバルブキャップは純正品を使用する。
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



過多　適正　不足

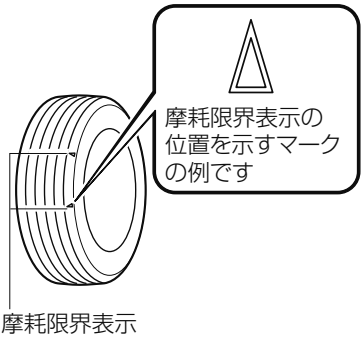
き裂、損傷の点検

⚠警告

禁止
異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になるおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

- **走行中にハンドルがとられる**
- **異常な振動を感じる**
- **パンクやバースト（破裂）する**
- **車の性能（燃費・走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できない**
- **部品に悪影響をあたえる**

溝の深さ、異常摩耗の点検



摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠ 警告

禁止

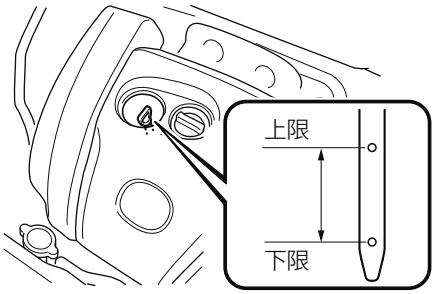
タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

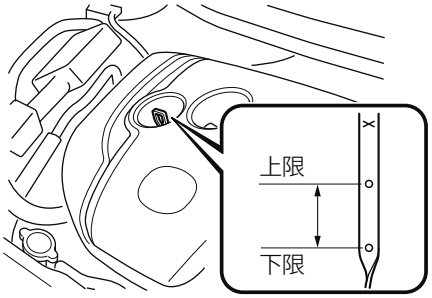
摩耗限界表示について
摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

エンジンオイルの点検、補充

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



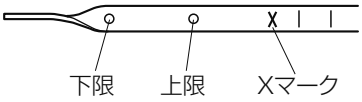
オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

SKYACTIV-D 2.2

⚠注意

必ず守る **指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用した場合、DPF 内にオイル中の灰分が堆積し、燃費の悪化や DPF の交換が必要になることがあります。**
→612 ページ「エンジンオイル」

知識



- エンジンオイルの量を点検するときは、オイルレベルゲージをひねらずまっすぐに抜いてください。
  また、オイルレベルゲージを差すときは、必ずオイルレベルゲージの×マークを車両前方に向けてひねらずまっすぐ差し込んでください。
- エンジンオイルがレベルゲージの×の位置を超えている場合はオイル交換をしてください。
- DPF に堆積した PM (Particulate Matter: 粒子状物質) が自動で除去されるとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、油量が増えることがありますが異常ではありません。

SKYACTIV-D 2.2

オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、次の手順で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示またはオイル警告灯が点灯することがあります。

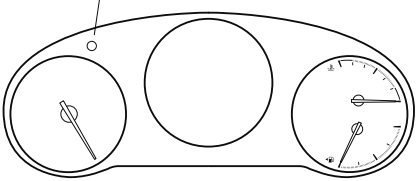
知識

記憶値の初期化 (オイルデータリセット) は次の手順でも行なうことができます。

1. 電源ポジションを OFF にします。
2. パネルライトコントロールスイッチを押したまま、電源ポジションを ON にし、マスター警告表示⚠が点滅するまで、パネルライトコントロールスイッチを約 5 秒間押し続けます。

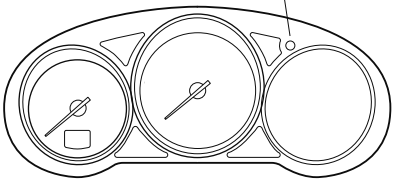
タイプA

パネルライトコントロールスイッチ



タイプB

パネルライトコントロールスイッチ



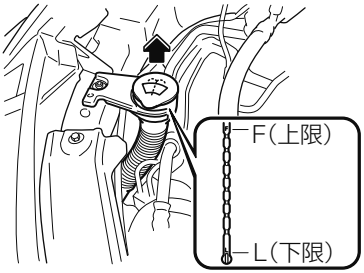
3. マスター警告表示⚠が数秒間点滅したら、初期化は完了です。

バッテリーの点検

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。
→574 ページ「バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の補充



補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

⚠注意

必ず守る **エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。**

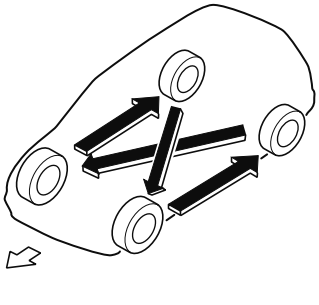
知識

ウォッシャータンクについて
ウォッシャータンクは、フロントワイパー用、リアワイパー用、ヘッドランプウォッシャー用で兼用しています。

その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



⚠警告

必ず守る

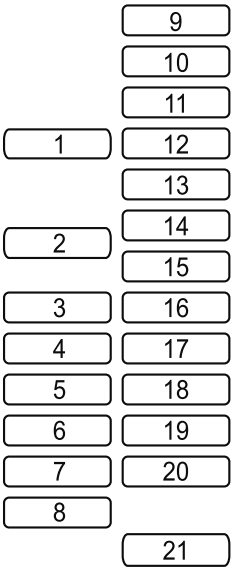
タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- タイヤの位置交換を行なうまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→515 ページ「タイヤの点検」
- タイヤの位置交換を行なったあとはタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
→624 ページ「タイヤ空気圧」
- お客様のお車にはスペアタイヤ、ジャッキが標準で搭載されていないため、お客様自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズの受け持つ装置

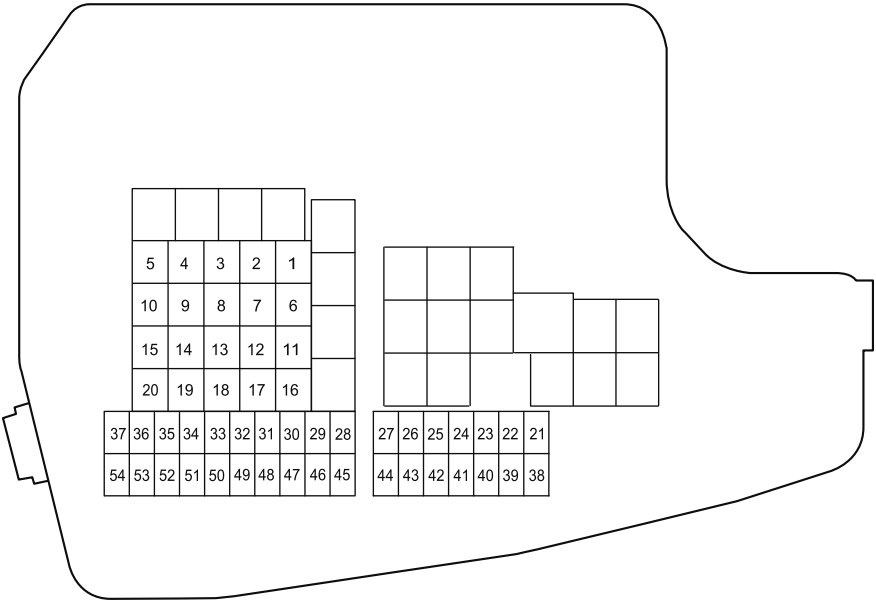
室内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	P.SEAT D	30 A	運転席パワーシート グレード/仕様別装備
2	P.WINDOW3	30 A	パワーウインドー
3	R.OUTLET3	15 A	—
4	P.WINDOW2	25 A	パワーウインドー
5	ESCL	15 A	ステアリングロック
6	D.LOCK	25 A	パワードアロック
7	SEAT WARM	20 A	シートヒーター グレード/仕様別装備

位置	表示	容量	保護装置
8	SUNROOF	10 A	パノラマサンルーフ グレード/仕様別装備
9	F.OUTLET	15 A	電源ソケット
10	MIRROR	7.5 A	電動ミラー
11	R.OUTLET1	15 A	電源ソケット
12	SCR3	15 A	—
13	SCR4	15 A	—
14	R.OUTLET2	15 A	電源ソケット
15	USB	7.5 A	USB 端子
16	PLG	20 A	パワーリフトゲート グレード/仕様別装備
17	M.DEF	7.5 A	ミラーデフォッガー (曇り取り)
18	R.SEAT W	20 A	リアシートヒーター グレード/仕様別装備
19	INTERIOR2	15 A	オーディオ
20	AT IND	7.5 A	オートマチックトランスミッションインジケーター グレード/仕様別装備
21	P.SEAT P	30 A	助手席パワーシート グレード/仕様別装備

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	CABIN.+B	50 A	各種電源
2	IG2	30 A	各種電源
3	INJECTOR ENG.SUB	30 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
4	SCR1 EVVT	20 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
5	P.WINDOW1	30 A	パワーウインドー グレード/仕様別装備
6	R.HEATER	20 A	—
7	ADD FAN DE	40 A	クーリングファン グレード/仕様別装備

位置	表示	容量	保護装置
8	WIPER.DEI	20 A	ウインドーワイパーデアイサー グレード/仕様別装備
9	DEFOG	30 A	リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
10	DCDC DE	40 A	各種電源 グレード/仕様別装備
11	EPB R	20 A	電動パーキングブレーキ (EPB) 右
12	EPB L	20 A	電動パーキングブレーキ (EPB) 左
13	AUDIO DCDC REG	30 A	各種電源 グレード/仕様別装備
14	FAN GE	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
15	ENG.MAIN	40 A	エンジンコントロールシステム
16	ABS/DSC M	50 A	ABS、DSC
17	FAN DE	40 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
18	WIPER	20 A	フロントワイパー/ウォッシャー
19	HEATER	40 A	空調
20	ADD FAN GE	30 A	クーリングファン グレード/仕様別装備
21	ENGINE. IG1	7.5 A	エンジンコントロールシステム
22	C/U IG1	15 A	各種電源
23	AUDIO2	7.5 A	オーディオ
24	METER2	7.5 A	メーター
25	ENGINE3	15 A	エンジンコントロールシステム
26	ENGINE2	15 A	エンジンコントロールシステム

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
27	ENGINE1	15 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
28	AT	15 A	エンジンスイッチ、トランスミッションコントロールシステム グレード/仕様別装備
29	H/CLEAN	20 A	ヘッドランプウォッシャー グレード/仕様別装備
30	A/C	7.5 A	空調
31	AT PUMP	15 A	トランスミッションコントロールシステム グレード/仕様別装備
32	HORN	15 A	ホーン
33	R.WIPER	15 A	リアワイパー
34	H/L HI	20 A	ヘッドランプ (ハイビーム)
35	ST.HEATER	15 A	ステアリングヒーター グレード/仕様別装備
36	FOG	15 A	—
37	ENG.+B	7.5 A	エンジンコントロールシステム
38	H/L LOW L	15 A	ヘッドランプ 左 (ロービーム)
39	ENGINE4	15 A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備
40	INTERIOR1	15 A	各種電源
41	METER1	10 A	メーター
42	SRS1	7.5 A	エアバッグシステム
43	AUDIO1	15 A	オーディオ
44	BOSE	25 A	オーディオ

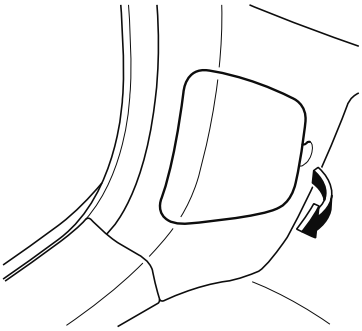
位置	表示	容量	保護装置
45	ABS/DSC S	30 A	ABS、DSC
46	FUEL PUMP	15 A	フューエルポンプ グレード/仕様別装備
47	FUEL WARM	25 A	フューエルウォーマー グレード/仕様別装備
48	TAIL	15 A	尾灯、番号灯、車幅灯
49	SCR2 FUEL PUMP2	25 A	—
50	HAZARD	25 A	方向指示灯/非常点滅灯
51	H/L LOW R	15 A	ヘッドランプ 右 (ロービーム)
52	OUTLET	25 A	電源ソケット
53	STOP	10 A	制動灯、リアフォグランプ グレード/仕様別装備
54	ROOM	25 A	各種電源

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。
まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

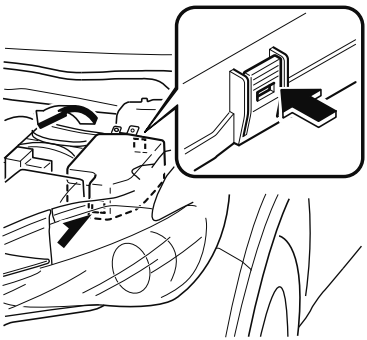
ヒューズの交換

室内ヒューズボックス



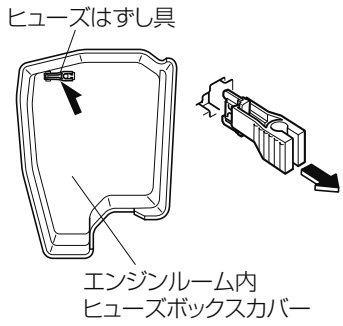
1. 電源ポジションを OFF にします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席左下と、エンジンルーム内にあります。

エンジンルーム内ヒューズボックス

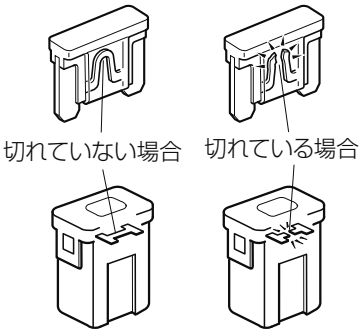


知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。



3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→522 ページ「ヒューズの受け持つ装置」
4. ヒューズを抜き取ります。



5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。
6. ヒューズボックスのカバーを元の通り取り付けます。

⚠警告

禁止

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。
配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。

⚠注意

必ず守る

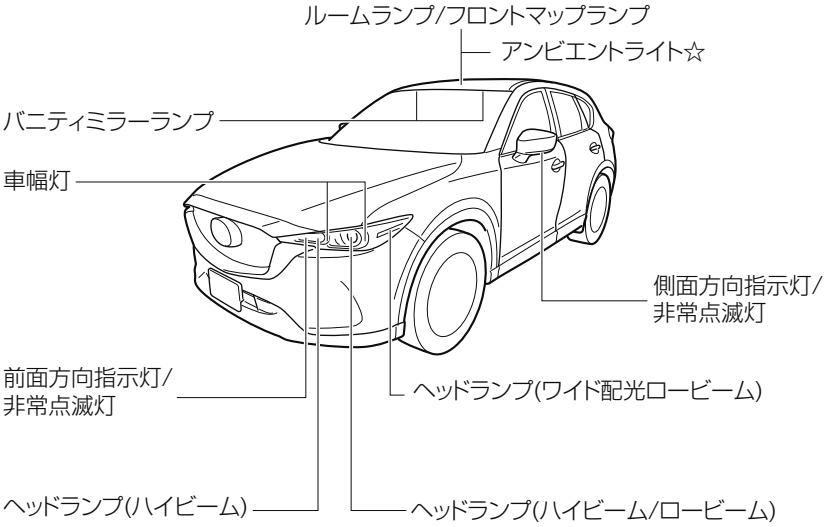
必ずマツダ純正品または同等品を使用してください。

知識

ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

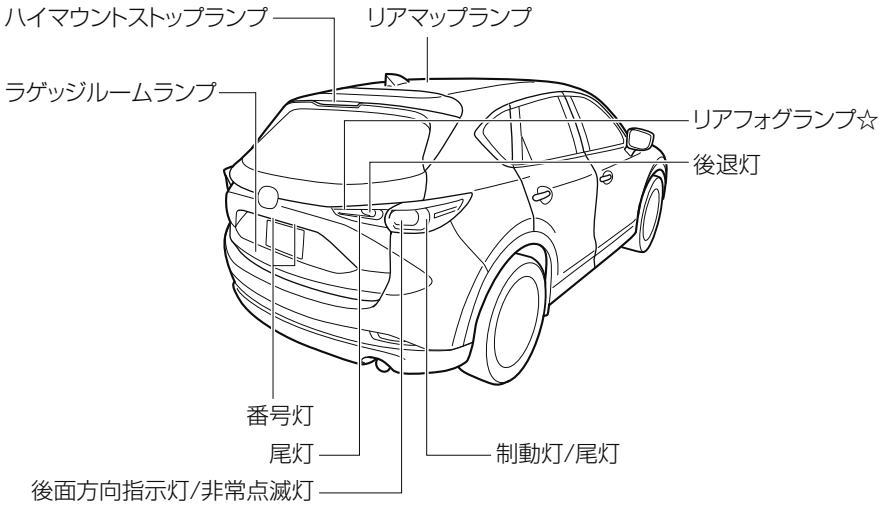
電球（バルブ）の交換

フロント



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

リア



☆印はグレードや仕様などにより装備の有無が異なります。

⚠注意

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

ルームランプ、ラゲッジルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズや内装に当たると、傷がつくおそれがあります。

マイナスドライバーなどを使ってレンズやランプ本体を取りはずすときは、マイナスドライバーなどが内部の端子に当たらないようにしてください。マイナスドライバーなどが直接端子に当たると、ショートするおそれがあります。

知識

- **ハロゲン球の取り扱いについて**
  ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- **交換する電球について**
  必ず同じ W 数の電球を使用してください。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

- **ランプの曇りについて**
  ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

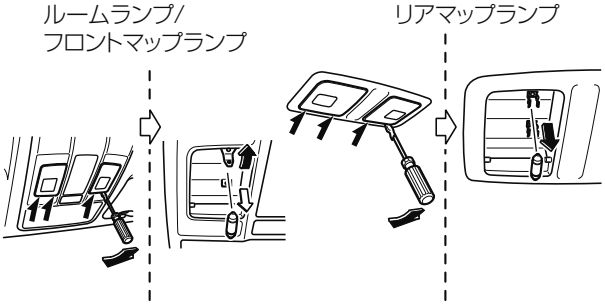
LED タイプ

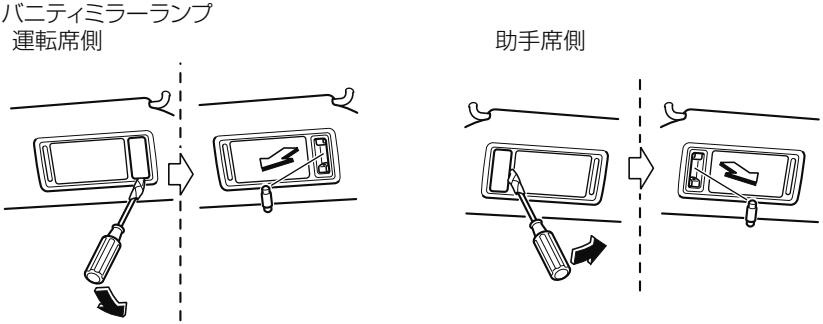
次のランプ類は LED タイプのため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。
ヘッドランプ、車幅灯、前面方向指示灯/非常点滅灯、側面方向指示灯/非常点滅灯、制動灯、尾灯、後面方向指示灯/非常点滅灯、後退灯、ハイマウントストップランプ、番号灯、リアフォグランプ グレード/仕様別装備
ルームランプ/フロントマップランプ (LED タイプ)、リアマップランプ (LED タイプ)、バニティミラーランプ (LED タイプ)、ラゲッジルームランプ (LED タイプ)、アンビエントライト グレード/仕様別装備

ヒューズ切れ、電球切れのとき

ルームランプ/フロントマップランプ (バルブタイプ)、リアマップランプ (バルブタイプ)、バニティミラーランプ (バルブタイプ)

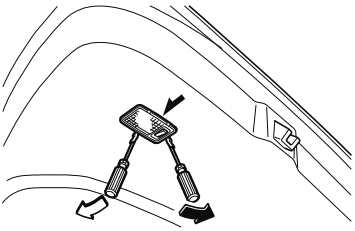
1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
2. 電球を取りはずします。



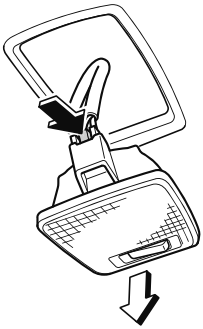


3. 電球を取り換えます。
4. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ラゲッジルームランプ（バルブタイプ）



1. マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、ランプ本体を取りはずします。

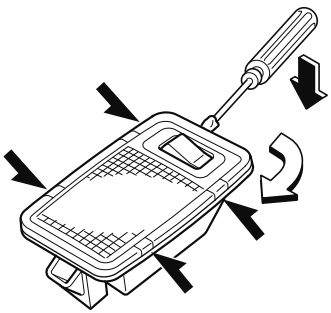


2. ツメを押し、コネクターを取りはずします。

⚠注意

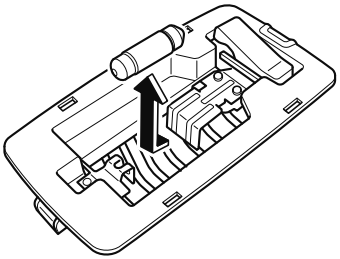
電球を交換するときは、必ずコネクターをはずしてから交換してください。コネクターをはずさずに電球を交換すると電気部品や電子部品がショートするおそれがあります。

必ず守る



3. マイナスドライバーなどを使って、スライドさせながらレンズを取りはずします。

ヒューズ切れ、電球切れのとき



4. 電球を抜き取ります。
5. 電球を取り換えます。
6. はずした手順と逆の手順で取り付けます。

電池を交換するときは

⚠注意

電池の＋側と－側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。
必ず守る

電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。
禁 止

電池を交換してもキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。
必ず守る

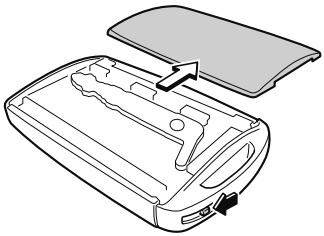
キー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

- エンジンをきったときにマルチインフォメーションディスプレイに KEY 警告表示が表示した
- キーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

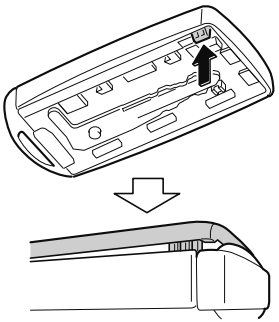
電池交換のとき、キーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格: リチウム電池 CR2032

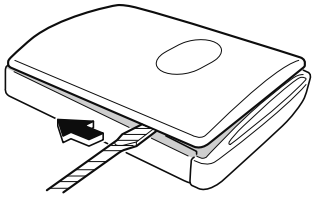


1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずします。

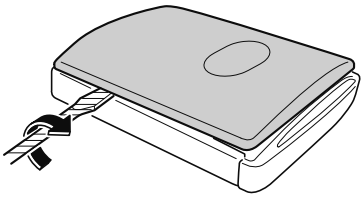
電池交換



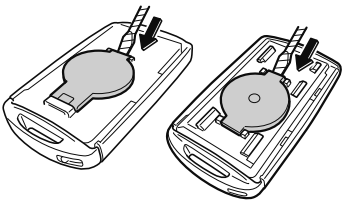
2. ツメを押し込んで、上側カバーのロックを解除します。



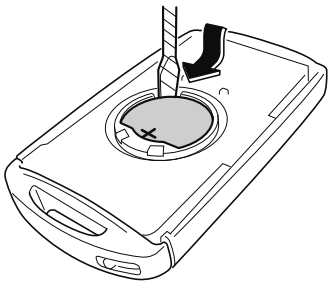
3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーをすき間に差し込み、マイナスドライバーを矢印方向にスライドさせます。



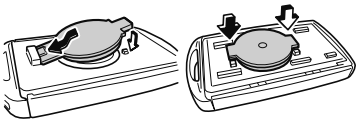
4. マイナスドライバーを矢印方向にまわして、上側カバーを取りはずします。



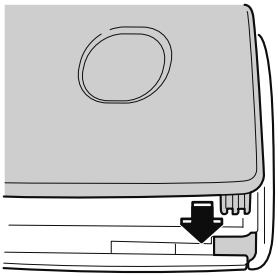
5. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、キャップを取りはずします。



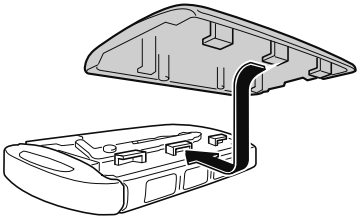
6. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、電池を取りはずします。
7. 電池の+側が上になるように、キーに新しい電池をはめ込みます。



8. キャップを取り付けます。



9. 上側カバーを取り付けます。



10. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付けます。

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド(みがき粉) 入りのワックスを使用しないでください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
  - 海岸地帯を走行したとき。
  - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
  - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
  - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
  - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
  - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
  - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

洗車するとき

水洗いするとき

1. 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
2. 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
3. はん点が残らないように水をふき取ってください。

⚠注意

ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。

運転席/助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。

エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。

洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点やアンテナに強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、車体がへこんだり、アンテナが損傷するおそれがあります。

(ハンズフリー機能装備車)
洗車するときは、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能を OFF にするか、キーをリアゲート付近に近づけないでください。意図せずリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
→49 ページ「ハンズフリー機能による操作」 グレード/仕様別装備

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30 cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に 1 回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。

⚠注意

必ず守る **(ハンズフリー機能装備車)**
ワックスがけをするときは、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能を OFF にするか、キーをリアゲート付近に近づけないでください。意図せずリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
→49 ページ「ハンズフリー機能による操作」 グレード/仕様別装備

知識

ワックスの使用について

- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについた油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。

⚠注意

必ず守る **熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。**

フロントガラスの油膜をとるときは

フロントガラスに油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。
ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

アルミホイールの手入れ

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。
汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

⚠注意

中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。変色･シミの原因となります。

禁止

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。
- **(19 インチホイール)**
  アルミホイールが白っぽくなり光沢がなくなったときは、コンパウンド (みがき粉) なしのワックスを使用してください。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗装はがれなどの原因となります。すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド (みがき粉) がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗装の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ

⚠警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

禁止

車の手入れ

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなります。

- 飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
- 油脂類が付着したとき
- 汚れがあるとき

シートベルトの手入れ

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

警告

必ず守る **シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。**
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る **シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。**
有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。

ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革・ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

布張り、合成皮革部分の手入れ

布張り

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

合成皮革

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れた部分をふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

革張り部分の手入れ

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除きます。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5%) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

知識

- 天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷が分かる場合があります。
- 品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
- 次のような場合は、早めに手入れを行なってください。
  そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になります。
  - 砂、ほこりなどが付いたとき
  - ハンドクリームなどの油分が付いたとき
  - 化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき
- 革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。
- 直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。
- ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

樹脂部品の手入れ

⚠注意

禁止 **つや出し剤を使用しないでください。**
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) の手入れ

ソフトパッド部の表皮には非常にやわらかい素材を使用しています。乾いた布などで強くこすると白いすり傷となる場合があります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

アクティブ・ドライビング・ディスプレイの手入れ グレード/仕様別装備

防塵シートはコーティングされています。お手入れをするときは、硬い布、表面が粗い布、洗剤などは使用しないでください。
→205 ページ「アクティブ・ドライビング・ディスプレイ」 グレード/仕様別装備
また、薬剤などがアクティブ・ドライビング・ディスプレイに付着した場合は、すぐにふき取ってください。防塵シートが破損したり、表面のコーティングが傷ついたりするおそれがあります。メガネ拭きのようなきめの細かい、やわらかい布をお使いください。

知識

防塵シートは、エアーを吹きつけて清掃することをおすすめします。

パネルの手入れ

パネルが汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などで軽くふき取ってください。
特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行なってください。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

知識

光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行なってください。

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
→612 ページ「エンジンオイル」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。
バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。
点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。
冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	−16℃
50%	−37℃

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) FL22 を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールデン) **FL22** は濃度調整済みの冷却水です。
薄めずそのままご使用ください。
冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。
冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。
→520 ページ「ウォッシャー液の補充」

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。
寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおってあります。
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

⚠警告

タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみて手順を理解しておきましょう。
→548 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは AWD 車も前輪に取り付けます。
タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。
タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。
路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板 (停止表示灯) を使用してください。

⚠注意

標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。
また、AWD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。

知識

- タイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

夏にそなえて

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

環境保護のために

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスを使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店か専門の修理業者に依頼してください。

5 トラブルが起きたら

マツダエマージェンシーコール 554
マツダエマージェンシーコール....554
故障したとき 555
路上で動けなくなったとき....555
スタックしたとき....557
踏切内で動けなくなったとき....558
緊急用具の取り扱い 559
発炎筒....559
工具、ジャッキの格納場所....559
ジャッキの取り扱い....560
パンクしたとき 565
タイヤパンク応急修理キット....565
バッテリーがあがったとき 574
バッテリーあがりについて....574
エンジンが始動しないとき 577
燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2)....577
オーバーヒートしたとき 578
オーバーヒートについて....578
キーが作動しないとき 581
キー一時停止機能....581
けん引について 582
けん引してもらうとき....582
故障車をけん引するとき....584
万一事故が起きたとき 586
警告灯/表示灯 587
警告灯が点灯、点滅したときは....587
マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは....598

5 トラブルが起きたら

センターディスプレイにメッセージが表示されたときは.....601

警報チャイム 603

チャイムがなったときは.....603

リアゲート 608

リアゲートが開けられなくなったとき.....608

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ 610

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき.....610

MEMO

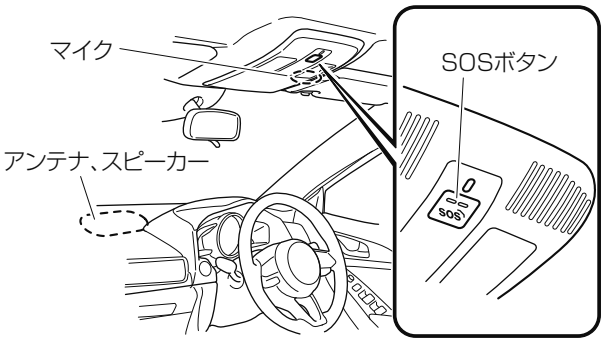
マツダエマージェンシーコール グレード/仕様別装備

⚠警告

コネクティッドサービス使用時、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方はアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。

電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

エアバッグが展開される衝突事故などを車両が検知した場合や、SOS ボタンを押した場合に、緊急通報オペレーターに車両の位置情報と緊急信号が送信され、オペレーターを通じて緊急車両の手配などを行なうことができます。



詳しくは
コネクティッドサービス取扱説明書
をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/

路上で動けなくなったとき

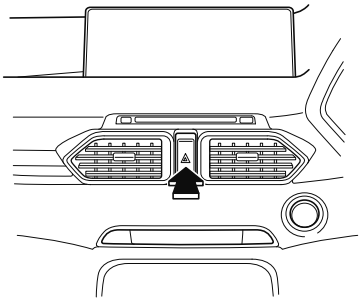
一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置にいれ、安全な場所まで押し出します。

⚠警告

必ず守る **万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止める。**
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

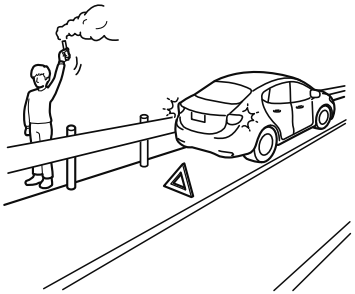
1. 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。

非常点滅灯スイッチ



非常点滅表示灯

2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。
→559 ページ「発炎筒」
   - 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務づけられています。
   - 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。



3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。
4. 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

知識

停止表示板 (停止表示灯) について
停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

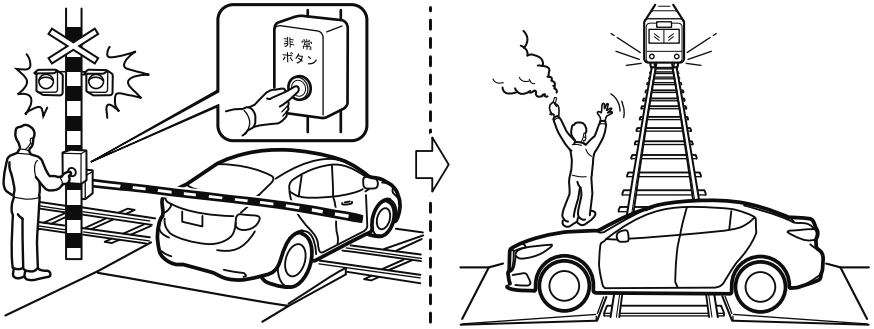
ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを D または R の位置にいれて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。
- **(オフロード・トラクション・アシスト装備車)**
  オフロード・トラクション・アシストを作動させることにより、スタックを脱出できる場合があります。
  →260 ページ「オフロード・トラクション・アシストとは」 グレード/仕様別装備
- **(マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) オフロードモード装備車)**
  オフロードモードを作動させることにより、スタックを脱出できる場合があります。
  →223 ページ「マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) とは」

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→559 ページ「発炎筒」
2. 付近の人に救援を求めます。



エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直します。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→559 ページ「発炎筒」
3. 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー/セレクトレバーを N の位置にいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について
スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

発炎筒

⚠警告

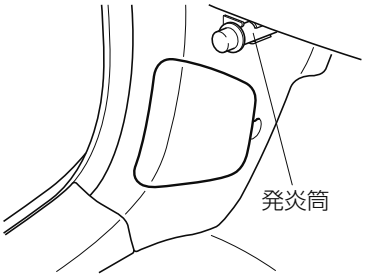
禁止 **油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。**
火災につながるおそれがあります。

禁止 **使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけない。**
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **お子さまにはさわらせない。**
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **トンネル内では発炎筒を使用しない。**
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について



事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

- 使用方法
- 使用上の注意事項
- 発炎時間
- 有効期限

工具、ジャッキの格納場所

⚠警告

必ず守る **車に搭載されているジャッキを使用する。**
車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

禁止 **ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。**

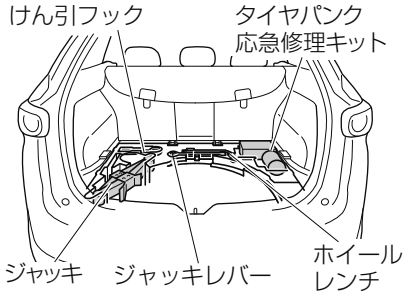
必ず守る **工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。**

知識

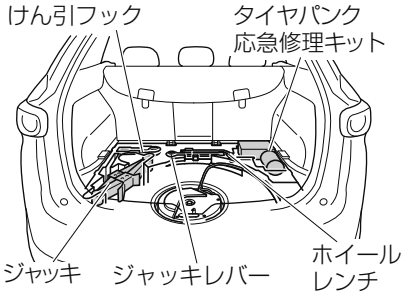
スペアタイヤはお客様のお車に標準で搭載されておりません。スペアタイヤの取り扱いについては、マツダ販売店にご相談ください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

ボーズサウンドシステム非装備車



ボーズサウンドシステム装備車



ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い、安全に作業ができる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にいれます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
→555 ページ「路上で動けなくなったとき」
5. 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→559 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

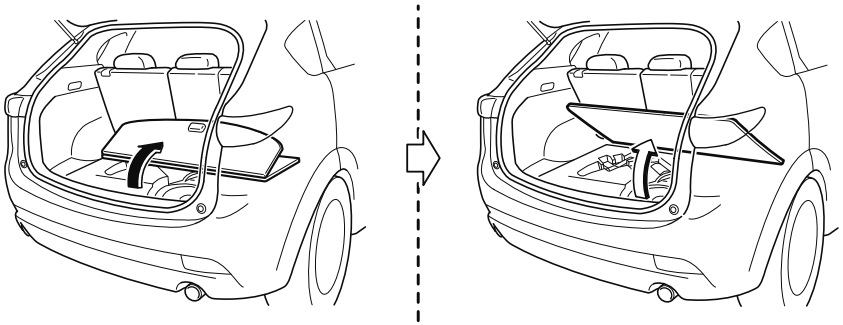
6. 輪止めを用意します。

知識

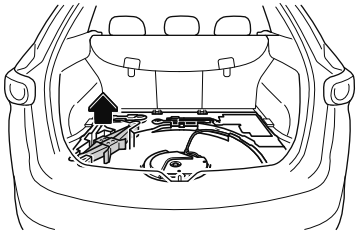
輪止めについて
輪止めはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

ジャッキを取り出すとき

1. ラゲッジボードを開き、持ち上げます。



2. ジャッキを取り出します。

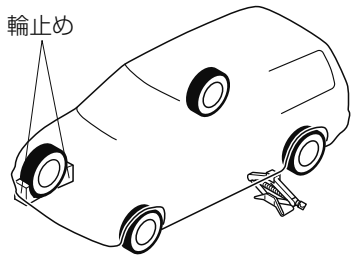


ジャッキアップするとき

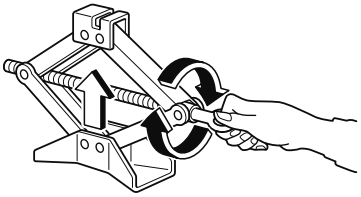
⚠警告

必ず守る **ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。**
チェンジレバーが 1 または R、セレクトレバーが P の位置に入っていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

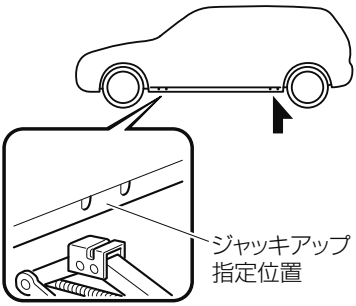
必ず守る **車に搭載されているジャッキを使用する。**
車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。
車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



1. ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
   - 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
   - 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後
2. ジャッキを地面に置きます。



3. ソケットを手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



4. ジャッキをジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央に直角にセットします。

5. ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらみの間) の中央にジャッキがはまっていることを確認します。

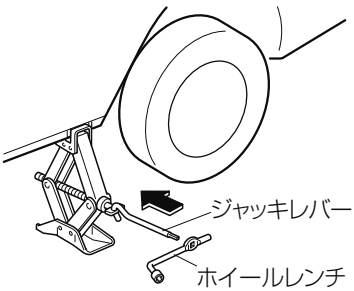
⚠警告

禁止

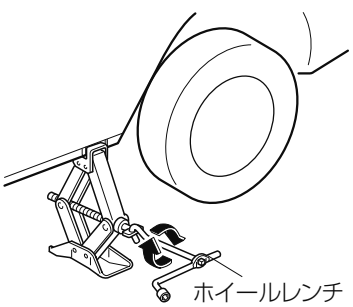
ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れない。
車体が変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

ジャッキ使用時は、溝部ではなく、ジャッキのヘッド部がボディー内側に先にあたります。



6. ジャッキにジャッキレバーをかけ、ジャッキレバーにホイールレンチを組み付けます。



7. タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。

⚠警告

禁止 **必要以上にジャッキアップしない。**
車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。**
ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

禁止 **ジャッキアップした車の下には絶対にはいらない。**
万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

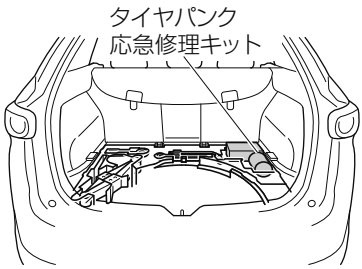
禁止 **人を乗せたままジャッキアップしないでください。**

ジャッキを格納するとき

1. ジャッキを取り出すときと逆の手順で格納します。

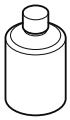
タイヤパンク応急修理キット

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。
タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。



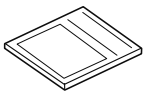
タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。


修理剤

注入ホース

エアコンプレッサー


取扱説明書

予備バルブコア

コアまわし

速度制限シール

⚠警告

必ず守る　万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。

修理剤を誤飲すると健康に害があります。

パンクしたとき

⚠警告

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄する。

必ず守る

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。

禁止

誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。

禁止

アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

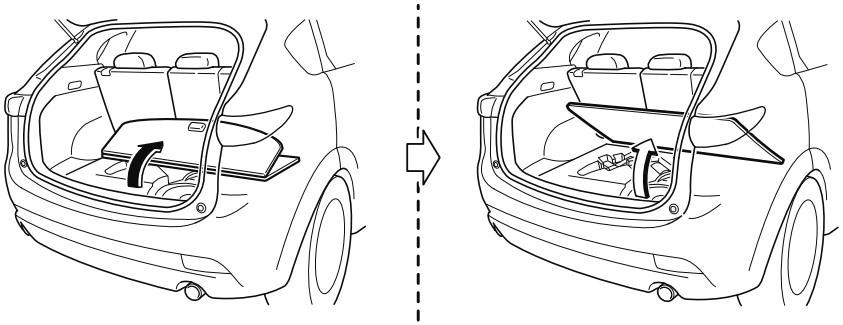
修理剤の使用について

- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店またはJAF などに連絡してください。
  - 修理剤の有効期限がきれているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
  - 約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - 接地部以外が損傷を受けたとき
  - パンクしたまま走行し、タイヤ側面が損傷しているとき
  - タイヤがホイールからはずれているとき
  - ホイールやバルブが破損しているとき
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき

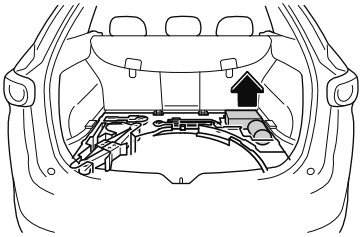
タイヤパンク応急修理キットの使いかた

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動します。
2. マニュアル車はチェンジレバーを 1 または R に、オートマチック車はセレクトレバーを P に入れます。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
5. 人や荷物を降ろします。

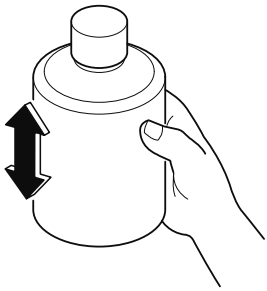
6. ラゲッジボードを開き、持ち上げます。



7. タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



8. 修理剤のボトルをよく振ります。



⚠警告

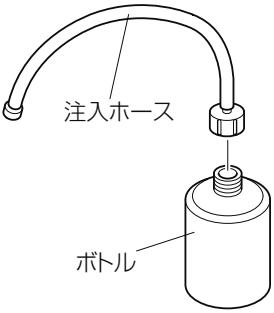
注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。

必ず守る **注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、衣服などに付着すると取れないおそれがあります。**

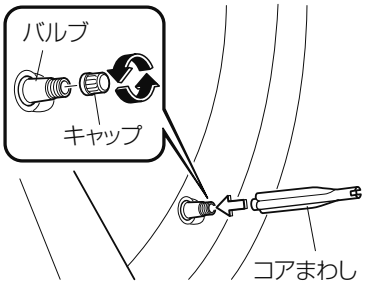
パンクしたとき

知識

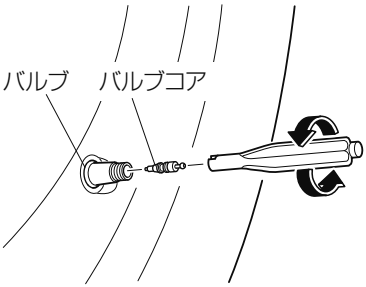
修理剤の性質について
0℃以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。



9. ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶたが破れます。



10. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押してタイヤの空気を完全に抜きます。



11. コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取りはずします。

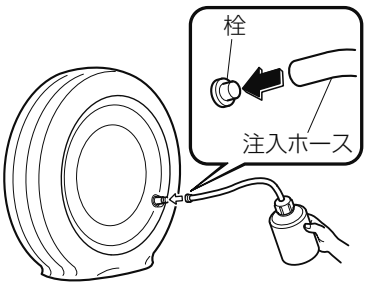
⚠注意

バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれがあります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

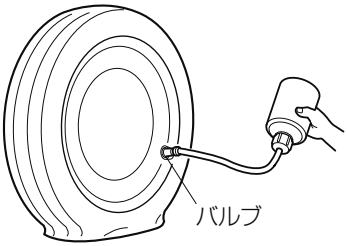
必ず守る

知識

バルブコアは汚れないように保管してください。



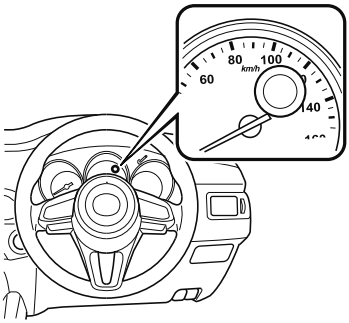
12. 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



13. ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤をすべてタイヤの中に注入します。
14. 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

知識

修理剤の回収について
注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または修理の際に使用済み修理剤の回収に使用します。ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。



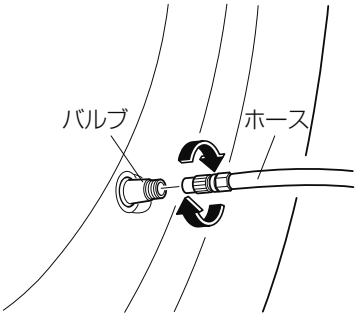
15. 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

⚠警告

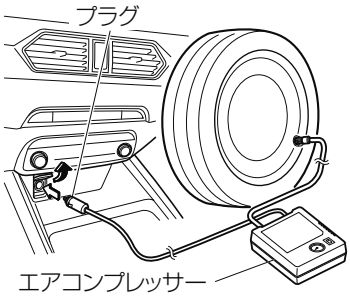
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。

禁止

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。



16. エアコンプレッサーのホースの口金を右にまわしてバルブに取り付けます。



17. エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションを ACC にします。
→486 ページ「電源ソケット」

⚠注意

必ず守る **電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**

18. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。

知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

19. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースの口金を左にまわしてバルブから抜きます。
20. バルブキャップを取り付けます。
21. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるためただちに走行を始めます。

⚠注意

必ず守る **80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h を超えた速度で走行した場合、車体が振動することがあります。**

22. 10 分間もしくは 5 km 程度走行後に手順 16 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認します。適正空気圧より低下していたら、手順 17 の作業から再度行ないます。

⚠警告

禁止 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。

本修理キットによる応急修理はできません。

禁止 手順 16～21 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。

マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠注意

必ず守る タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

23. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理·再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理·再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について
修理剤には有効期限があります。有効期限がきれたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきれる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。

⚠警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

必ず守る **必ず保護メガネを着用する。**
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

必ず守る **バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。**
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

必ず守る **絶対に火気を近づけない。**
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

必ず守る **換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。**
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

必ず守る **ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。**
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

処置方法

押しがけによる始動はできません。
別売のブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。
自車と同じ 12V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

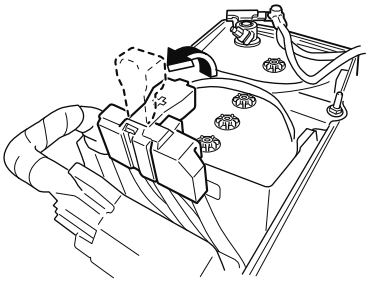
⚠注意

ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

必ず守る

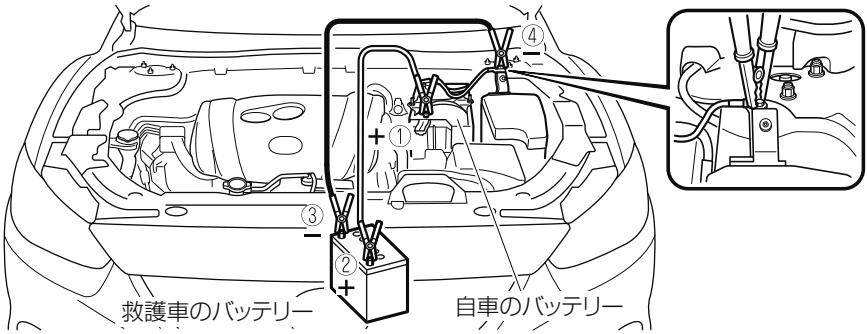
知識

i-ELOOP 付車は救援車として使用しないでください。



1. 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
2. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認します。
3. バッテリーキャップを取りはずします。

4. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
   ブースターケーブルはエンジンの振動などで外れないよう確実に接続してください。
   - **1本目**
     ①自車のバッテリーの+端子
     ②救援車のバッテリーの+端子
   - **2本目**
     ③救援車のバッテリーの-端子
     ④図で表示の箇所 (バッテリーの-端子に接続しない)



5. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
6. 自車のエンジンをかけます。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。

7. **(i-ELOOP 装備車)**
   自車のエンジンがかかったあと、メーター内に i-ELOOP 充電表示のメッセージが表示されるときがあります。エンジンを回転させ、充電が完了するとメッセージが消えます。メッセージが消えるのを確認してください。

知識

メッセージ表示中に走行するとチャイムが鳴ります。メッセージ表示中にステアリングを操作すると通常のステアリング操作より重くなるときがありますが、異常ではありません。エンジンをかけたまま安全な場所に停車し、ステアリング操作をしないでください。しばらくすると表示が消えて、通常のステアリング操作に戻ります。
メッセージ表示中はブースターケーブルを切り離さないでください。

8. ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
9. バッテリーキャップを取り付けます。
10. 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

燃料切れしたときは (SKYACTIV-D 2.2)

⚠注意

禁止 **連続して 10 秒以上エンジン始動の操作をしないでください。 スターターを損傷するおそれがあります。**
エンジンが始動しない場合、20 秒待ってから再度エンジン始動を試みてください。

燃料切れを起こした場合、少なくとも 10 L の燃料を補給してからエンジンを始動してください。燃料切れが起きると燃料系統に空気が入り、エンジン始動に時間がかかることがあります。燃料を補給したあとでエンジンが始動しない場合、エンジン始動を数回試みてください。それでも始動しないときはマツダ販売店へ連絡してください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告表示が表示され、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠警告

禁止 **エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

禁止 **エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。**
エンジンが熱いときにラジエーターキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止 **エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。**
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まっていてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

1. 安全な場所に車を止めます。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
   エンジンルームから蒸気が出ているときは
   エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
   エンジンルームから蒸気が出ていないときは
   エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。
   クーリングファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤)が消えたらエンジンを止めます。

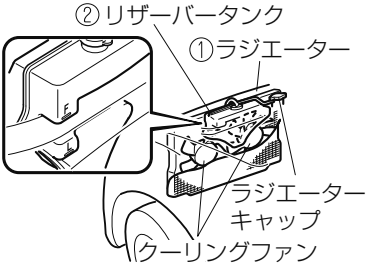
⚠注意

必ず守る **クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。**

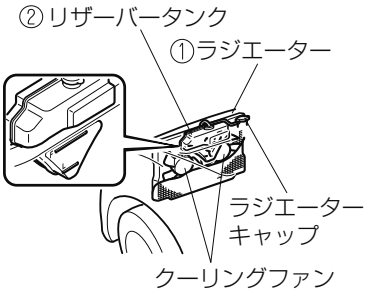
オーバーヒートしたとき

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。冷却水量が不足しているときは①ラジエーター②リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。
冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
補充後はラジエーターキャップを確実に取り付けてください。

SKYACTIV-G 2.0、
SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。

キー一時停止機能

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能（プッシュボタンスタートでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作）が盗難防止のため、一時停止する場合があります。車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店または JAF などに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店または JAF などに連絡してください。

⚠警告

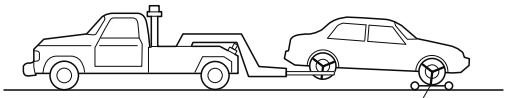
必ず守る **長い下り坂を下るときは、レッカー車でけん引する。**
ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠注意

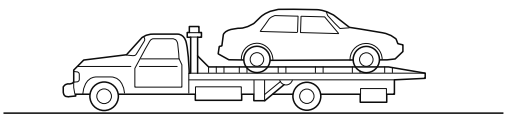
必ず守る **オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。**

必ず守る **AWD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。**

必ず守る **電動パーキングブレーキ (EPB) が解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。**



けん引用補助台車

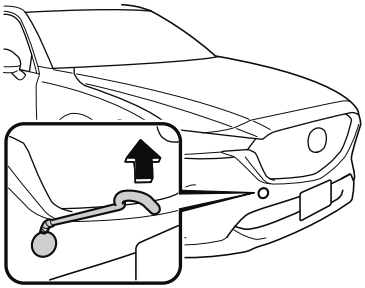


必ず守る **金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。**

やむをえずロープでけん引してもらうときは、けん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

1. けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→559 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

2. ジャッキレバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

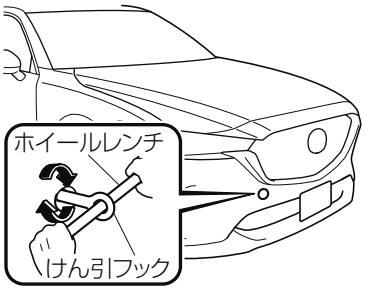


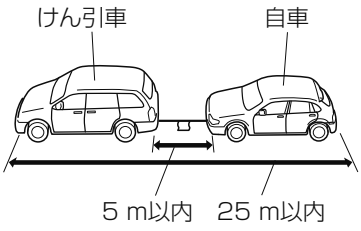
⚠注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

必ず守る

3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。





4. けん引ロープをフックにかけます。
5. ロープは 5 m 以内にして、中央に 0.3 m 平方 (0.3 m×0.3 m) 以上の白い布を必ずつけてください。
6. けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーを N に入れます。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ON にします。

⚠警告

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。
エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

7. パーキングブレーキを解除します。
→227 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB)」
8. けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

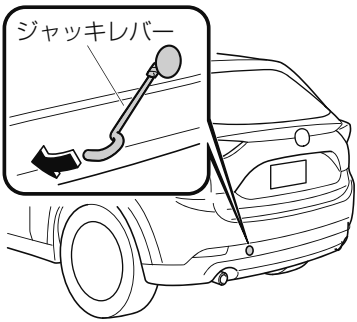
⚠注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

- **自車の重量より重い車はけん引しないでください。**
- **急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。**
- **けん引フック以外にロープをかけないでください。**

金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

1. けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→559 ページ「工具、ジャッキの格納場所」

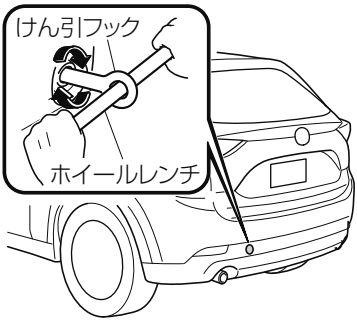


2. ジャッキレバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

⚠注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

必ず守る



3. ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。

万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡

知識

事故がおきたら
軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

警告灯が点灯、点滅したときは

警告灯/表示灯が点灯/点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。消灯すれば問題ありませんが、消灯しない場合、または再度点灯/点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。

⚠警告

警告灯/表示灯が点灯/点滅した場合は、ただちに安全な場所に停車し適切な処置を行なう。

警告灯/表示灯の点灯/点滅を無視して運転を続けると、エンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

センターディスプレイやメーター内のマルチインフォメーションディスプレイで詳細を確認できる警告があります。

センターディスプレイで確認する

1. ホーム画面の (A) を選択して、アプリケーション画面を表示します。
2. 「車両ステータス」を選択します。
3. 「ウォーニング」を選択すると、現在発生している警告が表示されます。
4. 確認したい警告を選択すると、警告の詳細が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A/タイプ B) で確認する

1. ステアリングスイッチの INFO スイッチを押すと、警告表示画面が表示されます。
→163 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)」
→185 ページ「マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B)」

ただちに安全な場所に停車する

次の警告灯が点灯したときはシステムの故障のおそれがあります。安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 ブレーキ警告灯	次のようなときは点灯し続けます。 ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。 ● ブレーキ液が不足しているとき。 ● ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。 **⚠警告** **ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。** 禁止 **ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。** **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。** 必ず守る **急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
 充電警告表示/ 警告灯	エンジン回転中、充電装置に異常があると表示/点灯します。 ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。 **⚠警告** 禁止 **充電警告表示が表示/点灯したまま走行しない。** **エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。**

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 オイル警告灯	次のようなときに点灯します。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。 ● エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下したとき ● **(SKYACTIV-D 2.2)** エンジンオイルが異常に劣化したとき 点灯したときは、エンジンオイルの量を点検し、不足しているときは補充してください。 →518 ページ「エンジンオイルの点検、補充」 エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。
 (赤) 高水温警告表示/警告灯	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると表示/点灯します。 **点滅したときは** エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。 **表示/点灯したときは** オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。 →578 ページ「オーバーヒートについて」
 電動パワーステアリング警告表示	エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると表示します。 表示したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。エンジンを再始動した後でも表示するときは、マツダ販売店に連絡してください。 **知識** ● 表示したときは電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。 ● 停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

マツダ販売店で点検を受ける

次の警告表示/警告灯または表示/表示灯が表示/点灯/点滅したときは、システムになんらかの故障または異常のおそれがあります。マツダ販売店に連絡し、点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 マスター警告表示	システムに異常があると表示します。 センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイで表示理由を確認してください。 →587 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」
 ABS 警告灯	システムに異常があるときは点灯し続けます。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **⚠警告** **ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。** **急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。** **知識** ABS 警告灯が点灯しているときは、ABS は作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。
 電動パーキングブレーキ (EPB) 警告表示/警告灯	システムに異常があると表示/点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 電動パーキングブレーキ (EPB) 表示/表示灯	電動パーキングブレーキ (EPB) をかけているときに点灯し、解除すると消灯します。 **点灯するとき** 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを解除しても点灯し続けるときは、システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。 **表示/点滅するとき** システムに異常があるときに表示/点滅します。電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作しても表示/点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。
 エンジン警告灯	エンジン制御システムに異常があると点灯/点滅し続けます。 高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。 点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯/点滅したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。 **⚠警告** **エンジン警告灯が点灯したときは、バッテリー端子を外すことなく、マツダ販売店で点検を受けてください。** 必ず守る **バッテリー端子を外し、再度接続した場合、走行中にエンジンが破損し出火するおそれがあります。**
i-stop (橙) i-stop 警告灯	システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。
i-ELOOP i-ELOOP 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。マツダ販売店で点検を受けてください。
AT オートマチックトランスミッション警告表示/警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示/点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
4WD AWD 警告表示 グレード/仕様別装備	**“4WD システム異常”と表示するとき** 次のようなときに表示します。システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。 ● AWD システムに異常があるとき ● 前後輪のタイヤサイズが大きく異なるとき **“4WD システムが高負荷です”と表示するとき** 次のようなときに表示します。安全な場所に停車し、消灯したことを確認して発進してください。表示し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。 ● ディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなったとき ● ぬかるみから脱出しようとする場合など前後輪のタイヤに大きな回転差が生じたとき
 エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。 ● 点灯/点滅し続けるとき。 **⚠警告** **エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。** 禁止 **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。**
 (橙) KEY 警告表示	**“キーレスシステム点検”と表示するとき** システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **⚠注意** 必ず守る **同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。**

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 (点灯) TCS/DSC 作動表示灯	次のようなときは DSC、TCS、またはヒル･ローンチ･アシスト (HLA) の異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。 ● 走行中に点灯したとき。
 ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警告表示	システムに異常があると表示します。マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 交通量が少なく、障害物が少ない道路を走行すると、レーダーセンサーが一時的に停止する場合がありますが、故障ではありません。
 ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) OFF 表示灯	次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。 ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき ● ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) を作動可能な状態にしても点灯し続けるとき **知識** 悪天候、バンパーの汚れ等によりレーダー感度が一時的に低下し点灯することがありますが、故障ではありません。
 (橙) アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。

警告灯/表示灯

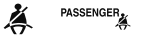
表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 (点灯) 車線逸脱警報システム警告灯 グレード/仕様別装備	システムに異常があると点灯します。 マツダ販売店で点検を受けてください。 **知識** 悪天候 (雨、霧、雪のときなど) やフロントガラスが汚れているとき、曇っているときなどフォワードセンシングカメラ (FSC) の視界が悪い場合、車線逸脱警報システム警告灯が点灯することがありますが、故障ではありません。
 (橙) レーンキープ・アシスト・システム (LAS) & 車線逸脱警報システム警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件
 クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 (橙) ドライバー・アテンション・アラート (DAA) 警告表示 グレード/仕様別装備	システムに異常があると表示します。 マツダ販売店で点検を受けてください。
 LED ヘッドランプ警告灯	システムに異常があると点滅します。 マツダ販売店で点検を受けてください。

処置する

それぞれの処置方法で警告表示/警告灯が消灯することを確認してください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件	処置方法
 (橙) スマート･ブレーキ･サポート/スマート･シティ･ブレーキ･サポート (SBS/SCBS) 警告表示	フロントガラスが汚れているとき、フロントのエンブレムが汚れているとき、またはシステムに異常があるときに表示します。	センターディスプレイまたはマルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A/タイプ B) で表示理由を確認してください。 →587 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」 表示理由がフロントガラス、またはフロントのエンブレムの汚れのときは、フロントガラス、またはフロントのエンブレムを清掃してください。他の理由のときはマツダ販売店で点検を受けてください。
 燃料残量警告表示/警告灯	電源ポジションが ON のとき、燃料が少なくなると表示/点灯します。 **知識** ● 燃料タンク内の燃料残量が 9 L 前後になったときに表示します。表示/点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。 ● 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、表示/点灯タイミングが変わる場合があります。	燃料を補給してください。
 エンジンオイルレベル警告灯	エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの下限付近になっているときに点灯します。	エンジンオイルを 1 L 補給してください。 →518 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

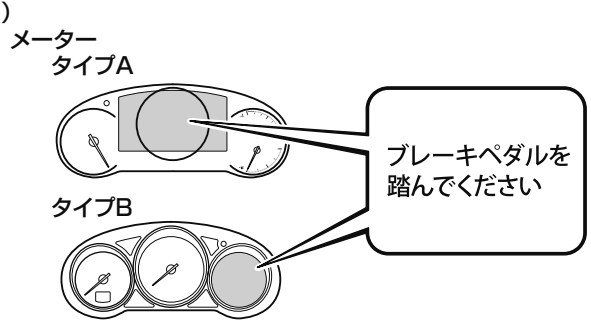
表示/名称	表示/点灯/点滅条件	処置方法
 シートベルト警告灯 (フロント)	**<u>点灯するとき</u>** 電源ポジションが ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。 **<u>点滅するとき</u>** 運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になるとしばらくの間点滅します。	シートベルトを着用してください。
 (赤) シートベルト警告灯 (リア)	電源ポジションが ON のとき、後席シートベルトを着用していないとしばらくの間点灯し、その後消灯します。また、着用していた後席シートベルトを外すとしばらくの間点灯し、その後消灯します。	シートベルトを着用してください。
 ウォッシャー液残量警告表示 グレード/仕様別装備	電源ポジションが ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると表示します。	ウォッシャー液を補充してください。
 半ドア/リアゲート開警告表示/半ドア警告灯	いずれかのドア/リアゲートが確実に閉まっていないときに表示/点灯します。	ドア/リアゲートを確実に閉めてください。

表示/名称	表示/点灯/点滅条件	処置方法
(白/橙) KEY 警告表示	キーの電池が切れたとき。	電池を交換してください。 →537 ページ「電池を交換するときは」
	キーが作動範囲内にないとき。	キーを作動範囲に入れてください。 →31 ページ「アドバンストキーレスエントリー&プッシュボタンスタートシステムの機能を使っての操作」 グレード/仕様別装備
	キーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき。	
	キーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき。	キーに類似した他社のキーを作動範囲外に出してください。
	電源ポジションを OFF にせずに、キーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき。	キーを車内に戻してください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

車両からお知らせがある場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。それぞれの内容を確認して処置してください。

（表示例）



警告灯が同時に点灯/点滅したとき、またはマルチインフォメーションディスプレイにシンボルが表示されたときは、警告灯、またはシンボルの内容を確認してください。
→587 ページ「警告灯が点灯、点滅したときは」

表示	内容	処置方法
シフトレバーを "P"に入れてください	セレクトレバーがPの位置ではないときにプッシュボタンスタートを押したときに表示	セレクトレバーをPの位置に入れてください。
始動時はブレーキを 踏んでください	ブレーキペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
始動時はクラッチを 踏んでください	クラッチペダルを踏まずにプッシュボタンスタートを押したときに表示	クラッチペダルを踏んだ状態でプッシュボタンスタートを押してください。
ステアリングが ロックされています	ステアリングロック作動中に表示	ステアリングロックを解除してください。
ブレーキペダルを 踏んでください	ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキ(EPB)スイッチを操作したときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態で電動パーキングブレーキ(EPB)スイッチを操作してください。
自動ブレーキ保持 システム異常 ブレーキを踏んで ください	オートホールド機能の停車保持中またはマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック･サポート (CTS) の停車保持制御中にブレーキ関連システムが故障したときに表示	ブレーキペダルを踏んでください。 オートホールド機能またはマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))の使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。
勾配が急すぎます 停車状態を 保持できない 可能性があります	急勾配などでオートホールド機能による停車保持またはマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック･サポート (CTS) の停車保持制御ができない可能性があるときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態にして足を放さないでください。

警告灯/表示灯

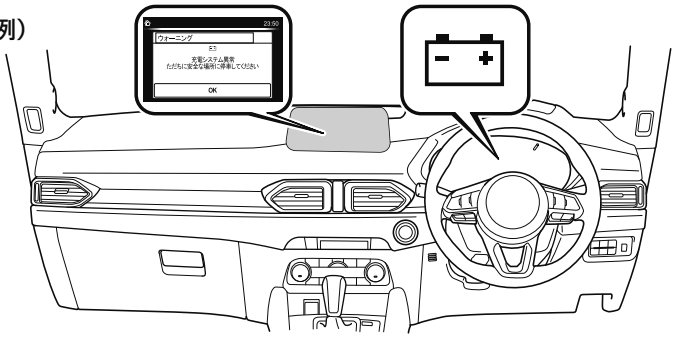
表示	内容	処置方法
自動ブレーキ保持 システムをキャンセル するにはブレーキを 踏んで下さい	オートホールド機能の停車保持中にブレーキペダルを踏まずに解除操作をしたときに表示	ブレーキペダルを踏んだ状態でオートホールド機能の停車保持制御を解除してください。
燃料噴射系 クリーニング中 アイドリング回転を 高くしています	エンジン内部を浄化するため、エンジン回転数を上げているときに表示	エンジン内部の浄化中は、セレクトレバーがPまたはNの位置/チェンジレバーがNの位置のときにエンジン回転数が高くなります。エンジン回転数が高いときはエンジンを停止しないでください。エンジン内部の浄化が完了すると、エンジン回転数は通常の回転数になります。
Mi-Driveを 選択できません 関連システムが 異常です	マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) 関連システムが故障している状態で、Mi-Drive スイッチを操作したときに表示	システムに異常が発生しています。マツダ販売店で点検を受けてください。
SPORTモードを 選択できません 車速制御中です	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック・サポート (CTS) が作動中にスポーツモードを選択したときに表示	マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 作動時は、スポーツモードで走行できません。
Mi-Driveを キャンセルしました 関連システムが 異常です	Mi-Drive 作動中に関連システムが故障したときに表示	システムに異常が発生しています。マツダ販売店で点検を受けてください。

表示	内容	処置方法
SPORTモードを キャンセルしました 車速制御中です	スポーツモードで走行中にマツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック･サポート (CTS) を ON にすると表示	マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)、マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))、クルージング&トラフィック･サポート (CTS) 作動時は、スポーツモードで走行できません。
一時的に Mi-Driveを 選択できません	ABS 作動中などに Mi-Drive スイッチの操作を受け付けないときに表示	安定した走行時に Mi-Drive スイッチを操作してください。
Mi-Driveを キャンセルしました	運転者の操作以外で、Mi-Drive が停止したときに表示	再度、Mi-Drive スイッチを操作しても、表示される場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

センターディスプレイにメッセージが表示されたときは

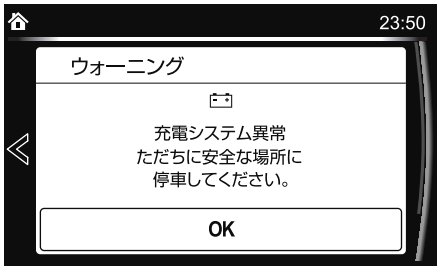
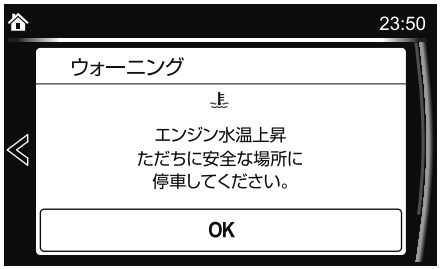
センターディスプレイにメッセージが表示されたときは、落ち着いて表示されたメッセージの方法で処置してください。

（表示例）



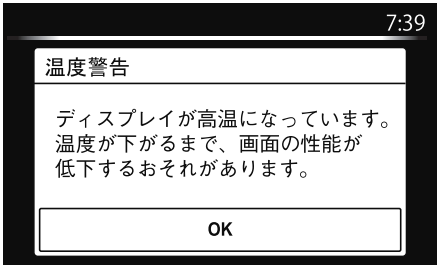
ただちに安全な場所に停車する

次のメッセージが表示されたときはシステムの故障のおそれがあります。安全な場所に停車しマツダ販売店に連絡してください。

表示	表示条件
	充電装置に異常があると表示します。
	エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに表示します。

表示内容を確認する

次のときに表示します。

表示	表示条件/処置方法
	センターディスプレイ周辺温度が高温状態となっているときに表示します。 車室内の温度を下げる、直射日光を避けるなどセンターディスプレイ周辺温度を下げることをおすすめします。

チャイムがなったときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムでお知らせします。

チャイム	現象	確認してください
ランプ消し忘れ防止	電源ポジションを OFF にして運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り続ける	ランプを点灯させたままになっていないか
エアバッグ警告/プリテンショナー警告	約 35 分のあいだに、毎分 6 秒間チャイムが鳴り続ける	**⚠警告** **禁止 エアバッグ警告** **チャイム/プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しない** **衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受ける**
シートベルト着用忘れ (フロント)	車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴る	運転席/助手席シートベルトの着用を確認する 着用すると鳴り止む
シートベルト着用忘れ (リア)	電源ポジションが ON のとき、装着していた後席シートベルトを外すとチャイムが鳴る	後席シートベルトの着用を確認する
電源オフ忘れ警報	運転席ドアを開けたときに、車内のチャイムが鳴り続ける	電源ポジションを OFF にしているか

警報チャイム

チャイム	現象	確認してください
キー車外持ち出し警報	すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴ったあと、車内のチャイムが 6 回鳴り、メーター内の KEY 警告表示が表示する	電源ポジションを OFF にせずにキーを車外に持ち出していないか
リクエストスイッチ不作動警報	キーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、車外のチャイムが約 2 秒間鳴る	いずれかのドア、リアゲートが開いていないか
		電源ポジションを OFF にしているか
リアゲート内キー閉じ込み警報	フロントドアを施錠した状態でリアゲートを閉めたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーをラゲッジルームに置いていないか
キー車内閉じ込み警報	キーを携帯して施錠しようとしたときに、車外のチャイムが約 10 秒間鳴る	キーを車内に置いていないか
オートホールド警報	オートホールド機能を使用中またはオートホールドスイッチを操作したときに、警告灯の点滅/メッセージの表示と同時に約 5 秒間チャイムが鳴る	オートホールド機能に異常が発生しているため、オートホールドスイッチを操作してもオートホールド機能が作動しない 警告灯の点滅/メッセージの表示と同時にチャイムが鳴るときは、マツダ販売店で点検を受ける
電動ハンドルロック警告	プッシュボタンスタートを押した後、チャイムが鳴る	ハンドルがロックしていないか
パワーリアゲート警告 グレード/仕様別装備	パワーリアゲートを操作したときに、チャイムが 3 回鳴る	リアゲートに物が挟まっていないか
	走行中に、チャイムが鳴り続ける	パワーリアゲートを開いたまま走行していないか

チャイム	現象	確認してください
i-ELOOP 警告 グレード/仕様別装備	センターディスプレイに「i-ELOOP 充電中」と表示されているときに走行するとチャイムが鳴る	停車すると鳴り止む。表示が消えるのを確認する
衝突警報/接近警報	前方車や後方の障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	前方車や後方の障害物に近づきすぎていないか
AT 誤発進警報 (オートマチック車)	障害物と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	アクセルペダルを踏み間違えていないか
電動パワーステアリング警告	チャイムが鳴ると同時に電動パワーステアリング警告表示が表示された	安全な場所に停車し、エンジンを停止する 再始動後にも吹鳴するときはマツダ販売店で点検を受ける
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報	**前進時 (ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 作動)** ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 接近表示灯が点灯している側に方向指示器のレバーを操作するとチャイムが鳴る	車両後方の、移動する車両や二輪車などを確認する
	後退時 (リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA) 作動) 自車後方および自車後方の左右から接近してくる車両と衝突する可能性がある場合にチャイムが鳴る	

警報チャイム

チャイム	現象	確認してください
速度超過警報 グレード/仕様別装備	アクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示されている最高速度標識より自車の速度が超えるとアクティブ･ドライビング･ディスプレイに表示している最高速度標識のまわりが橙色に 3 回点滅し、同時にチャイムが 3 回鳴る	周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルを踏むなどの操作をし、法定速度内に減速する
リバースポジション (オートマチック車)	電源ポジションが ON のとき、セレクトレバーを R の位置にするとチャイムが鳴る	セレクトレバーを R の位置以外にすると鳴り止む 車外には聞こえないので注意する
パーキングブレーキ戻し忘れ	次のときにチャイムが鳴る ● パーキングブレーキをかけたまま走行しているとき ● 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き、パーキングブレーキをかける操作をしたとき	パーキングブレーキをかけたまま走行していないか 走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作していないか
車線逸脱警報	車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときにチャイムが鳴る	車線から逸脱していないか

チャイム	現象	確認してください
ハンドル操作要求警報 グレード/仕様別装備	レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システムが作動状態 で､ハンドルから手をはなしたときにチャイムが鳴る **知識** ハンドル操作のアシストが非作動 (OFF) のときは鳴りません。	ハンドルから手をはなしていないか

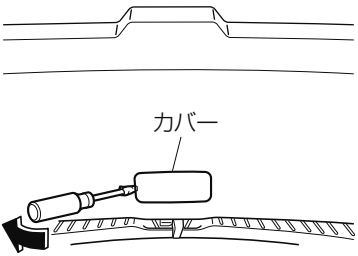
確認してもチャイムが鳴り止まないときは､マツダ販売店に連絡してください。

リアゲートが開けられなくなったとき

バッテリーがあがると、リアゲートの解錠ができず開けられなくなります。
この場合、バッテリーあがりの対処をすることでリアゲートの解錠ができるようになります。
→574 ページ「処置方法」
バッテリーあがりの対処をしても、リアゲートの解錠ができない場合は電気系統の故障が考えられます。
この場合は応急処置として次の手順で開けることができます。

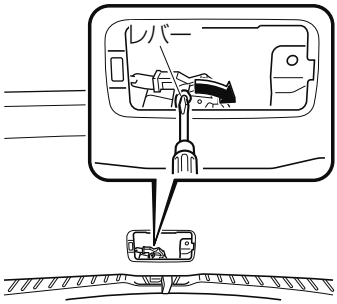
⚠注意

必ず守る **ドライバーでの作業時は慎重に行なってください。周辺を傷つけたり、部品を損傷するおそれがあります。**

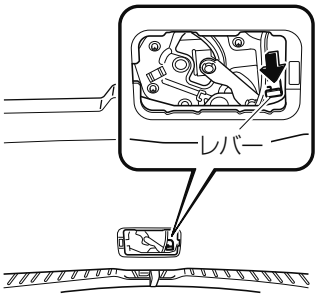


1. リアシートを倒します。
→71 ページ「荷室を作るとき」
2. マイナスドライバーなどを使ってリアゲート車内側にあるカバーをはずします。

パワーリアゲート非装備車



パワーリアゲート装備車



3. **パワーリアゲート非装備車**
ドライバーをレバーの穴に差し込み、右側に動かして解錠します。
パワーリアゲート装備車
レバーを下方向に押して解錠します。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

グレード/仕様別装備

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは電源ポジションを OFF にして、再度エンジンを始動させてください。エンジンを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料

使用燃料については、107 ページ「給油するとき」もあわせてお読みください。

項目		サービスデータ
使用燃料	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5、	無鉛レギュラーガソリン
	SKYACTIV-D 2.2	低硫黄軽油
タンク容量 (参考値)	2WD 車	56 L
	AWD 車	58 L

ディーゼル車の使用燃料について

ディーゼル車の使用燃料 (軽油) は、外気温が低くなると凍結し、燃料パイプが詰まってエンジンの始動ができなくなるなど故障の原因になります。
寒冷地域に移動するときは、現地に着くまでに燃料の残量が 1/2 以下になるようにしておき、到着後はできるだけ早く寒冷地用の燃料を補給してください。

知識

フェリーを利用して寒冷地域に移動するときは、到着後すぐに寒冷地用の燃料を補給できるよう、乗船前の燃料の残量を 1/2 以下にしておいてください。

軽油の種類	使用限界の目安温度*1
JIS 特 1 号	+5℃
JIS1 号	−2.5℃
JIS2 号	−7.5℃
JIS3 号	−20℃
JIS 特 3 号	−30℃

*1　使用条件や環境により多少異なります。

フューエルフィルター (SKYACTIV-D 2.2)

項目	サービスデータ
交換時期	60,000 km 走行ごと

エンジンオイル・エンジンオイルフィルター

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。
交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	標準	15,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション[*1]	7,500 km または 6 か月ごと
	SKYACTIV-D 2.2	標準	10,000 km または 1 年ごと
		シビアコンディション[*1]	5,000 km または 6 か月ごと
推奨銘柄	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	純正モーターオイルゴールデン ECO 7 (0W-20)[*2]、純正モーターオイルゴールデン SN (5W-30)	
	SKYACTIV-D 2.2[*3]	純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D (0W-30)[*4]、純正ディーゼルオイルエクストラ DL-1 (5W-30)	
指定規格	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	API SN 以上 (SAE 0W-20、SAE 5W-30)	
	SKYACTIV-D 2.2[*3]	ACEA C3 (SAE 0W-30、SAE 5W-30)	

項目		サービスデータ
交換量(参考値)	SKYACTIV-G 2.0	4.2 L
	SKYACTIV-G 2.5	4.5 L
	SKYACTIV-D 2.2	5.1 L

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。また、短距離、低速、山道、坂道走行やアイドリングの頻度が多い場合、レンチ表示またはオイル警告灯が点灯することがあります。レンチ表示またはオイル警告灯が点灯した場合は、エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターを交換して下さい。

*2 純正モーターオイルゴールデン ECO 7 は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5 には、純正モーターオイルゴールデン ECO 7 の使用を推奨します。

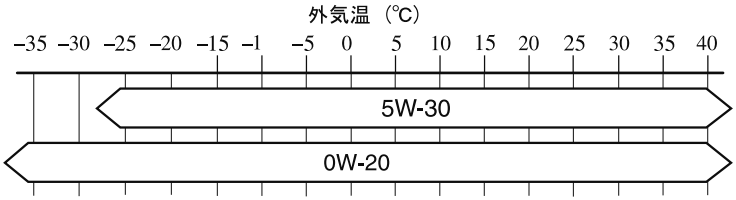
*3 表に記載されたエンジンオイルを使用してください。表に記載されていないエンジンオイルを使用すると、ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF) の劣化が早くなります。オイル交換後は、マツダ販売店などの整備工場で記憶値の初期化 (オイルデータリセット) を行なうか、お客様自身で記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示またはオイル警告灯が点灯することがあります。
→518 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

*4 純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-D 2.2 には、純正ディーゼルオイルエクストラ SKYACTIV-D の使用を推奨します。

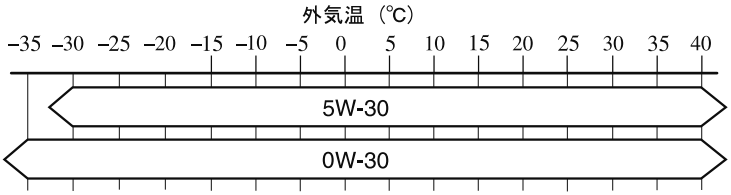
使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。

SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5



SKYACTIV-D 2.2



マニュアルトランスミッションオイル

項目	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフギヤオイル G7*1
容量 (参考値)	2.40 L

*1 マツダロングライフギヤオイル G7 は省燃費性およびシフトフィーリングに優れたオイルです。マツダロングライフギヤオイル G7 の使用を推奨します。
マツダロングライフギヤオイル G7 を入手できない場合は、一般規格のオイル (SAE 75W-80 (GL-4)) を使用してください。

オートマチックトランスミッションフルード

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正 ATF FZ
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0	7.8 L
	SKYACTIV-G 2.5、 SKYACTIV-D 2.2	8.0 L

ディファレンシャルオイル (AWD 車)

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	無交換
	シビアコンディション*1	60,000 km 走行ごと
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1	
容量 (参考値)	0.35 L	

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

トランスファーオイル (AWD 車)

項目	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
容量 (参考値)	0.45 L/0.40 L

ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)、 純正ブレーキフルード B7 (DOT-3)

冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目			サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント		2 年ごと (初回は 3 年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1		100,000 km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行または 9 年)
推奨液			純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン)*1
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 2.0、 SKYACTIV-G 2.5		7.2 L
	SKYACTIV-D 2.2	マニュアルトランスミッション	8.5 L
		オートマチックトランスミッション	8.7 L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
タンク容量 (参考値)	ヘッドランプウォッシャー非装備車	2.2 L
	ヘッドランプウォッシャー装備車	4.5 L

ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	4.8 mm 以下
フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})	53 mm 以上

クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び (クラッチ油圧が立ちあがるまでのストローク)	10 mm 以下
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	48.7 mm 以上

補機ベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000 km 走行ごと
	シビアコンディション*1	25,000 km 走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

スパークプラグ (SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5)

項目		サービスデータ
型式	NGK	ILKAR7L11*1
	DENSO	ZC20HPR11*1

*1 SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠注意

禁止 **イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。**

バッテリー

項目		サービスデータ
型式*1	SKYACTIV-G 2.0、SKYACTIV-G 2.5	Q-85*2
	SKYACTIV-D 2.2	S-95*2

*1 車両に取り付けられたバッテリーを確認の上、同等以上の性能のバッテリーを使用してください。ただし、同一型式の中でも性能が異なる場合がありますので、交換する際はマツダ販売店にご相談ください。

*2 Q-85、S-95 はアイドリングストップ車用です。アイドリングストップシステムを正しく作動させるために、Q-85、S-95 を使用してください。
マツダ純正バッテリーの使用を推奨します。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)		W 数 (12 V 用)	規格 (UN-R[*1] (SAE))
ヘッドランプ	上向き (ハイビーム)/下向き (ロービーム)	LED	— (—)
	ワイド配光ロービーム	LED	— (—)
車幅灯		LED	— (—)
前面方向指示灯/非常点滅灯		LED	— (—)
側面方向指示灯/非常点滅灯		LED	— (—)
後面方向指示灯/非常点滅灯		LED	— (—)
尾灯		LED	— (—)
制動灯		LED	— (—)
後退灯		LED	— (—)
リアフォグランプ グレード/仕様別装備		LED	— (—)
番号灯		LED	— (—)
ハイマウントストップランプ		LED	— (—)
ルームランプ/フロントマップランプ	LED タイプ	LED	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)

電気部品/電球 (バルブ)

電球 (バルブ)		W 数 (12 V 用)	規格 (UN-R*1 (SAE))
リアマップランプ	LED タイプ	LED	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)
ラゲッジルームランプ	LED タイプ	LED	— (—)
	バルブタイプ	8 W	— (—)
バニティミラーランプ	LED タイプ	LED	— (—)
	バルブタイプ	2 W	— (—)
アンビエントライト グレード/仕様別装備		LED	— (—)

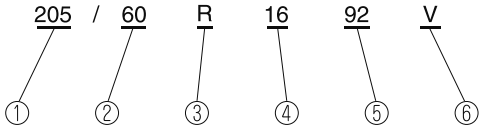
*1 UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。

ヒューズ

→522 ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズ表示 (一例) の見方



1. タイヤ幅の呼称 (mm)
2. 偏平率 (%)
3. ラジアル構造
4. リム径の呼称 (インチ)
5. ロードインデックス (LI)
6. 速度記号

速度記号の見方

次の速度記号情報で、車両の適切なタイヤを選んでください。

速度記号	最高速度
L	120 km/h まで
N	140 km/h まで
Q	160 km/h まで
R	170 km/h まで
S	180 km/h まで
T	190 km/h まで
U	200 km/h まで
H	210 km/h まで
V	240 km/h まで
W	270 km/h まで

タイヤ/ホイール

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル直径
225/65R17 102H	17×7J	45.0 mm	114.3 mm
225/55R19 99V	19×7J		

タイヤ空気圧

標準タイヤ

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

→515 ページ「タイヤの点検」

タイヤサイズ	タイヤ空気圧	
	前輪	後輪
225/65R17 102H	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)	230 kPa (2.3 kgf/cm^2)
225/55R19 99V	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)

ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
108 N·m～147 N·m (12 kgf·m～14 kgf·m)

ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

A

AAS モード.....212
ABS (アンチロックブレーキシステム).....253
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....371
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....361

D

DPF (ディーゼルパティキュレートフィルター).....446
DSC (ダイナミックスタビリティコントロール).....258
TCS/DSC 作動表示灯.....259

E

EDR (イベントデータレコーダー).....122

I

i-ACTIVSENSE.....262
AT 誤発進抑制制御 [後退時].....371
AT 誤発進抑制制御 [前進時].....361
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....265
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS).....358
クルージング＆トラフィック･サポート (CTS).....325
交通標識認識システム (TSR).....278
360°ビュー･モニター.....377
車間認知支援システム.....285
車線逸脱警報システム.....267
スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R).....366
スマート･ブレーキ･サポート (SBS).....374
超音波センサー (フロント)...417
超音波センサー (リア).....417
ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....289
フォワードセンシングカメラ (FSC).....407
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM).....273
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ.....418
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC).....295
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)).....309
リア･クロス･トラフィック･アラート (RCTA).....291
レーダーセンサー (フロント).....413
レーダーセンサー (リア).....415
レーンキープ･アシスト･システム (LAS) &車線逸脱警報システム.....344
i-ACTIV AWD.....236
i-DM.....203
i-ELOOP.....158
充電表示.....159
i-ELOOP (アイイーループ).....158
i-stop (アイストップ).....150
i-stop 警告チャイム.....155
i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑).....154
i-stop OFF スイッチ.....155
発進補助装置.....156

S

SRS エアバッグシステム.....112
EDR.....122

エアバッグの種類.....113
エアバッグの注意点.....114
T
TCS (トラクションコントロールシステム).....256
TCS OFF スイッチ.....257
TCS OFF 表示灯.....257
TCS/DSC 作動表示灯.....256
U
USB 電源ソケット.....488
ア
アームレストボックス.....499
アイドリングストップ.....150
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ.....205
作動しないとき.....610
アクティブセーフティ技術.....262
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....265
アドバンスト･スマート･シティ･ブレーキ･サポート (アドバンスト SCBS).....358
衝突警報.....360
アドバンストキー
エンジンをかけるとき.....142
アルミホイール
手入れ.....542
アンチロックブレーキシステム (ABS).....253
イ
イグニッション (エンジン)
キー.....25
スイッチ.....140
イモビライザーシステム.....110
イルミネーテッドエントリーシステム.....479
インテリアライト (室内照明).....479
インテリジェント･ドライブ･マスター.....203
インナーミラー
ルームミラー.....85
ウ
ウインカー (方向指示器)
電球 (バルブ) 交換.....530
レバー.....243
W (ワット) 数.....621
ウインドー
曇ったとき.....458
手入れ.....542
パワーウインドー.....101
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....250
ウインドーワイパーデアイサー.....251
ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....520
ウォッシャースイッチ.....246
タンク容量.....617
冬にそなえて (濃度の調節).....547
エ
エアクリーナーエレメント
交換時期.....619
エアコン (空調).....452
上手な使いかた.....452
吹き出し口 (空調).....453
フルオートエアコン.....455
エアバッグシステム.....112
EDR.....122
エアバッグの種類.....113
エアバッグの注意点.....114
エマージェンシーシグナルシステム (ESS).....255
エンジン

かけかた..... 141
キー.....25
きるとき..... 148
始動しないとき.....577
スイッチ..... 140
エンジンオイル
交換時期、オイルグレード、交換量 612
点検.....518
冬にそなえて.....547
エンジンフード (ボンネット)
開けかた..... 510
閉めかた..... 511
エンスト
故障したとき.....558
エンスト (故障したとき).....558

オ

オートホールド..... 230
オートマチックトランスミッション 211
AAS モード..... 212
運転するときに.....219
キックダウン.....211
クリープ現象.....211
シフトロック装置.....213
セレクトレバー.....213
ダイレクトモード.....219
駐車するとき.....219
マニュアルモード.....214
オートマチックトランスミッションフルード
推奨フルード、容量.....615
オーバーヒートしたとき.....578
オーバーヘッドコンソール.....498
大型コンソールボックス.....498
お子さまの安全
お子さま専用シート選択の目安 95
お子さま専用シートについて...93
お子さま専用シートの種類..... 94
固定ロアアンカレッジ.....99
チャイルドシートを固定するとき 98
チャイルドプルーフ.....40
オフロード・トラクション・アシスト 260
オフロード・トラクション・アシストスイッチ.....261
オフロード・トラクション・アシスト表示灯.....261
オルタネーターベルト
点検基準値..... 619

カ

ガソリン (燃料)
使用燃料、容量.....611
燃料補給口..... 107
カップホルダー..... 495
カミング・ホーム・ライト.....241
カメラ、センサー..... 263
ガラス
曇ったとき..... 458
手入れ..... 542
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....250

キ

キー.....25
キーの電池交換.....537
作動しないとき.....581
作動範囲..... 31
キー (アドバンストキーレス機能装備車)
ドアの施錠/解錠.....35

キー (アドバンストキーレス機能非装備車)
ドアの施錠/解錠.....38
ギア・シフト・インジケーター(GSI).....209
キックダウン.....211
気筒休止.....157
緊急用具.....559

ク

空気圧 (タイヤ).....624
空調 (エアコン).....452
吹き出し口 (空調).....453
フルオートエアコン.....455
曇り取り (デフォッガー) スイッチ.....250
クラクション (ホーン).....252
クラッチスタート.....141
クラッチペダル
点検基準値.....618
クリープ現象.....211
クルージング&トラフィック・サポート (CTS).....325
グローブボックス.....497

ケ

警告灯
i-stop 警告灯.....154
警告灯/表示灯が点灯、点滅した...587
警報音
i-stop 警告チャイム.....155
警報チャイム.....603
i-stop 警告チャイム.....155
化粧鏡 (バニティミラー).....479
けん引.....582

コ

交換
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション).....521
電球 (バルブ) 交換.....530
電池交換 (キー).....537
ヒューズの交換.....528
工具.....559
後退灯 (バックランプ)
電球 (バルブ) 交換.....530
W (ワット) 数.....621
交通標識認識システム (TSR).....278

サ

サイドミラー
ドアミラー.....83
サブトランクボックス.....500
サンシェード.....106
サンバイザー.....479
360° ビュー・モニター.....377
サイドビュー.....392
使用するとき.....383
トップビュー/フロントビュー.....387
トップビュー/フロントワイドビュー.....390
トップビュー/リアビュー.....395
トップビュー/リアワイドビュー.....401
サンルーフ.....104

シ

シート
フロントシート.....59
ヘッドレスト.....77
リアシート.....69
シートヒーター.....79
シートベルト
ELR (緊急時固定) 機構.....87
シートベルトについて.....87

シートベルトを使用するとき...90
高さ調節...92
正しい着用のしかた...88
着用忘れチャイム...92
手入れ...544
表示灯 (リアシート)...92
プリテンショナー機構...88
ロードリミッター機構...88
シートベンチレーション...81
室内照明...479
イルミネーテッドエントリーシステム...479
ラゲッジルームランプ...484
ルームランプ...480
室内灯 (ルームランプ)
スイッチ...480
電球 (バルブ) 交換...530
W (ワット) 数...621
車間認知支援システム...285
車線逸脱警報システム...267
ジャッキ...560
車幅灯 (スモールランプ)
スイッチ...237
電球 (バルブ) 交換...530
W (ワット) 数...621
収納...497
アームレストボックス...499
オーバーヘッドコンソール...498
大型コンソールボックス...498
グローブボックス...497
サブトランクボックス...500
ラゲッジフック...500
ラゲッジルーム...500
リアコートフック...499

ス

スイッチ
i-stop OFF スイッチ...155
TCS OFF スイッチ...257
ウォッシャースイッチ...246
オフロード･トラクション･アシストスイッチ...261
車線逸脱警報システム OFF スイッチ...270
非常点滅灯スイッチ...244
ヘッドランプウォッシャースイッチ...250
ヘッドランプスイッチ...237
リアフォグランプスイッチ...245
ルームランプスイッチ...480
ワイパースイッチ...246
スタックしたとき...557
ステアリングヒーター...82
ステアリング (ハンドル)
ロックされたとき...140
ストップランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換...530
W (ワット) 数...621
スノータイヤ...548
スパークプラグ...620
スマート･シティ･ブレーキ･サポート [後退時] (SCBS R)...366
スマート･ブレーキ･サポート (SBS)...374
スモールランプ (車幅灯)
スイッチ...237
電球 (バルブ) 交換...530
W (ワット) 数...621
スリーフラッシュターンシグナル...243

セ

制動灯 (ストップランプ)
電球 (バルブ) 交換...530
W (ワット) 数...621

セレクトレバー..... 213
洗車.....541
前照灯 (ヘッドランプ)
スイッチ..... 237
電球 (バルブ) 交換.....530
W (ワット) 数.....621

タ

ターンシグナル (方向指示器)
電球 (バルブ) 交換.....530
レバー..... 243
W (ワット) 数.....621
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC).....258
TCS/DSC 作動表示灯.....259
タイヤ
空気圧..... 624
サイズ..... 623
チェーン..... 548
点検..... 515
パンク応急修理キット.....565
パンクしたとき.....565
冬にそなえて.....548
ローテーション (位置交換)... 521
ダイレクトモード.....219
脱輪などで動けなくなったとき... 558

チ

チェーン (タイヤチェーン).....548
チェンジレバー..... 208
チャイルドシート..... 93
お子さま専用シート選択の目安 95
お子さま専用シートの種類..... 94
固定ロアアンカレッジ..... 99
チャイルドシートを固定するとき 98
チャイルドプルーフ.....40
駐車支援システム.....419
サイドモニター.....419
パーキングセンサー.....437
バックガイドモニター..... 426
駐車するとき
オートマチック車.....219
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)
操作方法..... 227
超音波センサー (フロント).....417
超音波センサー (リア)..... 417

テ

テールランプ (尾灯)
スイッチ..... 237
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数.....621
定期点検.....509
手入れ
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ..... 546
アルミホイール.....542
インストルメントパネル上面 546
外装.....540
外装樹脂部品.....543
ガラス..... 542
革張り部分..... 545
シートベルト.....544
樹脂部品..... 546
洗車.....541
ソフトパッド部.....546
内装.....543
パネル..... 546
ビニール..... 544
フロントガラスの油膜をとるときは..... 542
ミラー..... 542

ワックスがけ.....542
ディーゼルパティキュレートフィルター (DPF).....446
ディーゼル (燃料)
使用燃料、容量.....611
ディスプレイ
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ.....205
ディファレンシャルオイル
推奨オイル、容量.....615
電球
電球 (バルブ) 交換.....530
W (ワット) 数.....621
点検整備について.....508
電源ソケット.....486
電源ポジション.....140
電動格納ミラー
ドアミラー.....83
電動スライドガラスサンルーフ...104
電動ミラー
ドアミラー.....83

ト

ドア.....34
チャイルドプルーフ.....40
ドアミラー.....83
パワードアロック.....39
リアゲート.....41
ドアミラー.....83
角度調節.....83
格納.....83
曇り取り.....252
盗難防止システム.....110
トノカバー.....55
ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....289
ドライビングポジションメモリー機能.....65
トラクションコントロールシステム (TCS).....256
TCS/DSC 作動表示灯.....256
トランスファーオイル
推奨オイル、容量.....615
トランスミッション
オートマチック.....211
マニュアル.....208
トレーラートーイング.....124

ナ

夏にそなえて.....549
ナンバープレートランプ (番号灯)
スイッチ.....237
電球 (バルブ) 交換.....530
W (ワット) 数.....621

ニ

荷室を作るとき.....71
日常点検.....510

ネ

燃料
給油するとき.....107
使用燃料、容量.....611
燃料切れしたとき.....577

ハ

パーキングブレーキ
操作方法.....227
ハイビーム (ヘッドランプ上向き)
切り替え.....240
電球 (バルブ) 交換.....530
W (ワット) 数.....621
ハイマウントストップランプ
W (ワット) 数.....621
ハザードランプ (非常点滅灯)

スイッチ..... 244
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数..... 621
発炎筒..... 559
バックガイドモニター..... 426
バックミラー
ルームミラー..... 85
パッシング合図..... 240
発進補助装置..... 156
バッテリー
あがったとき..... 574
型式..... 620
点検..... 519
冬にそなえて..... 547
バニティミラー (化粧鏡)..... 479
バルブ (電球)
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数..... 621
パワーウインドー..... 101
パワードアロック..... 39
パワーリアゲート..... 44
番号灯 (ナンバープレートランプ)
スイッチ..... 237
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数..... 621

ヒ

非常点滅灯
スイッチ..... 244
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数..... 621
尾灯 (テールランプ)
スイッチ..... 237
電球 (バルブ) 交換..... 530
W (ワット) 数..... 621
ビニール
手入れ..... 544
ヒューズ..... 522
エンジンルーム内ヒューズボックス..... 524
室内ヒューズボックス..... 522
ヒューズ点検、交換..... 528
表示
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示 (緑)..... 300
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示 (緑)..... 314
マニュアルモード表示..... 215
表示灯
i-stop 表示灯..... 154
TCS OFF 表示灯..... 257
TCS/DSC 作動表示灯..... 256
オフロード・トラクション・アシスト表示灯..... 261
車線逸脱警報システム OFF 表示灯..... 272
スマート・シティ・ブレーキ・サポート (SCBS) OFF 表示灯 361
スマート・ブレーキ・サポート (SBS) OFF 表示灯..... 376
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) (坂道発進補助機能)..... 254

フ

ブースターケーブルのつなぎ方... 574
フォグランプ
電球 (バルブ) 交換..... 530
リア..... 245
W (ワット) 数..... 621
フォワードセンシングカメラ (FSC)..... 407
吹き出し口 (空調)..... 453

フック
けん引....582
踏切内で動けなくなったとき....558
冬にそなえて....547
冬用タイヤ (スノータイヤ)....548
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)....273
プリクラッシュセーフティ技術....263
ブレーキ....227
ブレーキ液 (フルード)
交換時期、推奨液....616
ブレーキペダル
点検基準値....618
ブレーキランプ (制動灯)
電球 (バルブ) 交換....530
W (ワット) 数....621
フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ....418
フロントシート....59

ヘ

ヘッドランプウォッシャー....250
ヘッドランプ (前照灯)
切り替え....240
スイッチ....237
電球 (バルブ) 交換....530
パッシング合図....240
レベリング....242
W (ワット) 数....621
ヘッドレスト....77

ホ

ホーン....252
ホイール
サイズ....623
手入れ....542
方向指示器
電球 (バルブ) 交換....530
レバー....243
W (ワット) 数....621
ボトルホルダー....496
ボンネット....510

マ

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)....295
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付))....309
停車保持制御....321
マツダコネクト....460
マツダコネクトの基本操作....464
マツダコネクトをご使用の前に....473
マニュアルトランスミッション....208
ギア・シフト・インジケーター (GSI)....209
チェンジレバー....208
マニュアルトランスミッションオイル....614
推奨オイル、容量....614
マニュアルモード....214
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A)
メッセージが表示された....598

ミ

ミラー
手入れ....542
ドアミラー....83
バニティミラー....479
ルームミラー....85

メ

メーター....160
メーター (タイプ A)....161
メーター (タイプ B)....183

メーター (タイプ A)..... 161
オドメーター.....166
外気温表示..... 169
クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示.....173
警告表示..... 173
警告表示/警告灯.....174
車間認知支援システム表示... 172
車線逸脱警報システム表示... 173
瞬間燃費表示.....170
水温計..... 166
スピードメーター.....162
走行可能距離表示.....169
タコメーター.....162
トリップメーター.....166
燃料計..... 167
パネルライトコントロール... 168
表示/表示灯..... 177
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 表示..... 172
平均燃費表示.....170
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示 172
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示..... 172
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) 表示 171
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ A).....163
メンテナンスモニター.....170
予熱表示灯..... 183
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示.....173
レンチ表示..... 182
メーター (タイプ B)..... 183
オドメーター/トリップメーター 187
外気温表示..... 190
クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 表示.....193
警告表示..... 193
警告表示/警告灯.....194
車間認知支援システム表示... 192
車線逸脱警報システム表示... 193
瞬間燃費表示.....191
水温計..... 187
スピードメーター.....183
走行可能距離表示.....190
タコメーター.....184
低水温表示灯.....202
燃料計..... 188
パネルライトコントロール... 189
表示/表示灯..... 197
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) 表示..... 192
平均燃費表示.....191
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) 表示 192
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (全車速追従機能付) (MRCC (全車速追従機能付)) 表示..... 192
マルチインフォメーションディスプレイ (タイプ B).....185
メンテナンスモニター..... 191
予熱表示灯..... 202
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム表示.....193
レンチ表示..... 201

ラ

ライセンスプレートランプ (番号灯)
スイッチ....237
電球 (バルブ) 交換....530
W (ワット) 数....621
ラゲッジフック....500
ラゲッジルーム....500
ラゲッジルームランプ....484
ランプ
カミング・ホーム・ライト....241
消し忘れ防止チャイム....239
スイッチ....237
電球 (バルブ) 交換....530
点灯しないとき....528
リービング・ホーム・ライト....242
レベリング....242
W (ワット) 数....621

リ

リービング・ホーム・ライト....242
リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)....291
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ....250
リアゲート....41
開けかた....42
開けられなくなったとき....608
閉めかた....43
パワーリアゲート....44
リアコートフック....499
リアシート....69
リアワイパー....249

ル

ルームミラー....85
ルームランプ....480
スイッチ....480
電球 (バルブ) 交換....530
W (ワット) 数....621

レ

レーダーセンサー (フロント)....413
レーダーセンサー (リア)....415
レーンキープ・アシスト・システム (LAS) &車線逸脱警報システム....344
冷却水
交換時期、推奨液、容量....616
冬にそなえて (濃度の調節)....547

ロ

路上で動けなくなったとき....555

ワ

ワイパー
寒冷地用ワイパーブレード....547
スイッチ....246
フロント....247
リア....249
ワイヤレス充電 (Qi)....489
ワックスがけ....542

MEMO

MEMO

MEMO

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ㈱コールセンター

全国共通フリーダイヤル

0120-386-919

受付時間

平日　　9:00～17:00

土・日・祝日　9:00～12:00 13:00～17:00

携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(http：//www.mazda.co.jp)

発行元 マツダ株式会社

〒 730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1
発行　2021 年 8 月
印刷　2021 年 12 月
636 頁 2 版